

山元町文化財調査報告書第9集

# 日向遺跡

—常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に係る発掘調査報告書IV—



遺物包含層出土遺物

平成 27 年 3 月

宮 城 県 山 元 町 教 育 委 員 会

東日本高速道路株式会社 東北支社 仙台工事事務所



## 序 文

山元町は古くから身近に豊かな海と山を擁し、人々は恵まれた自然の中で生活を営んできました。その足跡は埋蔵文化財として、町内各地に散在しております。埋蔵文化財は、文献などには記録されていない地域の歴史を解明できる貴重な歴史資料であります。これらの遺跡は、先人が残した生活の証でもあり、かけがえのない文化遺産として将来の人々に継承するとともに、現在の生活の中において積極的に活用していくことが、私たちに課せられた責務であると考えております。

しかし、土地利用と深く結びつきの強い埋蔵文化財は、絶えず開発事業によって破壊・消滅の危機にさらされております。このため、当教育委員会としては、開発関係機関等との協議を通してこのような貴重な文化財を保存し、後世に伝えることに努めているところであります。

今回の日向遺跡の調査は、常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に際し、事業主との協議・調整に基づき、平成23年度に当教育委員会が実施したものであります。今回の発掘によって、古墳時代、古代、中世の人々の生活の跡が確認され、山元町の歴史を考える上で貴重な発見となりました。

本書は、この調査成果を収録したもので、地域における歴史解明の資料として広く活用され、埋蔵文化財の保護と理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に際しご協力をいただいた関係機関の方々、また、直接調査にあられました皆様に心から感謝申し上げます。

平成27年3月

山元町教育委員会  
教育長 森 憲一



## 例 言

1. 本書は、宮城県亶理郡山元町山寺寺日向地内に所在する日向遺跡（第1次調査）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の発掘調査は、常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に伴う事前調査として行ったものである。発掘調査・整理作業・報告書作成に係る一連の業務は、平成22～26年度に、調査原因となった事業主体者である東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所から業務委託を受けた山元町が実施した。
3. 本遺跡の発掘調査と整理作業は、山元町教育委員会が主体となり、文化財担当部局のある生涯学習課が担当した。日向遺跡の現地発掘調査・報告書作成業務を行った平成23～26年度の職員の体制は下記のとおりである。

教 育 長 森 憲一

課 長 渡邊 隆弘 (H23)、齋藤 三郎 (H24～)

班 長 武田 賢一 (H23～25)、阿部 正憲 (H26～)

主 事 山田 隆博

主 事 丹野 修太 (任期付職員)

調査補助員 藤田 祐、渡邊 理伊知 (H23・24)、佐伯 奈弓

発掘作業員 飯川 幸男、石井 進、伊藤 清、伊藤 成夫、岩佐 吉則、太田 千佳子、大村 敏雄、小野 正文、小野 和喜子、後藤 征郎、佐藤 明、佐藤 正博、桜井 政敏、関沼 邦彦、西山 ゆり子、立谷 重晴、富樫 治男、南條 義博、早坂ひろみ、深澤 久美、増川 悠記、三浦 長、三浦 則子、桃井 諒人、森 忠男、矢吹 共子、遊佐 豊美、横山 真、渡部 修

整理作業員 梅村 眞智子、及川 博子、斎藤 則彦、西山 ゆり子、永谷 佳歩美、高橋 みゆき、萩本 厚子、橋本 礼子、橋元 和子、深澤 久美、三浦 則子、水本 恵子、矢吹 共子、渡邊 洋子

4. 発掘調査、報告書作成に際して、以下の方々からご指導・ご助言・ご協力を賜った。  
天野 順陽・高橋 栄一・村田 晃一・初鹿野 博之（宮城県教育庁文化財保護課）、吉野 武・廣谷 和也（宮城県多賀城跡調査研究所）、石本 弘（福島県文化振興事業団）、田中 則和・佐藤 洋・長島 榮一（仙台市教育委員会）、川又 隆央（岩沼市教育委員会）、日下 和寿（白石市教育委員会）、佐藤 敏幸（東松島市教育委員会）、辻 秀人（東北学院大学）、早瀬 亮介（榊加速器分析研究所）、森 秀之（亶理市教育委員会）、草場 啓一・小鹿野 亮（筑紫野市教育委員会）、宮城県教育庁文化財保護課、東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所（敬称略）
5. 本遺跡の平成23年度に実施した航空写真撮影は（株）日本特殊撮影、基準点設置は高野弘幸土地家屋調査士事務所に委託して行った。
6. 石器の石材については、筆者が肉眼観察を行った。
7. 墨書・刻書・ヘラ記号のある土器については、宮城県多賀城跡調査研究所の吉野武氏にご教示いただいた。
8. 陶器の産地については、仙台市教育委員会の佐藤洋氏にご教示いただいた。
9. 現地発掘調査について、指揮・監督を山田・丹野・藤田・渡邊が担当し、現地作業を発掘作業員、断面図の作成は深澤・矢吹・早坂・三浦・西山が行った。
10. 本書の整理・作成にあたり、遺物の洗浄・注記・接合・復元・拓本は、佐伯が中心となり整理作業員がこれを助けた。遺物抽出については、須恵器は丹野、須恵器以外の土器類・土製品は山田、石器は藤田が担当した。遺物の実測図作成は、土師器を山田、須恵器を丹野、陶器を佐伯、土製品・石器を藤田、土器実測図のトレースは佐伯、石器実測図のトレースは渡邊（洋）が行った。また、漆器は（株）イビソクに委託し、実測図を作成した。遺物写真撮影・加工は（株）アートプロフィールに委託した。遺構整理については、全般を山田・丹野・藤田が担当し、断面図トレース、データ入力・校正を佐伯、図面修正・データ照合を佐伯・渡邊（洋）・及川が行った。

11. 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。調査区の測量原点は以下のとおりである。方位は座標北を表している。なお、今回使用した座標値は、東日本大震災前の値を基本としており、震災後のX・Y座標の補正データは( )内の数値のとおりである。

R728: X=-225382.472 (-225383.148) Y=3136.111 (3139.165) Z=16.448m(標高値)

R729: X=-225374.026 (-225374.702) Y=3142.250 (3145.304) Z=16.260m

R737: X=-225313.959 (-225314.636) Y=3155.436 (3158.491) Z=15.044m

R738: X=-225305.064 (-225305.741) Y=3154.742 (3157.797) Z=16.510m

L729: X=-225387.166 (-225387.842) Y=3078.965 (3082.018) Z=16.588m

L733: X=-225353.497 (-225354.173) Y=3083.923 (3086.976) Z=17.248m

L734: X=-225333.948 (-225334.624) Y=3089.390 (3092.443) Z=18.328m

L736: X=-225320.636 (-225321.312) Y=3090.615 (3093.668) Z=20.528m

L737: X=-225314.127 (-225314.803) Y=3093.202 (3096.255) Z=20.500m

※補正データの計算は、地殻変動に伴う座標値補正を行う座標補正ソフトウェア「PatchJGDtshokutaibeiyouki2011.par」による。

12. 本書の第2図は、土地分類基本調査における1/50,000地形分類図「角田」をもとに作成したものである。
13. 本書の第3図は、国土交通省国土地理院発行の1/50,000の地形図を複製して作成したものである。
14. 本書で使用した土色の記述にあたっては、「新版標準土色帳2010年版」(小山・竹原1973)を参照した。
15. 本書で使用した遺構略号は、「発掘調査の手引き」(文化庁文化財部記念物課2010)を参考にし、以下の通りとした。

S I: 竪穴住居跡, S B: 掘立柱建物跡, S K: 土坑, S E: 井戸跡, P: 柱穴・小穴, S X: 焼成遺構

16. 出土遺物の登録番号は、以下の通りとした。

A: 縄文土器, B: 弥生土器, C: 土師器・土師質土器(かわらけ), E: 須恵器, F: 土製品

I: 陶器, K: 石器, L: 木製品, O: 製鉄関連遺物

17. 遺構・遺物実測図の主な縮尺は下記のとおりで、それぞれ図中にスケールを付して示した。

調査区全体図: 1/300, 調査区部分図: 1/150, 竪穴住居跡: 1/50, 掘立柱建物跡: 1/100・1/200・1/300,  
土坑・井戸跡・焼成遺構: 1/40, 断面図: 1/40・1/50, 土器・土製品類等: 1/3・1/4, 石器類: 1/2・1/3

18. 遺物実測図において、土器類の実測図については、須恵器断面を黒塗り、その他の土器を白抜きとした。

また、黒色処理が施された土師器については、スクリーントーンにより示した。

19. 本書の出土遺物のうち、土師器については、成形にロクロを使用したものをロクロ成形・ロクロ土師器、ロクロを使用していないものを非ロクロ成形と呼ぶことにした。

20. 基本層序は、ローマ数字とアルファベット小文字を組み合わせて表記した。

21. 標高は、水準点を基にした海拔高度で示した。

22. 遺構内の傾斜の部分は「TTT」、後世の攪乱は「攪」と表記し、その傾斜部は「≡」で示した。

23. その他、発掘調査の方法等については、第Ⅲ章2にまとめた。

24. 本書の執筆・編集については、整理を担当した調査員の協議を経て、第Ⅰ章～第Ⅲ章・第Ⅴ章1(1)～(5)・(7)、2～4は山田、第Ⅴ章1(6)は藤田が執筆し、図版の版組みは山田、報告書編集は山田・佐伯が行った。

25. 発掘調査に伴う出土遺物および写真等の調査記録資料については、山元町教育委員会が保管している。

## 調 査 要 項

遺 跡 名：日向（ひゅうが）遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 14068 遺跡記号 IG）

所 在 地：宮城県亘理郡山元町山寺字日向

調査原因：常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に係る事前調査

調査期間：確認調査 平成 22(2010)年 6 月 10・11 日、平成 23(2011)年 10 月 28・31 日

事前調査 平成 23(2011)年 11 月 1 日～平成 24(2012)年 1 月 16 日

調査面積：約 1,975 m<sup>2</sup>（対象面積約 4,770 m<sup>2</sup>）

調査主体：山元町教育委員会

調査担当：山元町教育委員会生涯学習課

山田 隆博 【山元町教育委員会 生涯学習課 主事】

丹野 修太 【山元町教育委員会 生涯学習課 主事（任期付職員）】

藤田 祐 【山元町教育委員会 生涯学習課 臨時職員（調査補助員）】

渡邊 理伊知【山元町教育委員会 生涯学習課 臨時職員（調査補助員）】

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課、東日本高速道路株式会社東北支社仙台工事事務所



日向遺跡 調査風景（東から撮影）

# 目 次

序文

例言・調査要項

目次・挿図目次・表目次

|                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| 第Ⅰ章 遺跡の概要                         | 1   |
| 1. 遺跡の位置と地理的環境                    | 1   |
| 2. 周辺の遺跡                          | 1   |
| 第Ⅱ章 調査に至る経緯と経過                    | 8   |
| 1. 常磐自動車道(泉境～山元間)建設工事計画と発掘調査に至る経緯 | 8   |
| (1) 調査に至る経緯                       | 8   |
| ①路線内の埋蔵文化財の取り扱い決定までの経緯            | 8   |
| ②文化財保護法に基づく手続き                    | 8   |
| (2) 施工路線内の発掘調査の経過                 | 9   |
| 2. 日向遺跡発掘調査の経過                    | 9   |
| 第Ⅲ章 発掘調査                          | 12  |
| 1. 基本層序                           | 12  |
| 2. 発掘調査の方法                        | 16  |
| 3. 発見された遺構と遺物                     | 17  |
| (1) 竪穴住居跡                         | 25  |
| (2) 掘立柱建物跡                        | 54  |
| (3) 井戸跡                           | 90  |
| (4) 土坑                            | 96  |
| (5) 焼成遺構                          | 108 |
| (6) ビット                           | 109 |
| (7) その他の出土遺物                      | 113 |
| ①基本層出土遺物                          | 113 |
| ②その他の出土遺物 - 検出面、排土等出土遺物 -         | 113 |
| 第Ⅳ章 自然科学分析                        | 133 |
| 1. 日向遺跡における火山灰分析(株式会社 古環境研究所)     | 133 |
| 2. 日向遺跡から出土した漆塗碗材の樹種(古代の森研究舎)     | 137 |
| 第Ⅴ章 総括                            | 138 |
| 1. 出土遺物の特徴と時期                     | 138 |
| (1) 縄文土器・弥生土器                     | 138 |
| (2) 土師器・須恵器                       | 141 |
| (3) 陶器                            | 152 |
| (4) かむらけ                          | 154 |
| (5) 漆器                            | 155 |
| (6) 石器                            | 155 |
| (7) その他の遺物                        | 155 |
| 2. 検出した遺構の特徴と時期                   | 156 |
| (1) 出土遺物・遺構の重複関係等からみた各遺構の時期       | 156 |
| (2) まとめ                           | 159 |
| 3. 各時代の遺構の特徴と変遷                   | 161 |
| (1) 縄文～弥生時代の遺構                    | 161 |
| (2) 古墳時代の遺構                       | 161 |
| (3) 古代の遺構                         | 161 |
| (4) 中世の遺構                         | 164 |
| 4. まとめ                            | 168 |

引用・参考文献

報告書抄録

# 挿 図 目 次

|         |                        |       |         |                          |    |
|---------|------------------------|-------|---------|--------------------------|----|
| 第 1 図   | 山元町と日向道路の位置            | 1     | 第 5 0 図 | S B 1 2 掘立柱建物跡平面・断面図     | 64 |
| 第 2 図   | 日向道路及び山元町内の地形分類図       | 2     | 第 5 1 図 | S B 1 3 掘立柱建物跡平面・断面図     | 65 |
| 第 3 図   | 山元町内の遺跡分布と常磐自動車道建設関連道路 | 6     | 第 5 2 図 | S B 1 4 掘立柱建物跡平面・断面図     | 65 |
| 第 4 図   | 調査区的位置                 | 11    | 第 5 3 図 | S B 1 5 掘立柱建物跡平面・断面図     | 65 |
| 第 5 図   | 日向道路基本層序               | 13・14 | 第 5 4 図 | S B 1 6 掘立柱建物跡平面・断面図     | 66 |
| 第 6 図   | 日向道路調査区全景 (1)          | 18    | 第 5 5 図 | S B 1 7 掘立柱建物跡平面・断面図     | 66 |
| 第 7 図   | 日向道路主要遺構配置図            | 19・20 | 第 5 6 図 | S B 1 8 掘立柱建物跡平面・断面図     | 66 |
| 第 8 図   | 日向道路調査区全景 (2)          | 21    | 第 5 7 図 | S B 1 9 掘立柱建物跡平面・断面図     | 67 |
| 第 9 図   | 日向道路遺構配置図 (1)          | 22    | 第 5 8 図 | S B 2 0 掘立柱建物跡平面・断面図     | 67 |
| 第 1 0 図 | 日向道路遺構配置図 (2)          | 23    | 第 5 9 図 | S B 2 1 掘立柱建物跡平面・断面図     | 67 |
| 第 1 1 図 | 日向道路遺構配置図 (3)          | 24    | 第 6 0 図 | S B 1 1 ~ 2 1 掘立柱建物跡 (1) | 68 |
| 第 1 2 図 | S 1 1 竪穴住居跡 (1)        | 26    | 第 6 1 図 | S B 1 1 ~ 2 1 掘立柱建物跡 (2) | 70 |
| 第 1 3 図 | S 1 1 竪穴住居跡 (2)        | 27    | 第 6 2 図 | S B 2 2 掘立柱建物跡平面・断面図     | 71 |
| 第 1 4 図 | S 1 1 竪穴住居跡 (3)        | 28    | 第 6 3 図 | S B 2 3 掘立柱建物跡平面・断面図     | 71 |
| 第 1 5 図 | S 1 2 竪穴住居跡 (1)        | 30    | 第 6 4 図 | S B 2 4 掘立柱建物跡平面・断面図     | 72 |
| 第 1 6 図 | S 1 2 竪穴住居跡 (2)        | 31    | 第 6 5 図 | S B 2 5 掘立柱建物跡平面・断面図     | 72 |
| 第 1 7 図 | S 1 2 竪穴住居跡 (3)        | 32    | 第 6 6 図 | S B 2 6 掘立柱建物跡平面・断面図     | 73 |
| 第 1 8 図 | S 1 2 竪穴住居跡 (4)        | 33    | 第 6 7 図 | S B 2 7 掘立柱建物跡平面・断面図     | 73 |
| 第 1 9 図 | S 1 2 竪穴住居跡 (5)        | 34    | 第 6 8 図 | S B 2 8 掘立柱建物跡平面・断面図     | 74 |
| 第 2 0 図 | S 1 3 竪穴住居跡 (1)        | 36    | 第 6 9 図 | S B 2 9 掘立柱建物跡平面・断面図     | 74 |
| 第 2 1 図 | S 1 3 竪穴住居跡 (2)        | 37    | 第 7 0 図 | S B 3 0 掘立柱建物跡平面・断面図     | 75 |
| 第 2 2 図 | S 1 3 竪穴住居跡 (3)        | 38    | 第 7 1 図 | S B 3 1 掘立柱建物跡平面・断面図     | 75 |
| 第 2 3 図 | S 1 3 竪穴住居跡 (4)        | 39    | 第 7 2 図 | S B 2 2 ~ 3 1 掘立柱建物跡 (1) | 76 |
| 第 2 4 図 | S 1 3 竪穴住居跡 (5)        | 40    | 第 7 3 図 | S B 2 2 ~ 3 1 掘立柱建物跡 (2) | 79 |
| 第 2 5 図 | S 1 4 竪穴住居跡 (1)        | 42    | 第 7 4 図 | S B 3 2 掘立柱建物跡平面・断面図     | 80 |
| 第 2 6 図 | S 1 4 竪穴住居跡 (2)        | 43    | 第 7 5 図 | S B 3 3 掘立柱建物跡平面・断面図     | 80 |
| 第 2 7 図 | S 1 5 竪穴住居跡 (1)        | 45    | 第 7 6 図 | S B 3 4 掘立柱建物跡平面・断面図     | 81 |
| 第 2 8 図 | S 1 5 竪穴住居跡 (2)        | 46    | 第 7 7 図 | S B 3 5 掘立柱建物跡平面・断面図     | 81 |
| 第 2 9 図 | S 1 5 竪穴住居跡 (3)        | 47    | 第 7 8 図 | S B 3 2 ~ 3 5 掘立柱建物跡 (1) | 82 |
| 第 3 0 図 | S 1 6 竪穴住居跡 (1)        | 48    | 第 7 9 図 | S B 3 2 ~ 3 5 掘立柱建物跡 (2) | 83 |
| 第 3 1 図 | S 1 6 竪穴住居跡 (2)        | 49    | 第 8 0 図 | S B 3 6 掘立柱建物跡平面・断面図     | 84 |
| 第 3 2 図 | S 1 7 竪穴住居跡 (1)        | 50    | 第 8 1 図 | S B 3 7 掘立柱建物跡平面・断面図     | 84 |
| 第 3 3 図 | S 1 7 竪穴住居跡 (2)        | 51    | 第 8 2 図 | S B 3 8 掘立柱建物跡平面・断面図     | 85 |
| 第 3 4 図 | S 1 8 竪穴住居跡 (1)        | 52    | 第 8 3 図 | S B 3 9 掘立柱建物跡平面・断面図     | 85 |
| 第 3 5 図 | S 1 8 竪穴住居跡 (2)        | 53    | 第 8 4 図 | S B 4 0 掘立柱建物跡平面・断面図     | 86 |
| 第 3 6 図 | 日向道路掘立柱建物跡遺構配置図        | 54    | 第 8 5 図 | S B 4 1 掘立柱建物跡平面・断面図     | 86 |
| 第 3 7 図 | S B 1 掘立柱建物跡平面・断面図     | 56    | 第 8 6 図 | S B 4 2 掘立柱建物跡平面・断面図     | 86 |
| 第 3 8 図 | S B 2 掘立柱建物跡平面・断面図     | 57    | 第 8 7 図 | S B 3 6 ~ 4 2 掘立柱建物跡 (1) | 87 |
| 第 3 9 図 | S B 3 掘立柱建物跡平面・断面図     | 57    | 第 8 8 図 | S B 3 6 ~ 4 2 掘立柱建物跡 (2) | 89 |
| 第 4 0 図 | S B 4 掘立柱建物跡平面・断面図     | 57    | 第 8 9 図 | S E 1 井戸跡                | 90 |
| 第 4 1 図 | S B 5 掘立柱建物跡平面・断面図     | 58    | 第 9 0 図 | S E 2 井戸跡                | 91 |
| 第 4 2 図 | S B 6 掘立柱建物跡平面・断面図     | 58    | 第 9 1 図 | S E 3 井戸跡 (1)            | 92 |
| 第 4 3 図 | S B 7 掘立柱建物跡平面・断面図     | 59    | 第 9 2 図 | S E 3 井戸跡 (2)            | 93 |
| 第 4 4 図 | S B 8 掘立柱建物跡平面・断面図     | 59    | 第 9 3 図 | S E 4 井戸跡 (1)            | 94 |
| 第 4 5 図 | S B 9 掘立柱建物跡平面・断面図     | 60    | 第 9 4 図 | S E 4 井戸跡 (2)            | 95 |
| 第 4 6 図 | S B 1 0 掘立柱建物跡平面・断面図   | 60    | 第 9 5 図 | S K 1 土坑                 | 96 |
| 第 4 7 図 | S B 1 ~ 1 0 掘立柱建物跡 (1) | 61    | 第 9 6 図 | S K 2 土坑                 | 97 |
| 第 4 8 図 | S B 1 ~ 1 0 掘立柱建物跡 (2) | 63    | 第 9 7 図 | S K 3 土坑                 | 97 |
| 第 4 9 図 | S B 1 1 掘立柱建物跡平面・断面図   | 64    | 第 9 8 図 | S K 4 土坑                 | 98 |

|       |   |     |
|-------|---|-----|
| 第99図  | SK5土坑   | 98  |
| 第100図 | SK6土坑   | 99  |
| 第101図 | SK7・8土坑   | 100 |
| 第102図 | SK9土坑   | 101 |
| 第103図 | SK10土坑  | 101 |
| 第104図 | SK11～15土坑   | 103 |
| 第105図 | SK16土坑  | 104 |
| 第106図 | SK17土坑(1)   | 104 |
| 第107図 | SK17土坑(2)   | 105 |
| 第108図 | SK18土坑(1)   | 106 |
| 第109図 | SK18土坑(2)   | 107 |
| 第110図 | SX1～3埴成遺構   | 108 |
| 第111図 | P1出土遺物①-P404・476                                  | 109 |
| 第112図 | 基本層出土遺物(1)-III層出土遺物①                              | 115 |
| 第113図 | 基本層出土遺物(2)-III層出土遺物②                              | 116 |
| 第114図 | 基本層出土遺物(3)-III層出土遺物(写真図版)                         | 117 |
| 第115図 | 基本層出土遺物(4)-IV層出土遺物                                | 118 |
| 第116図 | 基本層出土遺物(5)-IV・V層出土遺物、<br>V層出土遺物①                  | 119 |
| 第117図 | 基本層出土遺物(6)-IV層出土遺物、IV・V層出土遺物、<br>V層出土遺物②(写真図版)    | 120 |
| 第118図 | 基本層出土遺物(7)-V層出土遺物②                                | 121 |
| 第119図 | 基本層出土遺物(8)-V層出土遺物③                                | 122 |
| 第120図 | 基本層出土遺物(9)-V層出土遺物④、⑤(写真図版)                        | 123 |
| 第121図 | 基本層出土遺物(10)-V層出土遺物⑥                               | 124 |
| 第122図 | 基本層出土遺物(11)-V層出土遺物⑦                               | 125 |
| 第123図 | 基本層出土遺物(12)-V層出土遺物⑧、⑨(写真図版)                       | 126 |
| 第124図 | 基本層出土遺物(13)-V層出土遺物⑩                               | 127 |
| 第125図 | 基本層出土遺物(14)-V層出土遺物⑪                               | 128 |
| 第126図 | 基本層出土遺物(15)-V層出土遺物⑫、V・VI層出土遺物、<br>VI層出土遺物         | 129 |
| 第127図 | 基本層出土遺物(16)-V層出土遺物⑬～⑮、V・VI層<br>出土遺物、VI層出土遺物(写真図版) | 130 |
| 第128図 | 基本層出土遺物(17)-IV・V層出土遺物 石器類                         | 131 |
| 第129図 | その他の出土遺物-表土・埴品出土遺物                                | 132 |
| 第130図 | 日向遺跡出土赤土土器  | 138 |
| 第131図 | 日向遺跡出土赤クロ土器器分類図                                   | 142 |
| 第132図 | 日向遺跡出土ロクロ土器器分類図                                   | 144 |
| 第133図 | 日向遺跡出土須恵器器分類図                                     | 145 |
| 第134図 | 日向遺跡壑穴住居跡出土遺物-土師器・須恵器                             | 147 |
| 第135図 | 日向遺跡基本層出土土師器(1)-赤ロクロ土師器                           | 149 |
| 第136図 | 日向遺跡基本層出土土師器(2)-ロクロ土師器                            | 150 |
| 第137図 | 日向遺跡SK9土坑、P494、基本層III～V層出土須恵器                     | 151 |
| 第138図 | 日向遺跡出土中世の遺物(1)-中世陶器・甕                             | 153 |
| 第139図 | 日向遺跡出土中世の遺物(2)-中世陶器鉢・壺、かわらけ、<br>漆器                | 154 |
| 第140図 | 日向遺跡主要遺構の重複関係と所属時期(※Pitを除く)                       | 160 |
| 第141図 | 日向遺跡古墳時代の遺構配置図                                    | 163 |
| 第142図 | 日向遺跡古代の遺構配置図                                      | 163 |
| 第143図 | 日向遺跡中世の竪立建物跡のまとまりと方向                              | 166 |
| 第144図 | 日向遺跡中世の竪立建物跡(建物規模別)                               | 166 |

## 表 目 次

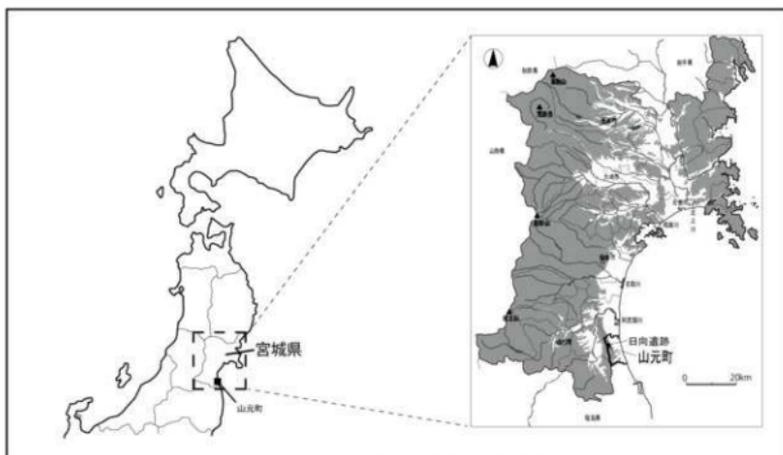
|        |                           |     |
|--------|---------------------------|-----|
| 第1表    | 常磐自動車遺跡設計図に伴う関連遺跡・地点一覧    | 7   |
| 第2表    | その他の山元町内の遺跡一覧             | 7   |
| 第3表    | S11壑穴住居跡床面施設一覧            | 25  |
| 第4表    | S12壑穴住居跡床面施設一覧            | 29  |
| 第5表    | S13壑穴住居跡床面施設一覧            | 35  |
| 第6表    | S14壑穴住居跡床面施設一覧            | 41  |
| 第7表    | S15壑穴住居跡床面施設一覧            | 44  |
| 第8表    | 日向遺跡竪立建物跡属性表              | 55  |
| 第9-1表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(1)SB1～10  | 62  |
| 第9-2表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(2)SB11～21 | 69  |
| 第9-3表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(3)SB22～28 | 77  |
| 第9-4表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(4)SB29～31 | 78  |
| 第9-5表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(5)SB32～35 | 83  |
| 第9-6表  | 日向遺跡竪立建物跡柱穴跡属性表(6)SB36～42 | 88  |
| 第10表   | 日向遺跡井戸跡属性表                | 90  |
| 第11表   | 日向遺跡土坑属性表                 | 96  |
| 第12-1表 | 日向遺跡ピット属性表(1)             | 110 |
| 第12-2表 | 日向遺跡ピット属性表(2)             | 111 |
| 第12-3表 | 日向遺跡ピット属性表(3)             | 112 |
| 第13-1表 | 日向遺跡遺物出土状況(1)             | 139 |
| 第13-2表 | 日向遺跡遺物出土状況(2)             | 140 |
| 第14表   | 底部切り離し技法による分類表            | 142 |
| 第15表   | 日向遺跡出土土器・刻字・ヘラ記号のある土器一覧   | 152 |
| 第16表   | 日向遺跡検出遺構の所属時期             | 159 |
| 第17表   | 日向遺跡中世の竪立建物跡一覧            | 165 |

## 第1章 遺跡の概要

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

宮城県亶理郡山元町は、仙台市から南南東に約40km離れた県南東部に位置し、地理的には仙台平野南端にあたる(第1図)。町の西側は福島県から延びる阿武隈山地の支脈、東側は太平洋で、これらの間には沖積地が広がっている。町内を北上する阿武隈山地は、標高200~300mの山地・丘陵地で、北端では阿武隈川と接する。丘陵縁辺は、阿武隈山地に源を発する小河川によって開析された櫛状の谷地形となり、谷底には谷中平野が形成されている。丘陵の東側には、沖積地を挟んで海岸線に平行した4列の浜堤(第II浜堤列・第IIIa~c浜堤列)が認められる(伊藤2006、藤本・松本2012)。

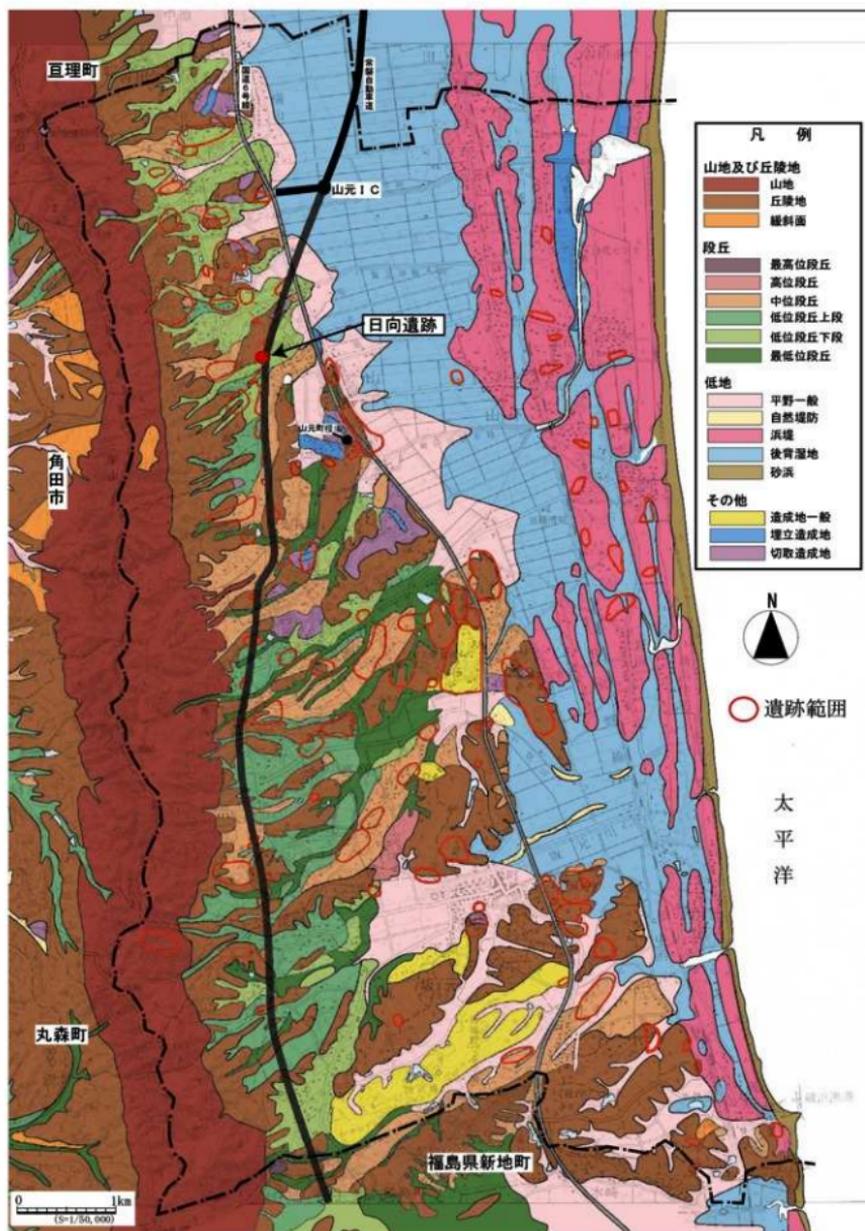
日向遺跡は、平成19・20年度に実施された分布調査により発見された遺跡で、亶理郡山元町山寺字日向に所在し、山元町役場の北西約1.1kmに位置する(第2・3図)。遺跡は、阿武隈山地から東に延びる標高16~20mの丘陵南緩斜面に立地する(第2図)。遺跡の範囲は、東西80m、南北110mほどの広がりをもつ。現況は、山林、畑地、荒地、宅地である。



第1図 山元町と日向遺跡の位置

### 2. 周辺の遺跡

山元町には、現在まで100余りの遺跡が登録されている(第3図、第1・2表)。その分布は、地形的に阿武隈山地裾部、そこから延びる丘陵縁辺部、浜堤列周辺の大きく3つに分けられる。阿武隈山地裾部には縄文時代から中世に至る各時代の遺跡がある。丘陵縁辺部には縄文時代から近世までの遺跡が分布するが、その主体は古代と中世である。浜堤列周辺は近年の分布調査のより発見された遺跡がほとんどで、古代以降の遺跡が分布している。



第2図 日向遺跡及び山元町内の地形分類図

これまで山元町内の遺跡のうち本格的な発掘調査が実施された遺跡は、中島貝塚や合戦原遺跡、狐塚遺跡などわずか数例で、町内の原始から中世の歴史は未解明な点が多い状況にあった。しかし、平成21年度以降、町内では常磐自動車道山元 IC 開通に伴う周辺地区の開発や常磐自動車道（県境—山元間）建設工事、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う復興事業などに関連した発掘調査が継続的に行われ、これまで知られていなかった山元町の歴史が少しずつ明らかになってきている。

以下これまでに調査された代表的な遺跡について、時代ごとに記述する。

#### 【縄文時代の遺跡】

前期の北経塚遺跡(42)、前期～中期の西石山原遺跡(16)、中期～晩期中島貝塚(50)、後期の谷原遺跡(4)、晩期中筋遺跡(1)などがある。

北経塚遺跡では、平成15・21・23年に調査が行われ、前期初頭の堅穴住居跡、土坑、遺物包含層、ピット群などが検出された（関2004、山田・村上・山口2010、山田・藤田・佐伯2013）。

西石山原遺跡では、平成22・23年に調査が行われ、前期の土坑、中期末葉の堅穴住居跡などが検出された（初鹿野ほか2012）。

中島貝塚では、昭和53年に調査が行われ、縄文土器・石器とともに貝殻、魚骨・獣骨が数多く出土した（山元町誌編纂委員会編1986）。

谷原遺跡では、平成20・22・24年の調査で、後期の掘立柱建物跡で構成される環状集落が確認され、この他、土坑や遺物包含層などが検出された（宮城県考古学会2010・2012）。

中筋遺跡では、平成24年の調査で、晩期の遺物包含層が検出された。

#### 【弥生時代の遺跡】

中筋遺跡(1)、北経塚遺跡(42)、館の内遺跡(39)、狐塚遺跡(92)などがある。

中筋遺跡では、平成24年の調査で、水田跡や遺物包含層などが検出され、中期中葉の枡形囲式の土器や石包丁、板状石器などが出土した。

北経塚遺跡では、平成21・23年に調査が行われ、中期後半の十三塚式・後期の天王山式の土器のほか、石包丁が出土した（山田・村上・山口2010、山田・藤田・佐伯2013）。

館の内遺跡では、平成13年に調査が行われ、中期後半の十三塚式の土器が出土している（引地2002）。

狐塚遺跡では、平成5年の調査で、溝跡が確認され、中期後半の十三塚式の土器が出土している。（畑田1995）。

#### 【古墳時代の遺跡】

前期の中筋遺跡(1)・石垣遺跡(6)・的場遺跡(7)、前期～中期の北経塚遺跡(42)、中期の合戦原遺跡(61)、後期～終末期の狐塚遺跡(92)・日向北遺跡(2)・谷原遺跡(4)・井戸沢横穴墓群(88)などがある。

中筋遺跡では、平成24年度の調査で、前期の土坑墓群が検出された。

石垣遺跡では、平成23年の調査で、前期の堅穴住居跡が検出された（山田・藤田2014）。

的場遺跡では、平成23・25年の調査で、前期の堅穴住居跡・土坑・溝跡が検出された（山田・藤田・佐伯2014）。

北経塚遺跡では、平成21・23年の調査で、前期の堅穴住居跡・方形周溝跡、中期の古墳周溝跡が検出された（山田・村上・山口2010、山田・藤田・佐伯2013）。

合戦原遺跡では、平成2年に調査が行われ、南小泉式期の大型の堅穴住居跡が検出された（岩見ほか1991）。

日向北遺跡では、平成24年の調査で、終末期前後の竪穴住居跡が検出された(山田・丹野2014)。

谷原遺跡では、平成22・24年の調査で、後期の竪穴住居跡が検出された(宮城県考古学会2010)。

狐塚遺跡では、平成4・5年に調査が行われ、後期の竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡が検出された(千葉1993、窪田1995)。

井戸沢横穴墓群では、昭和44年に調査が行われ、調査された数基の横穴墓の特徴が福島県浜通り地方に点在する横穴墓群と類似することから、その関連性が指摘されている(佐々・志岡・氏家1971)。

### 【奈良・平安時代の遺跡】

館の内遺跡(39)、合戦原遺跡(61)、狐塚遺跡(92)、谷原遺跡(4)、涌沢遺跡(5)、石垣遺跡(6)、的場遺跡(7)、内手遺跡(10)、上宮前北遺跡(13)、向山遺跡(93)、熊の作遺跡(94)、北名生東窯跡(68)、犬塚遺跡(100)、新中永窪遺跡(102)、雷神遺跡(105)、内手B遺跡(126)などがある。

館の内遺跡では、平成13年の調査で、規格的に配置された掘立柱建物跡や竪穴住居跡が検出され、墨書土器や製塩土器などが出土している(引地2002)。

合戦原遺跡では、平成2年の調査で、奈良時代～平安時代の須恵器窯跡が検出された(岩見ほか1991)。

谷原遺跡では、平成20・22・24・25年の調査で、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・大溝・土坑などが検出され、円面硯や風字硯が出土している(宮城県考古学会2010・2012)。

涌沢遺跡では、平成24年の調査で、平安時代の集落跡や土器廃棄土坑、製鉄関連遺構が検出され、墨書土器や八稜鏡などが出土した(宮城県考古学会2012、初鹿野2013a)。

石垣遺跡では、平成23年の調査で、9世紀後半の竪穴住居跡・竪穴状遺構、土器廃棄土坑が検出され、土器廃棄土坑からは墨書土器(「田」・「人」)が出土した(山田・藤田2014)。

的場遺跡では、平成23・25年の調査で、9世紀後半の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・焼成遺構が検出された(山田・藤田・佐伯2014)。

内手遺跡では、平成23年の調査で、平安時代の木炭窯跡・横口付木炭窯跡が検出されている(初鹿野2013b)。

上宮前北遺跡では、平成24年の調査で、平安時代の製鉄炉が検出されている(初鹿野2013b)。

向山遺跡では、平成25年の調査で、奈良～平安時代の竪穴住居跡や鍛冶工房が検出されている(宮城県考古学会2013、初鹿野2015)。

熊の作遺跡では、奈良時代～平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、門跡が検出され、「坂本願」「大領」「子弟」などの墨書土器や風字硯、石帯、木簡、木製品などが出土している(宮城県考古学会2013、初鹿野2014・2015、吉野2015)。

北名生東窯跡では、昭和37・38・52年に須恵器窯跡の調査が行われ、8世紀後半～9世紀初頭の須恵器が出土した(鍛冶1971)。

犬塚遺跡では、平成25・26年の調査で、奈良時代の竪穴住居跡・木炭窯跡・製鉄炉跡が検出された(初鹿野2015)。

新中永窪遺跡では、平成26年の調査で、奈良～平安時代初期の竪穴住居跡・製鉄炉跡・須恵器窯跡・木炭窯跡・横口付木炭窯跡が検出された(宮城県考古学会2014、初鹿野2015)。

雷神遺跡では、平成25・26年の調査で、奈良時代の竪穴住居跡が検出された。

内手B遺跡では、平成26年の試掘調査で、奈良時代の須恵器窯跡などが検出された。

### 【中世の遺跡】

北経塚遺跡(42)、小平館跡(43)、谷原遺跡(4)、山下館跡(56)、鷲足館跡(49)などがある。

北経塚遺跡では、平成21・23年の調査で、13世紀後半～14世紀以降の掘立柱建物跡・井戸跡・土坑が確認され、中世の集落の存在が明らかになった（山田・村上・山口2010、山田・藤田・佐伯2013）。

谷原遺跡では、平成22・24年の調査で、掘立柱建物跡多数・井戸跡・土坑・溝跡などが検出され、中世の大規模な屋敷跡の存在が確認された（宮城県考古学会2010・2012）。

小平館跡は、室町時代の天文年間（1532～1555年）に亙理要害14世亙理宗隆が居館したとされている館跡で（柴橋1974）、平成24・25年に調査が行われ、掘立柱建物跡・溝跡が検出された。

山下館跡では、平成26年に調査が行われ、平場・土塁・堀切が良好な状態で確認され、平場では掘立柱建物跡や柱穴列が検出された（宮城県考古学会2014）。

鷲足館跡では、平成24～26年に調査が行われ、腰郭と柱穴列で区画された曲輪が確認され、掘立柱建物跡が多数検出された。

### 【近世の遺跡】

石垣遺跡(6)、的場遺跡(7)、山王B遺跡(9)、養首城跡(96)などがある。

石垣遺跡では、平成23年の調査で、近世の掘立柱建物跡・柱穴列跡・土坑・井戸跡で構成される屋敷跡が検出された（山田・藤田2014）。

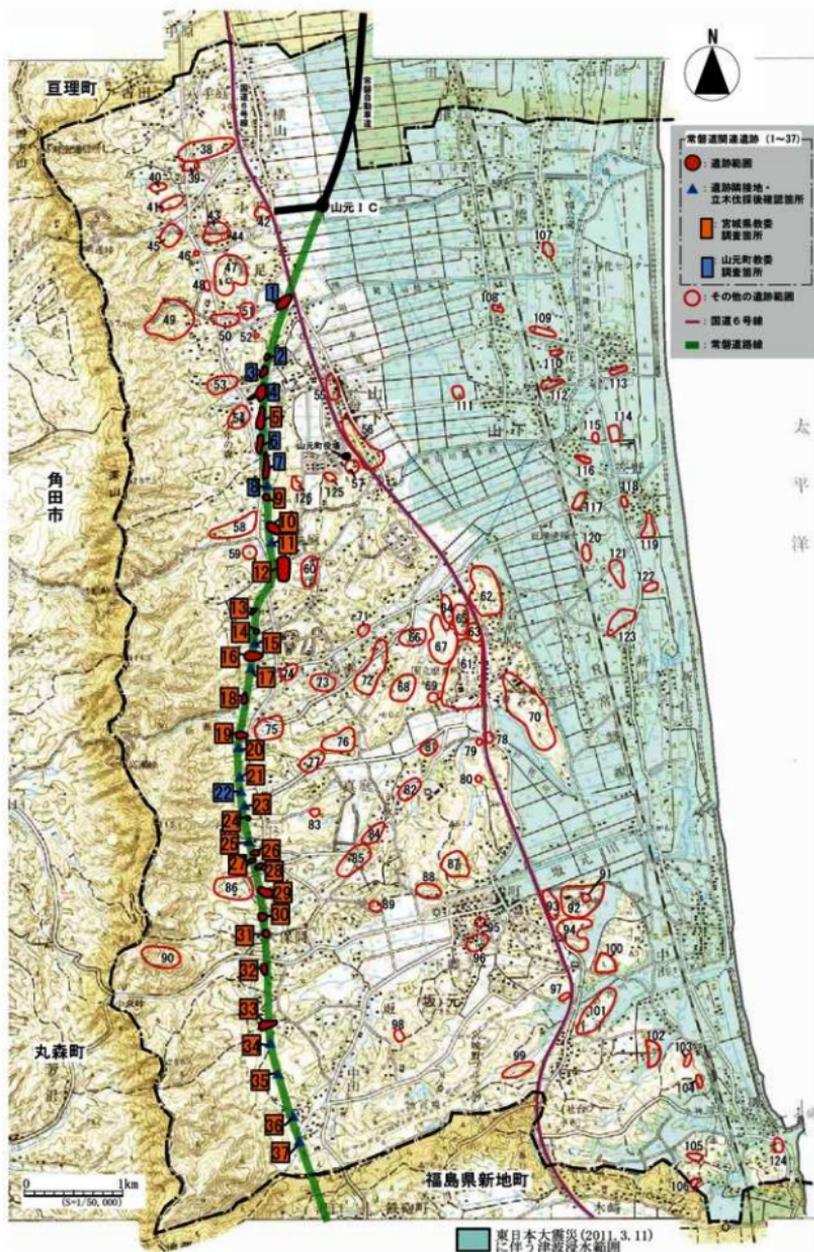
的場遺跡では、平成23・25年の調査で、17～19世紀の掘立柱建物跡・土坑・溝跡・井戸跡で構成される屋敷跡が検出された（山田・藤田・佐伯2014）。

山王B遺跡では、平成22年の調査で、掘立柱建物跡・溝跡・土坑が検出された（初鹿野ほか2012）。

養首城跡は、戦国時代末期に築城され、元和2（1616）年以降、大條氏が長期間にわたり居城した城で、平成25・26年に二ノ丸跡の調査が行われ、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、溝跡が検出された（宮城県考古学会2013）。



日向遺跡 発掘調査風景



第3図 山元町内の遺跡分布と常磐自動車道建設関連遺跡

第1表 常磐自動車道建設計画に伴う関連遺跡・地点一覧

| No. | 遺跡名            | 種別        | 時代等  | No. | 遺跡名           | 種別  | 時代等                               |
|-----|----------------|-----------|--|-----|---------------|-----|-----------------------------------|
| 1   | 中坊遺跡           | 水田・包貝層・麻織 | 縄文・弥生・古墳・中世<br>【平成23年度調査：甲】                                    | 20  | 南山神B遺跡<br>隣接地 | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 2   | 日向北遺跡          | 集落        | 古本瓦葺板敷遺跡等一帯の遺跡として発掘調査、中・古墳。【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻 | 21  | —             | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 3   | 日向遺跡           | 集落        | 古代、中世<br>【平成23年度調査：甲】  | 22  | —             | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 4   | 谷原遺跡           | 集落        | 縄文・中世<br>【平成23年度調査：甲】  | 23  | 新田B遺跡<br>隣接地  | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 5   | 溝沢遺跡           | 集落・生産     | 古本瓦葺板敷遺跡等一帯の遺跡として発掘調査、古墳。【平成23年度調査：甲】                          | 24  | 新田B遺跡         | 散在地 | 古代、調査の結果、発掘時に遺構なし<br>【平成23年度調査：甲】 |
| 6   | 石塚遺跡           | 集落        | 縄文・古墳～中世。【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                   | 25  | 影倉E遺跡<br>隣接地  | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 7   | 約場遺跡           | 集落        | 縄文・古墳～中世。【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                   | 26  | 影倉E遺跡         | 散在地 | 縄文・古墳～中世、および古<br>【平成23年度調査：甲】     |
| 8   | —              | —         | 古本瓦葺板敷遺跡等一帯の遺跡として発掘調査、古墳。調査不詳と判断                               | 27  | 影倉B遺跡         | 散在地 | 縄文<br>【平成23年度調査：甲】                |
| 9   | 山王B遺跡          | 集落        | 古墳。【平成22、23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                      | 28  | 影倉C遺跡         | 散在地 | 古代<br>【平成23年度調査：甲】                |
| 10  | 内平遺跡           | 製鉄・生産     | 平安<br>【平成23年度調査：甲】   | 29  | 影倉D遺跡         | 製鉄  | 古代、製鉄<br>【平成23年度調査：甲】             |
| 11  | 内平遺跡<br>南隣接地   | 生産        | 古本瓦葺板敷遺跡等一帯の遺跡として発掘調査、古墳。【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻   | 30  | 荷駄塚B遺跡        | 散在地 | 古代<br>【平成23年度調査：甲】                |
| 12  | 浅生原遺跡          | 散在地       | 縄文・古墳・中世。【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                   | 31  | 荷駄塚遺跡         | 散在地 | 縄文、調査の結果、発掘時に遺構なし<br>【平成23年度調査：甲】 |
| 13  | 上宮前北遺跡         | 製鉄        | 古本瓦葺板敷遺跡等一帯の遺跡として発掘調査、古墳。【平成23年度調査：甲】                          | 32  | 上小山遺跡         | 散在地 | 古代～中世<br>【平成23年度調査：甲】             |
| 14  | 上宮前遺跡          | 散在地       | 平安、古墳。【平成23、24年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                   | 33  | 法経遺跡          | 散在地 | 縄文、調査の結果、発掘時に遺構なし<br>【平成23年度調査：甲】 |
| 15  | 西石山原遺跡<br>北隣接地 | —         | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】                                | 34  | —             | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 16  | 西石山原遺跡         | 集落        | 縄文前・中・平安。【平成22、23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                | 35  | —             | —   | 調査の結果、遺跡と不明と判断<br>【平成23年度調査：甲】    |
| 17  | 西石山原遺跡<br>南隣接地 | 集落        | 特殊不詳の遺跡(墓跡)<br>発掘調査、古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                            | 36  | —             | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 18  | 北山神遺跡          | 散在地       | 縄文。【平成22、23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻                      | 37  | —             | —   | 調査の結果、遺跡との関わりなし<br>【平成23年度調査：甲】   |
| 19  | 南山神B遺跡         | 散在地       | 縄文・古墳、調査の結果、発掘時に遺構なし<br>【平成23年度調査：甲】<br>総延長：古本瓦葺板敷調査報告書第20巻    |     |               |     |                                   |

※太字ゴシック体：本報告遺跡

第2表 その他の山元町内の遺跡一覧

| No. | 遺跡名     | 種別       | 時代          | No. | 遺跡名     | 種別     | 時代       |
|-----|---------|----------|-------------|-----|---------|--------|----------|
| 38  | 大平塚跡    | 城郭       | 中世          | 83  | 北塚遺跡    | 塚      | 平安       |
| 39  | 榎の内遺跡   | 遺物付古墳    | 古代          | 84  | 浅生遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 41  | 味曾野横穴墓群 | 散在地      | 古墳後         | 85  | 南塚遺跡    | 散在地    | 縄文前・前・古墳 |
| 42  | 味曾野遺跡   | 散在地      | 古代          | 86  | 影倉遺跡    | 散在地    | 縄文・後     |
| 43  | 北塚塚遺跡   | 集落・内堀・緑地 | 縄文前・弥生～中世   | 87  | 栗岩山塚跡   | 塚      | 室町       |
| 44  | 小平塚跡    | 塚        | 中世          | 88  | 井戸沢横穴墓群 | 横穴墓    | 古墳後      |
| 44  | 榎塚穴墓群   | 横穴墓      | 古墳後         | 89  | 日向遺跡    | 散在地    | 古墳中・後    |
| 45  | 清水遺跡    | 散在地      | 弥生          | 90  | 新塚山古墳跡  | 塚      | 平安       |
| 46  | 本ノ入遺跡   | 散在地      | 古代          | 91  | 稲塚古墳跡   | 古墳     | 古墳後      |
| 47  | 山崎塚穴墓群  | 散在地      | 古墳後         | 92  | 狐塚遺跡    | 集落・生産  | 弥生～古墳・平安 |
| 48  | 北遺跡     | 散在地      | 古代          | 93  | 岡山遺跡    | 集落・生産  | 古墳～平安    |
| 49  | 蟹足塚跡    | 塚        | 中世          | 94  | 熊の作遺跡   | 塚      | 古代       |
| 50  | 中島貝塚    | 貝塚       | 縄文前～中       | 95  | 榎下遺跡    | 散在地    | 弥生       |
| 51  | 中道遺跡    | 散在地      | 古墳後         | 96  | 巖音城跡    | 塚      | 近世       |
| 52  | 赤坂遺跡    | 散在地      | 縄文・弥生       | 97  | 作田横穴古墳群 | 横穴墓    | 古墳後      |
| 53  | 石堂遺跡    | 散在地      | 古代          | 98  | 川内遺跡    | 製鉄     | 平安～?     |
| 54  | 山ヶ崎跡    | 塚        | 中世          | 99  | 一の沢遺跡   | 散在地    | 弥生       |
| 55  | 作田山塚跡   | 塚        | 平安          | 100 | 大塚山遺跡   | 集落・生産  | 古代       |
| 56  | 山下遺跡    | 塚        | 伊賀          | 101 | 野塚遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 57  | 日向東遺跡   | 塚        | 古代          | 102 | 新中水塚遺跡  | 集落・生産  | 古墳       |
| 58  | 山王遺跡    | 散在地      | 縄文後・古代      | 103 | 宮野作跡    | 塚      | 平安～室町    |
| 59  | 山王遺跡    | 製鉄       | 古代?         | 104 | 大塚小塚十三塚 | 塚      | 中世?      |
| 60  | 下大次遺跡   | 散在地      | 縄文前         | 105 | 雷神遺跡    | 集落・生産  | 古代       |
| 61  | 合戦原B遺跡  | 集落・内堀・築跡 | 古墳中・後・奈良～平安 | 106 | 山ノ上遺跡   | 散在地・生産 | 古代       |
| 62  | 合戦原C遺跡  | 塚        | 古代?         | 107 | 北沢沼遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 63  | 合戦原D遺跡  | 古墳群      | 古代          | 108 | 志沼遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 64  | 榎下塚跡    | 塚        | 古代          | 109 | 榎谷遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 65  | 中島貝塚    | 塚        | 中世          | 110 | 北塚無遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 66  | 大久保遺跡   | 散在地      | 縄文・古墳・古代    | 111 | 新田遺跡    | 散在地    | 古墳後・古代   |
| 67  | 大久保東遺跡  | 散在地      | 古代          | 112 | 鏡野遺跡    | 塚      | 古代       |
| 68  | 北名生東塚跡  | 塚        | 古代          | 113 | 高遺跡     | 散在地    | 古代       |
| 69  | 北名生東塚跡  | 塚        | 古代          | 114 | 花笠遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 70  | 戸花山遺跡   | 塚        | 縄文～古代       | 115 | 西北谷地A遺跡 | 散在地    | 古代       |
| 71  | 宮後遺跡    | 散在地      | 古代          | 116 | 西北谷地B遺跡 | 散在地    | 古代       |
| 72  | 家原遺跡    | 散在地      | 古代          | 117 | 西道貫遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 73  | 北の名遺跡   | 散在地      | 縄文前・前・後     | 118 | 笠野A遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 74  | 石山原遺跡   | 散在地      | 縄文          | 119 | 笠野B遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 75  | 南山神遺跡   | 散在地      | 縄文前・前       | 120 | 北中須賀遺跡  | 散在地    | 古代       |
| 76  | 真原塚跡    | 塚        | 中世          | 121 | 狐塚遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 77  | 浅野野遺跡   | 散在地      | 平安          | 122 | 浅野野遺跡   | 散在地    | 古代       |
| 78  | 長交城跡    | 塚        | 平安          | 123 | 新米遺跡    | 散在地    | 古代       |
| 79  | 印月崎遺跡   | 塚        | 中・古墳        | 124 | 榎船塚跡    | 遺跡     | 近世       |
| 80  | 北塚塚     | 塚        | 近世?         | 125 | 作田山遺跡   | 製鉄     | 古代       |
| 81  | 上台遺跡    | 散在地      | 弥生・平安       | 126 | 内平B遺跡   | 生産・製鉄  | 古代       |
| 82  | 康遺跡     | 散在地      | 古墳          |     |         |        |          |

## 第二章 調査に至る経緯と経過

### 1. 常磐自動車道（県境～山元間）建設工事計画と発掘調査に至る経緯

#### （1）調査に至る経緯

##### ①路線内の埋蔵文化財の取り扱い決定までの経緯

宮城県亶理郡山元町は、常磐自動車道の事業計画地の一つとなっており、平成11年度に山元ICから福島県の新地ICまでのおおよそのルートが決定したことを受け、日本道路公団東北支社仙台工事事務所長から平成12年2月5日付で、道路工事に埋蔵文化財の関わりについての「協議書」が提出された。宮城県教育委員会（以下、県教委）、山元町教育委員会（以下、町教委）では、協議の結果、事業の実施により、遺跡へ与える影響が高いと判断されたことから、平成12年5月29日付け宮城県教育庁文化財保護課長通知により、路線内に含まれる周知の遺跡4カ所については、遺構の分布状況を把握するために、「確認調査」を実施する対応に決定した。しかし、具体的な施工時期等が未決定だったため、その後の高速道路建設工事に関する埋蔵文化財の対応は、平成19年度までの一定期間、具体的な動きがない状態であった。

平成19年度になり、常磐自動車道の施工時期・具体的な路線が決定し、用地のセンター杭設置が完了したことを受け、東日本高速道路株式会社（以下、事業主）・県教委・町教委の三者で改めて協議を行った結果、山元IC以南から県境までの総長約10kmの路線について、本格的な分布調査を実施し、路線内の遺跡の分布状況について再度調査することとなった。

分布調査は、県教委・町教委のほか、事業主・町担当部局の担当職員が参加し、平成20年2月26日～28日（県教委7名・町教委2名）、平成21年3月23日・24日（県教委10名、町教委1名）の5日間にわたり実施された。その結果、路線内では、十数箇所新たに遺跡が発見され、すでに確認されていた周知のもの合わせて21遺跡確認された。また、山林のため遺跡の有無が確認できなかった箇所のうち、地形的に遺跡が存在する可能性のある箇所や遺跡隣接地に該当する箇所も16箇所確認され、路線内の要確認箇所は、合計37地点となった。

これを受け、平成21年5月に県教委・町教委・事業主の三者で、遺跡の取り扱い・調査体制等について協議した結果、路線内に多数の遺跡・確認箇所があり、かつ遺跡保存のための工法変更が難しいと判断されたことから、路線内37箇所の全てについて発掘調査が必要であると判断された。しかしながら、平成21年時点での町の調査体制では、提示された調査期間内に発掘調査完了見込みが立たないことから、発掘調査は県教委の全面的な協力を得て、県教委と町教委で分担することとなった。また、用地買収の状況により、平成21年度中に路線内の発掘調査可能箇所について調査着手するものとした（しかしながら、平成21年11月の段階で、平成21年度中の発掘調査着手が困難な状況となったため、本格的な発掘調査は、平成22年度から開始することとなった）。

##### ②文化財保護法に基づく手続き

上記の三者による協議終了後、新発見遺跡の遺跡登録手続きを実施し、平成21年6月2日には、事業主から路線内の21遺跡・その他16箇所についての「協議書」が提出され、平成21年6月17日付け「文第519号」宮城県教育委員会教育長通知により、周知の遺跡21遺跡、その他16箇所についての取り扱いが決定した（周知の21遺跡：確認調査実施後、遺構が存在する場合は本調査を実施、その他16箇所：立木伐採後、現地踏査・確認調査を実施し取り扱いを決定する）。その後、平成21年9月1日には事業主から文化財保護法第94条に基づく「発掘通知」が提出され、平成22年度から本格的な発掘調

査を実施した。発掘調査完了後には、完了した遺跡ごとにその都度、遺失物法・文化財認定に係る手続きを行った。

## (2) 施工路線内の発掘調査の経過

常磐自動車道施工路線内の現地発掘調査については、前述のとおり、県教委と町教委が分担し発掘調査を進めた。発掘調査に先立ち、平成22年4月1日に県教委・町教委・事業主の三者で埋蔵文化財発掘調査に係る協定を締結し、その後、町教委については各年度当初に、事業主と山元町で業務委託契約を締結し発掘調査業務にあたった。施工路線内の発掘調査は、原則として高速道路4車線分の用地幅に対し、今回の施工分(2車線分)と側道等の付帯設備のみを対象として行われ、切土部分や工法の関係で4車線分の工事を要する範囲については、用地幅すべてを調査の対象とした。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴い、常磐自動車道が「復興道路」に位置づけられたため、平成24年度以降の発掘調査実施にあたっては、「復興事業に伴う埋蔵文化財」の適用を受けることとなり、「復興の基準」(平成23年6月3日付け文第268号宮城県教育委員会教育長通知、平成23年4月28日付け23庁財第61号文化庁次長通知)で調査を実施した。

施工路線内の21遺跡、その他16箇所合計37箇所の現地発掘調査は、平成22年度から開始し、平成25年度までの4カ年にわたり実施した(第3図・第1表)。山林のため遺跡の有無を確認できなかった16箇所については、調査の結果、遺構が発見された日向北(2)・涌沢(5)・上宮前北(13)の3箇所は遺跡として新規登録、遺跡隣接地のうち遺構が発見された3箇所(11・17・20)は隣接する遺跡への範囲拡大措置がとられた。したがって、最終的な路線内の遺跡数は24遺跡という結果となった。

発掘調査は、用地買収等の進捗状況の影響もあり、平成22年以前に用地内の確認調査が実施できなかったため、それぞれ遺跡の状況が把握できない状態での開始となった。したがって、発掘調査に際しては、路線内の遺跡範囲について、まず確認調査を実施し、遺構が発見された場合は、事前調査に切り替えて調査を行う方法で行った。各年度の県教委と町教委の調査遺跡については、第3図・第1表のとおりである。

現地調査終了後、県教委・町教委により、それぞれが担当した遺跡について、整理作業・報告書作成業務が進められた。平成23年度末には、県教委により山王B遺跡(9)・浅生原遺跡(12)・上宮前遺跡(14)・西石山原遺跡(16)・北山神遺跡(18)・南山神B遺跡(19)の発掘調査報告書(初鹿野・山口・千葉・大坂2012)、平成25年度末には、町教委により日向北遺跡(山田・丹野2014)・石垣遺跡(山田・藤田2014)・的場遺跡(山田・藤田・佐伯2014)の発掘調査報告書が刊行された。

## 2. 日向遺跡発掘調査の経過

日向遺跡の確認調査・事前調査は、町教委が主体となり実施した。

### (1) 確認調査の経過

平成22年6月10・11日、平成23年10月28・31日の4日間実施した。確認調査は、調査対象区内にトレンチを10箇所(T-1~10)設定して行い、遺構の有無を確認した(調査面積約570㎡)。その結果、トレンチ5・7~10において遺構・遺物包含層が検出され、日向遺跡範囲内の路線計画部分の北半について遺構が残存していることが判明した。この結果を受け、事業主と協議した結果、2車線分の路線の範囲(T-10西側の範囲)について、平成23年度に本格的な調査を行うこととなった。

## (2) 事前調査の経過

事前調査は、平成23年11月1日～平成24年1月16日の41日間実施した。事前調査の対象となったのは、高速道路4車線分の用地のうち、今回施工する2車線分の範囲である。したがって、高速道路の4車線化工事実施の際は、今回の調査対象とならなかった箇所（T-10周辺）については、再度発掘調査が必要である（第4図）。

調査面積は、調査対象となった事業計画面積の約4,770㎡のうち、遺構が確認された約1,975㎡である。調査に先立ち、プレハブを近隣の町道24号山下山寺線脇（谷原遺跡範囲内）に設置して現場の調査事務所とし、日向遺跡の調査区近隣には道具倉庫・仮設トイレのみを設置し、発掘調査に係る資材一式を搬入した。調査は、平成23年11月1日から表土除去を開始し、11月8日から遺構の検出・精査に着手した。12月13日には遺構精査がほぼ完了し、12月14日に全面的空中写真撮影を業務委託により行った。その後、一部の遺構（堅穴住居跡・遺物包含層等）について、平成23年12月15日から平成24年1月16日まで予備調査・断割調査等を実施し、平成24年1月16日には現地調査のすべてを完了した。調査現場は、工事の関係から埋め戻しをせず、現地を事業主に引き渡した。

なお、日向遺跡の発掘調査体制は、調査員2名、調査補助員2名、作業員29名である。

## (3) 整理・報告書作成作業の経過

日向遺跡で出土した遺物、現地の記録類の整理・報告書作成作業は、発掘調査終了後、山元町役場敷地内に設置した整理室内で行った。日向遺跡の現地調査完了後も、その他の遺跡の現地調査を継続して進めたため、本格的な整理・報告書作成は、平成24年度以降から開始し、平成26年度末に作業を完了した。

### 【平成24年度の作業内容】

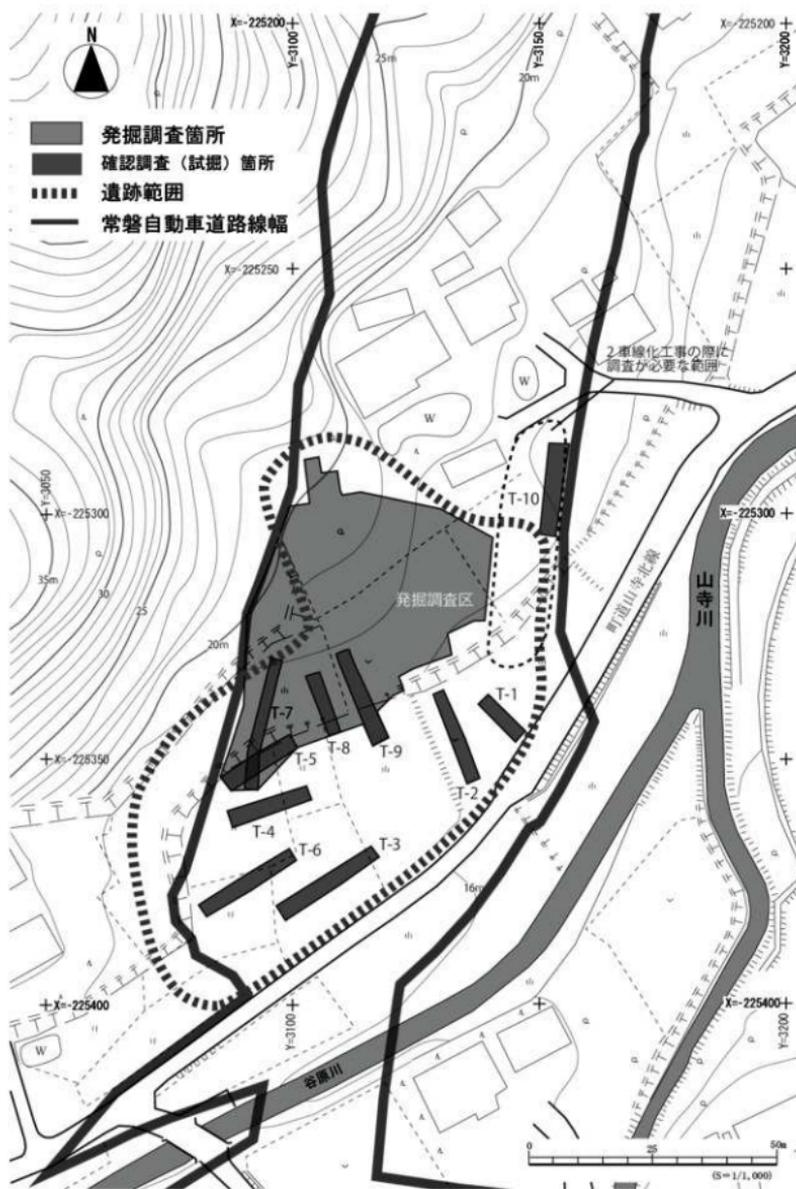
- ・出土遺物の整理作業（洗浄・保存処理）
- ・記録写真のネーミング

### 【平成25年度の作業内容】

- ・出土遺物の整理作業（接合・注記・復元）
- ・出土遺物の実測図・拓本の作成、実測図のトレース、出土遺物の写真撮影
- ・平面図、断面図の修正・トレース

### 【平成26年度の作業内容】

- ・平面図・写真類の版組み
- ・報告書執筆
- ・出土遺物、記録類の収納



第4図 調査区の位置

## 第Ⅲ章 発掘調査

### 1. 基本層序

今回の調査区は、標高 15～20m の丘陵平坦面・緩斜面に位置する。調査区中央西部の標高が最も高く、そこから北・東・南にかけて緩やかに傾斜し、南斜面は急傾斜となる。調査区の発掘調査実施前の土地利用状況は、原野、畑地・原野である。

調査区の基本層序は、調査地点によって若干の相違はあるが、原則として上から現代の表土・耕作土（Ⅰ層）、現代の盛土（Ⅱ層）、旧表土（Ⅲ層）、南斜面の堆積層（Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層）、地山（Ⅶ層）の順で構成される。遺構確認面はⅤa・Ⅵ層・Ⅶa層・Ⅶa～d層上面である。旧表土（Ⅲ層）は調査区のほぼ全域に分布している。遺構確認面である地山や遺構の残存状況から、今回の調査区については、一部で後世の削平を受けているが、基本的に本来の地形は残存しているものと考えられる。

なお、それぞれの層の概要は以下のとおりである（第5図）。

**Ⅰ層**：現代の表土・耕作土。Ⅰa層（表土）とⅠb層（耕作土）に細別される。

Ⅰa層：黒褐色（10YR2/3）シルト土。現代の表土で、層厚は 10cm 前後である。調査区全域で確認された。

Ⅰb層：にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト土。現代の耕作土で、調査区南斜面で確認された。

**Ⅱ層**：褐色（10YR4/6）シルト土。調査区西部の地点①周辺の標高 19.0～19.6m 付近のみで認められた。層厚は 20cm 前後。地山起源の粒子を多く含む。現代の土地利用に伴う盛土である。

**Ⅲ層**：近世～現代の遺物を含む層で、近世以降に形成された旧表土であると考えられる。調査区全域で認められ、特に丘陵の斜面側に厚く堆積していた。混入物・色調の差異から、Ⅲa層～Ⅲd層に細別され、Ⅲd層→Ⅲc層→Ⅲb層→Ⅲa層の順に堆積していた。

Ⅲa層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。小礫・炭化物片を含む。層厚 3～7cm で、標高 17.0m 以下の斜面に堆積していた。

Ⅲb層：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片を含む。層厚 3～9cm で、標高 16.5m 以下の斜面に堆積していた。

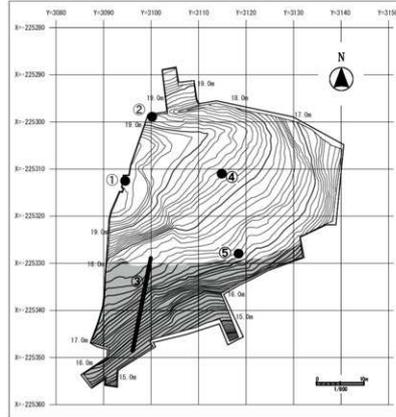
Ⅲc層：黒褐色（7.5YR3/1）シルト土。小礫を含む。層厚 2～8cm で、標高 16.2～17.6m 付近の斜面に堆積していた。

Ⅲd層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。炭化物片を含む。層厚 2～6cm で、標高 16.0～17.7m 付近の斜面に堆積していた。

**Ⅳ層**：黒褐色（10YR3/1）シルト土。層厚 3～10cm で、標高 16.8～17.7m 付近の調査区南側斜面のみに堆積していた。古墳時代～近世の遺物を含む堆積層である。

日向遺跡 基本層序

- I層：現代の表土・盛土。Ia層（表土）とIb層（耕作土）に細別。
  - Ia層：黒褐色（10YR2/3）シルト土。
  - Ib層：にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト土。
- II層：褐色（10YR4/6）シルト土。現代の土地利用に伴う盛土。
- III層：近世～現代の遺物を含む層。近世以降に形成された旧表土。
  - IIIa～IIId層に細別。IIIa層～IIIc層～IIId層の順に堆積。
    - IIIa層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。小礫・炭化物片を含む。
    - IIIb層：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片を含む。
    - IIIc層：黒褐色（7.5YR3/1）シルト土。小礫を含む。
    - IIId層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。炭化物片を含む。
- IV層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。古墳時代～近世の遺物を含む堆積層。
- V層：古墳時代～中世の遺物を含む堆積層。Va～b層に細別。Va層～Vb層の順に堆積。
  - Va層：黒褐色（10YR3/1）シルト土。炭化物片・焼土粒子・地山ブロックを含む。
  - Vb層：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片・火山灰のブロック塊を含む。
- VI層：古墳時代～古代の遺物を含む堆積層。Via～b層に細別。Via層～Vib層の順に堆積。
  - Via層：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片・小礫・地山粒子を含む。
  - Vib層：黒褐色（7.5YR3/2）シルト土。小礫・地山ブロックを含む。
- VII層：地山。VIIa層～VIIh層→VIIg層→VIIf層→VIIe層→VIId層→VIIc層→VIIb層→VIIa層の順に堆積。
  - VIIa層：黄褐色（10YR5/6）シルト土。
  - VIIb層：黄褐色（10YR5/8）シルト土。
  - VIIc層：明褐色（7.5YR5/6）砂質シルト土。
  - VIId層：黄褐色（10YR5/4）砂質シルト土。
  - VIIe層：明黄褐色（10YR6/6）砂質シルト土。
  - VIIf層：明褐色（7.5YR5/6）
  - VIIg層：黄褐色（10YR5/8）粘土質シルト土。
  - VIIh層：明黄褐色（10YR6/6）粘土質シルト土。
  - VIIi層：にぶい黄色（2.5Y6/3）粘土質シルト土。



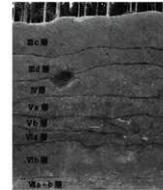
基本層III～VI層範囲



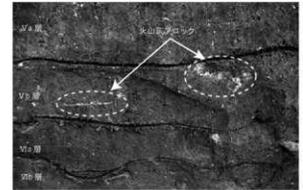
基本層①断面（南から）



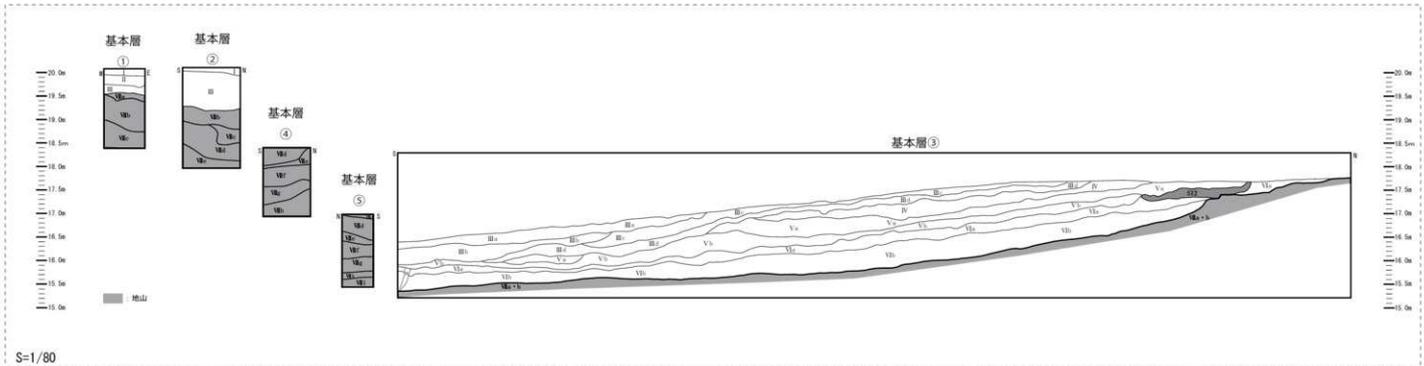
基本層②断面（南東から）



基本層③断面（東から）



基本層③断面 火山灰検出状況（東から）



S=1/80

第5図 日向遺跡 基本層序

**V層**：古墳時代～中世の遺物を含む堆積層。調査区南側斜面のみに認められた。混入物・色調の差異から、Va・b層に細別され、Vb層→Va層の順に堆積している。

**Va層**：黒褐色（10YR3/1）シルト土。炭化物片・焼土粒子・地山ブロックを含む。層厚6～12cmで、標高16.0～17.7mの斜面に堆積している。南斜面南西側に多くの遺物が包含されていた。

**Vb層**：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片を含む。層厚2～12cmで、標高17.4m以下の斜面に堆積している。Va層と比較し、遺物をあまり含まない。遺物のほとんどはVb層上面から出土している。また、Vb層の一部には火山灰のブロックが含まれていた（第四章参照）。

**VI層**：古墳時代～古代の遺物を含む堆積層。調査区南側斜面のみで認められた。混入物・色調の差異から、VIa・b層に細別され、VIb層→VIa層の順に堆積している。

**VIa層**：黒褐色（10YR3/2）シルト土。炭化物片・小礫・地山粒子を含む。層厚3～7cmで、標高17.7m以下の斜面に堆積している。SI2 堅穴住居跡の掘り込み面である。

**VIb層**：黒褐色（7.5YR2/2）シルト土。小礫・地山ブロックを含む。層厚2～12cmで、標高17.3m以下の斜面、地山直上に堆積している。

**VII層**：地山。表土・旧表土直下で確認された。各地点によりは異なる種類の地山が確認されたが、基本的にはVIIi層→VIIh層→VIIg層→VIIf層→VIIe層→VII d層→VIIc層→VIIb層→VIIa層の順に堆積していると思われる。

**VIIa層**：黄褐色（10YR5/6）シルト土。

調査区中央西側の丘陵頂部（地点①）及び南側斜面（地点③）、南東斜面のみで確認した。

**VIIb層**：黄褐色（10YR5/8）シルト土。

調査区中央西側の丘陵頂部（地点①・②）及び南側斜面（地点③）、南東斜面のみで確認した。

**VIIc～VIIe層**：丘陵頂部から緩斜面にかけて分布する砂質シルト土。

**VIIc層**は明褐色（7.5YR5/6）、**VII d層**は黄褐色（10YR4/6）、**VIIe層**は明黄褐色（10YR6/6）である。

**VII f～VII i層**：砂質シルト土のVIIe層下で確認された粘土質シルト土。

**VII f層**は明褐色（7.5YR5/6）、**VII g層**は黄褐色（10YR5/8）、**VII h層**は明黄褐色（10YR6/6）、**VII i層**はにぶい黄色（2.5Y6/3）である。

## 2. 発掘調査の方法

今回の調査は、常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に伴う発掘調査であり、本遺跡の現地調査・整理作業は下記の方法により行った。

### （1）現地調査

#### 【表土除去・遺構精査】

表土除去作業はバックホー（0.45 m<sup>3</sup>）、遺構検出以降の作業は人力により行った。なお、遺構検出作業については、基本層 Va・b 層・VIa 層・VIIa～d 層上面で行った。

#### 【遺構測量】

検出した遺構や調査区の図面作成については、遺構平面図・等高線作成はトータルステーション（SRX5X）及び電子平板システム（遺構くん cubic 2011 7.02）、遺構断面図は手実測により縮尺 1/20 で実測した。その際、調査対象範囲に設置した国家座標系に基づく基準杭を利用した。測量基準杭の国家座標は例言に示したとおりである。

#### 【遺構番号】

遺構番号は、現地調査の段階で、1 から通し番号を振り、各種記録類を作成した。その後、整理作業の段階で、遺構番号を各遺構の性格ごとに再度振り直した。なお、遺構の性格ごとの略記号については例言に示したとおりである。

#### 【遺構の記録作成】

今回の調査で検出した遺構のうち、竪穴住居跡、溝跡、土坑、井戸跡、焼成遺構については、原則として、すべての記録作成（平面図・断面図・写真撮影）を行った。これら以外の中世以降と判断される柱穴・ピット類は、調査を円滑に進めるため、遺構平面の下場計測や断面図・写真等の記録作成の一部を省略した。具体的には、建物を構成する柱穴については、必要箇所のみ断面図作成・写真撮影等を行い、これ以外の柱穴・ピットは、法量計測・土層注記の記録作成のみを行った。その他、今回の調査で掘り込みを行った遺構の底面標高はすべて記録した。

#### 【遺物の記録・取り上げ】

遺構から出土した遺物のうち、出土状況の平面記録の対象としたものは、遺構に伴う遺物でかつ残存状況のよいもののみとした。

遺物の取り上げについては、原則として遺構出土遺物は出土層位ごと、遺構外出土遺物は検出面等として記録し取り上げた。ただし、遺構出土の遺物のうち、半截時（分層前）に出土した遺物で出土層位が明確でないものは、「堆積土」として取り上げた。

#### 【写真撮影】

記録写真には、一眼レフデジタルカメラ（NikonD90/レンズ AF-S NIKKOR 18-200mm/画質モード RAW+FINE）、俯瞰撮影システム（CUBIC）を使用した。調査がほぼ終了した平成 23 年 12 月 14 日には、業務委託でラジコンヘリによる航空撮影（一眼レフデジタルカメラ、6×7 フィルムカメラ）を行った。

### （2）室内整理

#### ①遺物の整理作業

##### 【遺物洗浄・接合・復元】

遺物の洗浄は、水洗により作業を行い、比較的脆い遺物（縄文土器・弥生土器・土師器）については、

土器強化剤（使用薬剤：バインダー17）による処理を施した。遺物の接合は、まず同一遺構内の出土遺物の接合を行い、その後、別々の遺構間、その他（検出面・排土など）から出土した遺物の接合を行った。遺物の復元は、実測図作成が可能なものを対象として作業を行った。

#### 【注記作業】

遺物の注記は、ジェットマーカー（第一合成株式会社）を一定期間リースし、機械による注記を行った。遺物への注記内容は、原則として遺跡名の略号・調査年・出土遺構・出土層位とし、遺物の内面等に注記した。なお、注記した出土遺構名は、現場調査で付した番号とした。

#### 【遺物抽出・実測図・拓本図作成】

遺物の抽出・実測図作成は調査員・調査補助員が行い、拓本作成は整理作業員、報告書用の拓本図作成は調査補助員が担当した。

遺物抽出に際しては、原則として遺構に伴う遺物を中心に抽出し、遺構に伴わないものや遺構外出土のものについても図化が可能なものは抽出の対象とした。

遺物の実測図については、原則として手実測により作成したが、一部の遺物は遺物くんcubic20124.00を使用して作成し、また、一部（漆器）は民間調査機関（株式会社イボック仙台支店）に委託して作成した。

拓本図の作成は、墨拓と画仙紙を使用し拓本を作成した後、スキャナーでPCに画像を取り込み、報告書掲載用に加工した。

#### 【実測図トレース、写真撮影】

遺物の実測図のトレース図は、素図をスキャナーで取り込み、PC上でのデジタルトレースを行い作成した。報告書に掲載する遺物の写真撮影・写真加工作業は、民間機関（株式会社アートプロフィール）に委託した。

### ②出土遺物等の保存処理・自然科学分析

漆器については、東北芸術工科大学に業務委託し保存処理（真空凍結乾燥）を行い、樹種同定は古代の森研究所に分析を委託した。火山灰分析については株式会社古環境研究所に委託した。

### ③図面の整理・報告書作成

遺構図の整理作業は、平面図修正、断面図修正・トレース、土層注記等のデータ入力を行ったのち、図版作成、図面収納の手順で行った。報告書の執筆は、調査員・調査補助員が担当した。

なお、遺物・断面図のトレース図作成、写真画像処理、遺構図等の図版作成、報告書版組みについては、遺物くん cubic 2012 8.03、Adobe Illustrator CS5、Adobe Photoshop CS5・6、Adobe InDesign CS5・6、表データ・報告書原稿の作成については Microsoft Office Word・Excel のソフトウェアを使用した。

## 3. 発見された遺構と遺物

今回の調査では、堅穴住居跡 8 軒、掘立柱建物跡 42 棟、井戸跡 4 基、土坑 18 基、焼成遺構 3 基、ピット 323 個、遺物包含層を検出した(第 6～11 図)。出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、かわらけ、羽口、鉄滓、土製品、石器などである。以下、遺構ごとに記述する。



1. 日向遺跡 調査区全景（南から）



2. 日向遺跡 調査区全景（北から）

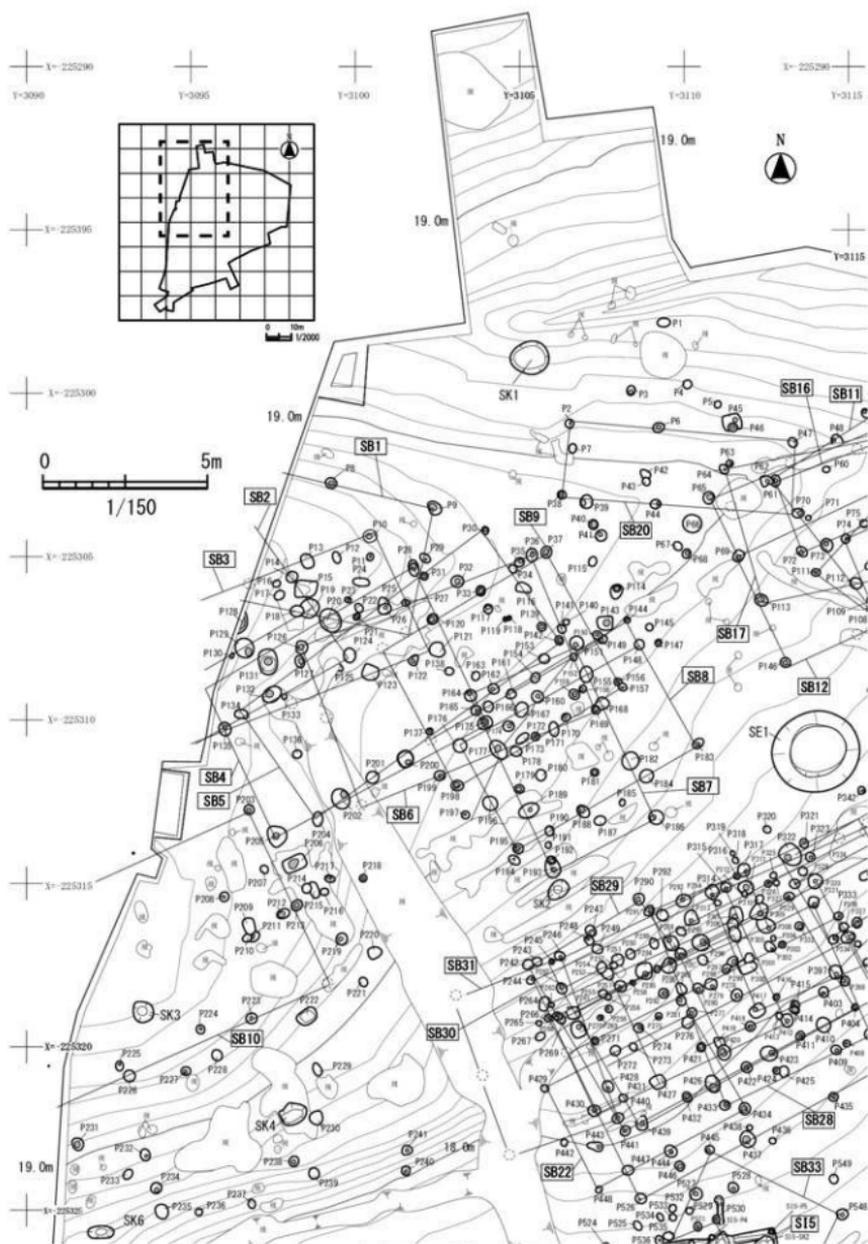
第6図 日向遺跡 調査区全景（1）



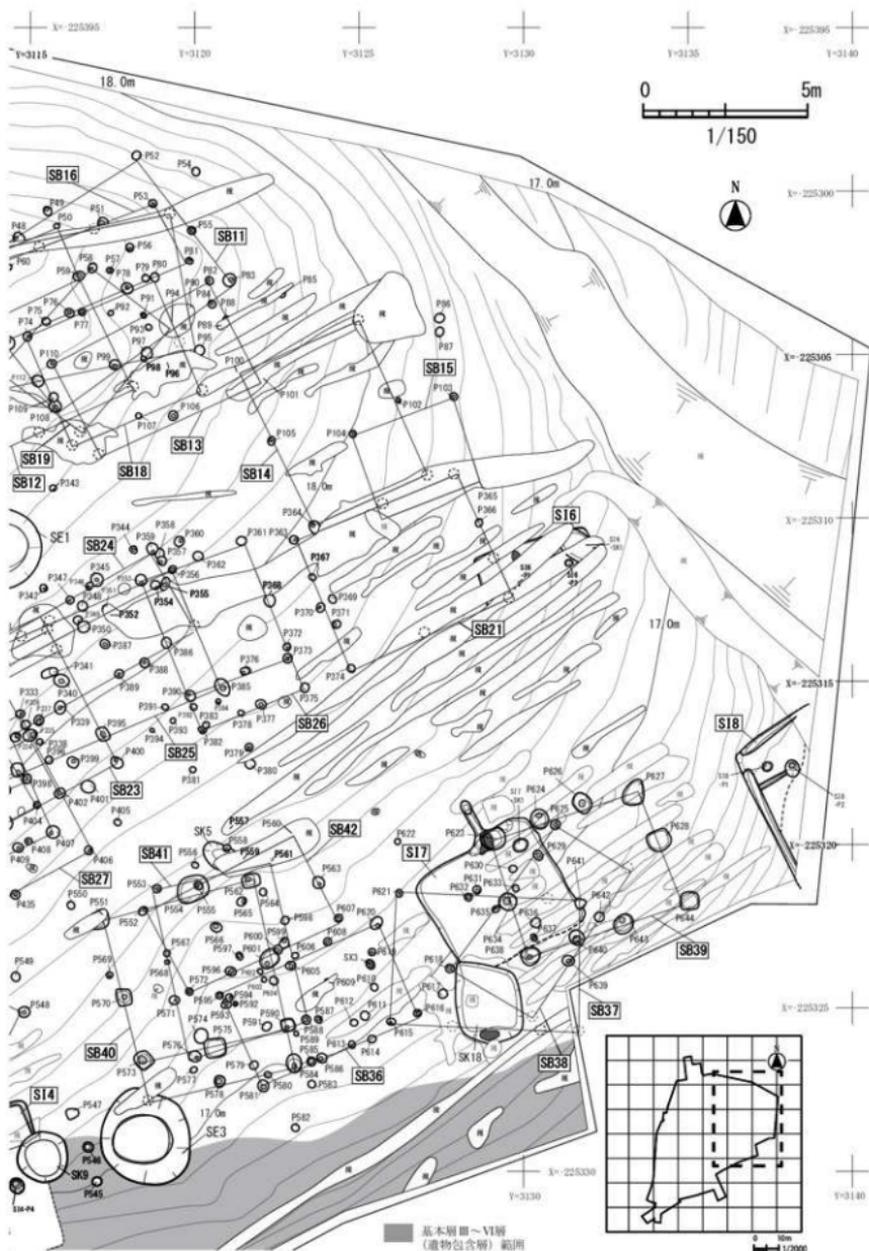


1. 日向遺跡 調査区全景 (上が東)

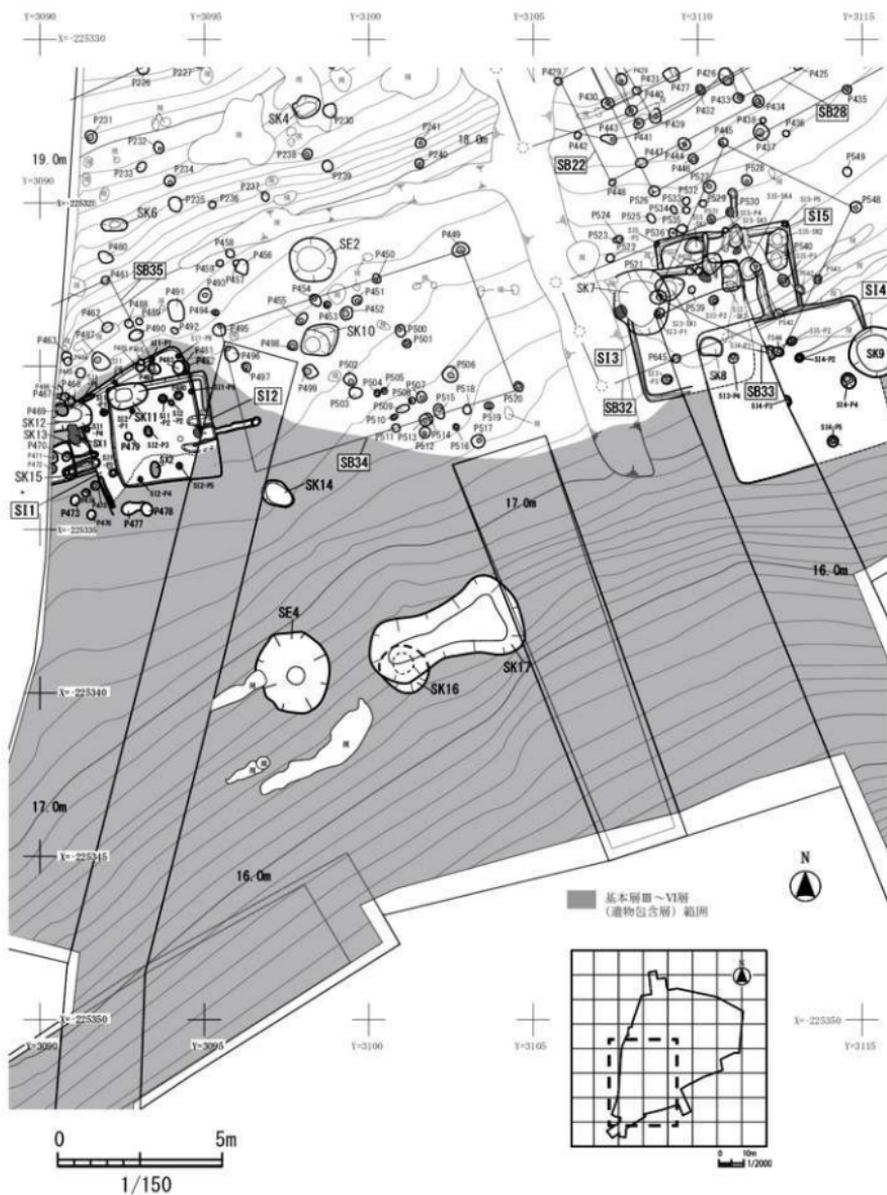
第 8 図 日向遺跡 調査区全景 (2)



第9図 日向遺跡 遺構配置図(1)



第10図 日向遺跡 遺構配置図(2)



第11図 日向遺跡 遺構配置図(3)

## (1) 竪穴住居跡

8軒検出した。いずれも丘陵南側の緩斜面に分布している（第7図）。

## 【S11 竪穴住居跡】（第12～14図、第3表）

調査区南西で検出した。標高17.5～17.8m前後の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIa層である。S12、SK11～13・15、SX1、P467～472・479～486と重複し、SK12～13・15、SX1、P467～472・479～486より古く、S12、SK11より新しい。

【規模・平面形】東－西3.6m、北－南2.5m以上の隅丸方形を呈する。

【主軸方向】住居東辺・西辺が真北に対し、西に19°傾く（N-19°-W）。

【壁】住居の北側が最も残りがよく、高さ10cm残存していた。

【床面】住居北西隅を地山（基本層VIIb層）、住居北側以南は基本層VIa層を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ビット】柱穴・ビット9個（P1～9）を検出した。柱穴・ビットは径12～26cm・深さ6～21cmの円形・楕円形を呈する。P1・2では径9cmの柱痕跡が認められた。柱穴・ビットの位置関係からP1～3は住居の支柱穴、P4～9は壁柱穴であると考えられる。

【カマド】住居西辺中央に付設されている。側壁・煙道・煙出ビットが残存していた。また、カマド側壁内側には深さ10cmほどの円形のくぼみが確認された。燃焼部の焼面は残存していなかった。カマド側壁は地山起源の褐色土で構築されている。

【周溝】住居壁際を巡る。周溝は全周せず、住居北壁西隅と住居西壁のカマド付設部南側でのみ確認した。上幅20～25cm、下幅10～15cm、深さ5cm前後である。

【堆積土】住居の堆積土は7層に分かれ、1・2層は住居堆積土、3層は煙出Pit堆積土、4層はカマド煙道堆積土、5・6層はカマド側壁内側のくぼみ内堆積土、7層はカマド煙道掘方埋土である。

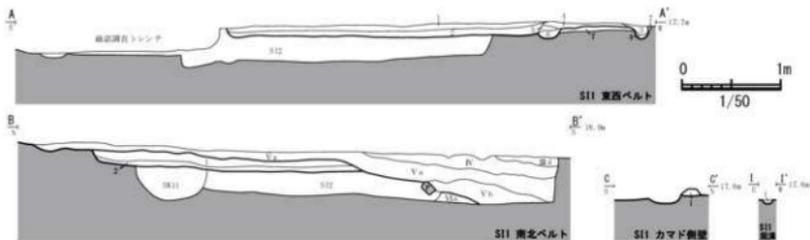
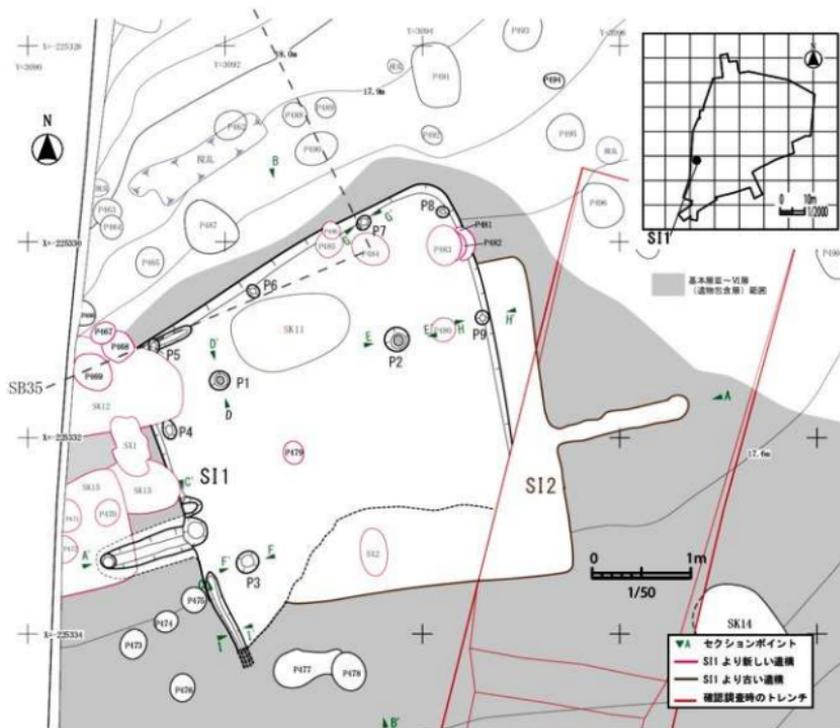
【出土遺物】住居堆積土、カマド煙道堆積土、P1掘方埋土からクロコ成形の土師器片334点（2880g）、須恵器片18点（355g）、鉄滓12点（260g）が出土した。出土器種は、土師器が坏（内黒処理・赤焼土器）・甕、須恵器が坏・壺・甕である。このうち図示できたものは、土師器坏（第13図1～8）である。

第3表 S11 竪穴住居跡 床面施設一覧

| 遺構番号   | 種類 | 柱穴・ビット位置（長軸・短軸・埋深等） |      |      |    | 備考                 |
|--------|----|---------------------|------|------|----|--------------------|
|        |    | 平面形                 | 長軸   | 短軸   | 埋深 |                    |
| S11-P1 | 柱穴 | 円形                  | 20   | 19   | 21 | 土師器<br>柱痕跡：円形・径9cm |
| S11-P2 | 柱穴 | 円形                  | 26   | 24   | 14 | 柱痕跡：円形・径9cm        |
| S11-P3 | 柱穴 | 円形？                 | 23   | (18) | 17 | 柱痕跡？               |
| S11-P4 | 小穴 | 楕円形？                | (19) | 14   | 6  |                    |
| S11-P5 | 小穴 | 楕円形？                | (14) | 12   | 13 |                    |
| S11-P6 | 小穴 | 円形                  | 15   | 14   | 8  |                    |
| S11-P7 | 小穴 | 円形                  | 14   | 13   | 16 |                    |
| S11-P8 | 小穴 | 円形                  | 14   | 12   | 13 |                    |
| S11-P9 | 小穴 | 円形                  | 13   | 12   | 12 |                    |



S11 竪穴住居跡 調査風景



●東西ベルト (A-A')・南北ベルト (B-B')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考                     |
|---|--------------|-----|------------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/2) | シルト | 地山粒子・炭化物片含む。           |
| 2 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 地山粒子・炭化物片含む。           |
| 3 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト | 炭化物片・地山ブロック含む。         |
| 4 | 黄褐色(10YR8/6) | シルト | 地山ブロック多量含む。カマダ天井礫層上。   |
| 5 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト | 炭化物片含む。                |
| 6 | 暗褐色(10YR3/2) | シルト | 炭化物片含む。                |
| 7 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 焼土粒子・炭化物片含む。カマダ側壁面方層上。 |

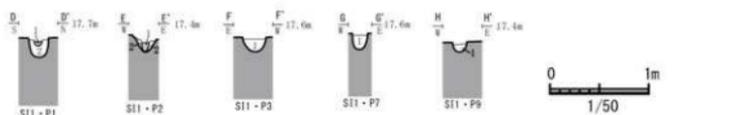
●カマダ側壁 (C-C')

| 層 | 土色          | 土性  | 備考                        |
|---|-------------|-----|---------------------------|
| 1 | 褐色(10YR4/4) | シルト | 地山ブロック多量含む。<br>カマダ側壁構築層上。 |

●周溝 (1-1')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考        |
|---|--------------|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 地山ブロック含む。 |

第12図 S11 竪穴住居跡(1)



●P1 (D-D')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考             |
|---|--------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト | 柱状跡。           |
| 2 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 地山ブロック含む。飯方埋土。 |

●P2 (E-E')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考             |
|---|--------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト | 柱状跡。           |
| 2 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 地山ブロック含む。飯方埋土。 |

●P3 (F-F')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考             |
|---|--------------|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック・硬付物片含む。 |

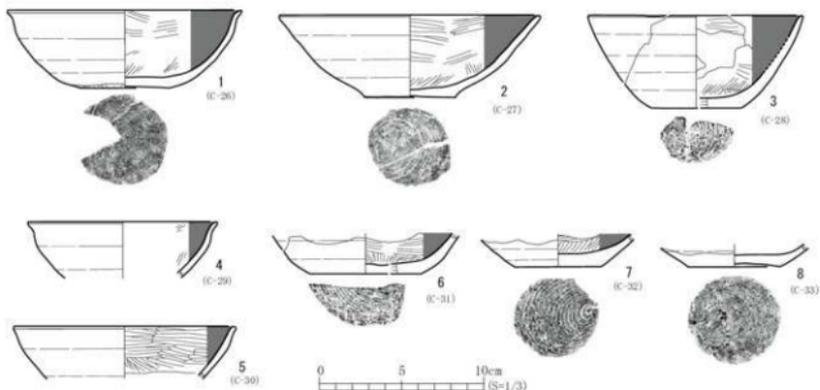
●P4 ~ P7 (G-G')・P8

| 層 | 土色           | 土性  | 備考        |
|---|--------------|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色(10YR2/2) | シルト | 地山粒を微量含む。 |

●P9 (H-H')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考        |
|---|--------------|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック含む。 |

S11 出土遺物



| No. | 層          | 種別  | 器種 | 残存         | 特徴【目土(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記述】  | 登録   |
|-----|------------|-----|----|------------|---|------|
| 1   | S11<br>4層  | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・胴部下部手持ちへつ割り。底部切り離し技法不明→手持ちへつ割り内調整。内面・ヘラミガキ・黒色処理・磨滅。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR6/3)。内面・黒褐色(10YR3/1)。法量：口径14.2cm・器高4.8cm・底径5.4cm・器厚0.3～0.6cm | C-26 |
| 2   | S11<br>1層  | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理・磨滅。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR7/3)。内面・黒褐色(10YR3/1)。法量：口径15.8cm・器高1cm・底径5.5cm・器厚0.3～0.5cm                          | C-27 |
| 3   | S11<br>埴輪土 | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・灰褐色(7.5YR5/2)。内面・黒色(N2/0)。法量：口径13.0cm・器高5.7cm・底径5.6cm・器厚0.4～0.8cm                                 | C-28 |
| 4   | S11<br>埴輪土 | 土師器 | 杯  | 口縁部        | 外面：ロクロナデ。内面：ヘラミガキ(磨滅)・黒色処理。色調：外面・にぶい褐色(7.5YR7/4)。内面・黒色(N2/0)。法量：口径11.1cm・残存高3.4cm・器厚0.3cm   | C-29 |
| 5   | S11<br>1層  | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい褐色(7.5YR5/3)。内面・黒色(N2/0)。法量：口径(13.4)cm・残存高3.2cm・器厚0.3～0.4cm   | C-30 |
| 6   | S11<br>埴輪土 | 土師器 | 杯  | 胴部         | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR6/3)。内面・黒色(N2/0)。法量：底径5.4cm・残存高2.5cm・器厚0.4～0.8cm                                       | C-31 |
| 7   | S11<br>埴輪土 | 土師器 | 杯  | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい褐色(7.5YR5/3)。内面・黒色(N2/0)。法量：底径5.3cm・残存高2.6cm・器厚0.4～0.8cm                                       | C-32 |
| 8   | S11<br>埴輪土 | 土師器 | 杯  | 底部         | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：内外面・にぶい褐色(7.5YR6/4)。法量：底径5.6cm・残存高1.4cm・器厚0.2～0.7cm。赤漆土器  | C-33 |

第13図 S11 竪穴住居跡(2)



1. S I 1 完掘状況 (北から)



2. S I 1・P1 断面 (東から)



3. S I 1・P2 断面 (南から)



4. S I 1・P3 断面 (北から)

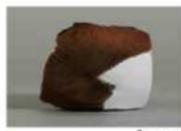
S I 1 出土遺物



1 (C-26)



2 (C-27)



3 (C-28)



4 (C-29)



6 (C-31)



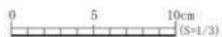
7 (C-32)



8 (C-33)



5 (C-30)



第14図 S I 1 竪穴住居跡 (3)

## 【S12 竪穴住居跡】(第15~19図、第4表)

調査区南西で検出した。標高17.5~17.7m前後の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIa層である。S11、SK11~13・15、SX1・2、P467~472、479~486と重複し、S11、SK11~13・15、SX1・2、P467~472、479~486より古い。なお、本住居跡は、確認調査の際に設定したトレンチ7の北端に位置し、その際、住居南東部分の壁・堆積土の一部を除去してしまっている。

【規模・平面形】東-西3.0m以上、北-南3.3mの隅丸方形を呈する。

【主軸方向】住居東辺・西辺が真北に対し、西に10°傾く(N-10°-W)

【壁】住居の西側が最も残りがよく、高さ18cm残存していた。

【床面】住居北側を地山(基本層VIIb層)、住居北側以南は基本層VIa層を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】柱穴・ピット5個(P1~5)を検出した。柱穴・ピットは径13~19cm・深さ6~26cmの円形・楕円形を呈する。P3では径16cmの柱痕跡が認められた。柱穴の位置関係からP1~5は住居の主柱穴であると考えられる。

【カマド】住居東辺中央に付設されている。側壁・燃焼部・煙道・煙出ピットが残存していた。カマド側壁は地山起源のにぶい黄褐色・褐色土で構築されている。カマド燃焼部には、支脚として羽口が据えられていた。

【周溝】住居壁際を巡る。周溝は全周せず、住居西壁カマド付設部北側と住居北壁でのみ確認した。上幅20~23cm、下幅10~12cm、深さ5cm前後である。

【堆積土】住居の堆積土は11層に分かれ、1~3層は住居堆積土、4~9層はカマド側壁内側のくぼみ内堆積土、10層はカマド煙道堆積土、11層は煙出Pit堆積土である。

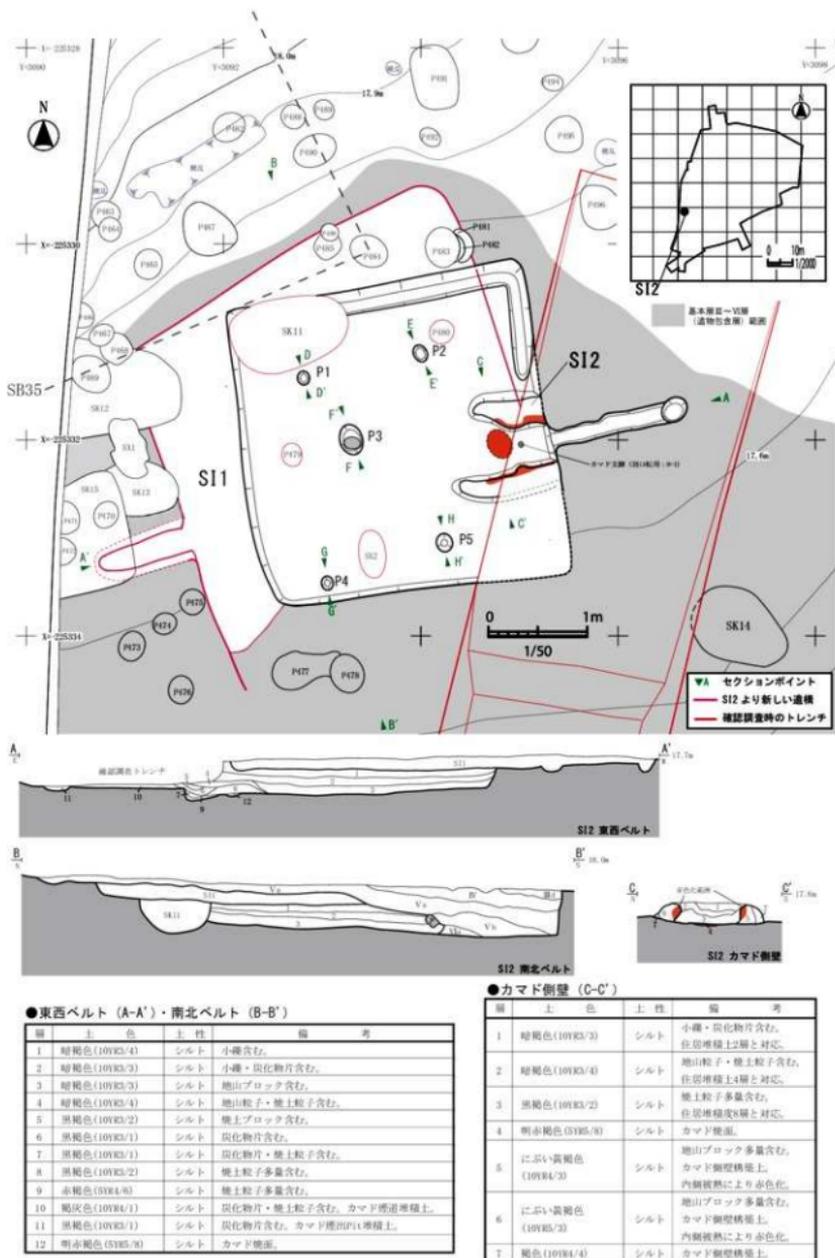
【出土遺物】住居堆積土・床面・カマド燃焼部から縄文土器1点(25g)、ロクロ成形の土師器片81点(2225g)、須恵器片5点(985g)、羽口1点(525g)が出土した。出土器種は、土師器が坏(内黒処理・赤焼土器)・高台付坏(内黒処理)・甕、須恵器が坏・甕である。このうち図示できたものは土師器坏(第17図4~7)・甕(第17図8・9)、須恵器瓶類(第16図1)・甕(第16図2・3)、羽口(第17図9)である。

第4表 S12 竪穴住居跡 床面施設一覧

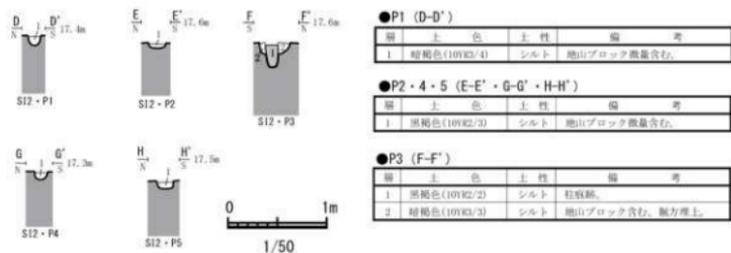
| 遺構番号   | 種類 | 柱穴・ピット諸方(長軸・短軸・埋深等 ㎝) |      |    |    | 備考            |
|--------|----|-----------------------|------|----|----|---------------|
|        |    | 平面形                   | 長軸   | 短軸 | 埋深 |               |
| S12・P1 | 小穴 | 円形                    | 15   | 13 | 8  |               |
| S12・P2 | 小穴 | 楕円形                   | 18   | 14 | 6  |               |
| S12・P3 | 柱穴 | 円形?                   | (19) | 19 | 26 | 柱痕跡:楕円形・径16cm |
| S12・P4 | 小穴 | 円形                    | 16   | 14 | 9  |               |
| S12・P5 | 小穴 | 円形                    | 19   | 16 | 7  |               |



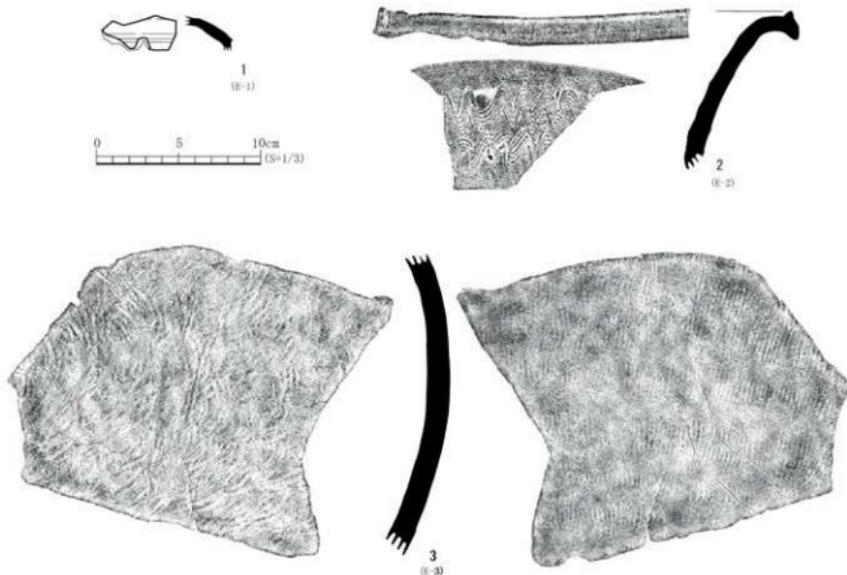
S12 竪穴住居跡 調査風景



第15図 S12 竪穴住居跡(1)

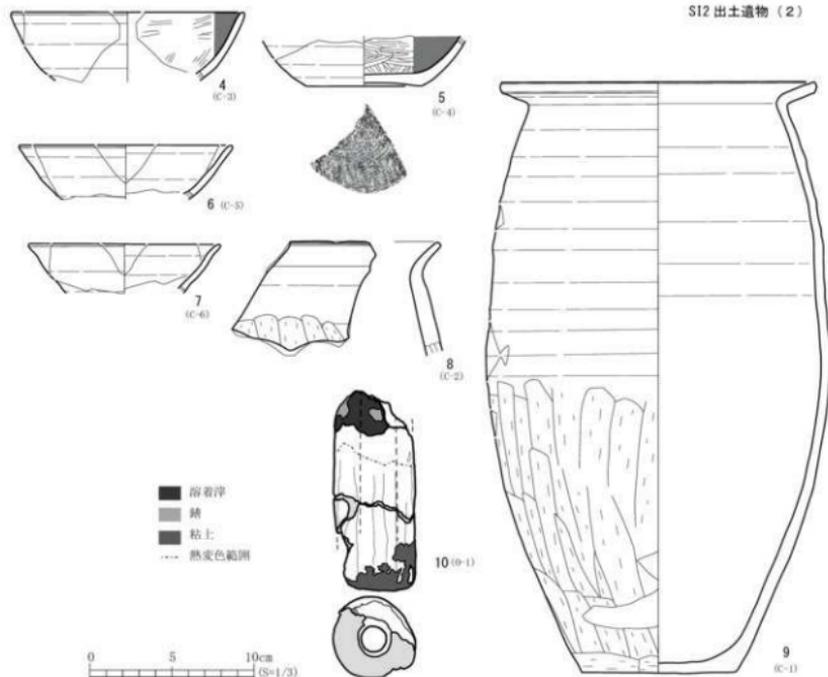


S12 出土遺物 (1)



| No. | 層          | 種別  | 器種 | 残存          | 特徴【表出(外面・内面)→色調(外面・内面)→位置→その他の特徴の順に記載】   | 登録  |
|-----|------------|-----|----|-------------|--|-----|
| 1   | S12<br>1層  | 煎塩器 | 瓶類 | 胴部          | 外面: ロクロナデ, 内面: ロクロナデ, 色調: 外面・暗灰色(10YR5/1)、内面・暗灰色(7.5YR5/1), 法量: 器厚0.4~0.6cm                              | E-1 |
| 2   | S12<br>1層  | 煎塩器 | 甕  | 口縁部<br>~ 頸部 | 外面: ロクロナデ・縦部波状文・沈線, 内面: ロクロナデ, 色調: 外面・灰色(10Y4/1)、内面・灰色(7.5Y5/1), 法量: 口径(47.0)cm・残存高(9.7)cm・器厚(0.8~1.2)cm | E-2 |
| 3   | S12<br>埋藏土 | 煎塩器 | 甕  | 胴部          | 外面: 平行タタキ→ロクロナデ, 内面: 同心円当て具, 色調: 外面・黄灰色(2.5Y5/1)、内面・灰色(5Y5/0), 法量: 器厚(1.3~1.4)cm                         | E-3 |

第16図 S12 竪穴住居跡 (2)



| No. | 層                 | 種別  | 器種 | 残存         | 特徴【注法(外面・内面)→色調(外面・内面)→企業→その他の特徴の順に記載】   | 登録  |
|-----|-------------------|-----|----|------------|--|-----|
| 4   | S12               | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面:ロクロナゲ,内面:ヘラミガキ・黒色処理・磨滅,色調:外面・にぶい褐色(7.5186/4),内面・黒色(S2/0),法量:口径14.01cm・残存高4.2cm・器厚0.4~0.5cm                          | C-3 |
| 5   | S12               | 土師器 | 杯  | 胴部<br>～底部  | 外面:ロクロナゲ・底部彫刻未切り無調整,内面:ヘラミガキ・黒色処理,色調:外面・にぶい褐色(7.5185/3),内面・黒色(S2/0),法量:底径7.01cm・残存高3.1cm・器厚0.4~0.8cm                   | C-4 |
| 6   | S12               | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面:ロクロナゲ,内面:ロクロナゲ,色調:外面・にぶい褐色(7.5185/3),内面・にぶい赤褐色(5.914/4),法量:口径12.81cm・残存高3.4cm・器厚0.3~0.4cm,赤土器                       | C-5 |
| 7   | S12               | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面:ロクロナゲ,内面:ロクロナゲ,色調:内外面・にぶい褐色(7.5185/3),法量:口径11.61cm・残存高3.6cm・器厚0.3cm,赤土器   | C-6 |
| 8   | S12               | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>～胴部 | 外面:ロクロナゲ・胴部ヘラ削り,内面:ロクロナゲ,色調:内外面・にぶい黄褐色(10.916/4),法量:器厚0.7~1.6cm  | C-2 |
| 9   | S12・3層<br>(7+7+4) | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>～底部 | 外面:ロクロナゲ・胴部下ヘラ削り・底部切り離し技法不明→手持ちヘラ削り再調整・磨滅,内面:ロクロナゲ・磨滅,色調:内外面・にぶい褐色(7.5186/3),法量:口径19.21cm・器高36.2cm・底径9.6cm・器厚0.5~1.4cm | C-1 |

| No. | 層   | 種別  | 器種 | 最大径<br>(cm) | 先編部 (cm) |       | 吸気部 (cm) |                  | 粘土               | 色調               |              | 備考  | 登録 |
|-----|-----|-----|----|-------------|----------|-------|----------|------------------|------------------|------------------|--------------|-----|----|
|     |     |     |    |             | 内径       | 外径    | 内径       | 外径               |                  | 外面               | 内面           |     |    |
| 10  | S12 | 土製品 | 羽口 | (16.1)      | (2.6)    | (3.1) | (6.9)    | 黄(径2cm)<br>を少量含む | 7.5185/6<br>(明緑) | 7.5185/6<br>(明緑) | コマツ支那<br>に転用 | 0-1 |    |

第17図 S12 竪穴住居跡(3)



1. S12 完掘状況 (西から)



2. S12・カマド検出状況 (西から)



3. S12  
カマド完掘  
状況  
(西から)



4. S12・カマド支脚〔羽口  
(0-1)〕  
出土状況 (北西から)



5. S12・カマド燃焼部付近土師器甕 (C-1)  
出土状況 (西から)

第18図 S12 竪穴住居跡 (4)

S 1 2 出土遺物



第19図 S 1 2 竪穴住居跡 (5)

## 【S13 竪穴住居跡】(第20~24図、第5表)

調査区中央やや南側で検出した。標高 17.2~17.6m 前後の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIa・VIIb 層である。住居南半は残存していない。S14・5、SB32P645、SK7・8、P537~539 と重複し、SB32P645、SK7・8、P537~539 より古く、S15 より新しい。なお、本住居跡は、確認調査の際に設定したトレンチ9の北半に位置し、その際、住居南東部分の壁・堆積土を完全に除去してしまったため、S14 との重複関係は不明である。

【規模・平面形】東-西 3.6m、北-南 3.9mの隅丸方形を呈する住居跡である。

【主軸方向】住居東辺が真北に対し、西に約 12° 傾く (N-12°-W)。

【壁】住居北側が最も残りがよく、高さ 19cm 残存していた。

【床面】住居北側は地山(基本層VIIb層)、住居南半は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。カマド燃焼部の南側付近に硬化面が認められた。

【柱穴】柱穴 4 個(P1~4)を検出した。柱穴は径 28~30cm・深さ 20~36cmの円形を呈し、径 10~18cm の柱痕跡が認められた。柱穴の位置関係から、P1~4 は住居の主柱穴であると考えられる。

【カマド】住居北辺やや東寄りに付設されており、燃焼部の焼面、カマド側壁・煙道・煙出し Pit が残存していた。カマドの側壁は、地山ブロックを含むにぶい黄褐色土で構築されている。カマド燃焼部には、支脚として羽口が据えられていた。

【周溝】住居壁際を巡る。住居北壁カマド付設部西側・住居西壁では周溝が確認されたが、北東コーナ一部分の SK2 付近では検出されなかった。確認調査時のトレンチ9により削平してしまった住居南東部分についても周溝が巡っていた可能性がある。上幅 15~23cm、下幅 4~9cm、深さ 9cm 前後である。

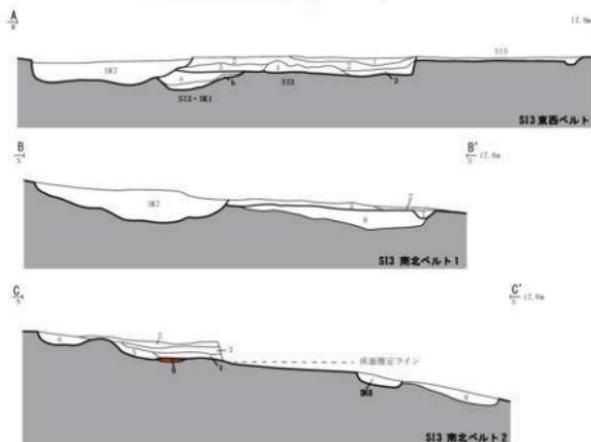
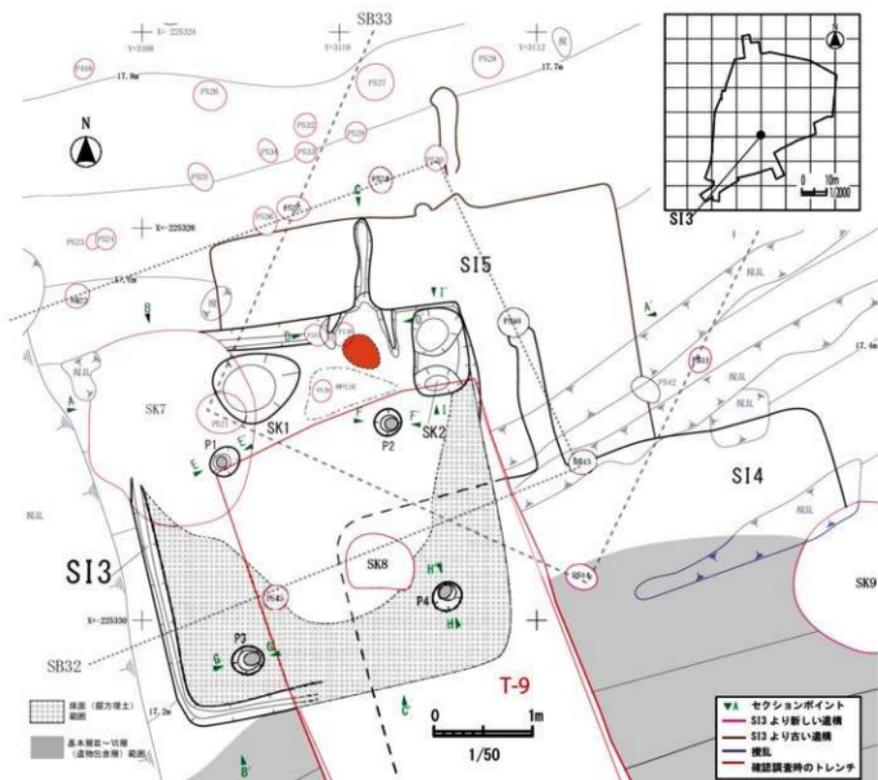
【その他の施設】柱穴・ピット以外では、床面で土坑を 2 基 (S13・SK1~2) 検出した。SK1 は、住居北西付近のカマド西脇で確認し、長軸 86cm×短軸 62cm、深さ 20cm の楕円形を呈する。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。堆積土 1 層には炭化物片が微量含まれていた。SK2 は、住居北東コーナ一部で確認し、長軸 87cm×短軸 60cm、深さ 26cm の隅丸長方形を呈する。底面には凹凸がある。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。堆積土には焼土粒子・炭化物片が含まれていた。SK1・2 は、いずれもカマド付近に位置し、堆積土には炭化物片や焼土粒子が含まれることから、カマドに関連する遺構である可能性が考えられる。

【堆積土】住居の堆積土は 8 層に分かれ、1~3 層は住居堆積土、4~6 層はカマド燃焼部・煙道・煙出し Pit 堆積土、7 層は周溝堆積土、8 層は住居掘方埋土である。

【出土遺物】住居堆積土・床面・カマド燃焼部・掘方埋土・周溝、P3・4 掘方埋土、SK1・2 堆積土から非ロクロ成形の土師器片 1 点・ロクロ成形の土師器片 150 点 (2285g)、須恵器片 11 点 (180g)、鉄滓 6 点 (140g)、羽口 1 点 (385g)、石器剥片 1 点 (4g) が出土した。出土器種は、土師器が坏 (内黒処理)・甕、須恵器は坏・蓋・壺・甕である。このうち、図示できたものは土師器坏 (第 21 図 1~3)・甕 (第 21 図 5、第 22 図 6~8・10)・鉢 (第 22 図 9)、須恵器坏 (第 21 図 4)、羽口 (第 22 図 11) である。

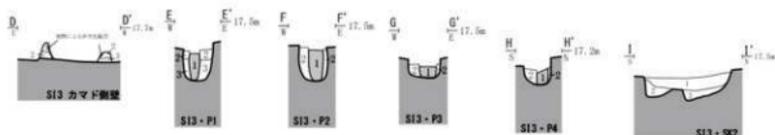
第5表 S13 竪穴住居跡 床面施設一覽

| 遺構番号    | 種類 | 柱穴・ピット掘方(深軸・短軸・埋深等: cm) |    |    |    | 備考                    |
|---------|----|-------------------------|----|----|----|-----------------------|
|         |    | 平面形                     | 長軸 | 短軸 | 埋深 |                       |
| S13・P1  | 柱穴 | 円形                      | 30 | 26 | 30 | 柱痕跡: 円形・径10cm         |
| S13・P2  | 柱穴 | 円形                      | 28 | 27 | 36 | 柱痕跡: 円形・径17cm         |
| S13・P3  | 柱穴 | 円形                      | 30 | 28 | 30 | 土師器<br>柱痕跡: 楕円形・径18cm |
| S13・P4  | 柱穴 | 円形                      | 29 | 29 | 26 | 土師器<br>柱痕跡: 楕円形・径12cm |
| S13・SK1 | 土坑 | 楕円形                     | 86 | 62 | 20 | 土師器                   |
| S13・SK2 | 土坑 | 隅丸長方形                   | 87 | 60 | 26 | 土師器<br>鉄滓             |



| 層  | 土色                      | 土質  | 備考                                    |
|----|-------------------------|-----|---------------------------------------|
| 1  | 暗褐色<br>(10YR2/1)        | シルト | 炭化物片多量・焼土粒子<br>微量含む。                  |
| 2  | 灰黄褐色<br>(10YR4/2)       | シルト | 炭化物片・焼土粒子・地山<br>粒子少量含む。               |
| 3  | 灰黄褐色<br>(10YR4/2)       | シルト | 炭化物片・地山粒子微量<br>含む。                    |
| 4  | にじみ<br>赤褐色<br>(5YR4/3)  | シルト | 焼土粒子・焼土ブロック・<br>地山粒子多量含む。<br>カマド足音層上。 |
| 5  | 暗褐色<br>(10YR2/3)        | シルト | 炭化物片含む。<br>カマド燃焼部堆積上。                 |
| 6  | 灰黄褐色<br>(10YR4/2)       | シルト | 炭化物片含む。<br>カマド煙灰(1層)上。                |
| 7  | 暗褐色<br>(10YR2/3)        | シルト | 地山粒子含む。<br>周溝堆積上。                     |
| 8  | にじみ<br>黄褐色<br>(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック・炭化物片・<br>焼土ブロック含む。<br>住居敷階上。   |
| 9  | 赤褐色<br>(5YR4/0)         | シルト | カマド焼土。                                |
| 10 | 暗褐色<br>(10YR2/3)        | シルト | 地山ブロック・<br>炭化物片微量含む。                  |
| 11 | 褐色<br>(10YR4/4)         | シルト | 地山ブロック含む。                             |

第20図 S13 竪穴住居跡(1)



●カマド倒壁 (D-D')

| 層 | 土色               | 土性  | 備考                              |
|---|------------------|-----|---------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色 (10YR5/3) | シルト | 地山ブロック多量含む。カマド倒壁構築上。内側被熱により赤色化。 |
| 2 | にぶい黄褐色 (10YR5/4) | シルト | 地山ブロック多量含む。カマド倒壁構築上。内側被熱により赤色化。 |
| 3 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 地山ブロック少量含む。カマド倒壁構築上。            |



●P1 (E-E')

| 層 | 土色               | 土性  | 備考             |
|---|------------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/2)    | シルト | 柱痕跡。           |
| 2 | 緑褐色 (10YR3/4)    | シルト | 地山ブロック含む。掘方埋土。 |
| 3 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む。掘方埋土。 |

●P3 (G-G')・P4 (H-H')

| 層 | 土色               | 土性  | 備考                  |
|---|------------------|-----|---------------------|
| 1 | 緑褐色 (10YR3/4)    | シルト | 柱痕跡。                |
| 2 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 地山ブロック・焼土粒を含む。掘方埋土。 |

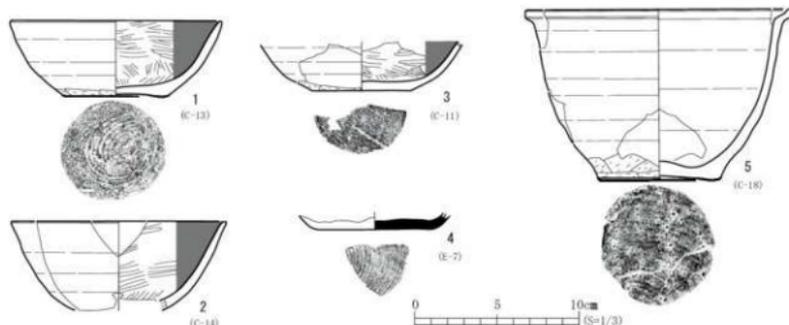
●P2 (F-F')

| 層 | 土色               | 土性  | 備考             |
|---|------------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/2)    | シルト | 柱痕跡。           |
| 2 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む。掘方埋土。 |

●SK2 (I-I')

| 層 | 土色             | 土性  | 備考                  |
|---|----------------|-----|---------------------|
| 1 | 緑褐色 (10YR3/4)  | シルト | 地山粒と・焼土粒と・炭化物と少量含む。 |
| 2 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | シルト | 地山粒と・炭化物と少量含む。      |
| 3 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | シルト | 地山ブロック多量含む。         |

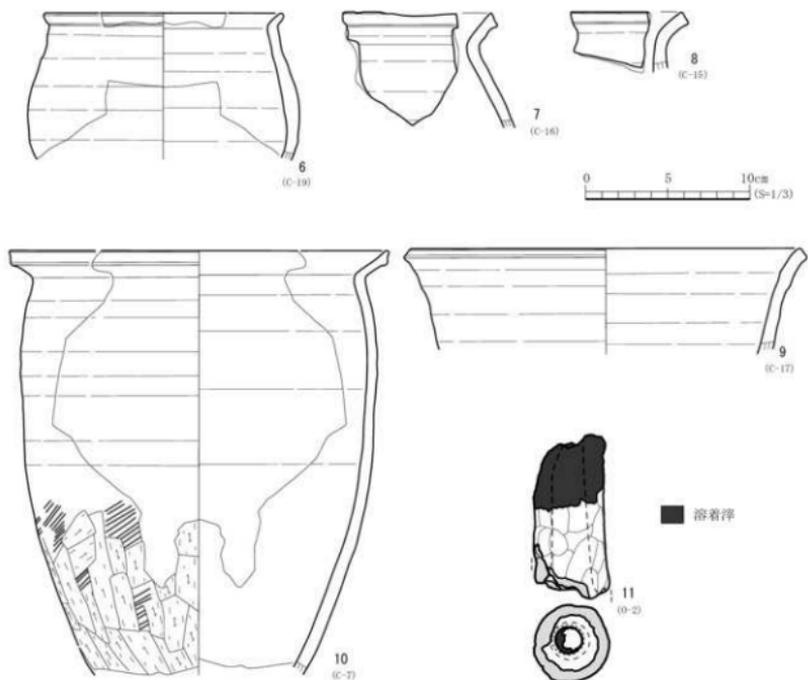
SI3 出土遺物 (1)



| No. | 層         | 種別  | 頭種 | 現存         | 特徴【注1(外面・内面)→色調(外面・内面)→取巻→その他の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|-----------|-----|----|------------|--|------|
| 1   | SI3<br>3層 | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底面回転糸切り→側縁部手持ちヘラ割り西調整。内面：ヘラミダキ・黒色地埋。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)。内面：黒色(S2/0)。法量：口径(12.8)cm・器高4.7cm・底径6.2cm・器厚0.4～0.8cm     | C-13 |
| 2   | SI3<br>1層 | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ヘラミダキ・黒色地埋・黄緑。色調：外面・にぶい褐色(7.5YR5/3)。内面：黒色(S2/0)。法量：口径(13.0)cm・残存高3.5cm・器厚0.4～0.6cm                               | C-14 |
| 3   | SI3<br>4層 | 土師器 | 杯  | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・胴部下端手持ちヘラ割り・底面切り磨し技法不明→手持ちヘラ割り西調整。内面：ヘラミダキ・黒色地埋。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)。内面：黒色(S2/0)。法量：底径(6.0)cm・残存高3.0cm・器厚0.3～0.6cm | C-11 |
| 4   | SI3<br>3層 | 灰土器 | 杯  | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底面回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・灰色(S14/1)。内面・灰褐色(S14/2)。法量：底径7.0cm・残存高1.1cm・器厚0.5～0.6cm                                   | E-7  |
| 5   | SI3<br>4層 | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・胴部下端手持ちヘラ割り・底面回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・にぶい褐色(7.5YR5/4)。内面・にぶい褐色(7.5YR5/3)。法量：口径(16.0)cm・器高10.5cm・底径7.3cm・器厚0.4～0.9cm | C-18 |

第21図 SI3 竪穴住居跡(2)

S13 出土遺物 (2)



| No. | 層           | 種別  | 器種 | 残存          | 特徴【直法(外面・内面)→色調(外面・内面)→広葉→寸の角の位置の順に記述】  | 登録   |
|-----|-------------|-----|----|-------------|---|------|
| 6   | S13<br>掘方埋土 | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>~84部 | 外面：ロクロナガ。内面：ロクロナガ。色調：外面・灰褐色(T.5YR5/2)。内面・にぶい褐色(T.5YR5/3)。法量：口径14.2cm・残存高9.0cm・器厚0.4~0.9cm           | C-19 |
| 7   | S13<br>4層   | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>~84部 | 外面：ロクロナガ。内面：ロクロナガ。色調：外面・にぶい褐色(T.5YR5/3)。内面・褐色(T.5YR7/6)。法量：器厚0.6~0.8cm                              | C-16 |
| 8   | S13<br>埋埋土  | 土師器 | 甕  | 口縁部         | 外面：ロクロナガ。内面：ロクロナガ。色調：外面・にぶい赤褐色(SYR5/4)。内面・にぶい褐色(T.5YR7/4)。法量：器厚0.8cm                                | C-15 |
| 9   | S13<br>4層   | 土師器 | 甕  | 口縁部         | 外面：ロクロナガ。内面：ロクロナガ。色調：外内面・褐色(SYR6/6)。法量：口径23.6cm・残存高6.5cm・器厚0.7~0.9cm                                | C-17 |
| 10  | S13<br>4層   | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>~84部 | 外面：ロクロナガ・叩き→→ハ削り。内面：ロクロナガ・磨製。色調：外面・褐色(SYR6/6)。内面・にぶい黄褐色(T.5YR6/3)。法量：口径23.0cm・残存高26.0cm・器厚0.4~0.7cm | C-7  |

| No. | 層             | 種別  | 器種 | 最大長<br>(cm) | 先端部 (cm) |       |       | 胎土               | 色調               |                    | 備考           | No. |
|-----|---------------|-----|----|-------------|----------|-------|-------|------------------|------------------|--------------------|--------------|-----|
|     |               |     |    |             | 先径       | 内径    | 外径    |                  | 外面               | 内面                 |              |     |
| 11  | S13<br>カマド機焼部 | 土製品 | 羽口 | (13.4)      | (2.4)    | (6.6) | (4.4) | 硬(硬1mm)<br>を少量含む | 10YR5/6<br>(明黄緑) | 10YR6/3<br>(にぶい黄緑) | カマド支脚<br>に転用 | 0-2 |

第22図 S13 竪穴住居跡(3)



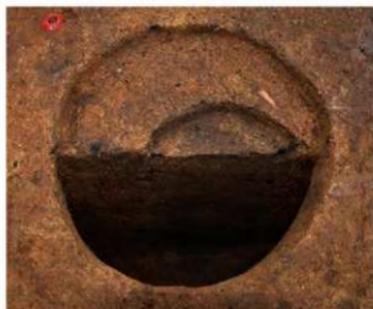
1. S13 完掘状況 (南から)



2. S13・カマド完掘状況 (南から)



3. S13・SK2 断面 (東から)



4. S13・P2 断面 (南から)

第23図 S13 竪穴住居跡 (4)



5. S I 3・P 1 断面(南から)



6. S I 3・P 4 断面(東から)

S I 3 出土遺物



1  
(C-13)



2  
(C-14)



3  
(C-11)



4 (E-7)



5 (C-18)



9  
(C-17)



10  
(C-7)

0 5 10cm  
(S=1/30)



6  
(C-19)



7 (C-16)

(C-15)



11  
(0-2)

第24図 S I 3 竪穴住居跡(5)

## 【S14 竪穴住居跡】(第25・26図、第6表)

調査区中央やや南側で検出した。標高 17.0~17.5m 前後の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIa・VIIb層である。住居南半は残存していない。S13・5、SB32P540・543、SB33P544、SK9と重複し、SB32P540・543、SB33P544、SK9より古く、S15より新しい。なお、本住居跡は、確認調査の際に設定したトレンチ9の東半に位置し、その際、住居西半の壁・床面・堆積土を完全に除去してしまったため、S13との重複関係は不明である。

【規模・平面形】東一西3.2m以上、北一南2.0m以上の隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

【主軸方向】住居東辺が真北に対し、西に約17°傾く(N-17°-W)。

【壁】住居北東側が最も残りがよく、高さ14cm残存していた。

【床面】住居北端は地山(基本層VIIb層)、住居北側以南は基本層VIa層を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】柱穴4個(P2~5)、ピット1個(P1)を検出した。P1は径38cm・深さ14cmの円形を呈する。P2~5は径26~45cm・深さ7~20cmの円形を呈し、径10~20cmの柱痕跡が認められた。柱穴の位置関係から、P2~5は住居の主柱穴であると考えられる。

【カマド】住居北辺中央部に付設されている。煙道・煙出Pitが残存していた。燃焼部の焼面・側壁は残存しておらず、カマド付設部分の壁際に周溝が巡っていることから、カマドは北壁に付設した後、これ以外の壁面に付け替えられた可能性が考えられる。なお、住居周辺の遺構を精査した結果、住居東側に位置するP546の堆積土には焼土粒子・炭化物片が含まれることから、P546はS14のカマド煙出Pitであった可能性が考えられる。

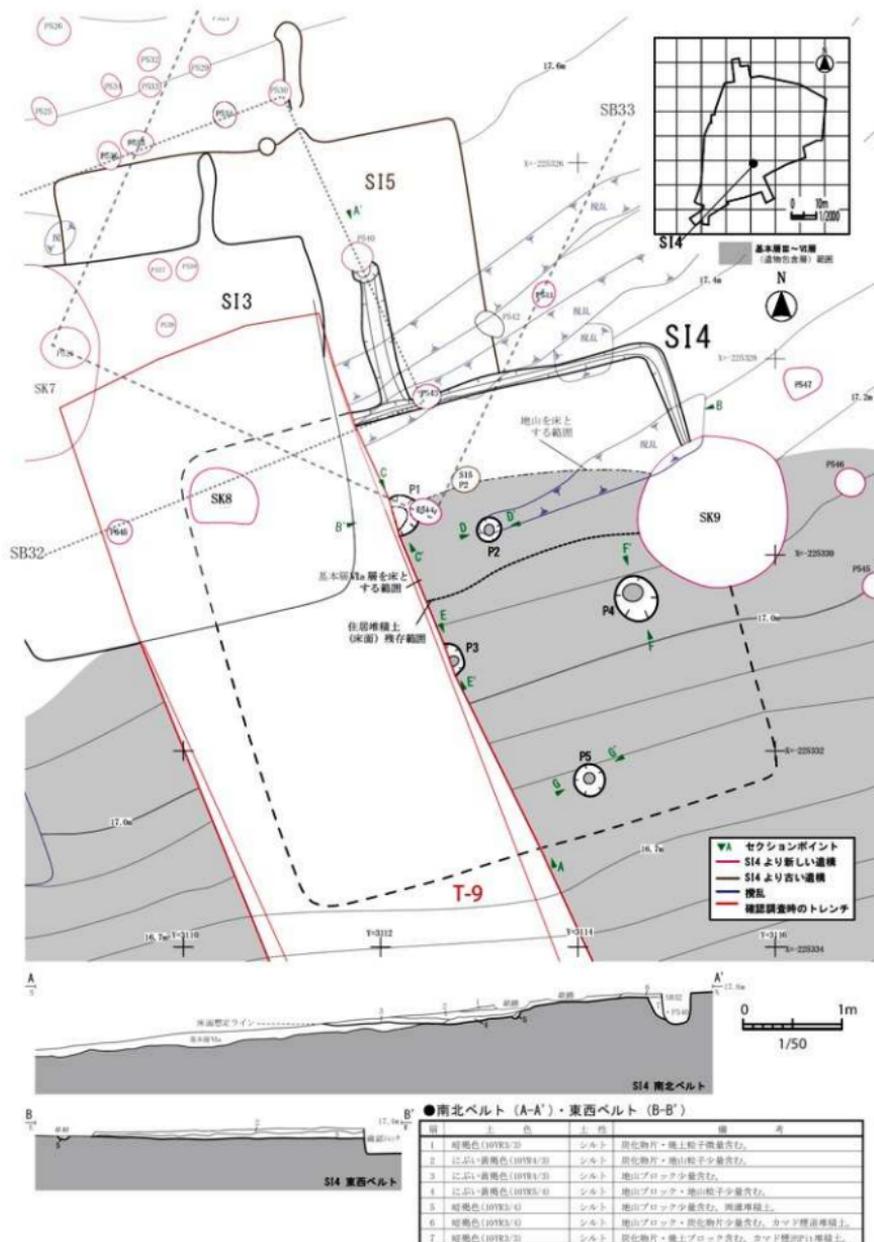
【周溝】住居壁際を巡る。住居床面残存範囲においては周溝が全周する。上幅11~18cm、下幅4~13cm、深さ4cm前後である。

【堆積土】住居の堆積土は7層に分かれ、1~4層は住居堆積土、5層は周溝堆積土、6層はカマド煙道堆積土、7層はカマド煙出Pit堆積土である。住居堆積土は南半が後世の削平を受け、残存しなかった。

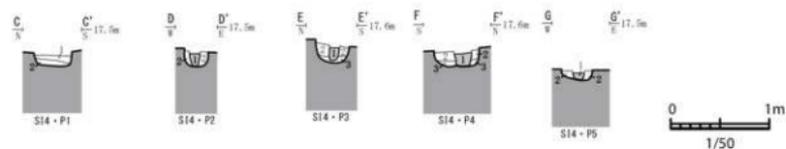
【出土遺物】住居堆積土・床面・P1からロクロ成形の土師器片220点(980g)、須恵器片17点(230g)、鉄滓1点(10g)が出土した。出土器種は、土師器が坏(内黒処理・赤焼土器)・高台付坏・甕、須恵器は坏・蓋・甕である。いずれも小破片のため、図示できたものはないが、須恵器坏の底部破片は、回転糸切り後、ナデによる再調整が施されていた。

第6表 S14 竪穴住居跡 床面施設一覧

| 遺構番号   | 種類 | 柱穴・ピット掘方(長軸・短軸・残存深、cm) |    |      |     | 備 考                 |
|--------|----|------------------------|----|------|-----|---------------------|
|        |    | 平面形                    | 長軸 | 短軸   | 残存深 |                     |
| S14・P1 | 小穴 | 円形?                    | 38 | (28) | 14  |                     |
| S14・P2 | 柱穴 | 円形                     | 26 | 24   | 17  | 柱痕跡:円形・径10cm        |
| S14・P3 | 柱穴 | 円形?                    | 32 | (15) | 20  | 柱痕跡:円形?・径10cm       |
| S14・P4 | 柱穴 | 円形                     | 45 | 41   | 18  | 土師器<br>柱痕跡:円形・径20cm |
| S14・P5 | 柱穴 | 円形                     | 32 | 30   | 7   | 柱痕跡:円形・径10cm        |



第25図 S14 竪穴住居跡 (1)



●P1 (C-C')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考        |
|---|-----------------|-----|-----------|
| 1 | 灰黄褐色(10YR4/2)   | シルト | 地山ブロック含む。 |
| 2 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む。 |

●P2 (D-D')

| 層 | 土色            | 土性  | 備考               |
|---|---------------|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/3)  | シルト | 粒痕跡。             |
| 2 | 灰黄褐色(10YR4/2) | シルト | 地山ブロック多量含む。磁方埋上。 |

●P3 (E-E')・P4 (F-F')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考                |
|---|-----------------|-----|-------------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/3)    | シルト | 粒痕跡。              |
| 2 | 灰黄褐色(10YR4/2)   | シルト | 地山粒子・炭化物を含む。磁方埋上。 |
| 3 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む。磁方埋上。    |

●P5 (G-G')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考               |
|---|--------------|-----|------------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト | 粒痕跡。             |
| 2 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック多量含む。磁方埋上。 |



1. S14 完掘状況 (南から)



2. S14・P1 断面 (西から)



3. S14・P2 断面 (南から)



4. S14・P3 断面 (西から)



5. S14・P4 断面 (東から)



6. S14・P5 断面 (南から)

第26図 S14 竪穴住居跡(2)

## 【S15 竪穴住居跡】(第27～29図、第7表)

調査区中央やや南側で検出した。標高17.5～17.7m前後の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIIb層である。SI3・4、SB32P530・536・540・543、P542と重複し、これらより古い。

【規模・平面形】東-西4.2m、北-南2.7m以上の隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

【主軸方向】住居東辺が真北に対し、西に約12°傾く(N-12°-W)。

【壁】住居北東側が最も残りがよく、高さ4cm残存していた。

【床面】住居中央部は地山、周縁部は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】柱穴4個(P1～P3・5)、ピット1個(P4)を検出した。P1は住居中央東端、P3～5は住居北壁の壁際に配置されている。P2は住居床面残存範囲の外で確認されたが、その形状や堆積土の状態、位置関係からSI5に伴う柱穴であると判断した。柱穴・ピットの位置関係から、P1・2は住居の主柱穴、P3～5は壁柱穴であると考えられる。主柱穴(P1・2)は径30～36cmの円形・楕円形を呈し、深さ10～38cmで、径11・17cmの円形の柱痕跡が認められた。壁柱穴(P3～5)は、径16～18cmの円形を呈し、深さ15～25cmで、P3・5で径10cmの円形の柱痕跡が認められた。

【カマド】住居北辺中央部に付設されており、側壁・燃焼部・煙道の一部・煙出Pitが残存していた。なお、カマド側壁内側には深さ20cmほどの楕円形のくぼみが確認された。カマドの側壁は地山起源の黄褐色シルト土で構築されている。

【周溝】住居壁際を巡る。周溝は全周せず、北壁のカマド付設部分以外で確認した。上幅14～28cm、下幅6～13cm、深さ7cm前後である。

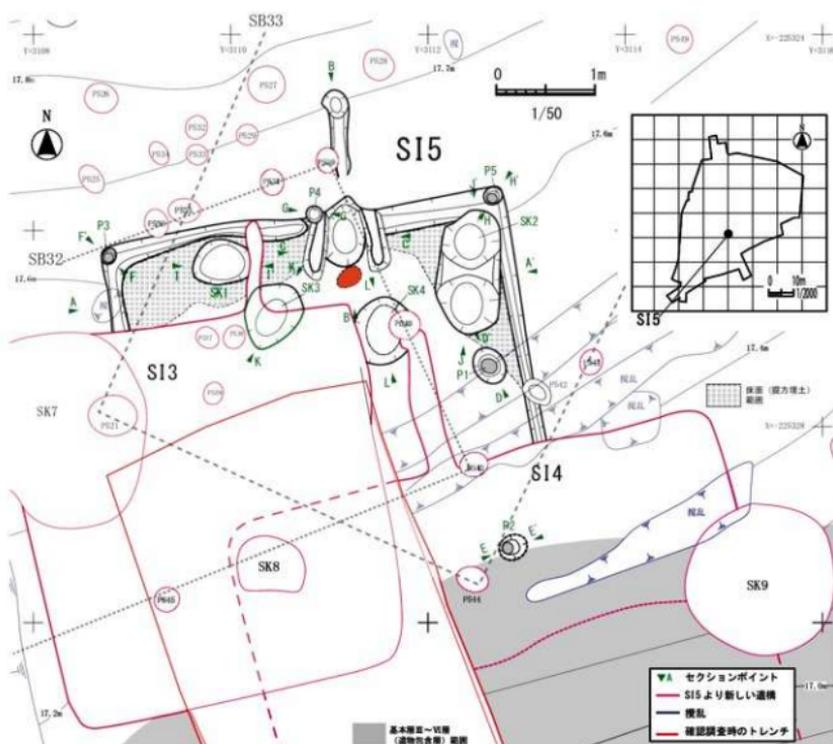
【その他の施設】柱穴・ピット以外では、床面で土坑を4基(SI5・SK1～4)検出した。SK1は、住居北西付近のカマド西脇で確認し、長軸58cm以上×短軸50cm、深さ16cmの楕円形を呈する。堆積土は1層で、自然堆積である。SK2は、住居北東コーナー部で確認し、長軸124cm×短軸63cm、深さ25cmの楕円形を呈する。底面には凹凸がある。堆積土は3層に分かれ、いずれも人為堆積である。SK3は、住居中央やや北西側・カマドの南西脇で確認した。その大部分がSI3により削平を受けている。長軸68cm×短軸50cm、深さ26cmの楕円形を呈する。堆積土は1層で、人為堆積である。SK4は、住居中央やや北東側・カマドの南脇で確認した。長軸67cm×短軸55cm以上、深さ20cmの楕円形を呈する。堆積土は2層に分かれ、いずれも人為堆積である。SK1～4は、いずれもカマド付近に位置し、堆積土には炭化物片や焼土粒子が含まれることから、カマドに関連する遺構である可能性が考えられる。

【堆積土】住居の堆積土は、住居部分については4層に分かれ、1・2層は住居堆積土、3層は周溝堆積土、4層は住居掘方埋土である。カマド部分については、堆積土は5層に分かれ、1層は住居堆積土、2・3層はカマド側壁内側のくぼみ内堆積土、4層はカマド煙道堆積土、5層はカマド煙出Pit堆積土である。

【出土遺物】住居堆積土1層・2層、カマド燃焼部・煙出Pit、SK1～3からロクロ成形の土師器片55点(1,160g)、須恵器片3点(120g)が出土した。出土器種は、土師器が坏(内黒処理・赤焼土器)・甕、須恵器は坏・高台付坏である。このうち、図示できたものは土師器坏(第28図1～3)・甕(第28図5)、須恵器高台付坏(第28図4)である。

第7表 SI5 竪穴住居跡 床面施設一覧

| 遺構番号    | 種類 | 柱穴・ピット形状 長軸・短軸・埋深 (cm) |     |      |    | 備考           |
|---------|----|------------------------|-----|------|----|--------------|
|         |    | 平面形                    | 長軸  | 短軸   | 埋深 |              |
| SI5・P1  | 柱穴 | 楕円形                    | 36  | 29   | 38 | 住居跡：円形・径17cm |
| SI5・P2  | 柱穴 | 円形                     | 30  | 24   | 10 | 住居跡：円形・径11cm |
| SI5・P3  | 柱穴 | 円形                     | 18  | 15   | 25 | 住居跡：円形・径10cm |
| SI5・P4  | 小穴 | 円形                     | 16  | 16   | 25 |              |
| SI5・P5  | 柱穴 | 円形                     | 18  | 18   | 15 | 住居跡：円形・径10cm |
| SI5・SK1 | 土坑 | 楕円形(S)                 | 58  | 50   | 16 | 須恵器          |
| SI5・SK2 | 土坑 | 楕円形                    | 124 | 63   | 25 | 人為堆積、土師器     |
| SI5・SK3 | 土坑 | 楕円形                    | 68  | 50   | 26 | 人為堆積、土師器     |
| SI5・SK4 | 土坑 | 楕円形                    | 67  | (SS) | 20 | 人為堆積         |



●東西ベルト (A-A')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考                        |
|---|-----------------|-----|---------------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR5/4)    | シルト | 地山ブロック・炭化物片・焼土粒少量含む。      |
| 2 | にぶい黄褐色(10YR5/4) | シルト | 地山ブロック・焼土粒少量含む。カマド焼成部堆積上。 |
| 3 | 暗褐色(10YR5/3)    | シルト | 焼土粒少量含む。周溝堆積上。            |
| 4 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック多量含む。柱基礎方土上。        |



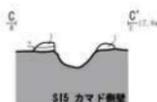
S15 南北ベルト

●南北ベルト (B-B')

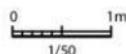
| 層 | 土色            | 土性  | 備考                    |
|---|---------------|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR5/4)  | シルト | 炭化物片含む。               |
| 2 | 暗褐色(7.5YR5/3) | シルト | 地山ブロック・焼土ブロック・炭化物片含む。 |
| 3 | 灰褐色(7.5YR4/2) | シルト | 地山ブロック・炭化物片含む。        |
| 4 | 暗褐色(10YR5/4)  | シルト | 炭化物片含む。カマド煙道堆積上。      |
| 5 | 暗褐色(10YR5/2)  | シルト | 炭化物片含む。カマド煙道P14堆積上。   |
| 6 | 明赤褐色(5YR5/6)  | シルト | カマド壁面。                |

●カマド側壁 (C-C')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考                              |
|---|-----------------|-----|---------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色(10YR5/3) | シルト | 地山ブロック多量含む。カマド側壁積層上。内側被熱により赤色化。 |
| 2 | にぶい黄褐色(10YR5/4) | シルト | 地山ブロック多量含む。カマド側壁積層上。内側被熱により赤色化。 |



S15 カマド側壁



第27図 S15 竪穴住居跡(1)

●P1 (D-D')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考             |
|---|-----------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/2)    | シルト | 柱状跡。           |
| 2 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む、版方理上。 |
| 3 | 灰黄褐色(10YR4/2)   | シルト | 地山ブロック含む、版方理上。 |

●P2 (E-E')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考             |
|---|--------------|-----|----------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/2) | シルト | 柱状跡。           |
| 2 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック含む、版方理上。 |

●P3 (F-F')・P5 (H-H')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考             |
|---|-----------------|-----|----------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/4)    | シルト | 柱状跡。           |
| 2 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック含む、版方理上。 |

●P4 (G-G')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考        |
|---|--------------|-----|-----------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック含む。 |

●SK1 (I-I')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考               |
|---|--------------|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック・炭化物片少量含む。 |

●SK2 (J-J')

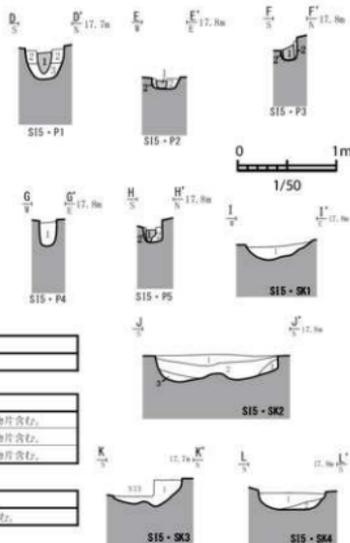
| 層 | 土色              | 土性  | 備考                       |
|---|-----------------|-----|--------------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3)    | シルト | 地山ブロック・地山粒子・焼土粒子・炭化物片含む。 |
| 2 | 暗褐色(7.5YR3/4)   | シルト | 地山ブロック・地山粒子・焼土粒子・炭化物片含む。 |
| 3 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック・地山粒子・焼土粒子・炭化物片含む。 |

●SK3 (K-K')

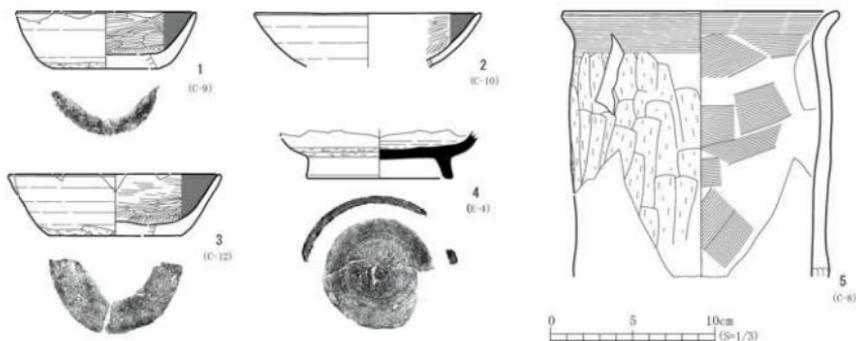
| 層 | 土色           | 土性  | 備考                    |
|---|--------------|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック・焼土粒子・炭化物片多量含む。 |

●SK4 (L-L')

| 層 | 土色           | 土性  | 備考                    |
|---|--------------|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/3) | シルト | 地山ブロック・焼土粒子・炭化物片多量含む。 |
| 2 | 暗褐色(10YR3/4) | シルト | 地山ブロック・焼土粒子・炭化物片多量含む。 |



S15 出土遺物



| No. | 層               | 種類  | 器種   | 残存         | 特徴【表法(外面、内面)→色調(外面、内面)→広さ→その他の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|-----------------|-----|------|------------|--|------|
| 1   | S15ワード<br>燃焼部   | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナダ・胴部下端手持ちへら削り・底部切り離し技法不明。内面：へらミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(7.5YR4/3)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径(10.8)cm・器高3.4cm・底径6.4cm・器厚0.4～0.9cm         | C-9  |
| 2   | S15<br>燃焼土      | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナダ。内面：へらミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10YR4/3)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径(13.0)cm・残存高3.3cm・器厚0.4～0.5cm  | C-10 |
| 3   | S15・SK2<br>1・2層 | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナダ・胴部下端手持ちへら削り・底部切り離し技法不明→手持ちへら削り再調整。内面：へらミガキ・黒色処理。色調：外面・灰褐色(7.5YR4/2)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径(12.8)cm・器高3.8cm・底径8.1cm・器厚0.5～0.9cm | C-12 |
| 4   | S15・SK1<br>1層   | 須恵器 | 高台付杯 | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナダ・胴部下端切へら削り・底部切へら削り→同切へら削り再調整・高台付。内面：ロクロナダ。色調：内外面・黄灰色(2.S16/1)。法量：底径(9.0)cm・残存高3.0cm・器厚0.6cm                                | E-4  |
| 5   | S15ワード<br>燃焼部   | 土師器 | 壺    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナダ・へら削り。内面：ロクロナダ・へらナダ。色調：内外面・にぶい黄褐色(10YR4/3)。法量：口径(10.8)cm・残存高16.4cm・器厚0.8～1.5cm   | C-8  |

第28図 S15 竪穴住居跡(2)



1. S15 完掘状況 (南から)



2. S15 カマド完掘状況 (南から)



3. S15・P1 断面 (東から)



4. S15・P3 断面 (東から)



5. S15・SK2 断面 (東から)



6. S15・SK4 断面 (西から)

S15 出土遺物



1 (C-9)



3 (C-12)



2 (C-10)



4 (E-4)



5 (C-8)

第29図 S15 竪穴住居跡 (3)

## 【S16 竪穴住居跡】(第30・31図)

調査区北東付近で検出した。標高 17.2~17.6m の緩斜面に立地する。確認面は基本層VIIc 層である。住居南半は後世の削平を受けており、残存していない。住居の残存状況は良好ではない。

【規模・平面形】東-西 3.6m、北-南 1.7m 以上の隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

【主軸方向】住居西辺が真北に対し、西に約 16° 傾く (N-16° -W)。

【壁】住居北西側が最も残りがよく、高さ 4cm 残存していた。

【床面】住居中央部は地山、周縁部は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【ピット】2 個 (P1・2) 検出した。P1 は長軸 28cm×短軸 24cm、深さ 5cm の円形、P2 は直径 22cm、深さ 5cm の円形を呈する。P1 は住居北西部、P2 は住居北東部に位置する。これらのピットは位置的に見て主柱穴の可能性はある。

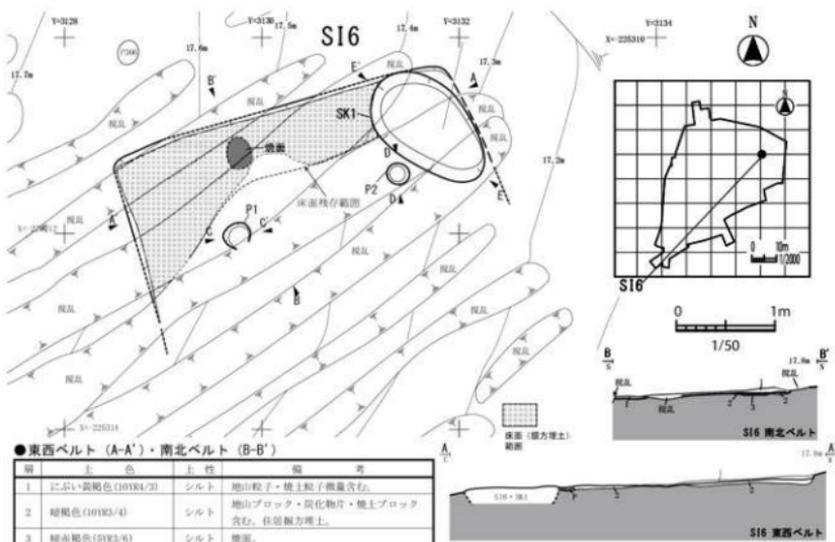
【カマド・焼面】カマドは確認できなかったが、住居北側中央付近で焼面を検出した。焼面は住居北壁付近に位置することから、この焼面はカマド燃焼部の焼成面である可能性が考えられる。

【周溝】認められなかった。

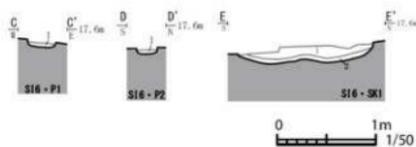
【その他の施設】ピット以外では、床面で土坑を 1 基 (S16・SK1) 検出した。SK1 は、住居北東コーナー一部で確認し、長軸 137cm×短軸 83cm、深さ 17cm の楕円形を呈する。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。

【堆積土】住居の堆積土は 2 層に分かれ、1 層は住居堆積土で、2 層は掘方埋土である。住居堆積土は南半が後世の削平を受け、残存していなかった。

【出土遺物】住居堆積土・床面、P2・1 層、SK1・1 層から、ロクロ成形の土師器片 80 点 (890g)、須恵器片 6 点 (165g) が出土した。出土器種は、土師器が坏・甕、須恵器は坏・蓋である。このうち、図示できたものは土師器坏 (第 31 図 1)・甕 (第 31 図 4・5)、須恵器坏 (第 31 図 2・3) である。



第30図 S16 竪穴住居跡(1)



●P1 (C-C')・P2 (D-D')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考             |
|---|-----------------|-----|----------------|
| 1 | にがい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック・炭化物を含む。 |

●SK1 (E-E')

| 層 | 土色              | 土性  | 備考                     |
|---|-----------------|-----|------------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/4)    | シルト | 地山ブロック・炭化物片・焼土ブロックを含む。 |
| 2 | にがい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック多量を含む。           |

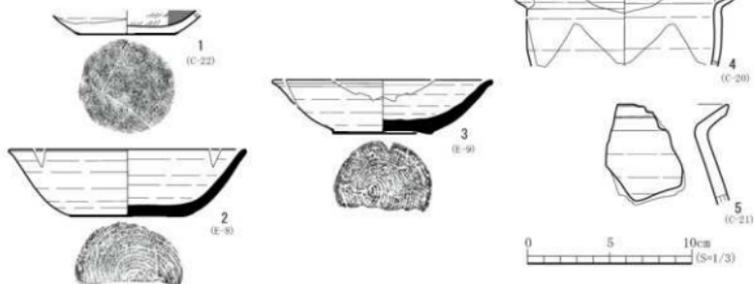


1. S16 完掘状況 (南から)

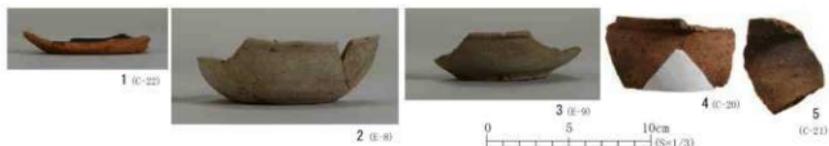


2. S16・SK1 断面 (東から)

S16 出土遺物



| No. | 層             | 種別  | 器種 | 残存         | 特徴【注法(外面・内面)・色調(外面・内面)→流量→その他の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|---------------|-----|----|------------|--|------|
| 1   | S16・SK1<br>1層 | 土師器 | 杯  | 口縁部        | 外面：ロクロナデ・底部回転のため切り離し技法不明。内面：ヘラミガキ・黒色地埋・磨滅。色調：外面・暗褐色(7.5YR5/6)、内面・黒色(5Z/0)。流量：底径(5.8)cm・残存高2.5cm・器厚0.4~0.6cm      | C-22 |
| 2   | S16<br>1層     | 筑前器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・にがい黄褐色(10YR7/2)、内面・灰黄褐色(10YR6/2)。流量：口径(14.5)cm・器高4.1cm・底径(7.0)cm・器厚0.3~0.6cm  | E-8  |
| 3   | S16・SK1<br>1層 | 筑前器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整/磨滅口。内面：ロクロナデ。色調：外面・灰黄褐色(10YR6/2)、内面・灰黄色(2.5Y6/2)。流量：口径(13.5)cm・器高3.3cm・底径(6.0)cm・器厚0.3~0.6cm | E-9  |
| 4   | S16<br>1層     | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。色調：外面・にがい褐色(7.5YR6/4)、内面・にがい褐色(7.5YR5/3)。流量：口径(12.4)cm・残存高4.4cm・器厚0.3~0.5cm                    | C-20 |
| 5   | S16<br>1層     | 土師器 | 甕  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。色調：外面・灰褐色(7.5YR5/2)/にがい褐色(7.5YR6/4)、内面・灰褐色(7.5YR5/2)。流量：器厚0.6~0.9cm                            | C-21 |



第31図 S16 竪穴住居跡(2)

## 【S17 竪穴住居跡】(第32・33図)

調査区南東部に検出した。標高 16.9~17.2mの緩斜面に立地する。確認面は基本層VIIc層である。SB37P632・641、SB38P629・635、SB39P623・634、SK18、P630・631・633・636・637と重複し、SB37P632・641、SB38P629・635、SK18、P630・631・633・636・637より古く、SB39P623・634より新しい。住居南半は後世の削平を受けており、残存していない。

【規模・平面形】東一西4.1m、北一南3.8mの隅丸方形を呈する住居跡である。

【主軸方向】住居東辺が真北に対し、西に約33°傾く(N-33°-W)。

【壁】住居北側が最も残りがよく、高さ20cm残存していた。住居南側は後世の擾乱により削平を受けており、壁は残存していない。

【床面】地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】住居に伴う柱穴・ピットは確認できなかった。

【カマド】住居北辺中央に付設されており、燃焼部の焼面、カマド側壁・煙道・煙出しPitが残存していた。カマドの側壁は、地山粒子を含む褐色土で構築されていた。

【周溝】確認されなかった。

【その他の施設】床面で土坑1基(S17・SK1)を検出した。SK1は、住居北東コーナー一部で確認し、長軸47×短軸40cm、深さ23cmの円形を呈する。堆積土は3層に分かれ、いずれも人為堆積である。カマド付近に位置することから、カマドに関連する遺構である可能性が考えられる。

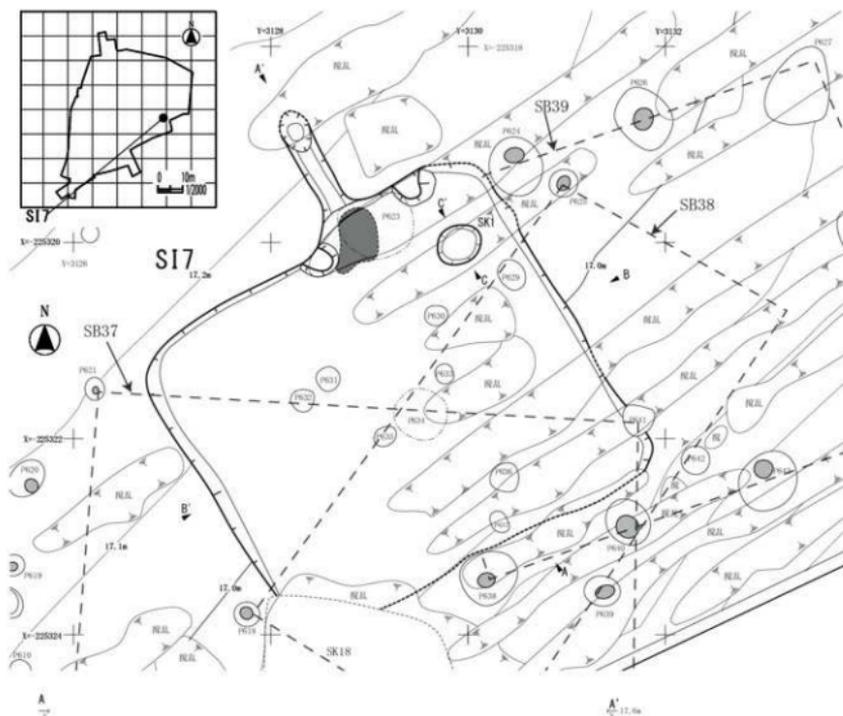
【堆積土】住居の堆積土は6層に分かれ、1・2層は住居堆積土で、3~6層はカマド煙道堆積土である。いずれも自然堆積である。

【出土遺物】住居検出面・堆積土・カマド燃焼部から、縄文土器1点(30g)、ロクロ成形の土師器(内黒処理坏・甕)片49点(240g)、須恵器甕片4点(65g)、石器剥片1点(2g)が出土した。いずれも小破片のため図示できたものはない。



1. S17 完掘状況(南東から)

第32図 S17 竪穴住居跡(1)



B

B'

C

C'



●南北ベルト (A-A')・東西ベルト (B-B')

| 層 | 土色               | 土性  | 備考                         |
|---|------------------|-----|----------------------------|
| 1 | 灰黄褐色 (10YR4/2)   | シルト | 地山ブロック微量含む。                |
| 2 | にぶい褐色 (7.5YR4/2) | シルト | 地山粒子・小礫微量含む。               |
| 3 | 黒褐色 (10YR3/1)    | シルト | 地山ブロック・炭化物片含む。カマド埋道埋積上。    |
| 4 | 黒褐色 (10YR3/2)    | シルト | 炭化物片少量含む。カマド埋P11堆積上。       |
| 5 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 地山ブロック多く含む。カマド天井崩落上。       |
| 6 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 炭化物片含む。カマド埋道・埋出P11機能時の埋積上。 |
| 7 | 赭赤褐色 (5YR3/6)    | シルト | カマド焼面。                     |

●SK1 (C-C')

| 層 | 土色             | 土性  | 備考             |
|---|----------------|-----|----------------|
| 1 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | シルト | 焼土粒子・炭化物片多量含む。 |
| 2 | 灰褐色 (7.5YR4/2) | シルト | 地山ブロック微量含む。    |
| 3 | 褐色 (7.5YR4/3)  | シルト | 地山ブロック微量含む。    |

第33図 S17 竪穴住居跡 (2)

## 【S18 竪穴住居跡】(第34・35図)

調査区南東端で検出した。標高 16.0~16.6mの緩斜面に立地する。確認面は基本層Ⅶa・b層である。住居北東半は後世の削平を受けており、残存していない。住居南東部分は調査区外に続いている。

【規模・平面形】北-南4.2m以上、東-西2.1m以上の隅丸方形を呈する住居跡と思われる。

【主軸方向】住居西辺が真北に対し、西に約26°傾く(N-26°-W)。

【壁】住居北西コーナーが最も残りがよく、高さ24cm残存していた。

【床面】住居中央部は地山、北西部隅は掘方埋土を床面としている。床面はほぼ平坦である。

【柱穴・ピット】柱穴1個(P2)、ピット1個(P1)を検出した。いずれも住居北西隅に配置されている。P2は長軸52×短軸43cm、深さ41cmの楕円形を呈し、径16cmの円形の柱痕跡が認められた。位置的に見て住居の主柱穴であると考えられる。P1は、長軸34cm×短軸28cm、深さ14cmの楕円形を呈する。

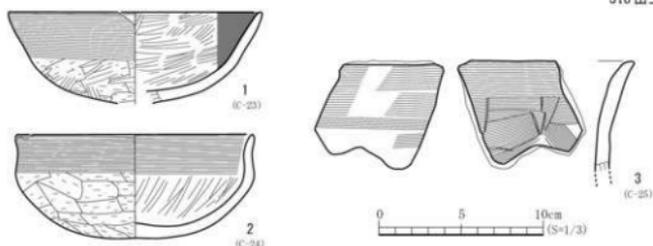
【カマド・炉】今回の住居検出範囲においては確認されなかった。調査区外の住居範囲内に存在すると思われる。

【周溝】住居壁際を巡る。周溝は全周せず、住居北西コーナー部分が途切れる。上幅19~30cm、下幅10~19cm、深さ10~12cmである。

【その他の施設】柱穴・ピット以外では、床面で溝跡1条(SD1)を検出した。SD1は、住居北東付近で確認し、上幅14cm・下幅11cm、深さ12cmで、P2と周溝と接続しており、その位置関係から住居間仕切溝である可能性が考えられる。

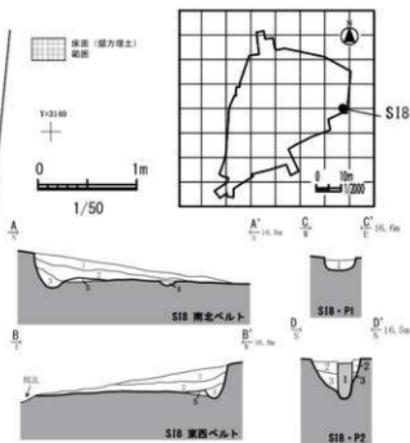
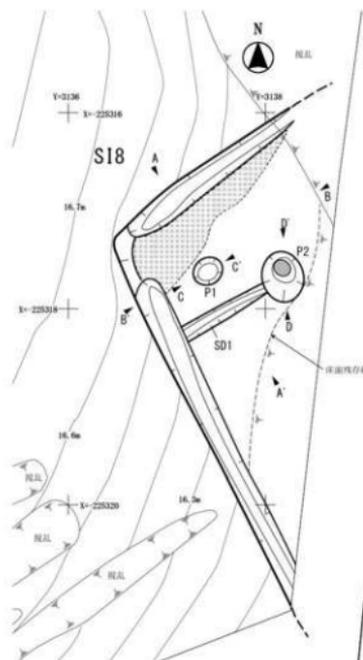
【堆積土】住居の堆積土は4層に分かれ、1・2層は住居堆積土で、3層は周溝堆積土、4層はSD1堆積土、5層は住居掘方埋土である。1~4層は自然堆積である。

【出土遺物】住居堆積土・床面から非ロクロ成形の土師器が16点(495g)出土した。器種は杯・甕である。このうち、図示できたものは土師器杯(第34図1・2)、甕(第34図3)である。



| No. | 層          | 種別  | 器種 | 残存         | 特徴【表法(外面・内面)→色調(外面・内面)→広さ→その他の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|------------|-----|----|------------|--|------|
| 1   | S18<br>床面  | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>~底部 | 外面: コロナダ・ヘラ削り→ヘラミガキ・磨滅。内面: ヘラミガキ・黒色地埋・磨滅。色調: 外面・にぶい黄褐色(T. 5YR6/4)。内面・褐色(N2/0)。法量: 口径(15.4)cm・残存高5.7cm・器厚0.4~0.7cm        | C-23 |
| 2   | S18<br>床面  | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>~底部 | 外面: 白緑部コロナダ・胴部~底部ヘラ削り。内面: 白緑部コロナダ・胴部~底部ヘラミガキ・磨滅。色調: 外面・黄灰色(10YR4/1)。内面・にぶい赤褐色(5YR5/4)。法量: 口径(14.4)cm・器高6.4cm・器厚0.4~0.9cm | C-24 |
| 3   | S18<br>堆積土 | 土師器 | 甕  | 口縁部        | 外面: ナダ。内面: ナダ・ヘラナダ。色調: 外面・褐色(T. 5YR4/3)。内面・灰褐色(5YR4/2)。法量: 器厚0.7~0.9cm   | C-25 |

第34図 S18 竪穴住居跡(1)



調査区画

●東西ベルト (A-A')・南北ベルト (B-B')

| 層 | 土色                | 土性  | 備考              |
|---|-------------------|-----|-----------------|
| 1 | にぶい・黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 炭化物片・焼土粒少量含む。   |
| 2 | にぶい・黄褐色 (10YR4/3) | シルト | 焼土粒少量、炭化物片少量含む。 |
| 3 | 暗褐色 (10YR3/4)     | シルト | 焼土粒少量含む、炭質層状上。  |
| 4 | 灰褐色 (7.5YR4/2)    | シルト | 焼土粒少量含む、SD1層積上。 |
| 5 | 褐色 (7.5YR4/4)     | シルト | 焼土粒多量含む、自然層方埴土。 |

●P1 (C-C')

| 層 | 土色             | 土性  | 備考          |
|---|----------------|-----|-------------|
| 1 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | シルト | 焼山アロキタ少量含む。 |

●P2 (D-D')

| 層 | 土色             | 土性  | 備考               |
|---|----------------|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 (10YR3/3)  | シルト | 柱状跡。             |
| 2 | 灰褐色 (7.5YR4/2) | シルト | 焼山アロキタ少量含む、継方埴土。 |
| 3 | 灰黄褐色 (10YR4/2) | シルト | 焼山アロキタ少量含む、継方埴土。 |



1. S18 完掘状況 (南から)



2. S18 南北ベルト 断面 (西から)



3. S18・P2 断面 (東から)

S18 出土遺物



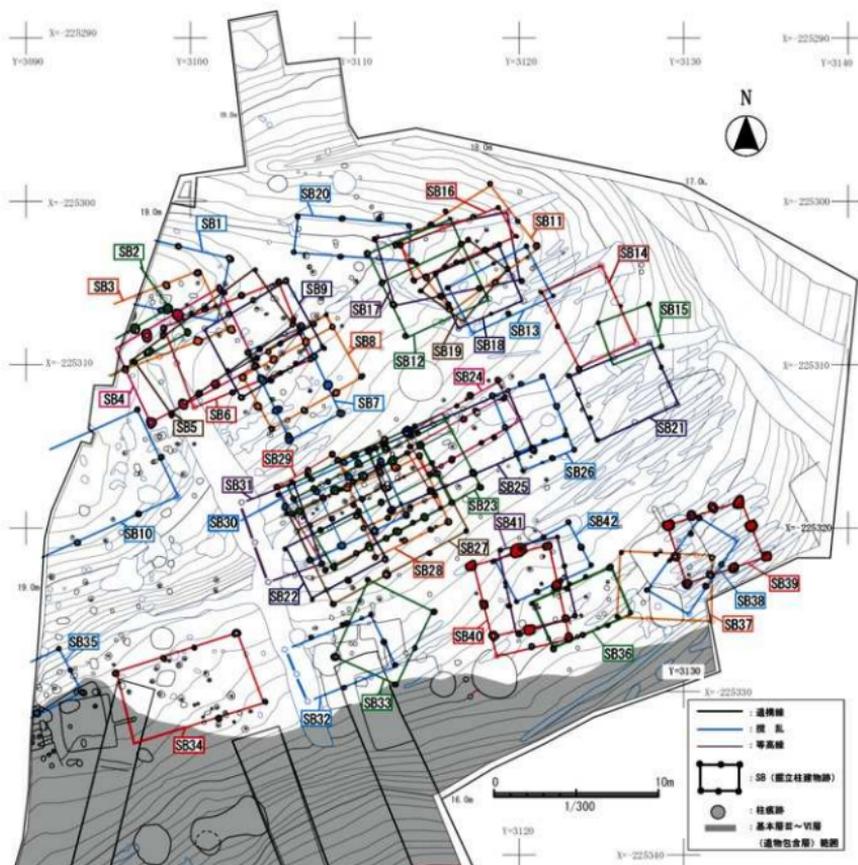
第35図 S18 竪穴住居跡 (2)

## (2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は42棟検出した(第36図、第8表)。確認面はVa・b、VIa、VIIa～d層である。建物跡は、調査区の標高17.0～19.6mの平坦面・南緩斜面に立地している。以下、その詳細について説明する。

### [掘立柱建物跡の認定方法]

今回報告する掘立柱建物跡については、原則として現地調査の段階で繰り返し検討を行い、建物を認定した。建物の認定に際しては、次の手順で検討を行った。



第36図 日向遺跡 掘立柱建物跡 遺構配置図

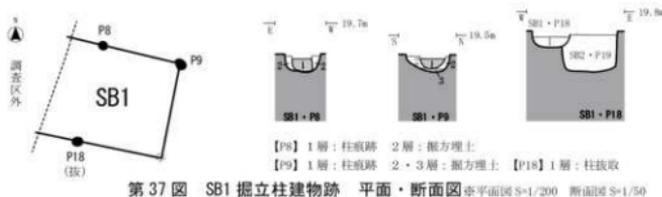


- ①：遺構検出段階で、柱穴及び柱痕跡のプランを測量して作成した白図をもとに建物を検討。
- ②：柱穴精査（半裁）時に遺構の重複関係・深さ・埋土の状態を確認し、①で検討した建物と照らし合わせ、切合の矛盾や柱筋等を考慮しながら再度建物を検討。
- ③：①と②の検討により、建物として想定しても差し支えないと判断できたものを建物として認定。
- ④：建物として認定できなかった柱穴のみを抽出し、かつ、柱穴群の周囲を再度精査し、柱穴の検出漏れがないか確認した上で、残った柱穴で再度建物を検討。

以上の方法により、掘立柱建物跡を認定したが、今回の調査で認定できた建物跡以外にも、「柱穴跡」は多数残されている。これらは「ピット」として報告することとした（ピットの項参照）。ピットとして報告したものについても、本来は建物を構成する柱穴であったと考えられるが、これらは現地調査だけでなく、整理段階においても検討を行った結果、建物として認定できなかった柱穴である。したがって、今回の調査区内ではさらに建物跡が存在したことが想定される。また、建物として認定したものの中には、調査区外に伸びていると想定したものもあり、実際には建物ではない可能性があるものも含まれている。このことから、今回報告する建物跡については、今後の周辺の発掘調査や掘立柱建物研究の進展、建物群の再検討等により、変更・追加する可能性がある。

【SB1 掘立柱建物跡】（第36・37・47・48図、第8・9-1表）

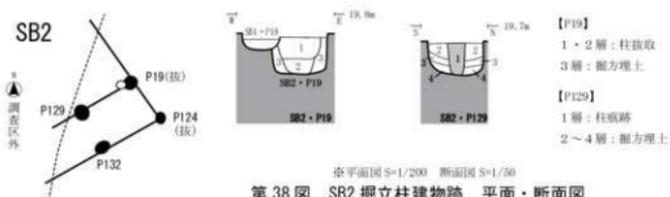
東西1間以上、南北1間の東西棟建物跡である。建物西側は、調査区外へ伸びている。SB2と重複し、これより新しい。建物は、P8・9・18の3個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個（P8・9）で柱痕跡を確認し、1個（P18）は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長3.3m以上、梁行が東側柱列で総長4.0mである。方向は、真北に対して東に13°傾く（N-13°-E）。柱穴は長軸35～45cmの円形・楕円形で、深さは9～20cmである。柱痕跡は、長軸19・22cmの円形である。



第37図 SB1 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB2 掘立柱建物跡】（第36・38・47・48図、第8・9-1表）

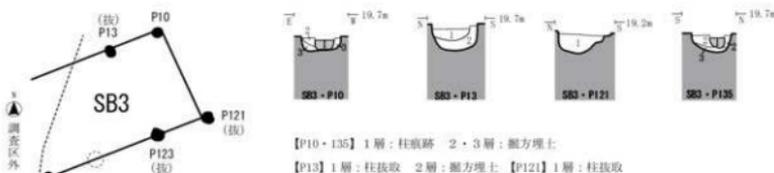
東西1間以上の身舎の南側に庇が1間付く建物跡である。建物北西側は、調査区外へ伸びている。SB1と重複し、これより古い。建物は、P19・124・129・132の4個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個（P129・132）で柱痕跡を確認し、2個（P19・124）は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長2.5m以上である。南側の庇の出は1.7mである。方向は、真北に対して西に32°傾く（N-32°-W）。柱穴は長軸40～60cmの円形・楕円形・不整形で、深さは13～35cmである。柱痕跡は、長軸24・26cmの円形・楕円形である。遺物は、P129の掘方埋土から鉄滓が出土した。



第38図 SB2 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB3 掘立柱建物跡】 (第36・39・47・48図、第8・9-1表)

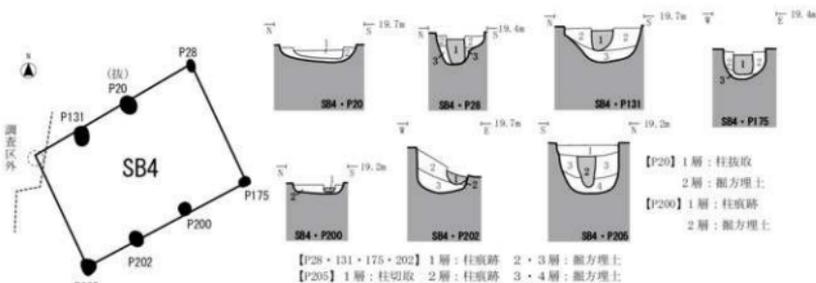
東西3間以上、南北1間の東西棟建物跡である。建物西側は、調査区外へ延びている。建物は、P10・13・121・123・135の5個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個(P10・135)で柱痕跡を確認し、3個(P13・121・123)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長6.9m以上、柱間寸法は西から2.2m(推定値)・2.5m(推定値)・2.2m、梁行が東側柱列で総長3.9m(推定値)である。方向は、真北に対して西に26°傾く(N-26°-W)。柱穴は長軸33～48cmの円形・楕円形・不整形で、深さは8～24cmである。柱痕跡は、長軸16・19cmの円形である。



第39図 SB3 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB4 掘立柱建物跡】 (第36・40・47・48図、第8・9-1表)

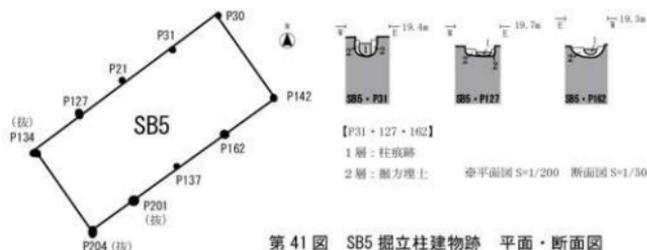
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。建物北西隅は、調査区外へ延びている。建物は、P20・28・131・175・200・202・205の7個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、5個(P28・131・175・200・202)で柱痕跡を確認し、1個(P205)は柱が切り取り、1個(P20)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長7.4m、柱間寸法は西から2.3m・2.3m・2.8m、梁行が東側柱列で総長5.2mである。方向は、真北に対して西に27°傾く(N-27°-W)。柱穴は長軸45～75cmの円形・楕円形・隅丸方形で、深さは8～52cmである。柱痕跡は、長軸19～26cmの円形・楕円形である。遺物は、P20の柱抜き取穴から鉄滓、P175の掘方埋土からロクロ成形の土師器破片が出土した。



第40図 SB4 掘立柱建物跡 平面・断面図

## 【SB5 掘立柱建物跡】(第36・41・47・48図、第8・9-1表)

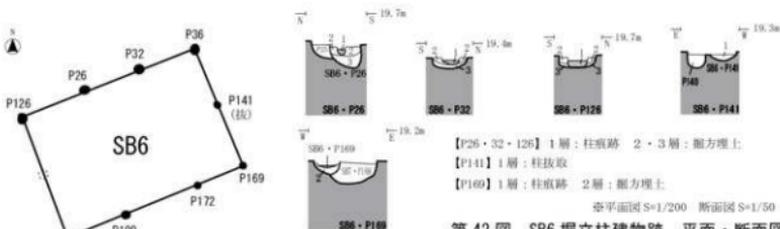
東西4間、南北1間の東西棟建物跡である。建物は、P21・30・31・127・134・137・142・162・201・204の10個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、7個(P21・30・31・127・137・142・162)で柱痕跡を確認し、3個(P134・201・204)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長9.3m、柱間寸法は西から2.4m・2.2m・2.4m・2.3m、梁行が東側柱列で総長4.1mである。方向は、真北に対して西に35°傾く(N-35°-W)。柱穴は長軸18~32cmの円形・楕円形で、深さは5~13cmである。柱痕跡は、長軸11~18cmの円形である。



第41図 SB5 掘立柱建物跡 平面・断面図

## 【SB6 掘立柱建物跡】(第36・42・47・48図、第8・9-1表)

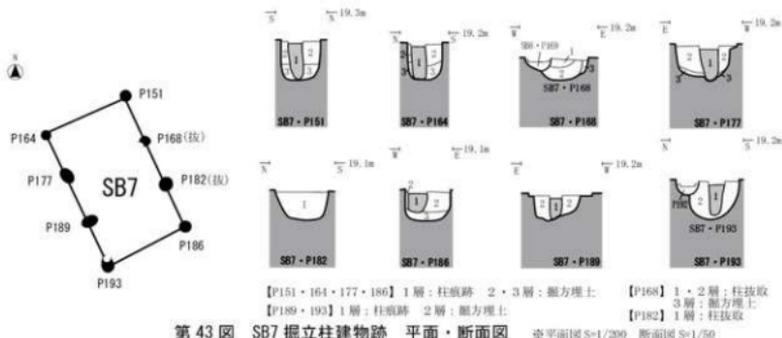
東西3間、南北2間の東西棟建物跡である。SB7、P25と重複し、これらより新しい。建物は、P26・32・36・126・141・169・172・199の8個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、7個(P26・32・36・126・169・172・199)で柱痕跡を確認し、1個(P141)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長7.5m、柱間寸法は西から2.8m・2.3m・2.4m、梁行が東側柱列で総長5.0m、柱間寸法は北から2.4m・2.6mである。方向は、真北に対して西に22°傾く(N-22°-W)。柱穴は長軸27~40cmの円形・楕円形で、深さは5~16cmである。柱痕跡は、長軸13~22cmの円形・楕円形である。遺物は、P141の柱抜取穴からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第42図 SB6 掘立柱建物跡 平面・断面図

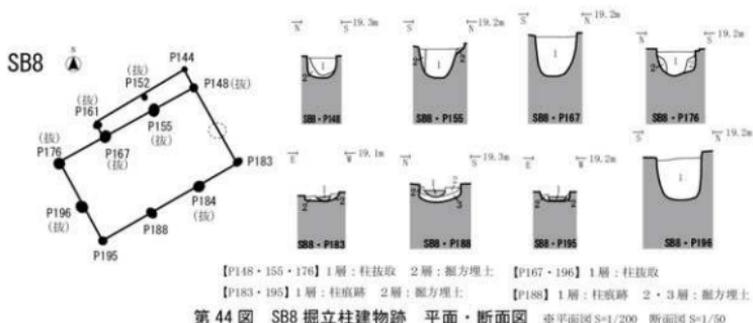
## 【SB7 掘立柱建物跡】(第36・43・47・48図、第8・9-1表)

南北3間、東西1間の南北棟建物跡である。SB6、P192と重複し、これらより古い。建物は、P151・164・168・177・182・186・189・193の8個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P151・164・177・186・189・193)で柱痕跡を確認し、2個(P168・182)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長5.8m、柱間寸法は北から1.9m・2.1m・1.8m、梁行が北側柱列で総長3.5mである。方向は、真北に対して西に25°傾く(N-25°-W)。柱穴は長軸36~60cmの円形・楕円形で、深さは20~40cmである。柱痕跡は、長軸13~25cmの円形・楕円形である。



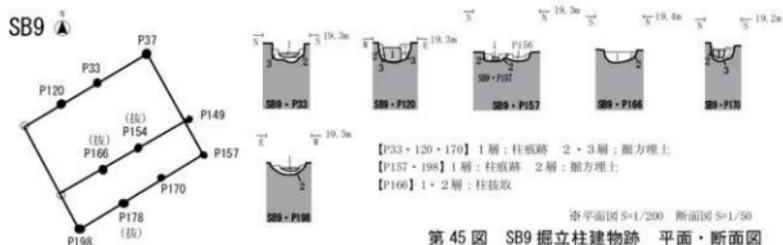
【SB8 掘立柱建物跡】(第36・44・47・48図、第8・9-1表)

東西3間、南北2間の身舎の北側に南北1間・東西2間の張出しが付く東西棟建物跡である。建物は、P144・148・152・155・161・167・176・183・184・188・195・196の12個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、4個(P144・183・188・195)で柱痕跡を確認し、8個(P148・152・155・161・167・176・184・196)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長6.4m、柱間寸法は西から2.3m・2.2m・1.9m、梁行が西側柱列で総長3.6m、柱間寸法は北から1.9m・1.7mである。張出しは東側柱列からの出が0.8m、東西4.4mである。方向は、真北に対して西に31°傾く(N-31°-W)。柱穴は長軸19~46cmの円形・楕円形で、深さは5~45cmである。柱痕跡は、長軸15~23cmの円形である。遺物は、P196の柱抜取穴から鉄滓が出土した。



【SB9 掘立柱建物跡】(第36・45・47・48図、第8・9-1表)

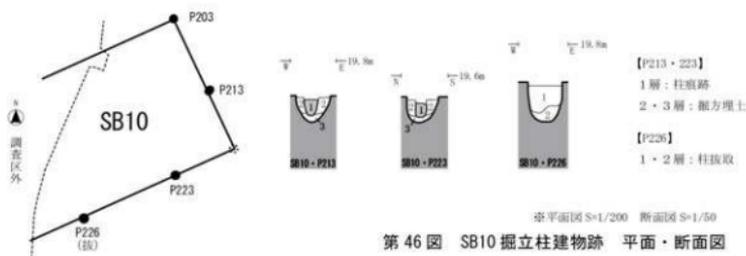
東西3間、南北1間の身舎の南側に庇が1間付く東西棟建物跡である。P150・156と重複し、P150より古く、P156より新しい。建物は、P33・37・120・149・154・157・166・170・178・198の10個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、7個(P33・37・120・149・157・170・198)で柱痕跡を確認し、3個(P154・166・178)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長5.8m、柱間寸法は西から2.1m・1.8m・1.9m、梁行が東側柱列で3.1mである。南側の庇の出は1.5mである。方向は、真北に対して西に29°傾く(N-29°-W)。柱穴は長軸24~33cmの円形・楕円形で、深さは5~18cmである。柱痕跡は、長軸7~23cmの円形・楕円形である。



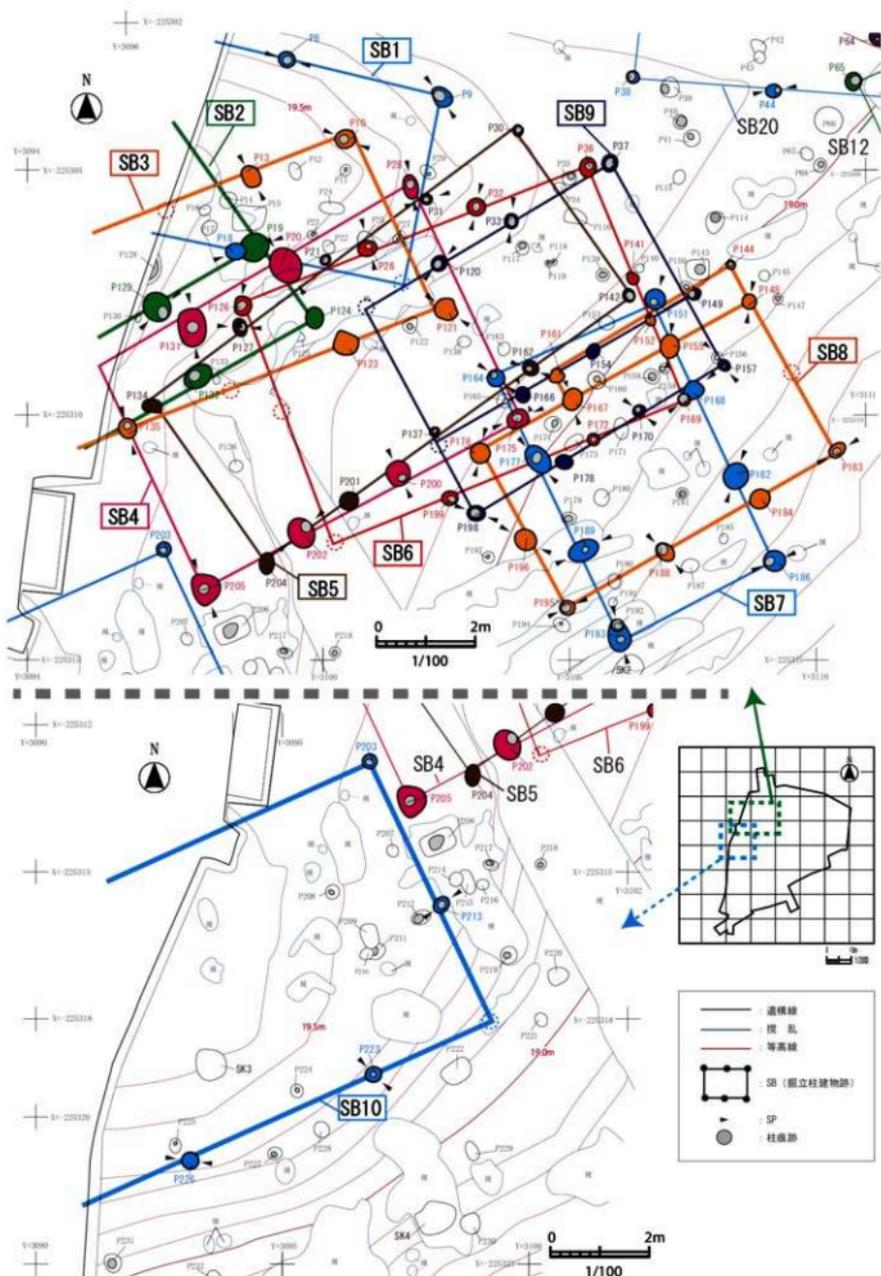
第45図 SB9掘立柱建物跡 平面・断面図

【SB10 掘立柱建物跡】(第36・46～48図、第8・9-I表)

東西2間以上、南北2間の東西棟建物跡である。建物西側は、調査区外へ延びている。建物は、P203・213・223・226の4個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、3個(P203・213・223)で柱痕跡を確認し、1個(P226)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長6.8m以上、柱間寸法は西から4.1m・2.7m(推定値)、梁行が東側柱列で総長5.8m(推定値)、柱間寸法は北から3.3m・2.5m(推定値)である。方向は、真北に対して西に26°傾く(N-26°-W)。柱穴は長軸27～39cmの円形・楕円形で、深さは14～35cmである。柱痕跡は、長軸12～17cmの円形である。遺物は、P226の柱抜取穴からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第46図 SB10掘立柱建物跡 平面・断面図



第47図 SB1～10 掘立柱建物跡(1)

第9-1表 日向遺跡 掘立建物跡 柱穴跡 属性表(1) SB1~10

| 遺跡番号 | 柱穴の中心座標(北緯・東経) - 単位:m |    |    |    | 柱穴の属性 |        |    |    | 柱穴の形状 | 柱穴の用途 |   |    |
|------|-----------------------|----|----|----|-------|--------|----|----|-------|-------|---|----|
|      | 北緯                    | 東経 | 深さ | 直径 | 深さ    | 直径     | 形状 | 用途 |       |       |   |    |
| 遺跡1  | P01                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 15m    | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P02                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P03                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P04                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P05                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P06                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P07                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P08                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P09                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P10                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
| 遺跡2  | P11                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P12                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P13                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P14                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P15                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P16                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P17                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P18                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P19                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P20                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
| 遺跡3  | P21                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P22                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P23                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P24                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P25                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P26                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P27                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P28                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P29                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P30                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
| 遺跡4  | P31                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P32                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P33                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P34                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P35                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P36                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P37                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P38                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P39                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P40                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
| 遺跡5  | P41                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P42                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P43                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P44                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P45                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P46                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P47                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P48                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P49                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P50                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
| 遺跡6  | P51                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P52                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P53                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P54                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P55                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P56                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P57                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P58                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P59                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |
|      | P60                   | 35 | 30 | 30 | 15.3  | 掘削100% | 円形 | 30 | 17    | 3.0   | 丸 | 柱穴 |

●その他の記載事項

- 柱穴・ピットの計測値
- (直径)は掘削直径を示す
- 柱穴・ピット周囲の「埋土」・「土」(埋積土)記載事項
- 柱穴の埋積土「埋積土層」を意味する
- 「丸」・「角」等の記載「柱穴・小穴」の埋土層が2以上12に分類した場合を示す
- 「知1」は柱穴径より埋土・埋積土・「知穴1」は柱穴径より1層の埋土・埋積土
- 「知2」は柱穴径より埋土・埋積土・「知穴2」は柱穴径より1層の埋土・埋積土
- 埋積層の記載事項
- 柱穴・ピットが掘り残されているもの、埋積層・埋土層が掘り残されているもの
- この欄、埋積層・埋土層の記載

●ピット(柱穴・小穴)類型



- 【柱穴型】
- ① 柱穴の柱穴方向が 柱穴の柱穴方向と 柱穴の柱穴方向と一致しているもの
- ② 柱穴の柱穴方向が 柱穴の柱穴方向と 柱穴の柱穴方向と一致していないもの
- 【埋積層・埋土層の埋土・埋積土型】
- 1: 黒色 (10002/1)
  - 2: 黒褐色 (10003/1)
  - 3: 黒褐色 (10002/2)
  - 4: 黒褐色 (10003/2)
  - 5: 黒褐色 (10002/3)
  - 6: 黒褐色 (10003/3)
  - 7: 黒褐色 (10003/4)
  - 8: 黒褐色 (10003/5)
  - 9: 黒褐色 (10003/6)
  - 10: 黒褐色 (10003/7)
  - 11: 黒褐色 (10003/8)
  - 12: 黒褐色 (10003/9)
  - 13: 黒褐色 (10003/10)
  - 14: 黒褐色 (10003/11)
  - 15: 黒褐色 (10003/12)
  - 16: 黒褐色 (10003/13)
  - 17: 黒褐色 (10003/14)
  - 18: 黒褐色 (10003/15)
  - 19: 黒褐色 (10003/16)
  - 20: 黒褐色 (10003/17)
  - 21: 黒褐色 (10003/18)
  - 22: 黒褐色 (10003/19)
  - 23: 黒褐色 (10003/20)
  - 24: 黒褐色 (10003/21)
  - 25: 黒褐色 (10003/22)
- 土質
- A: シルト B: 砂質シルト C: 粘土質シルト
- 埋積層
- 1: 埋積層が少なく含む
  - 2: 埋積層が少なく含む
  - 3: 埋積層が少なく含む
  - 4: 埋積層が少なく含む
  - 5: 埋積層が少なく含む
  - 6: 埋積層が少なく含む
  - 7: 埋積層が少なく含む
  - 8: 埋積層が少なく含む
  - 9: 埋積層が少なく含む
  - 10: 埋積層が少なく含む
  - 11: 埋積層が少なく含む
  - 12: 埋積層が少なく含む
  - 13: 埋積層が少なく含む
  - 14: 埋積層が少なく含む
  - 15: 埋積層が少なく含む
  - 16: 埋積層が少なく含む
  - 17: 埋積層が少なく含む
  - 18: 埋積層が少なく含む
  - 19: 埋積層が少なく含む
  - 20: 埋積層が少なく含む
  - 21: 埋積層が少なく含む
  - 22: 埋積層が少なく含む
  - 23: 埋積層が少なく含む
  - 24: 埋積層が少なく含む
  - 25: 埋積層が少なく含む
- 土質
- 10a: ●土質: 黒褐色 (10002/1), 土質: シルト, 埋積層: 埋積層が少なく含む



1. SB1 ~ 10 掘立柱建物跡 完掘状況 (上が北)



2. SB1・P8 断面 (北から)

3. SB2・P19 断面 (南から)

4. SB3・P10 断面 (北から)

5. SB4・P205 断面 (東から)



6. SB5・P31 断面 (南から)

7. SB6・P32 断面 (東から)

8. SB7・P151 断面 (東から)

9. SB7・P193 (右) 断面 (西から)



10. SB8・P155 断面 (東から)

11. SB8・P188 断面 (西から)

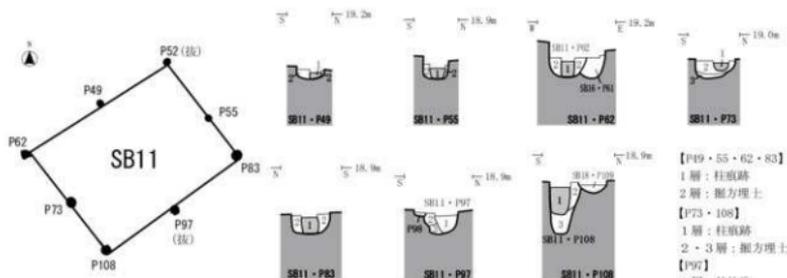
12. SB9・P120 断面 (南から)

13. SB10・P213 断面 (南から)

第48図 SB1 ~ 10 掘立柱建物跡 (2)

【SB11 掘立柱建物跡】(第36・49・60・61図、第8・9-2表)

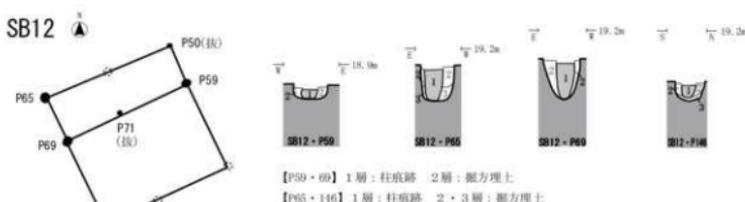
東西2間、南北2間の東西棟建物跡である。SB16・18、P98と重複し、SB18、P98より古く、SB16より新しい。建物は、P49・52・55・62・73・83・97・108の8個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P49・55・62・73・83・108)で柱痕跡を確認し、2個(P52・97)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長6.8m、柱間寸法は西から3.6m・3.2m、梁行が東側柱列で総長4.8m、柱間寸法は北から2.9m・1.9mである。方向は、真北に対して西に37°傾く(N-37°-W)。柱穴は長軸23~40cmの円形・楕円形で、深さは11~52cmである。柱痕跡は、長軸12~22cmの円形・楕円形である。



第49図 SB11 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB12 掘立柱建物跡】(第36・50・60・61図、第8・9-2表)

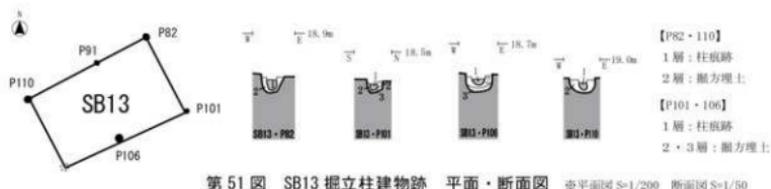
東西2間、南北1間の身舎の北側に庇が1間付く東西棟建物跡である。建物は、P50・59・65・69・71・146の6個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、4個(P59・65・69・146)で柱痕跡を確認し、2個(P50・71)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.4m、柱間寸法は西から2.4m・3.0m、梁行が西側柱列で3.5mである。北側の庇の出は2.0mである。方向は、真北に対して西に24°傾く(N-24°-W)。柱穴は長軸17~34cmの円形・楕円形で、深さは9~38cmである。柱痕跡は、長軸15~20cmの円形・楕円形である。遺物は、P59・65の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片、P69の柱痕跡からロクロ成形の土師器坏片(内黒処理)が出土した。



第50図 SB12 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB13 掘立柱建物跡】(第36・51・60・61図、第8・9-2表)

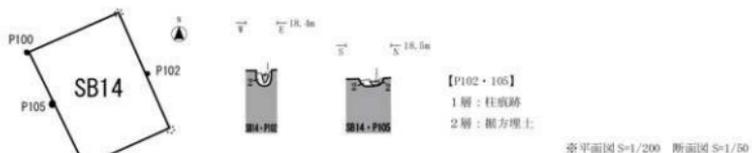
東西2間、南北1間の東西棟建物跡である。建物は、P82・91・101・106・110の5個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.4m、柱間寸法は西から3.1m・2.3m、梁行が東側柱列で総長3.5mである。方向は、真北に対して西に28°傾く(N-28°-W)。柱穴は長軸17~25cmの円形で、深さは6~19cmである。柱痕跡は、長軸8~13cmの円形・楕円形である。



第51図 SB13掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

## 【SB14掘立柱建物跡】(第36・52・60・61図、第8・9・2表)

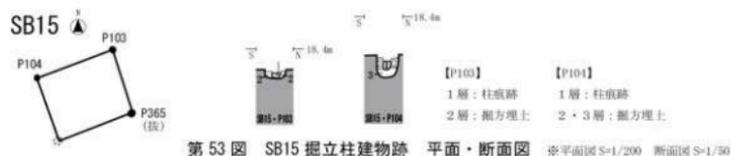
南北2間、東西1間の南北棟建物跡である。建物は、P100・102・105・364の4個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が西側柱列で総長5.2m、柱間寸法は北から2.3m・2.9m、梁行が北側柱列で総長4.0m(推定値)である。方向は、真北に対して西に26°傾く(N-26°-W)。柱穴は長軸18~34cmの円形・楕円形で、深さは7~17cmである。柱痕跡は、長軸7~16cmの円形・楕円形である。



第52図 SB14掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

## 【SB15掘立柱建物跡】(第36・53・60・61図、第8・9・2表)

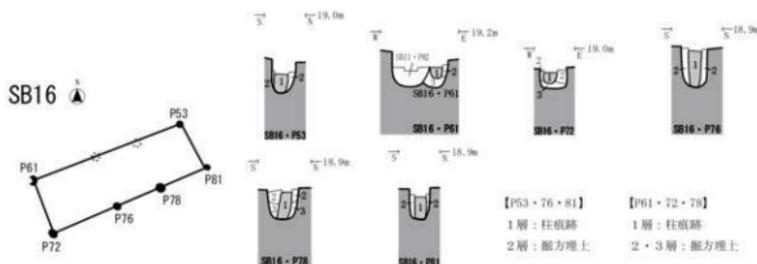
東西1間、南北1間の建物跡である。建物は、P103・104・365の3個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個(P103・104)で柱痕跡を確認し、1個(P365)は柱が抜き取られていた。平面規模については、北側柱列で総長3.3m、東側柱列で総長2.7mである。方向は、真北に対して西に19°傾く(N-19°-W)。柱穴は長軸22~30cmの円形で、深さは10~24cmである。柱痕跡は、長軸10~11cmの円形である。



第53図 SB15掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

## 【SB16掘立柱建物跡】(第36・54・60・61図、第8・9・2表)

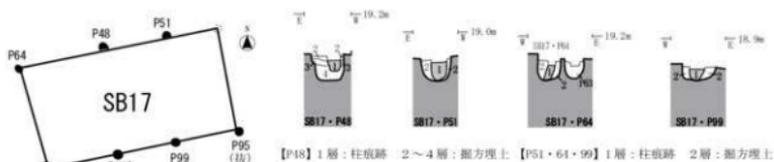
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。SB11と重複し、これより古い。建物は、P53・61・72・76・78・81の6個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が南側柱列で総長6.9m、柱間寸法は西から2.9m・1.9m・2.1m、梁行が西側柱列で2.3mである。方向は、真北に対して西に21°傾く(N-21°-W)。柱穴は長軸20~35cmの円形・楕円形で、深さは18~42cmである。柱痕跡は、長軸10~14cmの円形・楕円形である。遺物は、P53の掘方埋土からクロコ成形の土師器甕片と須恵器甕片、P61の掘方埋土から平行沈線が施された弥生土器片が出土した。



第54図 SB16 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB17 掘立柱建物跡】(第36・55・60・61図、第8・9-2表)

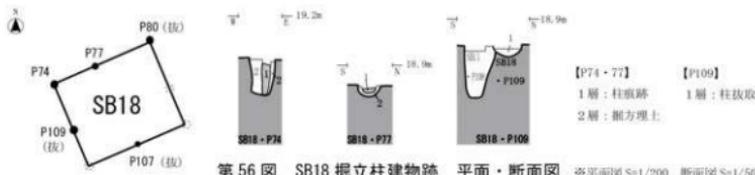
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。建物は、P48・51・64・95・99・112・113の7個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、5個(P48・51・64・99・113)で柱痕跡を確認し、2個(P95・112)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長7.9m、柱間寸法は西から2.9m・2.4m・2.6m、梁行が西側柱列で4.2mである。方向は、真北に対して西に16°傾く(N-16°-W)。柱穴は長軸28~42cmの円形・楕円形で、深さは6~35cmである。柱痕跡は、長軸9~23cmの円形・楕円形である。遺物は、P48の掘方埋土からロクロ成形の土師器坏片(内黒処理)が出土した。



第55図 SB17 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB18 掘立柱建物跡】(第36・56・60・61図、第8・9-2表)

東西2間、南北2間の東西棟建物跡である。SB11と重複し、これより新しい。建物は、P74・77・80・107・109の5個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個(P74・77)で柱痕跡を確認し、3個(P80・107・109)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長4.2m、柱間寸法は西から1.8m・2.4m、梁行が西側柱列で総長3.5m(推定値)、柱間寸法は北から1.9m・1.6m(推定値)である。方向は、真北に対して西に23°傾く(N-23°-W)。柱穴は長軸16~28cmの円形で、深さは10~38cmである。柱痕跡は、長軸11・12cmの円形である。



第56図 SB18 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

## 【SB19 掘立柱建物跡】(第36・57・60・61図、第8・9-2表)

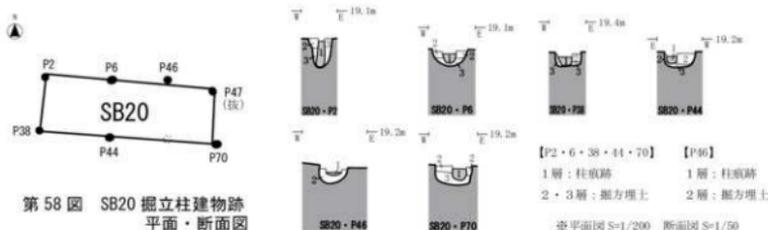
南北2間、東西1間の南北棟建物跡である。建物は、P58・75・94・111の4個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、3個(P58・94・111)で柱痕跡を確認し、1個(P75)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長4.2m、柱間寸法は北から2.1m・2.1m、梁行が北側柱列で3.0mである。方向は、真北に対して東に42°傾く(N-42°-E)。柱穴は長軸26~33cmの円形・楕円形で、深さは3~34cmである。柱痕跡は、長軸12~17cmの楕円形である。遺物は、P58の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第57図 SB19 掘立柱建物跡  
平面・断面図

## 【SB20 掘立柱建物跡】(第36・58・60・61図、第8・9-2表)

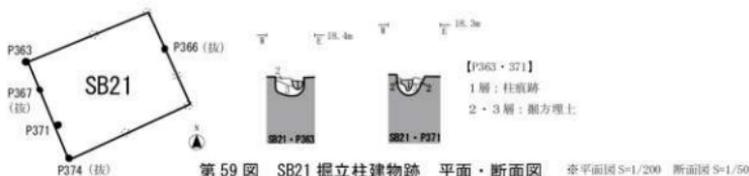
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。P45と重複し、これより新しい。建物は、P2・6・38・44・46・47・70の7個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P2・6・38・44・46・70)で柱痕跡を確認し、1個(P47)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長6.7m、柱間寸法は西から2.7m・2.2m・1.9m、梁行が西側柱列で2.2mである。方向は、真北に対して東に6°傾く(N-6°-E)。柱穴は長軸27~38cmの円形・楕円形で、深さは14~33cmである。柱痕跡は、長軸8~19cmの円形・楕円形である。遺物は、P70の掘方埋土から須恵器壺片が出土した。



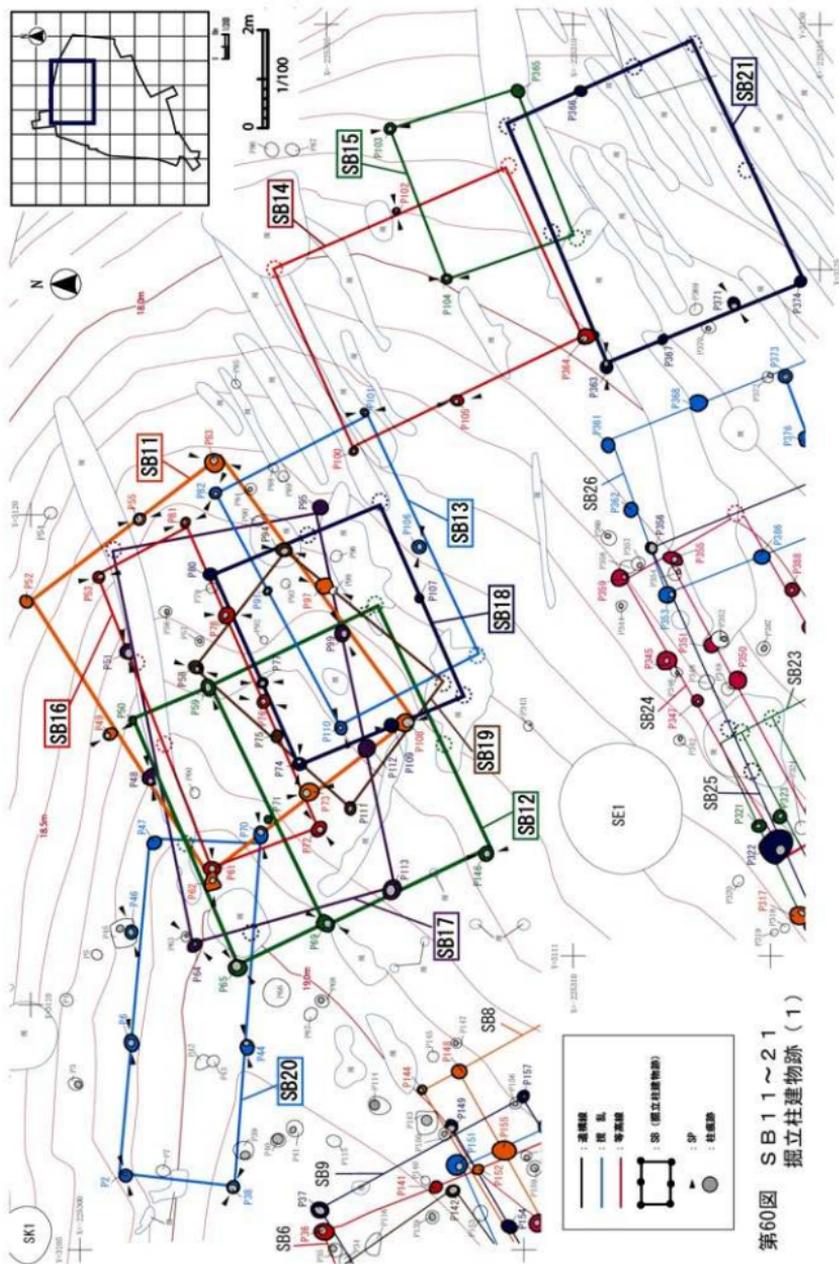
第58図 SB20 掘立柱建物跡  
平面・断面図

## 【SB21 掘立柱建物跡】(第36・59~61図、第8・9-2表)

東西1もしくは2間、南北3間の東西棟建物跡である。建物は、P363・366・367・371・374の5個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個(P363・371)で柱痕跡を確認し、3個(P366・367・374)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.3m(推定値)、梁行が西側柱列で総長4.3m、柱間寸法は北から1.2m・1.6m・1.5mである。方向は、真北に対して西に24°傾く(N-24°-W)。柱穴は長軸24~30cmの円形・楕円形で、深さは17~25cmである。柱痕跡は、長軸11・14cmの円形・楕円形である。



第59図 SB21 掘立柱建物跡 平面・断面図



第60図 SB11~21  
掘立柱建物跡 (1)





1. SB11～21 掘立柱建物跡 完掘状況 (上が北)



2. SB11・P108 断面 (東から)



3. SB12・P09 断面 (北から)



4. SB3・P146 断面 (東から)



5. SB13・P82 断面 (南から)



6. SB14・P105 断面 (東から)



7. SB15・P104 断面 (東から)



8. SB16・P78 断面 (東から)



9. SB17・P113 断面 (東から)



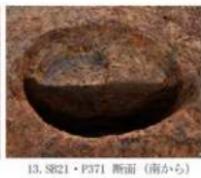
10. SB18・P74 断面 (東から)



11. SB19・P111 断面 (南から)



12. SB20・P70 断面 (南から)

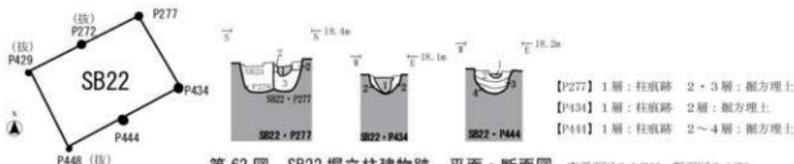


13. SB21・P371 断面 (南から)

第61図 SB11～21 掘立柱建物跡 (2)

【SB22 掘立柱建物跡】(第36・62・72・73図、第8・9-3表)

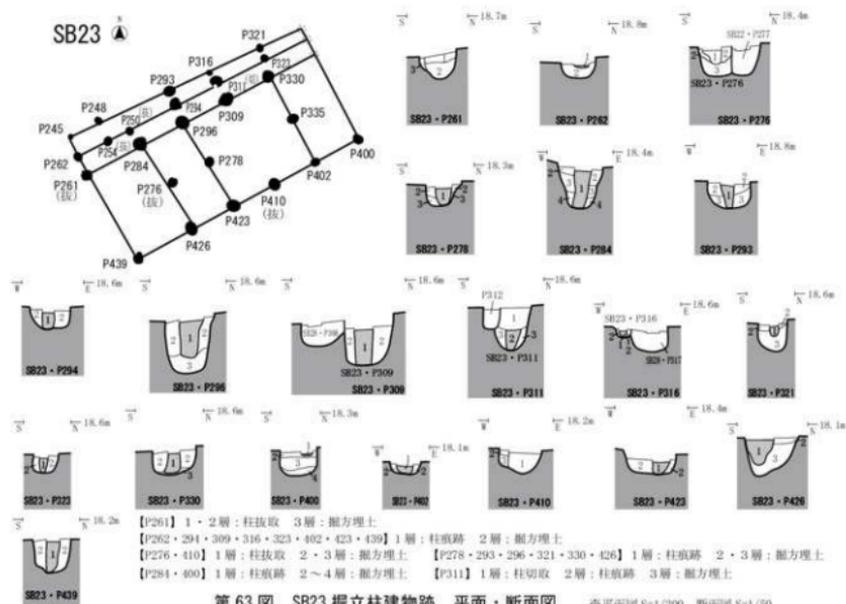
東西2間、南北1間の東西棟建物跡である。SB23と重複し、これより新しい。建物は、P272・277・429・434・444・448の6個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、3個(P277・434・444)で柱痕跡を確認し、3個(P272・429・448)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.0m、柱間寸法は西から2.4m・2.6m、梁行が東側柱列で3.3mである。方向は、真北に対して西に29°傾く(N-29°-W)。柱穴は長軸19~35cmの円形で、深さは10~34cmである。柱痕跡は、長軸13~22cmの円形である。



第62図 SB22掘立柱建物跡 平面・断面図 平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB23 掘立柱建物跡】(第36・63・72・73図、第8・9-3表)

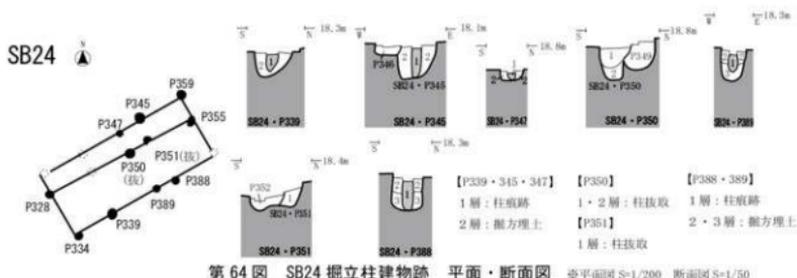
東西5間、南北1間の身舎の北側に庇が1間、そのさらに北側に孫庇が付く東西棟建物跡である。SB22・28~30、P310・312と重複し、SB22・29、P310・312より古く、SB28・30より新しい。建物は、P245・248・250・254・261・262・276・278・284・293・294・296・309・311・316・321・323・330・335・400・402・410・423・426・439の25個の柱穴で構成される。柱穴の位置から、P276・278・335は東柱である可能性がある。検出した柱穴のうち、19個(P245・248・262・278・284・293・294・296・309・316・321・323・330・335・400・402・423・426・439)で柱痕跡を確認し、1個(P311)は柱が切り取り、5個(P250・254・261・276・410)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長10.1m、柱間寸法は西から2.4m・2.1m・1.8m・1.8m・2.0m、梁行が西側柱列で4.0mである。北側の扉の出は0.8m、孫庇の出は0.8mである。方向は、真北に対して西に28°傾く(N-28°-W)。柱穴は長軸18~57cmの円形・楕円形・隅丸形である。柱痕跡は、長軸10~29cmの円形・楕円形である。遺物は、P261の柱抜取穴から砥石、P278の掘方埋土から須恵器坏片、P309の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片・須恵器甕片、P402の掘方埋土から須恵器坏片、P410の掘方埋土ロクロ成形の土師器甕片・須恵器坏片が出土した。



第63図 SB23掘立柱建物跡 平面・断面図 平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB24 掘立柱建物跡】(第36・64・72・73図、第8・9-3表)

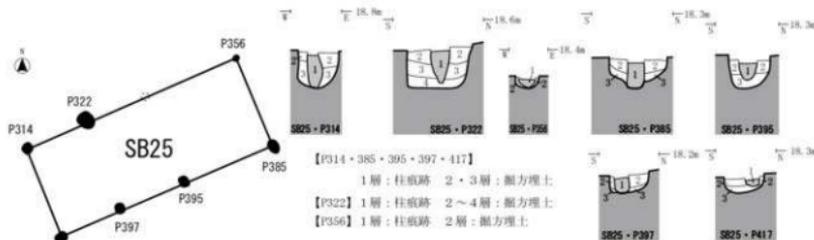
東西4間、南北1間の身舎の北側に庇が1間付く東西棟建物跡である。P346・349・352・358と重複し、P346・352より古く、P349・358より新しい。建物は、P328・334・339・345・347・350・351・355・359・388・389の11個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、9個(P328・334・339・345・347・355・359・388・389)で柱痕跡を確認し、2個(P350・351)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長6.4m、柱間寸法は西から1.6m・2.0m・0.8m・2.0m(推定値)、梁行が東側柱列で1.7mである。北側の庇の出は1.0mである。方向は、真北に対して西に30°傾く(N-30°-W)。柱穴は長軸24~40cmの円形・楕円形で、深さは10~39cmである。柱痕跡は、長軸8~18cmの円形・楕円形である。



第64図 SB24 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB25 掘立柱建物跡】(第36・65・72・73図、第8・9-3表)

東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。建物は、P314・322・356・385・395・397・417の7個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が南側柱列で総長9.2m、柱間寸法は西から2.5m・2.8m・3.9m、梁行が東側柱列で3.8mである。方向は、真北に対して西に24°傾く(N-24°-W)。柱穴は長軸23~69cmの円形・楕円形・隅丸方形で、深さは14~43cmである。柱痕跡は、長軸11~21cmの円形・楕円形である。遺物は、P314の掘方埋土からロクロ成形の土器器残片が出土した。

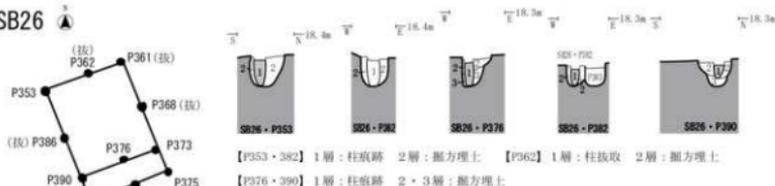


第65図 SB25 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB26 掘立柱建物跡】(第36・66・72・73図、第8・9-3表)

南北2間、東西2間の身舎の南側に庇が1間付く南北棟建物跡である。P383と重複し、これより古い。建物は、P353・361・362・368・373・375・376・377・382・386・390の11個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P353・373・376・377・382・390)で柱痕跡を確認し、5個(P361・362・368・375・386)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長3.9m、柱間寸法は北から2.1m・1.8m、梁行が北側柱列で総長3.3m、柱間寸法は西から1.9m・1.4mである。南側の庇の出は1.1mである。方向は、真北に対して西に22°傾く(N-22°-W)。柱穴は長軸23~37cmの円形・楕円形で、深さは20~50cmである。柱痕跡は、長軸10~14cmの円形である。

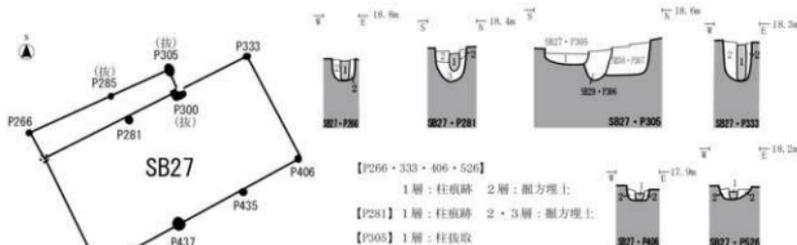
SB26



第 66 図 SB26 掘立柱建物跡 平面・断面図 東平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB27 掘立柱建物跡】(第 36・67・72・73 図、第 8・9-3 表)

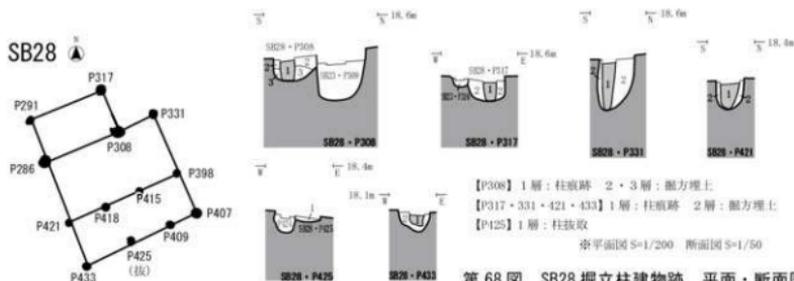
東西 3 間、南北 1 間の身舎の北側に南北 1 間・東西 2 間の張出しが付く東西棟建物跡である。SB29・30、P298・299・301 と重複し、P298・299・301 より古く、SB29・30 より新しい。建物は、P266・281・285・300・305・333・406・435・437・526 の 10 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、7 個 (P266・281・333・406・435・437・526) で柱痕跡を確認し、3 個 (P285・300・305) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 9.3m、柱間寸法は西から 3.7m・3.0m・2.6m、梁行が西側柱列で 4.0m である。張出しは西側柱列からの出が 1.2m、東西 6.7m である。方向は、真北に対して西に 28° 傾く (N-28°-W)。柱穴は長軸 22~50cm の円形・楕円形・隅丸長方形で、深さは 11~40cm である。柱痕跡は、長軸 8~25cm の円形である。遺物は、P300 の掘方埋土からロク口成形の土師器甕片、P305 の掘方埋土からロク口成形の土師器坏片 (内黒処理)・甕片が出土した。



第 67 図 SB27 掘立柱建物跡 平面・断面図 東平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB28 掘立柱建物跡】(第 36・68・72・73 図、第 8・9-3 表)

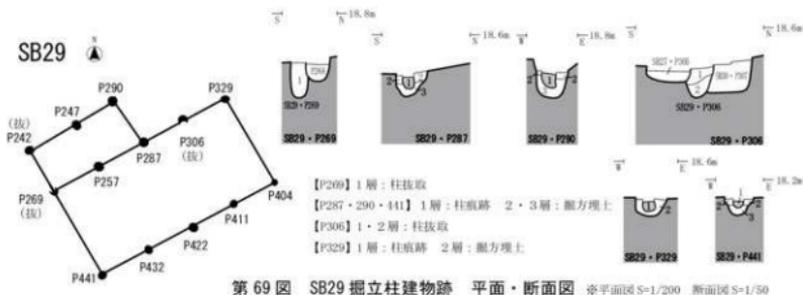
南北 2 間、東西 3 間の身舎の北側に南北 1 間・東西 1 間の張出しが付く南北棟建物跡である。SB23、P310・414・424 と重複し、これより古い。建物は、P286・291・308・317・331・398・407・409・415・418・421・425・433 の 13 個の柱穴で構成される。柱穴の位置から、P418・415 は東柱である可能性がある。検出した柱穴のうち、12 個 (P286・291・308・317・331・398・407・409・415・418・421・433) で柱痕跡を確認し、1 個 (P425) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長 4.7m、柱間寸法は北から 2.8m・1.9m、梁行が南側柱列で総長 4.8m、柱間寸法は西から 1.9m・1.7m・1.2m である。張出しは北側柱列からの出が 1.7m、東西 3.0m である。方向は、真北に対して西に 23° 傾く (N-23°-W)。柱穴は長軸 28~50cm の円形・楕円形で、深さは 5~52cm である。柱痕跡は、長軸 10~20cm の円形・楕円形である。遺物は、P308 の掘方埋土からロク口成形の土師器甕片・須恵器甕片、P418 の掘方埋土からロク口成形の土師器甕片が出土した。



第 68 図 SB28 掘立柱建物跡 平面・断面図

【SB29 掘立柱建物跡】(第 36・69・72・73 図、第 8・9-4 表)

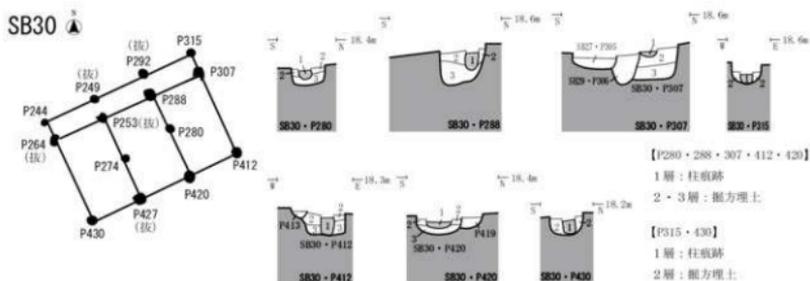
東西 4 間、南北 1 間の身舎の北側に南北 1 間・東西 2 間の張出しが付く東西棟建物跡である。SB23・27・30、P243・268 と重複し、SB27、P243・268 より古く、SB23・30 より新しい。建物は、P242・247・257・269・287・290・306・329・404・411・422・432・441 の 13 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、10 個 (P247・257・287・290・329・404・411・422・432・441) で柱痕跡を確認し、3 個 (P242・269・306) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 8.0m、柱間寸法は西から 2.2m・2.0m・1.9m・1.9m、梁行が北側柱列で 3.9m である。張出しは北側柱列からの出が 2.0m、東西 4.2m である。方向は、真北に対して西に 29° 傾く (N-29° -W)。柱穴は長軸 21~41cm の円形・楕円形・隅丸方形で、深さは 8~43cm である。柱痕跡は、長軸 12~19cm の円形である。



第 69 図 SB29 掘立柱建物跡 平面・断面図

【SB30 掘立柱建物跡】(第 36・70・72・73 図、第 8・9-4 表)

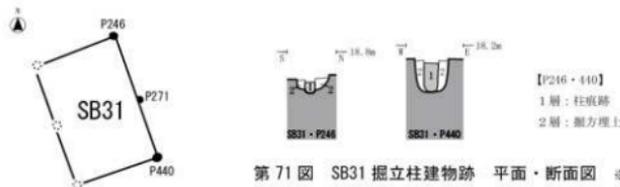
東西 3 間、南北 1 間の身舎の北側に庇が 1 間付く東西棟建物跡である。SB23・27・29、P263・413・419 と重複し、SB23・27・29、P263・413 より古く、P419 より新しい。建物は、P244・249・253・264・274・280・288・292・307・315・412・420・427・430 の 14 個の柱穴で構成される。柱穴の位置から、P274・280 は東柱である可能性がある。検出した柱穴のうち、9 個 (P244・274・280・288・307・315・412・420・430) で柱痕跡を確認し、5 個 (P249・253・264・292・427) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長 6.5m、柱間寸法は西から 2.2m・2.1m・2.2m、梁行が東側柱列で 3.6m である。北側の庇の出は 0.9m である。方向は、真北に対して西に 25° 傾く (N-25° -W)。柱穴は長軸 28~52cm の円形・楕円形で、深さは 13~35cm である。柱痕跡は、長軸 9~27cm の円形・楕円形である。遺物は、P412 の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



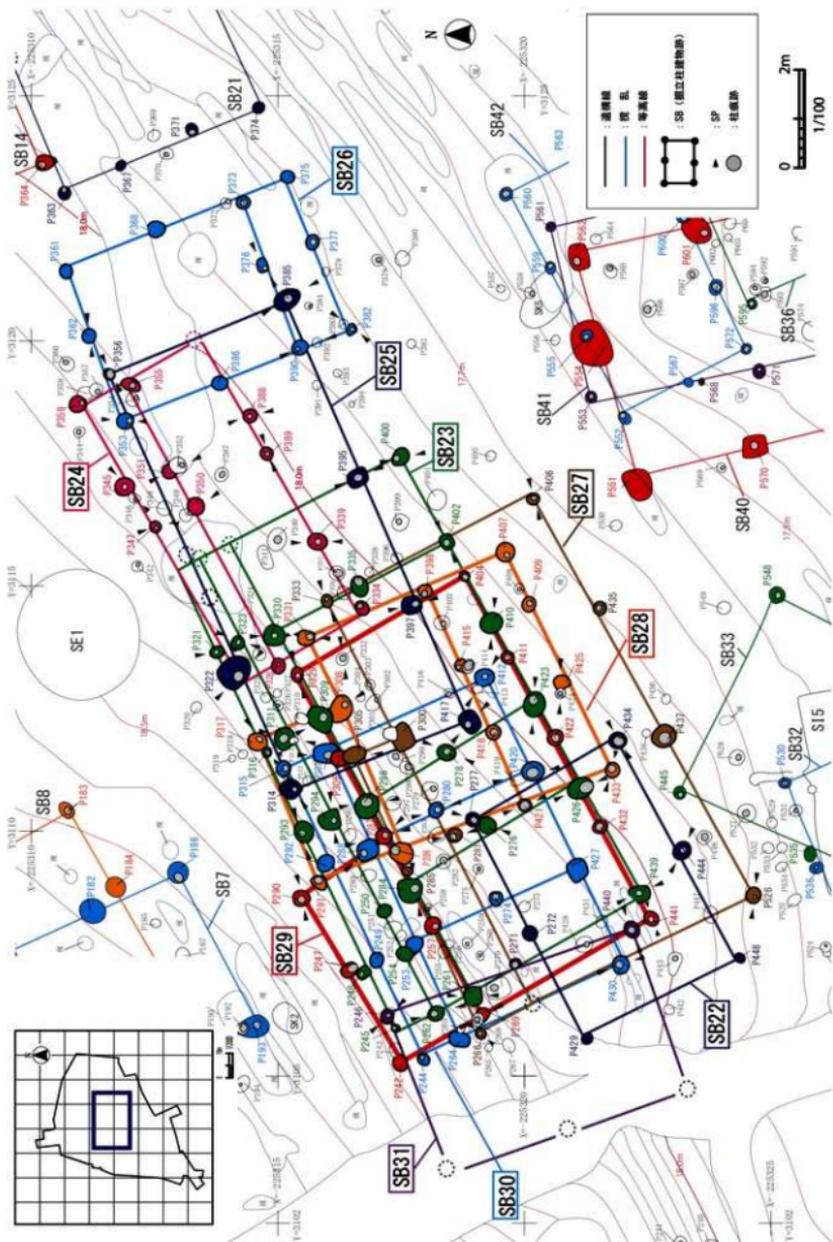
第70図 SB30 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB31 掘立柱建物跡】(第36・71～73図、第8・9-4表)

南北2間で東に延びる建物跡である。建物西側の柱穴跡は攪乱により残存していない。柱穴列の可能性も考えられるが、周辺に同じ方向の建物が存在することから、建物跡として認定した。南北棟の建物である可能性がある。建物は、P246・271・440の3個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、東側柱列で総長5.2m、柱間寸法は北から2.7m・2.5mである。方向は、真北に対して西に19°傾く(N-19°-W)。柱穴は長軸22～37cmの円形で、深さは14～36cmである。柱痕跡は、長軸10～15cmの円形である。



第71図 SB31 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50





第9-4表 日向遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表(4) SB29~31

| 遺跡番号 | 柱穴の位置(遺跡・棟名・遺構番号) |     |    |    | 柱 跡 類 |                |     | 備 考<br>(遺構・出土品等) |                   |
|------|-------------------|-----|----|----|-------|----------------|-----|------------------|-------------------|
|      | 平面積               | 幅   | 厚  | 高さ | 形状    | 土質             | 出土  |                  |                   |
| SB29 | P942              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>柱穴跡   |
|      | P947              | 長方形 | 30 | 30 | 42.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P948              | 長方形 | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P949              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P950              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P951              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P952              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P953              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P954              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P955              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P956              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P957              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
| SB30 | P958              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P959              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P960              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P961              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P962              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P963              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P964              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P965              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P966              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P967              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P968              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P969              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
| SB31 | P970              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P971              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P972              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P973              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P974              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P975              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P976              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P977              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P978              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P979              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P980              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |
|      | P981              | 円形  | 30 | 32 | 34.0  | 掘立柱建物跡<br>掘・小穴 | --- | ---              | PH22(1)土<br>掘・小穴跡 |

●ピット(柱穴・小穴)類型

【追加】

① 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

② 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

③ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

④ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑤ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑥ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑦ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑧ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑨ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑩ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑪ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑫ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑬ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑭ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑮ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑯ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑰ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑱ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑲ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

⑳ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

㉑ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

㉒ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

㉓ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

㉔ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

㉕ 柱穴跡(柱穴)の掘削方法  
掘削に際するもの

■土色

1) 黒色 (H002/2) 2) 黒褐色 (H003/3) 3) 黒褐色 (H002/2) 4) 黒褐色 (H003/3) 5) 黒褐色 (H002/2) 6) 黒褐色 (H003/3) 7) 黒褐色 (H003/3) 8) 灰黒褐色 (H003/3) 9) 灰黒褐色 (H003/3) 10) 灰黒褐色 (H003/3) 11) 灰黒褐色 (H003/3) 12) 灰黒褐色 (H003/3) 13) 褐色 (H004/4) 14) 褐色 (H004/4) 15) 褐色 (H004/4) 16) 褐色 (H004/4) 17) 明褐色 (H006/6) 18) 明褐色 (H006/6) 19) 明褐色 (H006/6) 20) 暗褐色 (H002/2) 21) 暗褐色 (H002/2) 22) 暗褐色 (H002/2) 23) 暗褐色 (H002/2) 24) 暗褐色 (H002/2) 25) 明褐色 (H006/6)

■土質

A) シルト B) 砂質シルト C) 粘質シルト

■埋入物

α) 掘削ブロック多く含む β) 掘削ブロック含む γ) 掘削ブロック少量含む  
δ) 掘削ブロック微量含む ε) 掘削粘土多く含む ζ) 掘削粘土含む  
η) 掘削粘土少量含む θ) 掘削粘土微量含む i) その他(上記以外のもの)

※1) 遺跡内の掘削は掘削後に埋入物を記載  
※2) 埋入物の種類は、下記の内容については記載を省略した  
※3) 埋入物の一部は、黒色土ブロック・黒色土質 黒土ブロック・黒土質

【記載例】

10α・10β土色: 黒褐色 (H002/2)、土質: シルト、埋入物: 掘削ブロック多く含む

●その他の記載事項

■柱穴・ピットの記録値

・(形状)は掘削方法を示す

■柱穴・ピット記録の「埋土・層土(層積土)」記載事項

・柱穴の場合には「掘削埋土」を意味する

・「1層・2層」等の記載: 「柱穴・小穴」の埋土層が1層以上に分離した場合は示す

・「抜穴」: 柱穴を掘り穿つ埋土・層積土 / 「抜穴1」: 柱穴を掘り穿つ1層の埋土・層積土

・「切穴」: 柱穴を掘り穿つ埋土・層積土 / 「切穴1」: 柱穴を掘り穿つ1層の埋土・層積土

■埋入物の記載事項

・柱穴: 柱が抜き取られているもの → 柱頭部: 柱が埋められているもの  
・この際、埋入物種・出土品種を記載



日向遺跡 柱穴跡 検出状況



日向遺跡 柱穴跡 調査風景



1. SB22 ~ 31 掘立柱建物跡 完掘状況 (上が北)



2. SB22・P277 (右)、  
SB23・P276 (左) 断面  
(東から)



3. SB23・P284 断面 (南から)



4. SB23・P309 (右)、  
SB28・P308 (左) 断面 (東から)



5. SB24・P355 断面 (南から)



6. SB25・P385 断面 (東から)



7. SB26・P353 断面 (東から)



8. SB27・P437 断面 (南から)



9. SB28・P409 断面 (南から)



10. SB29・P411 断面 (南から)



11. SB30・P280 断面 (東から)



12. SB30・P412 断面 (南から)

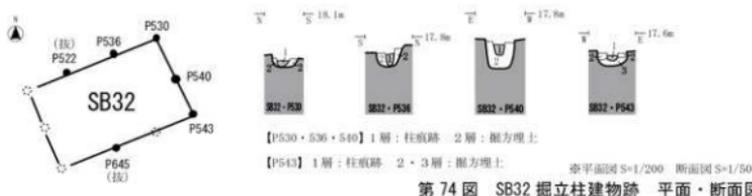


13. SB31・P440 断面 (南から)

第73図 SB22~31 掘立柱建物跡 (2)

### 【SB32 掘立柱建物跡】(第36・74・78・79図、第8・9-5表)

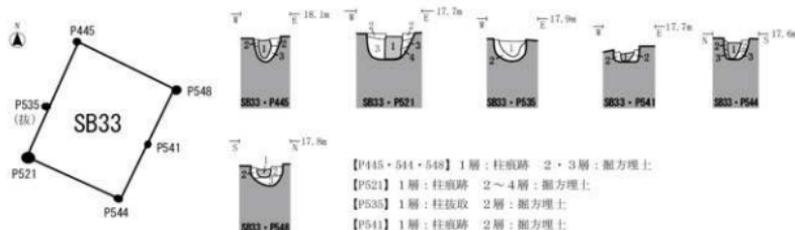
建物西側の柱穴列は攪乱により残存していないが、柱穴の残存状況・並びから、東西3間、南北2間の東西棟建物跡であると思われる。SI4・5と重複し、これらより新しい。建物は、P522・530・536・540・543・645の6個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、4個(P530・536・540・543)で柱痕跡を確認し、2個(P522・645)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.5m(推定値)、柱間寸法は西から1.6m(推定値)・2.0m・1.9m、梁行が東側柱列で総長3.4m、柱間寸法は北から1.8m・1.6mである。方向は、真北に対して西に23°傾く(N-23°-W)。柱穴は長軸24~30cmの円形・楕円形で、深さは7~30cmである。柱痕跡は、長軸10~12cmの円形である。遺物は、P536・540の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第74図 SB32 掘立柱建物跡 平面・断面図

### 【SB33 掘立柱建物跡】(第36・75・78・79図、第8・9-5表)

南北2間、東西1間の南北棟建物跡である。SI3~5、SK7と重複し、これらより新しい。建物は、P445・521・535・541・544・548の6個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、5個(P445・521・541・544・548)で柱痕跡を確認し、1個(P535)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長5.0m、柱間寸法は北から2.5m・2.5m、梁行が北側柱列で4.4mである。方向は、真北に対して東に27°傾く(N-27°-E)。柱穴は長軸26~48cmの円形・楕円形で、深さは13~30cmである。柱痕跡は、長軸11~21cmの円形である。遺物は、P544の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片・須恵器壺片、P548の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片・須恵器壺片が出土した。



第75図 SB33 掘立柱建物跡 平面・断面図

## 【SB34 掘立柱建物跡】(第36・76・78・79図、第8・9-5表)

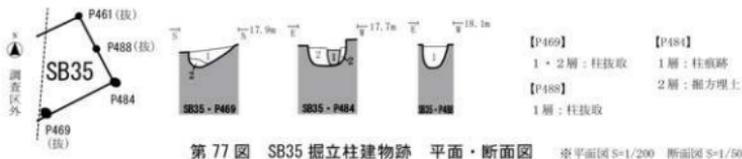
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。P514と重複し、これより新しい。建物は、P449・450・454・495・513・520の6個の柱穴で構成される。検出したすべての柱穴で柱痕跡を確認した。平面規模については、桁行が北側柱列で総長7.7m、柱間寸法は北から3.0m・2.0m・2.7m、梁行が東側柱列で4.5mである。方向は、真北に対して西に21°傾く(N-21°-W)。柱穴は長軸26~47cmの円形・楕円形で、深さは4~27cmである。柱痕跡は、長軸12~28cmの円形・楕円形である。



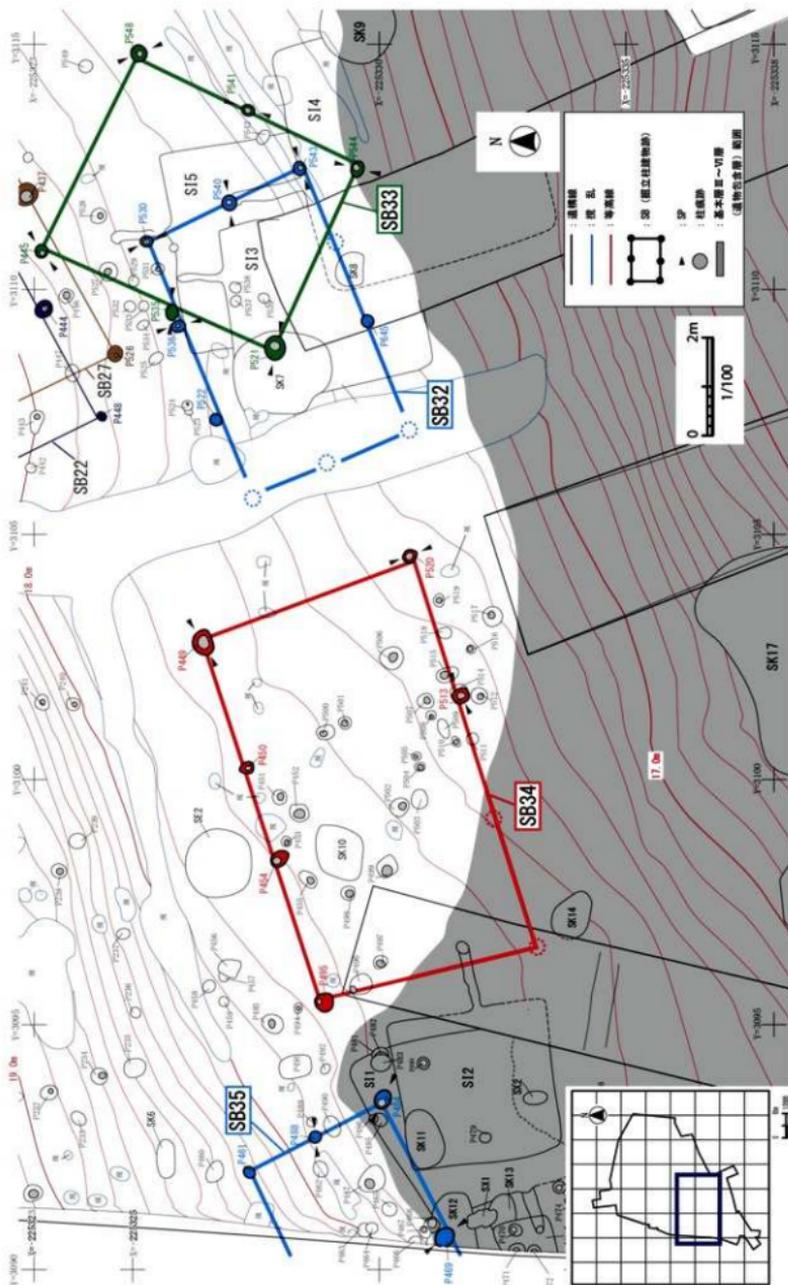
第76図 SB34 掘立柱建物跡 平面・断面図

## 【SB35 掘立柱建物跡】(第36・77~79図、第8・9-5表)

東西1間以上、南北2間の建物跡である。建物の西側は調査区外へ延びている。S11・2、SK12と重複し、これより新しい。建物は、P461・469・484・488の4個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、1個(P484)で柱痕跡を確認し、3個(P461・469・488)は柱が抜き取られていた。平面規模については、南側柱列で3.0m以上、東側柱列で総長3.0m、柱間寸法は北から1.5m・1.5mである。方向は、真北に対して西に26°傾く(N-26°-W)。柱穴は長軸23~48cmの円形・楕円形で、深さは13~24cmである。柱痕跡は、長軸17cmの円形である。



第77図 SB35 掘立柱建物跡 平面・断面図

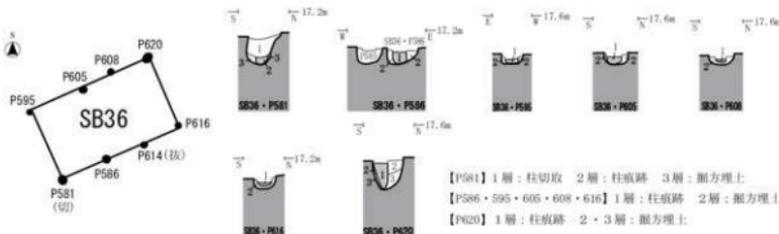


第78図 SB32～35 掘立柱建物跡(1)



【SB36 掘立柱建物跡】(第36・80・87・88図、第8・9-6表)

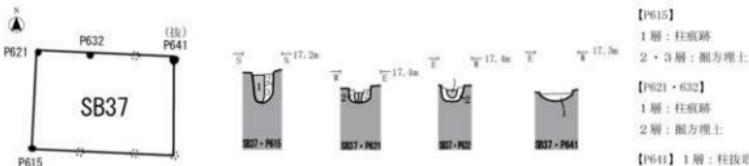
東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。建物は、P581・586・595・605・608・614・616・620の8個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P586・595・605・608・616・620)で柱痕跡を確認し、1個(P581)は柱が切り取り、1個(P614)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長5.2m、柱間寸法は西から2.0m・1.6m・1.6m、梁行が西側柱列で3.1mである。方向は、真北に対して西に25°傾く(N-25°-W)。柱穴は長軸21~42cmの円形・楕円形で、深さは9~32cmである。柱痕跡は、長軸11~18cmの円形・楕円形である。遺物はP608の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第80図 SB36 掘立柱建物跡 平面・断面図 幸平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB37 掘立柱建物跡】(第36・81・87・88図、第8・9-6表)

東西3間、南北1間の東西棟建物跡である。S17と重複し、これより新しい。建物は、P615・621・632・641の4個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、3個(P615・621・632)で柱痕跡を確認し、1個(P641)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長5.5m(推定値)、柱間寸法は西から2.1m・1.8m(推定値)・1.6m(推定値)、梁行が西側柱列で3.9mである。方向は、真北に対して東に3°傾く(N-3°-E)。柱穴は長軸20~30cmの円形で、深さは8~31cmである。柱痕跡は、長軸7~14cmの円形である。遺物はP632の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片・須恵器甕片が出土した。

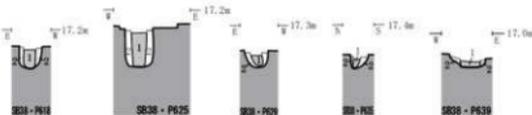
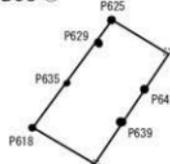


第81図 SB37 掘立柱建物跡 平面・断面図 幸平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB38 掘立柱建物跡】(第36・82・87・88図、第8・9-6表)

南北3間、東西1間の南北棟建物跡である。S17と重複し、これより新しい。建物は、P618・625・629・635・639・642の6個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、5個(P618・625・629・635・639)で柱痕跡を確認し、1個(P642)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が西側柱列で総長5.5m、柱間寸法は北から1.1m・2.1m・2.3m、梁行が北側柱列で2.7m(推定値)である。方向は、真北に対して東に35°傾く(N-35°-E)。柱穴は長軸19~33cmの円形で、深さは12~40cmである。柱痕跡は、長軸12~20cmの円形・楕円形である。

SB38 ▲



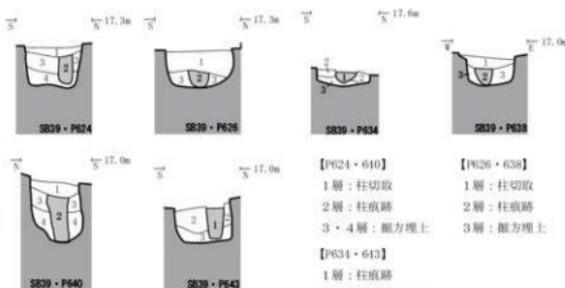
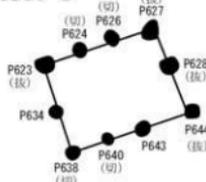
【P618・625・629・635・639】1層：柱痕跡 2層：掘方埋土

第82図 SB38 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB39 掘立柱建物跡】(第36・83・87・88図、第8・9・6表)

東西3間、南北2間の東西棟建物跡である。S17と重複し、これより古い。建物は、P623・624・626・627・628・634・638・640・643・644の10個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、2個(P634・643)で柱痕跡を確認し、4個(P624・626・638・640)は柱が切り取り、4個(P623・627・628・644)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が南側柱列で総長4.9m、柱間寸法は西から1.5m・1.5m・1.9m、梁行が西側柱列で総長3.8m、柱間寸法は北から2.0m・1.8mである。方向は、真北に対して西に19°傾く(N-19°-W)。柱穴は長軸50~82cmの円形・楕円形・隅丸方形で、深さは18~65cmである。柱痕跡は、長軸18~25cmの円形・楕円形である。遺物は、P626の柱切取穴からロクロ成形の土師器杯(内黒処理)片・甕片、P628の柱抜取穴、P638・643の掘方埋土、P640の柱切取穴からロクロ成形の土師器甕片が出土した。

SB39 ▲



【P624・640】  
1層：柱切取  
2層：柱痕跡  
3・4層：掘方埋土

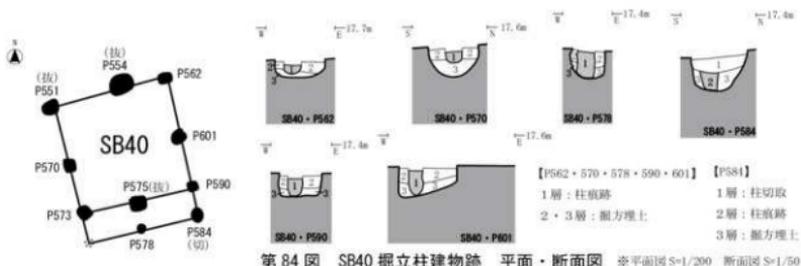
【P626・638】  
1層：柱切取  
2層：柱痕跡  
3層：掘方埋土

【P634・643】  
1層：柱痕跡  
2・3層：掘方埋土

第83図 SB39 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図S=1/200 断面図S=1/50

【SB40 掘立柱建物跡】(第36・84・87・88図、第8・9・6表)

南北2間、東西2間の身舎の南側に庇が付く南北棟建物跡である。SB42、P574と重複し、これらより古い。建物は、P551・554・562・570・573・575・578・584・590・601の10個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、6個(P562・570・573・578・590・601)で柱痕跡を確認し、1個(P584)は柱が切り取り、3個(P551・554・575)は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長4.6m、柱間寸法は北から2.5m・2.1m、梁行が南側柱列で総長4.6m、柱間寸法は西から2.3m・2.3mである。方向は、真北に対して西に14°傾く(N-14°-W)。柱穴は長軸37~98cmの円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形で、深さは17~35cmである。柱痕跡は、長軸14~26cmの円形・楕円形である。遺物は、P554の柱抜取穴からロクロ成形の土師器杯(内黒処理)片・甕片、P590の掘方埋土からロクロ成形の土師器杯(内黒処理)片・甕片・須恵器杯片、P601の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第 84 図 SB40 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB41 掘立柱建物跡】(第 36・85・87・88 図、第 8・9-6 表)

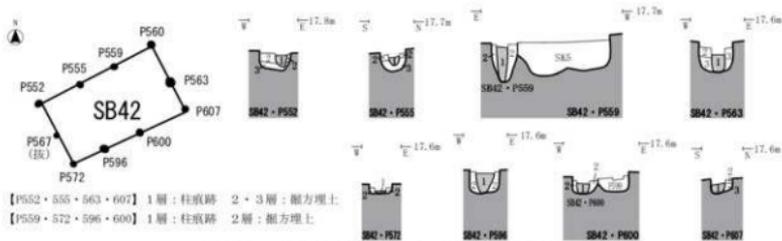
南北 3 間、東西 1 間の南北棟建物跡である。建物は、P553・561・568・571・576・588・598・606 の 8 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、4 個 (P553・571・576・588) で柱痕跡を確認し、4 個 (P561・568・598・606) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が東側柱列で総長 5.0m、柱間寸法は北から 1.8m・1.1m・2.1m、梁行が北側柱列で 3.6m である。方向は、真北に対して西に 14° 傾く (N-14° -W)。柱穴は長軸 16~30cm の円形・楕円形で、深さは 11~38cm である。柱痕跡は、長軸 9~15cm の円形である。遺物は P598 の柱柱取穴からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



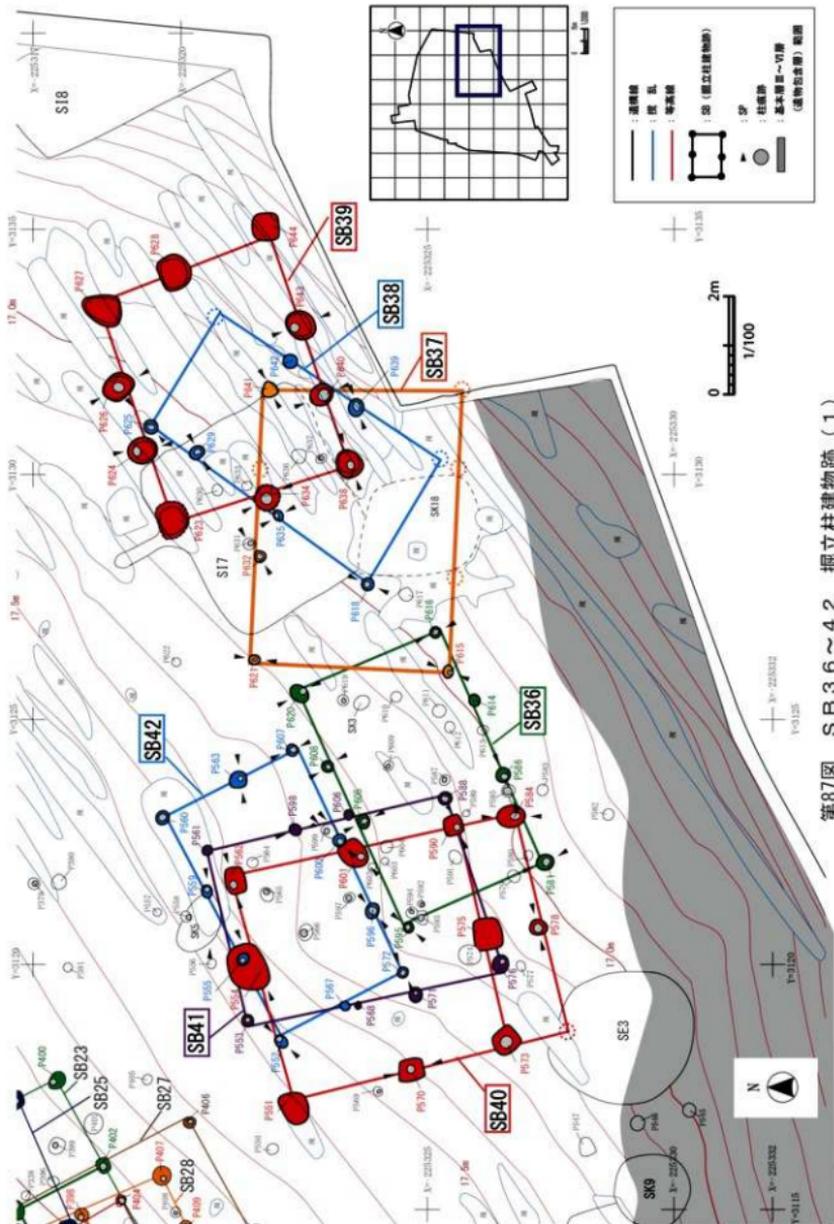
第 85 図 SB41 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50

【SB42 掘立柱建物跡】(第 36・86~88 図、第 8・9-6 表)

東西 3 間、南北 2 間の東西棟建物跡である。SB40、SK5、P599 と重複し、これらより新しい。建物は、P552・555・559・560・563・567・572・596・600・607 の 10 個の柱穴で構成される。検出した柱穴のうち、9 個 (P552・555・559・560・563・572・596・600・607) で柱痕跡を確認し、1 個 (P567) は柱が抜き取られていた。平面規模については、桁行が北側柱列で総長 5.1m、柱間寸法は西から 1.8m・1.5m・1.8m、梁行が東側柱列で総長 3.0m、柱間寸法は北から 1.8m・1.2m である。方向は、真北に対して西に 28° 傾く (N-28° -W)。柱穴は長軸 20~37cm の円形・楕円形で、深さは 9~47cm である。柱痕跡は、長軸 11~19cm の円形である。遺物は、P555 の掘方埋土・P567 の柱柱取穴から須恵器甕片、P600 の掘方埋土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第 86 図 SB42 掘立柱建物跡 平面・断面図 ※平面図 S=1/200 断面図 S=1/50



第87図 SB36～42 掘立柱建物跡(1)

第9-6表 日向遺跡 掘立柱建物跡 柱穴跡 属性表(6) SB36~42

| 遺跡番号 | 柱穴の中心座標(平面座標)と埋没深さ |       |      |      | 埋没深さ |        |        | 柱穴の形状 | 柱穴の埋没状況 | 柱穴の埋没状況 | 柱穴の埋没状況 |
|------|--------------------|-------|------|------|------|--------|--------|-------|---------|---------|---------|
|      | 平面座標               | 埋没深さ  | 埋没深さ | 埋没深さ | 埋没深さ | 埋没深さ   | 埋没深さ   |       |         |         |         |
| SB36 | P001               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P002               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P003               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P004               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P005               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P006               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P007               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P008               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P009               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P010               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
| SB37 | P011               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P012               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P013               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P014               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P015               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P016               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P017               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P018               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P019               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P020               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
| SB38 | P021               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P022               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P023               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P024               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P025               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P026               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P027               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P028               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P029               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P030               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
| SB39 | P031               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P032               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P033               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P034               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P035               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P036               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P037               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P038               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P039               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P040               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
| SB40 | P041               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P042               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P043               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P044               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P045               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P046               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P047               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P048               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P049               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |
|      | P050               | 10.00 | 30   | 28   | 18.0 | 埋没1.0m | 埋没1.0m | 18    | 15      | 15      | 埋没      |

●ピット(柱穴・小穴)類型

【柱穴型】

① 柱穴跡が柱穴の底面に保たれているもの

② 柱穴跡が柱穴の底面まで残っていないもの

③ 柱穴跡が柱穴の底面に保たれていないもの

【柱穴型・埋没の状況・埋没の状況】

■土色

1: 黒色 (10002/1) 2: 黒褐色 (10003/1) 3: 黒褐色 (10002/2) 4: 黒褐色 (10003/2) 5: 黒褐色 (10002/3) 6: 黒褐色 (10003/3) 7: 黒褐色 (10003/4) 8: 灰黒褐色 (10004/1) 9: 灰黒褐色 (10005/1) 10: 灰黒褐色 (10004/2) 11: 灰黒褐色 (10005/2) 12: 灰黒褐色 (10005/3) 13: 褐色 (10006/1) 14: 褐色 (10006/2) 15: 褐色 (10006/3) 16: 褐色 (10006/4) 17: 暗褐色 (10006/5) 18: 暗褐色 (10006/6) 19: 暗褐色 (10006/7) 20: 暗褐色 (10006/8) 21: 暗褐色 (10006/9) 22: 暗褐色 (10006/10) 23: 暗褐色 (10006/11) 24: 暗褐色 (10006/12) 25: 暗褐色 (10006/13)

■土質

A: シルト B: 粘質シルト C: 粘土質シルト

■埋没物

① 地山ブロック多く含む ② 地山ブロック含む ③ 地山ブロック少量含む ④ 地山ブロック微量含む ⑤ 地山粒子多く含む ⑥ 地山粒子少量含む ⑦ 地山粒子少量含む ⑧ 地山粒子微量含む ⑨ 土質(土) ⑩ 土質(土) ⑪ 土質(土) ⑫ 土質(土) ⑬ 土質(土) ⑭ 土質(土) ⑮ 土質(土) ⑯ 土質(土) ⑰ 土質(土) ⑱ 土質(土) ⑲ 土質(土) ⑳ 土質(土) ㉑ 土質(土) ㉒ 土質(土) ㉓ 土質(土) ㉔ 土質(土) ㉕ 土質(土) ㉖ 土質(土) ㉗ 土質(土) ㉘ 土質(土) ㉙ 土質(土) ㉚ 土質(土) ㉛ 土質(土) ㉜ 土質(土) ㉝ 土質(土) ㉞ 土質(土) ㉟ 土質(土) ㊱ 土質(土) ㊲ 土質(土) ㊳ 土質(土) ㊴ 土質(土) ㊵ 土質(土) ㊶ 土質(土) ㊷ 土質(土) ㊸ 土質(土) ㊹ 土質(土) ㊺ 土質(土) ㊻ 土質(土) ㊼ 土質(土) ㊽ 土質(土) ㊾ 土質(土) ㊿ 土質(土)

【記載例】

10a・10b・土色: 黒色 (10002/1)、土質: シルト、埋没物: 地山ブロック多く含む

●その他の記載事項

- 柱穴・ピットの形状
- (形状) は埋没状況を示す
- 柱穴・ピット形状の「埋土・埋土(埋没土)」記載事項
- 柱穴の場合は「掘方埋土」を省略する
- 「1層・2層」等の記載: 「柱穴・小穴」の埋没層が2層以上に分層した場合は「1層・2層」(柱穴は埋土の埋土・埋没土) 「掘方」: 掘方(掘方)の埋土・埋没土 「掘方」: 掘方(掘方)の埋土・埋没土 「掘方」: 掘方(掘方)の埋土・埋没土 「掘方」: 掘方(掘方)の埋土・埋没土
- 埋没物の記載事項
- 柱穴: 柱穴跡が保たれているもの、柱穴跡: 柱穴跡が保たれていないもの
- この他、埋没物・出土土物を記載



1. SB36～42 掘立柱建物跡 完掘状況 (上が北)



2. SB36・P629 断面 (東から)



3. SB37・P615 断面 (東から)



4. SB38・P618 断面 (北から)



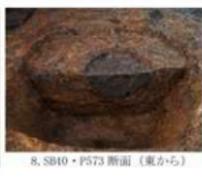
5. SB39・P624 断面 (東から)



6. SB39・P640 断面 (西から)



7. SB39・P643 断面 (東から)



8. SB40・P573 断面 (東から)



9. SB40・P584 断面 (東から)



10. SB40・P590 断面 (南から)



11. SB41・P553 断面 (東から)



12. SB41・P571 断面 (南から)



13. SB42・P563 断面 (南から)

第88図 SB36～42 掘立柱建物跡 (2)

### (3) 井戸跡

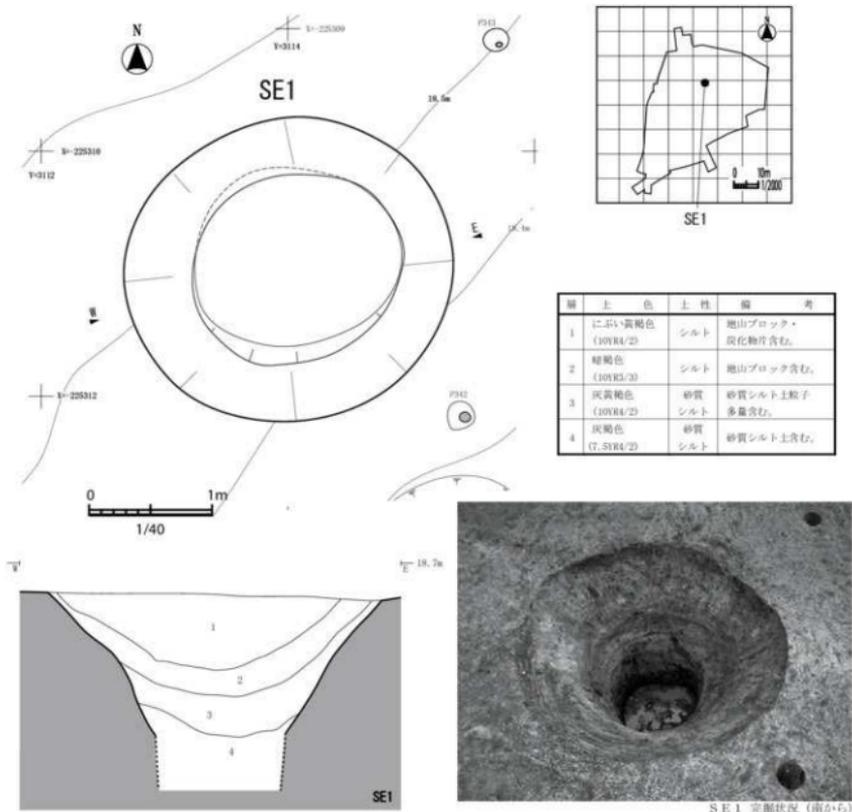
井戸跡 4 基を検出した。それぞれの特徴等については第 10 表にまとめた。

第10表 日向遺跡 井戸跡 属性表

| 遺構番号 | 平面形 | 規模 (m)    | 深さ (m) | 断面形 | 堆積土                              | 出土遺物                    | 備考                   |
|------|-----|-----------|--------|-----|----------------------------------|-------------------------|----------------------|
| SE 1 | 円形  | 2.65×2.45 | 1.40以上 | 漏斗形 | 1~3層:人為, 4層以下:自然                 | 瓦質土器                    | 遺物あり<br>4層以下流水のため未掘削 |
| SE 2 | 円形  | 1.40×1.35 | 3.00   | 円筒形 | 1~6層:人為, 7~10層:自然                | 竈窓器                     | 遺物あり                 |
| SE 3 | 円形  | 3.16×2.75 | 2.10以上 | 漏斗形 | 1~4:人為, 5~8:自然                   | 土師器・竈窓器<br>中世陶器         | 遺物あり<br>8層以下流水のため未掘削 |
| SE 4 | 円形  | 2.41×2.23 | 2.05   | 漏斗形 | 1~4:人為, 5~7:自然,<br>8~11:人為(層方埋む) | 縄文土器・土師器・竈窓器<br>中世陶器・漆器 | 井戸特有?                |

#### 【SE 1 井戸跡】(第 89 図)

調査区中央やや北側の標高 18.5m の平坦面に立地する。確認面はⅧd 層である。調査時、井戸内から湧水があり、井戸底面までの精査を行うことができなかった。素掘りの井戸で、平面形は長軸 2.65m、短軸 2.45m の円形を呈し、深さは 1.40m 以上、長軸方向の断面形は漏斗形である。堆積土は 4 層に分かれ、1~3 層は人為堆積(井戸埋戻土)、4 層は自然堆積である。遺物は、1 層から瓦質土器、近現代の陶磁器・ガラス片が出土した。



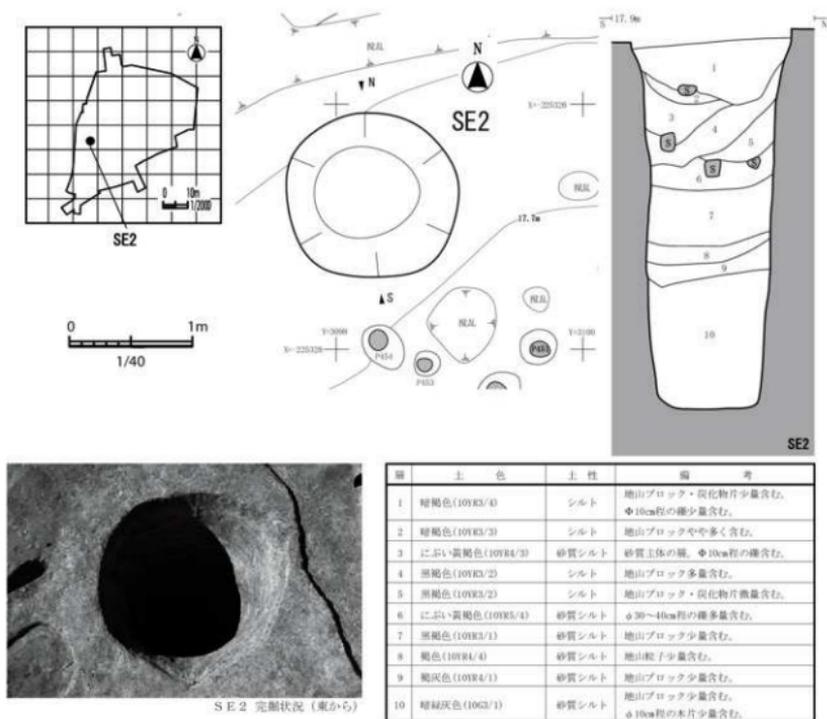
| 層 | 土色                  | 土性    | 備考             |
|---|---------------------|-------|----------------|
| 1 | にぶい黄褐色<br>(10YR4/2) | シルト   | 地山ブロック・炭化物片含む。 |
| 2 | 暗褐色<br>(10YR3/2)    | シルト   | 地山ブロック含む。      |
| 3 | 灰黄褐色<br>(10YR4/2)   | 砂質シルト | 砂質シルト土粒子多量含む。  |
| 4 | 灰褐色<br>(7.5YR4/2)   | 砂質シルト | 砂質シルト土含む。      |

第89図 SE 1 井戸跡

SE 1 完掘状況(雨から)

## 【SE2井戸跡】(第90図)

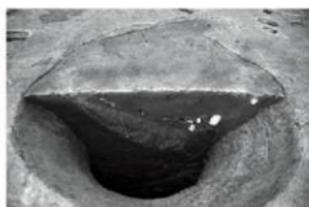
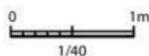
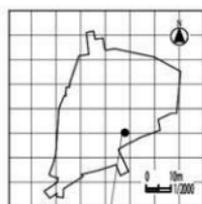
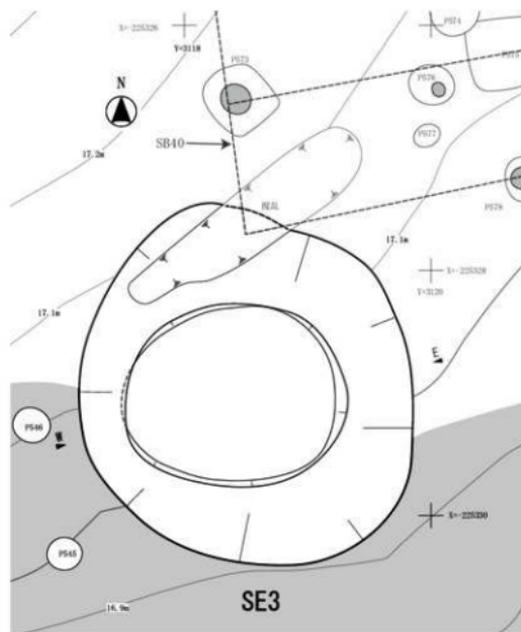
調査区南西の標高 17.8m の緩斜面に立地する。確認面は VIIa・b 層である。素掘りの井戸で、平面形は長軸 1.40m、短軸 1.35m の円形を呈し、深さは 3.0m、長軸方向の断面形は円筒形である。堆積土は 10 層に分かれ、1~6 層は人為堆積（井戸埋戻土）、7~10 層は自然堆積である。遺物は、10 層から須恵器甕片が出土した。



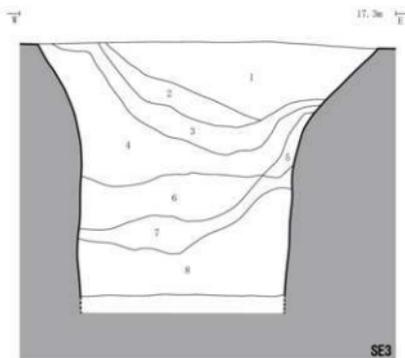
第90図 SE2 井戸跡

## 【SE3井戸跡】(第91・92図)

調査区南側の標高 17.1m の緩斜面に立地する。確認面は VIa・VIIc 層である。調査時、井戸内から湧水があり、井戸底面までの精査を行うことができなかった。素掘りの井戸で、平面形は長軸 3.16m、短軸 2.75m の円形を呈し、深さは 2.1m 以上、長軸方向の断面形は漏斗形である。堆積土は 8 層に分かれ、1~4 層は人為堆積（井戸埋戻土）、5~8 層は自然堆積である。遺物は、1・3 層（人為堆積土）からロゴロ成形の土師器杯・甕片、須恵器杯・甕片、中世陶器甕（第92図1~4）片が出土した。



SE3 断面 (南から)



SE3 完整状況 (南から)

| 層 | 土色              | 土性  | 備考                                 |
|---|-----------------|-----|------------------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色(10YR4/3) | シルト | 炭化物片・焼土粒子含む。Φ10~20cm程度の礎少量含む。      |
| 2 | 褐色(10YR4/0)     | シルト | 黒色土ブロック微量含む。                       |
| 3 | 暗褐色(10YR2/4)    | シルト | 褐色ブロック多量含む。                        |
| 4 | 暗褐色(10YR2/4)    | シルト | 地山(フロンク)の炭化物・焼土粒子少量含む。礫(珪石)の礫少量含む。 |
| 5 | 暗褐色(10YR2/2)    | シルト | 地山粒子(砂質シルト)少量含む。                   |
| 6 | 黒褐色(10YR2/2)    | シルト | 地山粒子(砂質シルト)少量含む。                   |
| 7 | 黒褐色(10YR2/2)    | シルト | 地山粒子(砂質シルト)ラミナ状に含む。                |
| 8 | 黒褐色(10YR2/1)    | シルト | 地山粒子(砂質シルト)ラミナ状に多量含む。              |

第91図 SE3 井戸跡(1)

SE3 井戸跡出土遺物



| No. | 層         | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【口部(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】  | 登録  |
|-----|-----------|------|----|------------|---|-----|
| 1   | SE3<br>1層 | 中世陶器 | 甕  | 口縁部<br>～頸部 | 外面：ナデ、内面：ナデ、色調：内外面・灰褐色(T.0184/2)、法量：器厚0.5～1.7cm、底地：白石窯                        | 1-1 |
| 2   | SE3<br>1層 | 中世陶器 | 甕  | 頸部         | 外面：ナデ、内面：磨滅のため不明、色調：外面・にぶい赤褐色(O185/4)、内面・明赤褐色(O185/6)、法量：器厚1.2～1.5cm、底地：白石窯   | 1-2 |
| 3   | SE3<br>3層 | 中世陶器 | 甕  | 頸部         | 外面：ナデ、内面：ナデ、色調：内外面・褐色(T.0184/1)、法量：器厚1.1～1.5cm、底地：白石窯                         | 1-3 |
| 4   | SE3<br>3層 | 中世陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ、内面：ナデ・オサエ、色調：外面・にぶい赤褐色(O185/4)、内面・にぶい赤褐色(O184/3)、法量：器厚1.1～1.4cm、底地：白石窯? | 1-4 |

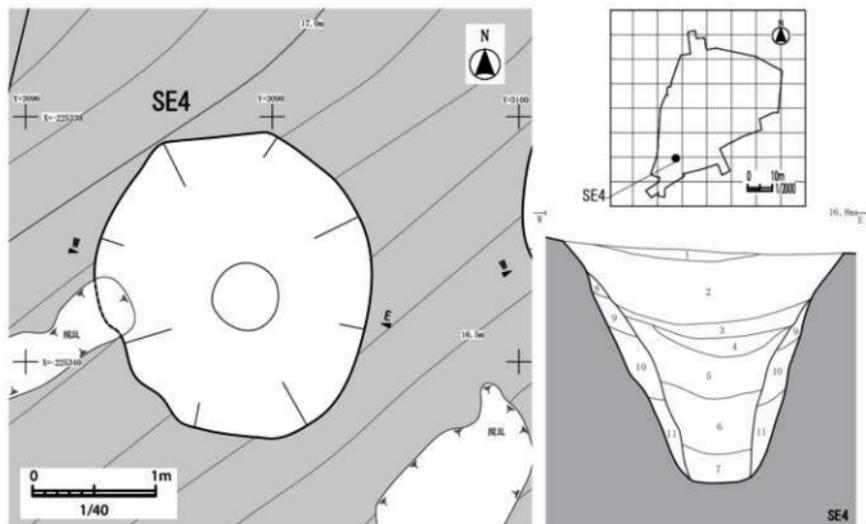
第92図 SE3 井戸跡(2)



日向道跡 作業風景

【SE4井戸跡】(第93・94図)

調査区南西の標高16.5～17.0mの緩斜面に立地する。確認面はVa・b層である。素掘りの井戸で、平面形は長軸2.41m、短軸2.23mの円形を呈し、深さは2.05m、長軸方向の断面形は漏斗形である。堆積土は11層に分かれ、1～4層は人為堆積(井戸埋戻土)、5～7層は自然堆積(井戸堆積土)、8～11層は井戸の掘方埋土(人為堆積)である。井戸枠は確認されなかったが、井戸掘方埋土(8～11層)と井戸堆積土(5～7層)の層面に木片・杭片が多く含まれており、本来は井戸枠を有した井戸であったと考えられる。遺物は、堆積土・5・6・8層の自然堆積土から縄文土器片、ロクロ成形の土師器甕片、須恵器壺・甕片、中世陶器甕(第94図1～3)・鉢(第94図4)片、井戸掘方埋土から漆器椀(第94図5)が出土した。

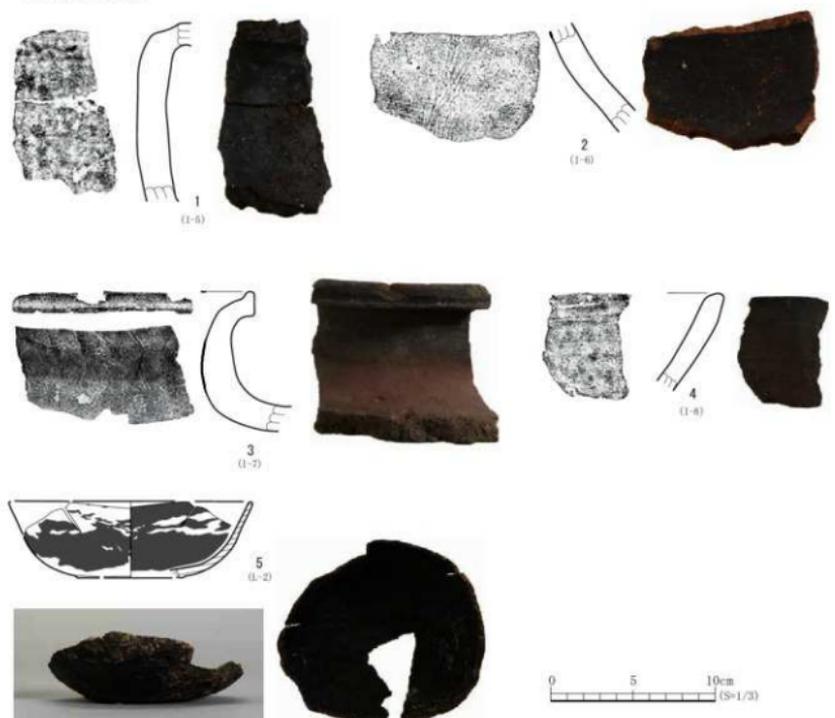


| 層  | 土色               | 土性  | 備考                         |
|----|------------------|-----|----------------------------|
| 1  | じぶい-黄褐色(10YR6/4) | シルト | 地山ブロック・地山粒子多量含む。黒色土ブロック含む。 |
| 2  | じぶい-黄褐色(10YR6/4) | シルト | 地山ブロック・地山粒子多量含む。           |
| 3  | 明黄褐色(10YR7/6)    | シルト | 地山ブロック・地山粒子多量含む。           |
| 4  | 浅黄褐色(10YR8/4)    | シルト | 地山ブロック・地山粒子多量含む。           |
| 5  | 黒褐色(10YR3/1)     | シルト | 炭化物片・焼土粒子少量含む。             |
| 6  | 黒褐色(10YR3/2)     | シルト | 炭化物片・焼土粒子少量含む。             |
| 7  | 黒褐色(10YR3/2)     | シルト | 地山ブロック中量含む。                |
| 8  | じぶい-黄褐色(10YR4/3) | シルト | 地山ブロック・小礫・炭化物片含む。掘方埋土。     |
| 9  | 暗褐色(10YR3/4)     | シルト | 地山ブロック中量含む。掘方埋土。           |
| 10 | 暗褐色(10YR3/3)     | シルト | 地山ブロック中量含む。掘方埋土。           |
| 11 | 黒褐色(10YR3/1)     | シルト | 地山ブロック中量含む。掘方埋土。           |

第93図 SE4 井戸跡(1)

SK4 完掘状況(南から)

## SE4 井戸跡出土遺物



| No. | 層           | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【表法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】                                    | 登録  |
|-----|-------------|------|----|------------|---|-----|
| 1   | SE4<br>5層   | 中世陶器 | 甕  | 頸部<br>～胴部  | 外面：ナツ、内面：ナツ、色調：内外面・灰色(S14/0)、法量：器厚1.4～2.0cm、底地：白石膏                        | 1-5 |
| 2   | SE4<br>6層   | 中世陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナツ、内面：ナツ、色調：外面・焼灰色(S14/1)、内面・灰褐色(T.51R4/2)、法量：器厚1.4～1.6cm、底地：白石膏       | 1-6 |
| 3   | SE4<br>6層   | 中世陶器 | 甕  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ナツ、内面：ナツ・オサエ、色調：外面・灰褐色(S14/2)、内面・褐色(T.51R4/3)、法量：器厚0.5～2.1cm、底地：白石膏    | 1-7 |
| 4   | SE4<br>地層上  | 中世陶器 | 鉢  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ナツ、内面：ナツ、色調：外面・灰褐色(T.51R4/2)、内面・焼灰色(S14/1)、法量：器厚1.0～1.3cm、底地：白石膏       | 1-8 |
| 5   | SE4<br>掘方用土 | 漆器   | 椀  | 口縁部<br>～底部 | 外面：黒色漆、内面：黒色漆、色調：内外面・黒色(S1.5/0)、法量：口径14.8cm・器高4.7cm・器台径6.7cm・器厚0.25～0.5cm | 1-2 |

第94図 SE4 井戸跡(2)

## (4) 土坑

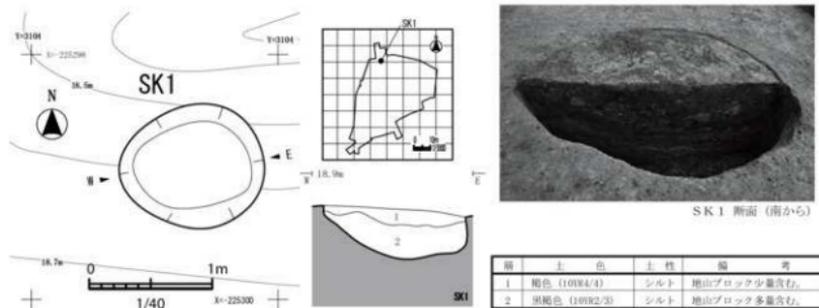
土坑 18 基を検出した。それぞれの特徴等については第 11 表にまとめた。

第 11 表 日向遺跡 土坑 属性表

| 遺構番号  | 平面形  | 規模<br>(m)     | 深さ<br>(cm) | 断面形 | 堆積土 | 出土遺物                             | 備考   |
|-------|------|---------------|------------|-----|-----|----------------------------------|--|
| SK 1  | 楕円形  | 1.10×0.90     | 40         | U字形 | 自然  | 土師器                              | —  |
| SK 2  | 楕円形  | 0.60×0.45     | 10         | 皿状  | 人為  | —                                | —  |
| SK 3  | 円形   | 0.60×0.60     | 30         | U字形 | 人為  | —                                | —  |
| SK 4  | 不整形  | 0.85×0.74     | 12         | 逆台形 | 自然  | 土師器・須恵器                          | —  |
| SK 5  | 楕円形  | 1.26×0.73     | 45         | 不整形 | 人為  | 弥生土器・土師器・須恵器                     | P558、S842・P559より古い、<br>底面凹凸。                           |
| SK 6  | 楕円形  | 0.77×0.34     | 23         | 皿状  | 自然  | 土師器                              | —  |
| SK 7  | 円形   | 1.87×1.67     | 34         | 皿状  | 人為  | 土師器<br>須恵器<br>鉄滓                 | S833・P521より古い。<br>S13より新しい。底面凹凸。<br>南端中央付近に横溝有。        |
| SK 8  | 楕円形  | 0.71×0.57     | 7          | 皿状  | 自然  | 土師器・須恵器                          | —  |
| SK 9  | 円形   | 1.52×1.50     | 56         | U字形 | 自然  | 土師器・須恵器・鉄滓                       | S14より新しい。  |
| SK 10 | 不整形  | 1.30×0.80     | 49         | 不整形 | 自然  | —                                | 底面凹凸。  |
| SK 11 | 楕円形  | 1.20×0.75     | 36         | U字形 | 人為  | 土師器・須恵器                          | S11より古い。<br>S12より新しい。                                  |
| SK 12 | 長楕円形 | 1.13以上×1.06   | 27         | 不整形 | 人為  | 土師器                              | P467、P468、S835・P469、<br>S31より古い。<br>S11より新しい。<br>底面凹凸。 |
| SK 13 | 楕円形? | (0.50)×0.50   | 10         | 皿状  | 人為  | 土師器                              | S815、S31より古い。<br>S11より新しい。                             |
| SK 14 | 楕円形  | 0.99×0.72     | 15         | 皿状  | 人為  | 土師器・須恵器                          | —  |
| SK 15 | 方形   | 0.67×0.56以上   | 9          | 皿状  | 自然  | 土師器                              | P470、P471、P472より古い。<br>S813、S11より新しい。                  |
| SK 16 | 円形?  | (1.50)×(1.40) | 72         | 逆台形 | 自然  | —                                | S817より古い。  |
| SK 17 | 不整形  | 4.78×2.00     | 35         | 皿状  | 自然  | 土師器・須恵器・中世陶器<br>漆器・鉄滓            | S836より新しい。   |
| SK 18 | 隅丸方形 | (2.90)×(1.98) | 25         | 逆台形 | 人為  | 縄文土器・弥生土器<br>土師器・須恵器<br>鉄滓・不定形瓦器 | S17より新しい。<br>南端中央付近に横溝有。                               |

## 【SK1土坑】(第95図)

調査区北側の標高 18.6m の緩斜面に立地する。確認面は VIIc 層である。平面形は、長軸 1.10m、短軸 0.90m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 40cm である。長軸方向の断面形は U 字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層で、自然堆積である。遺物は 1 層からロクロ成形の土師器破片が出土した。

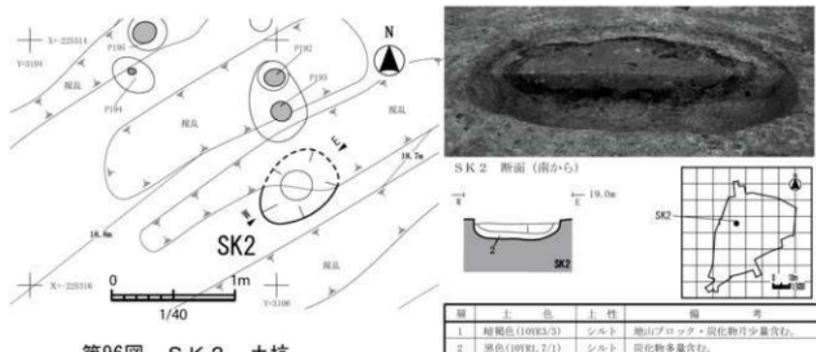


第 95 図 SK 1 土坑

| 層 | 土色            | 土性  | 備考          |
|---|---------------|-----|-------------|
| 1 | 褐色 (10YR4/4)  | シルト | 地山ブロック少量含む。 |
| 2 | 黒褐色 (10YR2/3) | シルト | 地山ブロック多量含む。 |

【SK2土坑】(第96図)

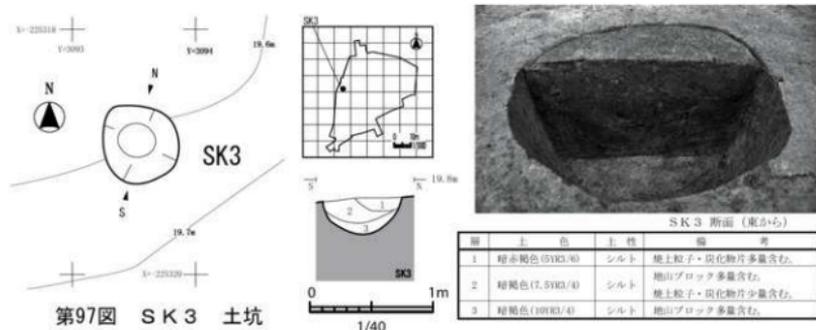
調査区中央の標高 18.7m の平坦面に立地する。確認面はVIIc 層である。土坑北東部分は後世の攪乱(如畝跡)により一部削平を受けている。平面形は、長軸 0.65m、短軸 0.45m の東西方向に長軸をもつ長方形を呈し、深さは 10cm である。長軸方向の断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積で、底面付近には炭化物片が多量に含まれていた。酸化面は認められないが、焼成遺構の可能性が考えられる。遺物は出土していない。



第96図 SK2 土坑

【SK3土坑】(第97図)

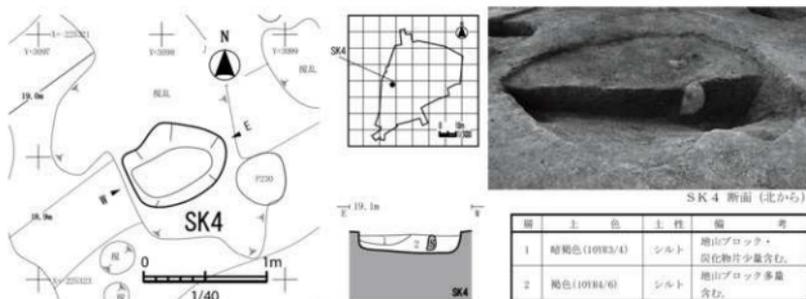
調査区中央西端の標高 19.6m の平坦面に立地する。確認面はVIIa 層である。平面形は、直径 0.6m の円形を呈し、深さは 30cm である。断面形はU 字形で、底面は中央付近が窪む。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は出土していない。



第97図 SK3 土坑

【SK4土坑】(第98図)

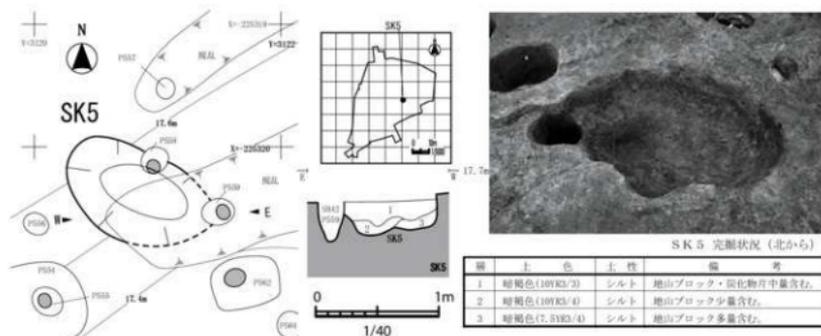
調査区中央西側の標高 18.9m の南緩斜面に立地する。確認面はVIIc 層である。平面形は、長軸 0.85m、短軸 0.74m の東西方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは 12cm である。長軸方向の断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は、遺構検出面からロクロ成形の土師器坏(内黒処理)片・甕片、1 層から土師器甕片、須恵器甕片が出土した。



第98図 SK4 土坑

【SK5土坑】(第99図)

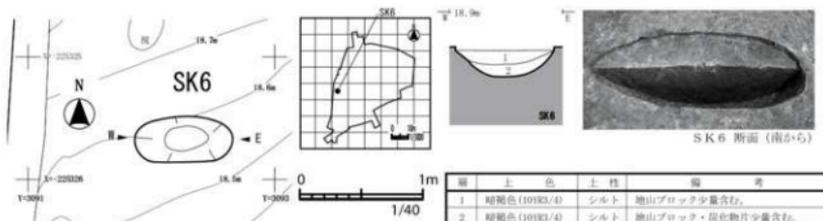
調査区中央の標高 17.6m の平坦面に立地する。確認面はVII d 層である。SB42・P559、P558 と重複し、これらより古い。土坑南東部分は後世の攪乱(畑畝跡)により一部削平を受けている。平面形は、長軸 1.26m、短軸 0.73m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 45cm である。長軸方向の断面形は不整形で、底面には凹凸がある。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は、堆積土から平行沈線が施された弥生土器片、ロクロ成形の土師器坏(内黒処理)片・甕片、須恵器甕片が出土した。



第99図 SK5 土坑

【SK6土坑】(第100図)

調査区中央西端の標高 18.6mの南緩斜面に立地する。確認面はVIIc層である。平面形は、長軸 0.77m、短軸 0.34mの東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 23cmである。断面形は皿状で、底面は中央部がやや窪む。堆積土は 2層で、自然堆積である。遺物は、堆積土からロクロ成形の土師器甕片が出土した。



第100図 SK6 土坑

【SK7土坑】(第101図)

調査区中央の標高 17.5mの平坦面に立地する。確認面はVIIIb層である。土坑北西部の一部は後世の攪乱により削平を受けている。SI3、SB33・P521と重複し、SB33・P521より古く、SI3より新しい。平面形は、長軸 1.87m、短軸 1.67mの南北方向に長軸をもつ円形を呈し、深さは 34cmである。長軸方向の断面形は皿状で、底面には凹凸がある。中央西端の底面から壁面にかけて焼面が認められることから、焼成遺構である可能性が考えられる。堆積土は 4層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は、1~4層からロクロ成形の土師器杯(黒色処理・赤焼土器)片・甕片、須恵器蓋・壺片、鉄滓が出土した。

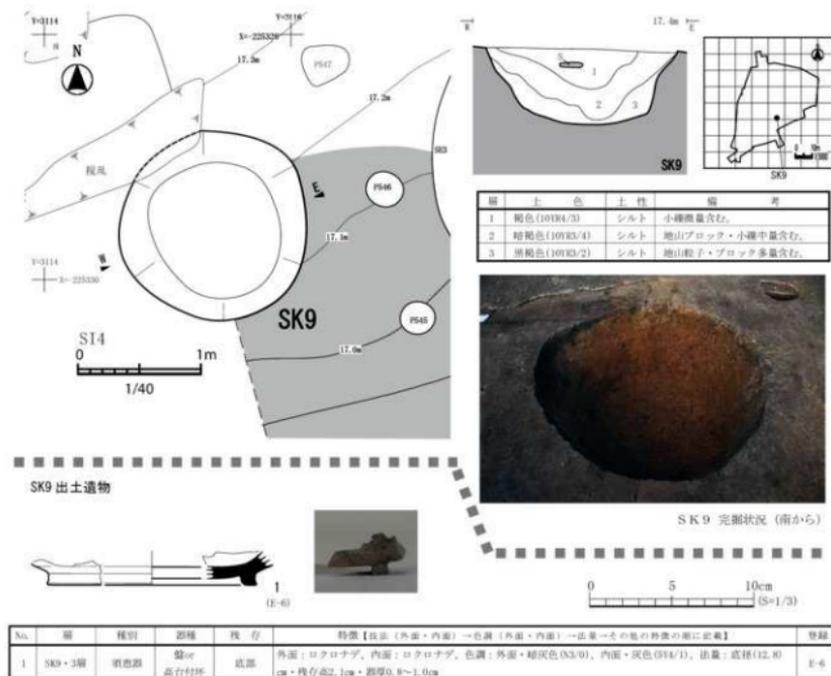
【SK8土坑】(第101図)

調査区中央やや北寄りの標高 17.2mの平坦面に立地する。平面形は、長軸 0.71m、短軸 0.57mの東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 7cmである。長軸方向の断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 1層で、自然堆積である。遺物は、1層からロクロ成形の土師器甕片、須恵器甕片が出土した。

【SK9土坑】(第102図)

調査区中央やや南寄りの標高 17.2mの南緩斜面に立地する。確認面はVIa・VIIIb層である。SI4と重複し、これより新しい。平面形は、長軸 1.52m、短軸 1.50mの円形を呈し、深さは 58cmである。断面形はU字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は、1~3層からロクロ成形の土師器杯(赤焼土器)片・甕片、須恵器盤もしくは高台付坏片(第102図1)、鉄滓が出土した。

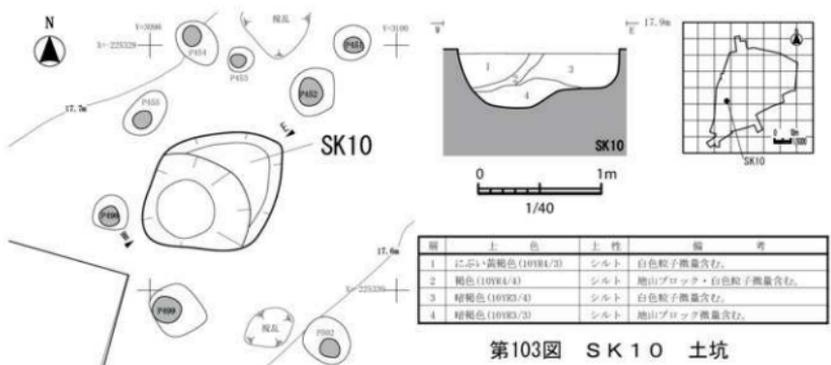




第102図 SK 9 土坑

【SK10土坑】(第103図)

調査区中央やや西寄りの標高17.6~17.7mの南緩斜面に立地する。確認面はVIIb層である。平面形は、長軸1.30m、短軸0.80mの東西方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは49cmである。長軸方向の断面形は不整形で、底面には凹凸がある。堆積土は4層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



第103図 SK 10 土坑

**【SK11 土坑】** (第 104 図)

調査区南西の標高 17.7m の平坦面に立地する。確認面は SI2 検出面である。SI1・2 と重複し、SI1 より古く、SI2 より新しい。平面形は、長軸 1.20m、短軸 0.75m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 36cm である。長軸方向の断面形は U 字形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は、堆積土からロクロ成形の土師器甕片・須恵器壺片が出土した。

**【SK12 土坑】** (第 104 図)

調査区南西の標高 17.7m の平坦面に立地する。確認面は VIa・VIIa 層である。土坑西側は調査区外に延びている。SI2、SB35・P469、SX1、P467・468 と重複し、SB35・P469、SX1、P467・468 より古く、SI1 より新しい。平面形は、長軸 1.13m 以上、短軸 1.06m の東西方向に長軸をもつ長楕円形を呈すると考えられ、深さは 27cm である。長軸方向の断面形は不整形で、底面には凹凸がある。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は、2 層からロクロ成形の土師器杯（内黒処理）片・甕片が出土した。

**【SK13 土坑】** (第 104 図)

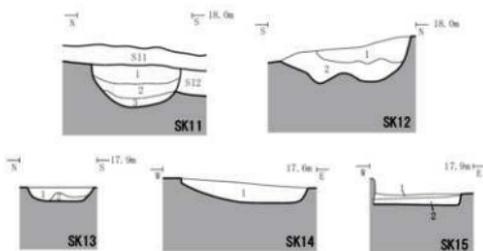
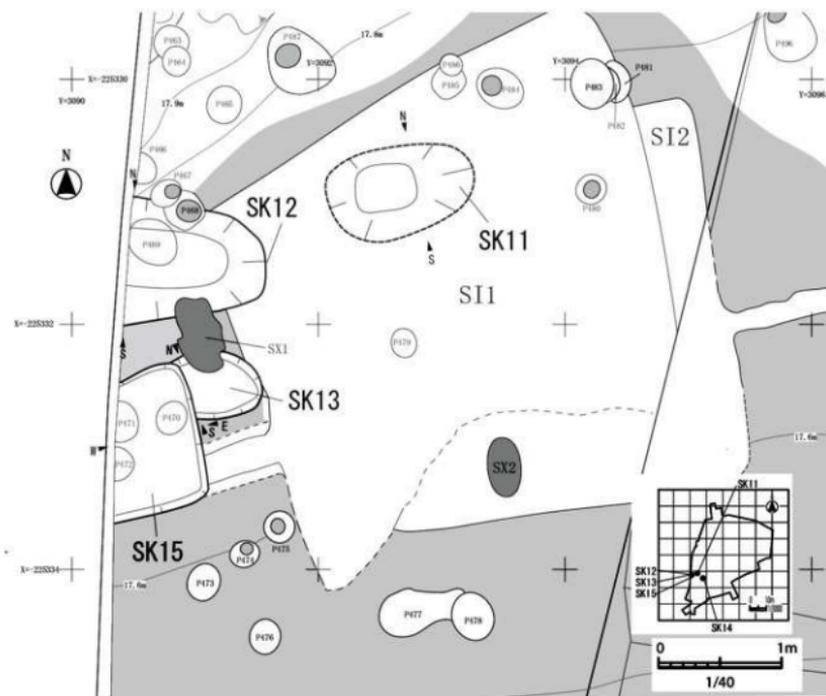
調査区南西の標高 17.7m の平坦面に立地する。確認面は VIa 層である。SI1、SK15、SX1 と重複し、SK15、SX1 より古く、SI1 より新しい。平面形は、長軸 0.55m 以上、短軸 0.55m の楕円形を呈すると考えられ、深さは 10cm である。長軸方向の断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層で、いずれも人為堆積である。遺物は、1 層からロクロ成形の土師器甕片が出土した。

**【SK14 土坑】** (第 104 図)

調査区南西の標高 17.5m の平坦面に立地する。確認面は VIa 層である。平面形は、長軸 0.99m、短軸 0.72m の東西方向に長軸をもつ楕円形を呈し、深さは 15cm である。長軸方向の断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 1 層で、人為堆積である。遺物は、堆積土からロクロ成形の土師器杯（内黒処理）片・甕片、須恵器甕片が出土した。

**【SK15 土坑】** (第 104 図)

調査区南西の標高 17.7m の平坦面に立地する。確認面は VIa 層である。土坑西側は調査区外に延びている。SI1、SK13、P470・471・472 と重複し、P470・471・472 より古く、SI1、SK13 より新しい。平面形は、長軸 0.67m、短軸 0.56m 以上の方形を呈すると考えられ、深さは 9cm である。長軸方向の断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は、1・2 層からロクロ成形の土師器杯（内黒処理）片・甕片が出土した。



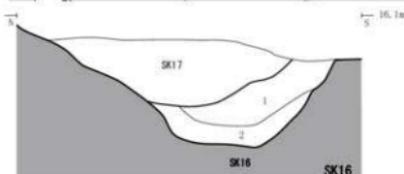
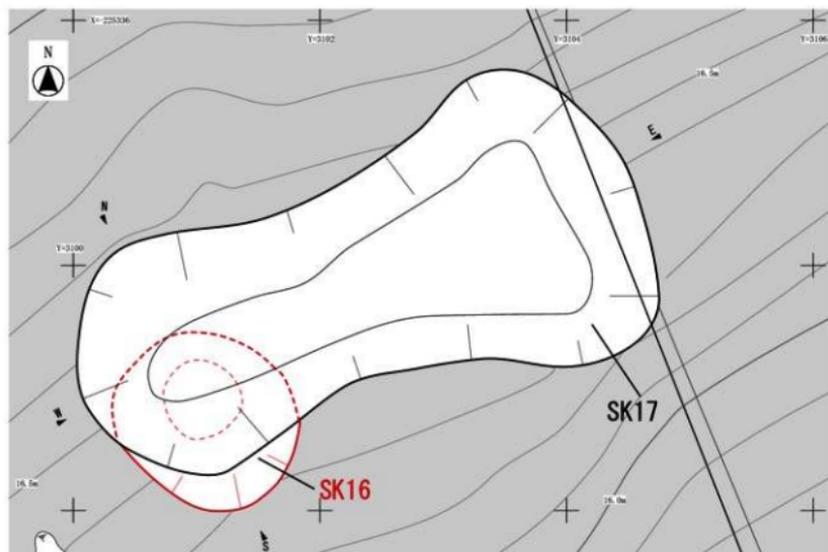
| 遺構名  | 層 | 土色            | 土性  | 備考                 |
|------|---|---------------|-----|--------------------|
| SK11 | 1 | 暗褐色(10YR3/3)  | シルト | 糖土粒子・炭化物片・小礫微量含む。  |
|      | 2 | 暗褐色(10YR3/4)  | シルト | 地山ブロック・糖土ブロック微量含む。 |
|      | 3 | 暗褐色(10YR3/3)  | シルト | 地山ブロック中量含む。        |
| SK12 | 1 | 暗褐色(10YR3/3)  | シルト | 地山ブロック微量含む。        |
|      | 2 | 暗褐色(10YR3/4)  | シルト | 地山ブロック少量含む。        |
| SK13 | 1 | 黒褐色(10YR3/2)  | シルト | 地山ブロック・炭化物片微量含む。   |
|      | 2 | 暗褐色(10YR3/3)  | シルト | 地山ブロック多量含む。        |
| SK14 | 1 | 暗褐色(7.5YR3/3) | シルト | 糖土ブロック・炭化物片中量含む。   |
| SK15 | 1 | 黒褐色(10YR3/2)  | シルト | 地山ブロック・炭化物片微量含む。   |
|      | 2 | 暗褐色(10YR3/3)  | シルト | 地山ブロック・炭化物片微量含む。   |



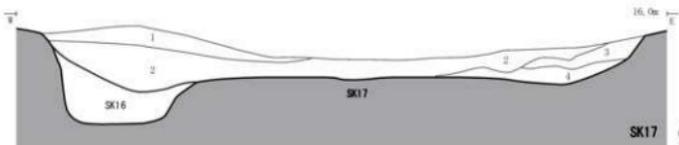
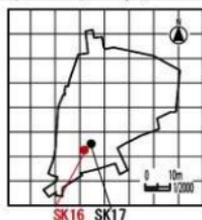
第104図 SK11～15 土坑

【SK16土坑】(第105図)

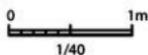
調査区南側の標高 16.4m の南緩斜面に立地する。確認面は Va・b 層である。SK17 と重複し、これより古い。平面形は、長軸 1.53m、短軸 1.40m の南北方向に長軸をもつ円形を呈し、深さは 72cm である。長軸方向の断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は 2 層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。



| 層 | 土色           | 土性     | 備考                   |
|---|--------------|--------|----------------------|
| 1 | 黒褐色(10YR3/1) | 粘土質シルト | 約 5mm~2cm 程度の砂礫少量含む。 |
| 2 | 黒褐色(10YR3/1) | 粘土質シルト | 流れ込みの砂礫少量含む。         |



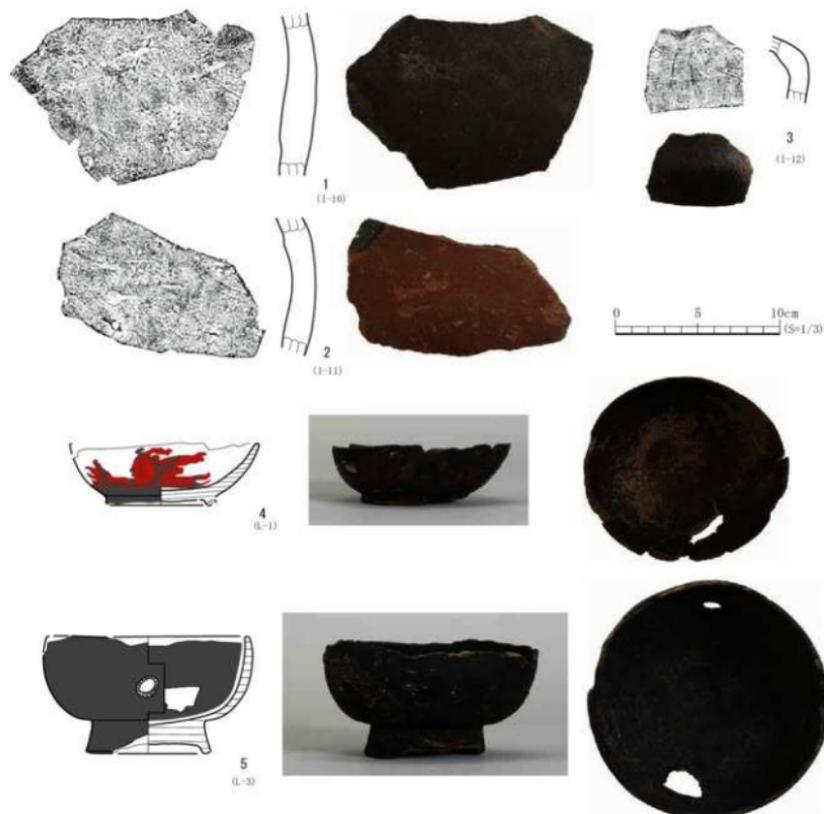
| 層 | 土色           | 土性     | 備考                    |
|---|--------------|--------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色(10YR3/2) | 粘土質シルト | 崩出砂子・砂礫微量含む。          |
| 2 | 黒褐色(10YR2/2) | 粘土質シルト | 炭化物片少量含む。底面に砂礫多量含む。   |
| 3 | 暗褐色(10YR3/2) | 粘土質シルト | 崩出ブロック多量含む。底面に砂礫多量含む。 |
| 4 | 黒褐色(10YR3/2) | 粘土質シルト | 崩出ブロック少量含む。底面に砂礫少量含む。 |



第105図 SK16 土坑  
第106図 SK17 土坑(1)

【SK17土坑】(第106・107図)

調査区南側の標高16.4mの南緩斜面に立地する。確認面はVa・b層である。SK16と重複し、これより新しい。平面形は、長軸4.78m、短軸2.00mの東西方向に長軸をもつ不整形を呈し、深さは55cmである。長軸方向の断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分かれ、いずれも自然堆積である。遺物は、堆積土から非ロクロ成形土師器坏片、ロクロ成形の土師器甕片、須恵器坏・甕片、中世陶器甕片(第107図1~2)・小型壺片(第107図3)、漆器碗(第107図5)、鉄滓、底面からロクロ成形の土師器甕片、須恵器甕片、漆器碗(第107図4)が出土した。

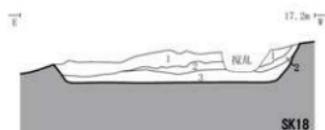
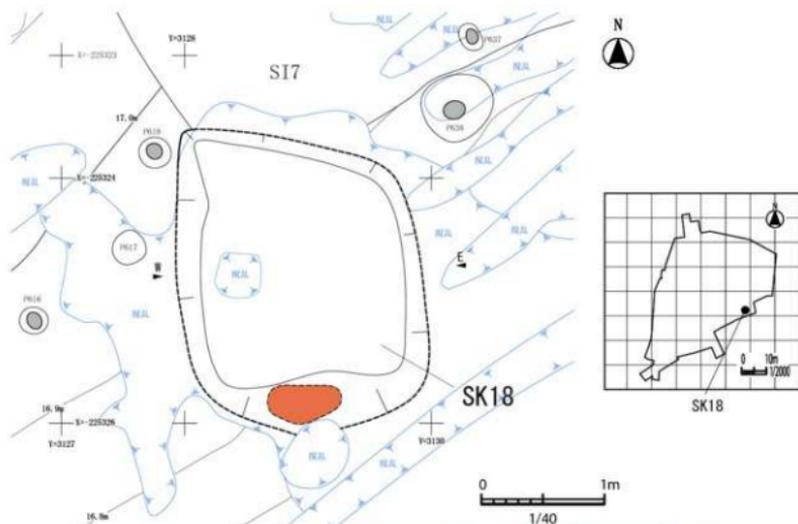


| No. | 層           | 種別   | 器種  | 残存         | 特徴【注記(外面・内面)→色調(外面・内面)→位置→その他の特徴の順に記載】  | 図録   |
|-----|-------------|------|-----|------------|---|------|
| 1   | SK17<br>層積土 | 中世陶器 | 甕   | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサス、色調：外面・黒灰色(109R4/1)、内面→赤褐色(2.50R4/4)、法量：器厚1.5~2.0cm、産地：白石窯   | 1-10 |
| 2   | SK17<br>層積土 | 中世陶器 | 甕   | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：内外面→濃い赤褐色(2.50R4/4)、法量：器厚1.5~1.7cm、産地：白石窯  | 1-11 |
| 3   | SK17<br>層積土 | 中世陶器 | 小型壺 | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサス、色調：外面・暗赤灰色(2.50R3/1)、内面→黒褐色(50R3/1)、法量：器厚0.9~1.3cm、産地：白石窯   | 1-12 |
| 4   | SK17        | 漆器   | 碗   | 口縁部<br>~底面 | 外面：黒色漆・漆絵(草花?)、内面：赤色漆、色調：外面→黒色(N1.5/0)/暗赤褐色(2.50R4/4)、内面→暗赤褐色(2.50R2/3)、法量：口径(11.6)cm・器高3.8cm・高台径(6.4)cm・器厚0.3~0.7cm、積木取付 | 1-1  |
| 5   | SK17<br>1層  | 漆器   | 碗   | 口縁部<br>~底面 | 外面：赤色漆(少量)、内面：赤色漆(少量)、色調：内外面→黒色(N1.5/0)、法量：口径12.8cm・器高7.2cm・高台径7.5cm・器厚0.3~1.6cm、蓋遺欠、積木取付                                 | 1-3  |

第107図 SK17 土坑(2)

## 【SK18土坑】(第108・109図)

調査区南東端の標高 16.9m の平坦面に立地する。確認面は VIIc・d 層である。SI7 と重複し、これより新しい。土坑の上面は後世の掘乱により削平を受けている。平面形は、長軸 2.50m、短軸 1.98m の南北方向に長軸をもつ隅丸方形を呈し、深さは 25cm である。短軸方向の断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。土坑南壁面に焼面が認められることから、焼成遺構である可能性が考えられる。堆積土は 3 層に分かれ、いずれも人為堆積である。遺物は、堆積土から縄文土器片、平行沈線が施された弥生土器片、ロコロ成形の土師器坏片(第109図1・2)・甕片(第109図3)、須恵器坏片・壺片・甕片(第109図4・5)、不定形石器(第109図6)、鉄滓が出土した。

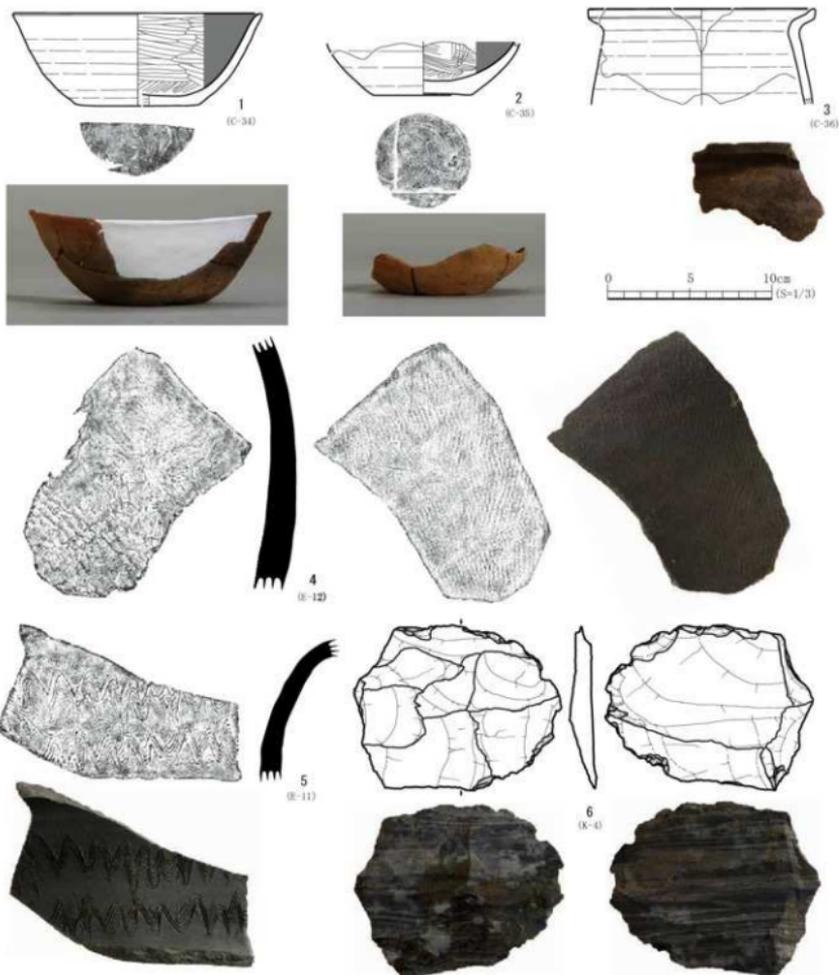


| 層 | 土色                  | 土性  | 備考                       |
|---|---------------------|-----|--------------------------|
| 1 | にぶい黄褐色<br>(10YR5/4) | シルト | 地山ブロック多量含む。              |
| 2 | 褐色(10YR4/3)         | シルト | 炭化物片少量含む。<br>地山ブロック少量含む。 |
| 3 | 灰黄褐色(10YR4/2)       | シルト | 地山ブロック少量含む。              |



SK18 完形状況(南から)

第108図 SK18 土坑(1)



| No. | 層           | 種別    | 器種 | 残存         | 特徴【技法(外面・内面)→色塗(外面・内面)→法製→その他の特徴の順に記載】  |       |      |     | 登録  |
|-----|-------------|-------|----|------------|---|-------|------|-----|-----|
|     |             |       |    |            | 形状  | 寸法    | 重量   | 備考  |     |
| 1   | SK18<br>地層上 | 土師器   | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面:ロクロナデ・底部回転車切り→両縁部手持りへく削り再調整。内面:へらミダキ・黒色焼理。色塗:外面・灰黄褐色(10YR5/2)。内面:黒色(5Y2/0)。法量:口径13.0cm・器高3.3cm・直径7.6cm・器厚0.4～0.7cm | C-34  |      |     |     |
| 2   | SK18<br>地層上 | 土師器   | 杯  | 胴部<br>～底部  | 外面:ロクロナデ・底部回転車切り無調整。内面:へらミダキ・黒色焼理。色塗:外面:にじみ褐色(7.5YR6/4)。内面:黒色(5Y2/0)。法量:直径5.9cm・残存高3.3cm・器厚0.3～0.8cm                  | C-35  |      |     |     |
| 3   | SK18<br>地層上 | 土師器   | 甕  | 口縁部<br>～胴部 | 外面:ロクロナデ。内面:ロクロナデ。色塗:外面・灰黄褐色(10YR4/2)。内面:にじみ褐色(7.5YR6/4)。法量:口径13.8cm・残存高5.9cm・器厚0.4～0.7cm                             | C-36  |      |     |     |
| 4   | SK18<br>地層上 | 須恵器   | 甕  | 胴部         | 外面:平行タタキ。内面:同心内当て具一格子タタキ。色塗:内外面・黄灰色(5Y5/1)。法量:器厚1.0～1.2cm。E-02と同じ個体小?   | E-12  |      |     |     |
| 5   | SK18<br>地層上 | 須恵器   | 甕  | 胴部         | 外面:ロクロナデ・波状文。内面:ロクロナデ。色塗:外面・灰色(10Y4/1)。内面・灰色(7.0Y5/1)。法量:器厚1.0～1.2cm。E-02と同じ個体小?                                      | E-11  |      |     |     |
| No. | 層           | 器種    | 石打 | 残存部位       | 法量(mm・g)  |       |      | 備考  | 登録  |
|     |             |       |    |            | 長さ  | 幅     | 厚さ   |     |     |
| 6   | SK18・地層上    | 不定形石器 | 軟石 | 定形         | 10.10   | 12.58 | 1.66 | 200 | K-4 |

第109図 SK18 土坑(2)

### (5) 焼成遺構

焼成遺構 3 基を検出した。

#### 【SX1 焼成遺構】(第110図)

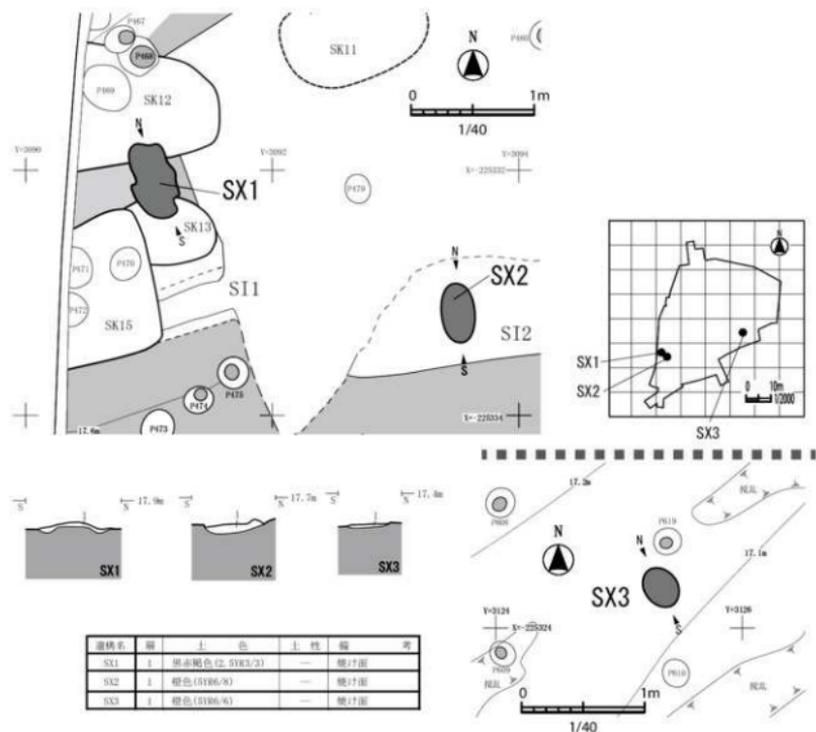
調査区南西の標高 17.7m の平坦面に立地する。確認面はVIa 層である。SK12・13 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 58cm、短軸 31cm の不整形を呈する焼成遺構で、掘方は認められなかった。被熱は深さ 2cm 下まで及んでいた。

#### 【SX2 焼成遺構】(第110図)

調査区南西の標高 17.6m の平坦面に立地する。確認面はSI2 検出面である。SI2 と重複し、これより新しい。平面形は長軸 48cm、短軸 26cm の楕円形を呈する焼成遺構で、掘方は認められなかった。被熱は深さ 6cm 下まで及んでいた。

#### 【SX3 焼成遺構】(第110図)

調査区南西の標高 17.1m の平坦面に立地する。確認面はVIIc 層である。平面形は長軸 31cm、短軸 27cm の円形を呈する焼成遺構で、掘方は認められなかった。被熱は深さ 2~3cm 下まで及んでいた。



第110図 SX1~3 焼成遺構

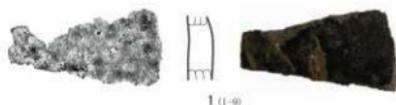
## (6)ピット

ピットには、柱痕跡が認められる「柱穴跡」と、柱痕跡が認められない「小穴跡」がある。このうち、本項で報告する「柱穴」は、本来は掘立柱建物や柱穴列などを構成する柱穴跡であったと考えられるが、現地調査・整理作業段階において、これらを構成する建物跡を認定することができなかったため、ここではピットとして報告することとした。

ピットは、323個検出した(第9～10図)。確認面はVa・b、Via、VIIa～d層である。なお、それぞれの規模、柱痕跡の有無、堆積土・埋土、重複関係等の特徴については、第12-1～3表にまとめた。ピットは、長軸10～80cm、短軸7～54cmの円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形・不整形を呈し、深さは3～51cmである。検出した323個のうち、141個で直径5～33cmの円形・楕円形の柱痕跡を確認した。これらのピットは、調査区ほぼ全域に分布するが、特に標高17～19mの丘陵頂部から南緩斜面の掘立柱建物跡分布域内で認められた。

遺物は、P1から縄文土器、P45・88・139・143・268・279・299・332・455・471・472・475・478・503・527・538・539・549・558・574・604・617・631からロクロ成形の土師器片、P209からロクロ成形の土師器片・須恵器片・鉄滓、P476・506から土師器片・須恵器片・鉄滓、P310・372・493・537から須恵器片、P130から鉄滓、P464の中世陶器、P496から縄文土器・ロクロ成形の土師器片が出土した(第13-2表参照)。このうち図示できたものは、P464出土の中世陶器甕片(第111図1)、P476出土の須恵器壺頸破片(第111図2)である。

P464 出土遺物

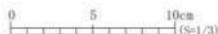


1 (1-9)

P476 出土遺物



2 (E-13)



| No. | 層           | 種別   | 器種  | 残存 | 特徴【表土(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他特徴の順に記載】                                   | 登録   |
|-----|-------------|------|-----|----|---|------|
| 1   | P464<br>埋積土 | 中世陶器 | 甕   | 胴部 | 外面：不明、内面：ナグ・オヤエ、色調：外面・オリーブ褐色(103/1)、内面・靑灰色(2004/1)、法量：器厚1.1～1.5cm、産地：不明 | E-9  |
| 2   | P476        | 須恵器  | 壺頸? | 胴部 | 外面：ロクロナグ、内面：ロクロナグ、色調：内外面・靑灰色(1016/1)、法量：器厚0.5～0.6cm                     | E-13 |

第111図 Pit 出土遺物 -P464・476-







## (7) その他の出土遺物

### ①基本層出土遺物

調査区南端の標高 15.0～17.7m の南斜面に堆積する基本層Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層に比較的多くの遺物が含まれていたことから、この分布範囲を遺物包含層と認識し調査を行った。遺物包含層は、東西約 40m・南北約 20m の範囲に分布する。調査にあたっては、遺物包含層と認識された範囲にサブトレンチ (T-7～9) を設定し (第 7 図)、土層断面で包含層の基本層序を確認した後、各層ごとに掘削を行い、遺物の取り上げを行った。

遺物は、Ⅲ層から 641 点 (14,385g)、Ⅳ層から 353 点 (7,345g)、Ⅳ・Ⅴ層から 241 点 (3,560g) Ⅴ層から 4,216 点 (58,082g)、Ⅴ層・Ⅵ層から 1 点 (140g)、Ⅵ層から 1,223 点 (13,787g)、合計 6,675 点 (97,299g) 出土した。遺物の出土状況から、集落が存在する北側平坦面・緩斜面側から流入または遺棄され、堆積したものと考えられる。以下、各層から出土した遺物の概要について示す (基本層Ⅲ～Ⅵ層の詳細については、第三章 1 を参照のこと)。

なお、上記の記載の中で、遺物の出土層位が複数の層位にまたがるもの (Ⅳ・Ⅴ層、Ⅴ・Ⅵ層) については、サブトレンチ掘削時に出土し、層位決定前に取り上げた遺物で、出土層位が限定できなかった遺物である。

#### 【基本層Ⅲ層出土遺物】 (第 112～114 図)

Ⅲ層からは、弥生土器 1 点、土師器 501 点、須恵器 99 点、中世陶器 15 点、羽口 1 点、鉄滓 25 点出土した。このほか、近世以降の磁器も含まれていた。このことから、Ⅲ層は近世以降の堆積した層であると考えられる。

弥生土器は、平行沈線が施された壺または甕の胴部破片で、弥生時代中期後半の十三塚式のものである。土師器は、非ロクロ成形のものが 5 点、ロクロ成形のものが 496 点出土し、出土器種については、非ロクロ成形のものには有段坏・高坏、ロクロ成形のものに坏 (内黒処理・赤焼)・高台付坏・甕がある。須恵器には、坏・高台付坏・蓋・鉢・壺・甕がある。中世陶器は鉢・甕が出土した。

このうち図示できたものは、土師器坏 (第 112 図 1～3)、須恵器坏 (第 112 図 4)・蓋 (第 112 図 5)・鉢 (第 112 図 6)・甕 (第 112 図 7・8)、中世陶器甕 (第 113 図 9・11・13～20)・鉢 (第 113 図 10・12)、羽口 (第 113 図 21) である。

#### 【基本層Ⅳ層出土遺物】 (第 115・117・128 図)

Ⅳ層からは、土師器 275 点、須恵器 64 点、中世陶器 6 点、瓦質土器 3 点、鉄滓 4 点、石器 1 点、出土した。出土遺物の年代からⅣ層は中世～近世にかけて堆積した層であると考えられる。

土師器は、非ロクロ成形のものが 62 点、ロクロ成形のものが 213 点出土し、出土器種については、非ロクロ成形のものには有段坏・高坏・甕、ロクロ成形のものに坏 (内黒処理・赤焼)・高台付坏・甕がある。須恵器には、坏・盤・蓋・壺・甕がある。中世陶器は甕、瓦質土器は摺鉢が出土した。

このうち図示できたものは、土師器坏 (第 115 図 22)・高台付坏 (第 115 図 23)・甕 (第 115 図 24・25)、須恵器坏 (第 115 図 26)・盤 (第 115 図 27)・甕 (第 115 図 28)、中世陶器甕 (第 115 図 29～34)、砥石 (第 128 図 131) である。

#### 【基本層Ⅳ・Ⅴ層出土遺物】（第116・117図）

Ⅳ・Ⅴ層からは、土師器224点、須恵器11点、中世陶器6点出土した。

土師器は、非ロクロ成形のものが13点、ロクロ成形のものが211点出土し、出土器種については、非ロクロ成形のものには有段坏・高坏で、ロクロ成形のものに坏（内黒処理・赤焼）・高台付坏・甕がある。須恵器は壺・甕、中世陶器は鉢・甕が出土した。

このうち図示できたものは、土師器高坏（第116図35）・甕（第116図36）、中世陶器甕（第116図38・40）・壺（第116図41）・鉢（第116図39）である。

#### 【基本層Ⅴ層出土遺物】（第116～128図）

Ⅴ層からは、縄文土器6点、弥生土器1点、土師器3,806点、須恵器333点、かわらけ5点、中世陶器46点、羽口3点、鉄滓12点、土製品1点、鉄製品1点、石器2点出土した。遺物包含層の中でもⅤ層からの遺物出土数が最も多い。Ⅴ層はSI1・2 竪穴住居跡の堆積土上層を覆う。Ⅴ層出土遺物の大半は、Ⅴ層上層（Ⅴa層）及びⅤ層下層（Ⅴb）の上面から出土している。遺構との関係・出土遺物の年代から、Ⅴ層上層（Ⅴa層）は古代～中世にかけて堆積した層であると考えられる。

弥生土器は、平行沈線が施された蓋または甕の胴部破片で、弥生時代中期後半の十三塚式のものである。土師器は、非ロクロ成形のものが2,405点、ロクロ成形のものが1,400点出土し、出土器種については、非ロクロ成形のものには坏・高坏・甕で、ロクロ成形のものに坏（内黒処理・赤焼）・高台付坏・埴・甕がある。須恵器には、坏・高台付坏・高台付盤・短頸壺・壺類・甕がある。かわらけは皿、中世陶器は鉢・甕・壺が出土した。その他、土製品は土製支脚、製鉄関連遺物は羽口・鉄滓、鉄製品は不明品、石器は砥石・石包丁が出土した。

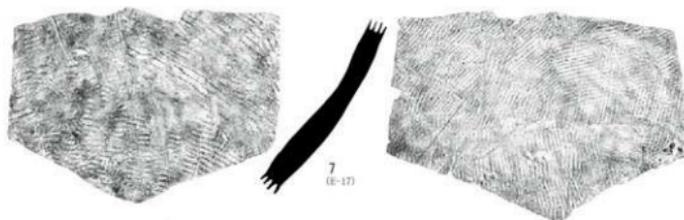
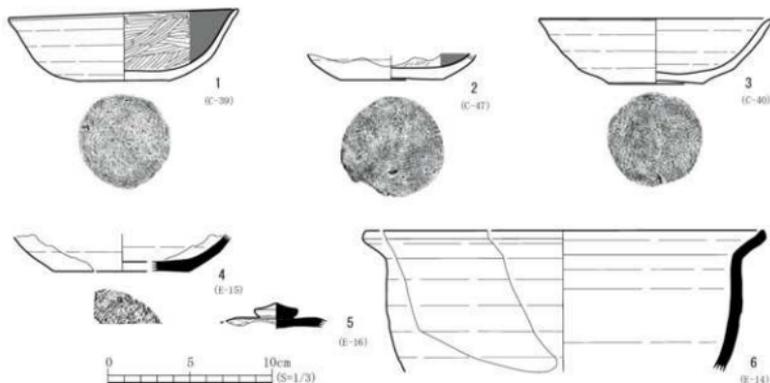
このうち図示できたものは、非ロクロ成形の土師器坏（第116図42～48、第118図49～57）・高坏（第118図58～60）・甕（第118図61）、ロクロ成形の坏（第119図62～68）・高台付坏（第119図69～73）・甕（第119図74・75）・埴（第121図76・77）、須恵器坏（第121図83～87・第122図88・89）・蓋（第122図90）・高台付盤（第122図91）・短頸壺（第122図92）・壺類（第122図93・94）・甕（第122図95～97）、かわらけ皿（第121図78～82）、中世陶器甕（第124図98・99・102・107～109、第125図110・113～118、第126図122～127）・鉢（第124図103～106、第126図128）・壺（第124図100・101、第125図112）、土製支脚（第126図126）、羽口（第126図127・128）、石包丁（第128図132）である。

#### 【基本層Ⅴ・Ⅵ層、Ⅵ層出土遺物】（第126・127図）

Ⅴ・Ⅵ層からは土師器1点、Ⅵ層からは縄文土器3点、土師器1127点、須恵器90点、鉄滓3点、石器1点出土した。このうちⅤ・Ⅵ層出土の土師器（第126図129）は、整理作業の段階でⅤ層出土の個体とⅥ層出土の個体が接合した遺物であり、本来はⅥ層に所属するものと考えられる。Ⅵ層上層（Ⅵa層）にはロクロ成形の土師器が含まれるのに対し、Ⅵ層下層（Ⅵb層）は非ロクロ成形の土師器のみが出土している。古代と考えられるSI2 竪穴住居跡は、Ⅵa層を掘り込んでつくっている。遺構の掘り込み面、土師器の特徴から、Ⅵ層は古墳時代～古代にかけて堆積した層であると考えられる。

縄文土器は、鉢または深鉢の胴部破片で、磨滅がひどく年代は不明である。土師器は、非ロクロ成形のものが848点、ロクロ成形のものが279点出土し、出土器種については、非ロクロ成形のものには坏・高坏・甕、ロクロ成形のものに坏（内黒処理・赤焼）・高台付坏・甕がある。須恵器には、坏・壺・甕がある。石器は剥片が出土した。

このうち図示できたものは、土師器坏（第126図129）・高坏（第126図130）である。



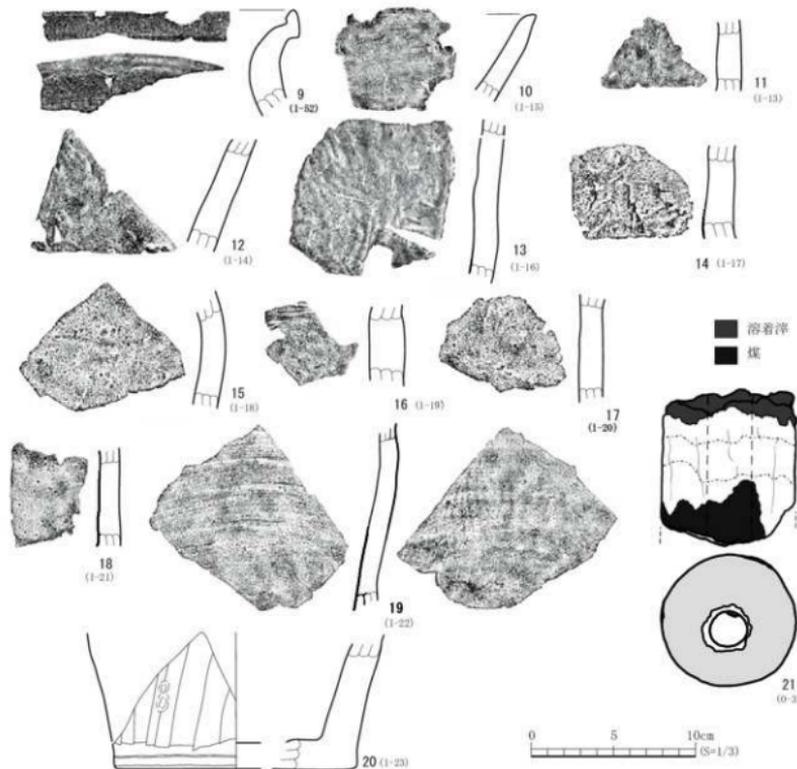
※縮尺

1～6: S=1/3

7・8: S=1/4

| No. | 層          | 種別  | 器種 | 残存         | 特徴【注①(外面・内面)一色調(外面・内面)一定量→その他の特徴の順に記載】  | 登録   |
|-----|------------|-----|----|------------|---|------|
| 1   | 基本層<br>Ⅱc層 | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面: ヘラミガキ等(磨滅)・染色処理、色調: 外面・にぶい橙色(T.5106/4)、内面・黒色(N2/9)、法量: 口径14.0cm・器高4.4cm・底径5.8cm・器厚0.3～0.6cm、残存100% | C-39 |
| 2   | 基本層<br>Ⅱb層 | 土師器 | 杯  | 底部         | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面: ヘラミガキ等(磨滅)・染色処理、色調: 外面・褐色色(T.1018/1)、内面・黒褐色(T.1018/1)、法量: 底径6.2cm・残存高1.6cm・器厚0.4～0.8cm             | C-47 |
| 3   | 基本層<br>Ⅱc層 | 土師器 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整等(磨滅)、内面: ロクロナデ、色調: 外面・にぶい橙色(T.5106/4)、内面・にぶい橙色(T.5106/4)、法量: 口径14.0cm・器高4.0cm・底径5.7cm・器厚0.4～0.7cm、赤土層  | C-40 |
| 4   | 基本層<br>Ⅱc層 | 須恵器 | 杯  | ～底部        | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整/ヘラ記号「×」、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰黄褐色(T.1018/2)、内面・灰色(S16/1)、法量: 底径8.2cm・残存高2.3cm・器厚0.4～0.6cm                  | E-15 |
| 5   | 基本層<br>Ⅱc層 | 須恵器 | 蓋  | 天井部        | 外面: 回転ヘラ削り、内面: ロクロナデ、色調: 外面・褐色色(T.1018/1)、内面・青灰色(T.1066/1)、法量: つまみ径5.6cm・器厚0.5cm、室底→主目                                      | E-16 |
| 6   | 基本層<br>Ⅱc層 | 須恵器 | 鉢  | 口縁部<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・灰黄色色(S17/2)、法量: 口径24.4cm・残存高8.7cm・器厚0.5～0.7cm   | E-14 |
| 7   | 基本層<br>Ⅱc層 | 須恵器 | 甕  | 胴部         | 外面: 平行タタキ・板台痕跡(φ9.5cm程度)、内面: 平行当て具、色調: 内外面・灰色(S4/9)、法量: 器厚1.4～2.0cm   | E-17 |
| 8   | 基本層<br>Ⅱc層 | 須恵器 | 甕  | 胴部         | 外面: 平行タタキ、内面: 同心当てて具等、色調: 内外面・黄灰色(T.1014/1)、法量: 器厚1.1～1.6cm、須恵器細器   | E-18 |

第112図 基本層出土遺物(1)一Ⅱ層出土遺物①一



| No. | 層          | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【注記：外面・内面・色調（外面・内面）→面→その他の特徴の順に記載】  |      | 量規 |
|-----|------------|------|----|------------|---|------|----|
|     |            |      |    |            | 外面  | 内面   |    |
| 9   | 基本層<br>Ⅱa層 | 中皿陶器 | 甕  | 口縁部<br>～底部 | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・暗赤褐色(2.5183/1)、内面・赤灰色(2.5184/1)、法量：器厚0.3～1.8 cm、底地：白石英                              | 1-52 |    |
| 10  | 基本層<br>Ⅱa層 | 中皿陶器 | 鉢  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・明赤褐色(2.5185/0)、内面・赤褐色(2.5184/0)、法量：器厚0.9～1.3 cm、底地：白石英                              | 1-15 |    |
| 11  | 基本層<br>Ⅱa層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・暗赤灰色(1.084/1)、内面・灰褐色(5.0184/2)、法量：器厚1.4～1.5 cm、底地：白石英                           | 1-13 |    |
| 12  | 基本層<br>Ⅱa層 | 中皿陶器 | 鉢  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：磨滅のため不明、色調：外面・にぶい赤褐色(2.5184/2)、内面・にぶい赤褐色(5.0185/4)、法量：器厚1.4～1.7 cm、底地：白石英                    | 1-14 |    |
| 13  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・磨滅、色調：外面・灰褐色(7.5184/2)、内面・黄灰色(2.5184/1)、法量：器厚1.3～1.5 cm、底地：白石英                            | 1-16 |    |
| 14  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・灰赤色(2.5184/2)、内面・にぶい赤褐色(5.0185/3)、法量：器厚1.6～1.9 cm、底地：白石英                            | 1-17 |    |
| 15  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・暗灰色(1.0184/1)、内面・灰褐色(7.5184/2)、法量：器厚1.4～1.5 cm、底地：白石英                           | 1-18 |    |
| 16  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ・押印？、内面：ナズ、色調：外面・黄灰色(2.514/1)、内面・灰褐色(7.5184/2)、法量：1.9～2.1 cm、底地：白石英                              | 1-19 |    |
| 17  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・灰赤色(2.5184/2)、内面・灰褐色(5.0184/2)、法量：1.4～1.5 cm、底地：白石英                             | 1-20 |    |
| 18  | 基本層<br>Ⅱb層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・暗灰色(7.5184/3)、内面・灰赤色(5.0184/2)、法量：1.2～1.4 cm、底地：白石英                             | 1-21 |    |
| 19  | 基本層<br>Ⅱd層 | 中皿陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ハケメ状の痕跡、色調：外面・灰褐色(7.5184/2)、内面・黄灰色(2.514/1)、法量：器厚1.0～1.2 cm、底地：白石英                           | 1-22 |    |
| 20  | 基本層<br>Ⅱd層 | 中皿陶器 | 甕  | 底蓋         | 外面：ヘラ削り・オサエ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・灰褐色(7.5184/2)、内面・黄灰色(2.514/1)、法量：直径(1.4) cm・残存高3.4 cm・器厚1.9～2.8 cm、底地：白石英 | 1-23 |    |

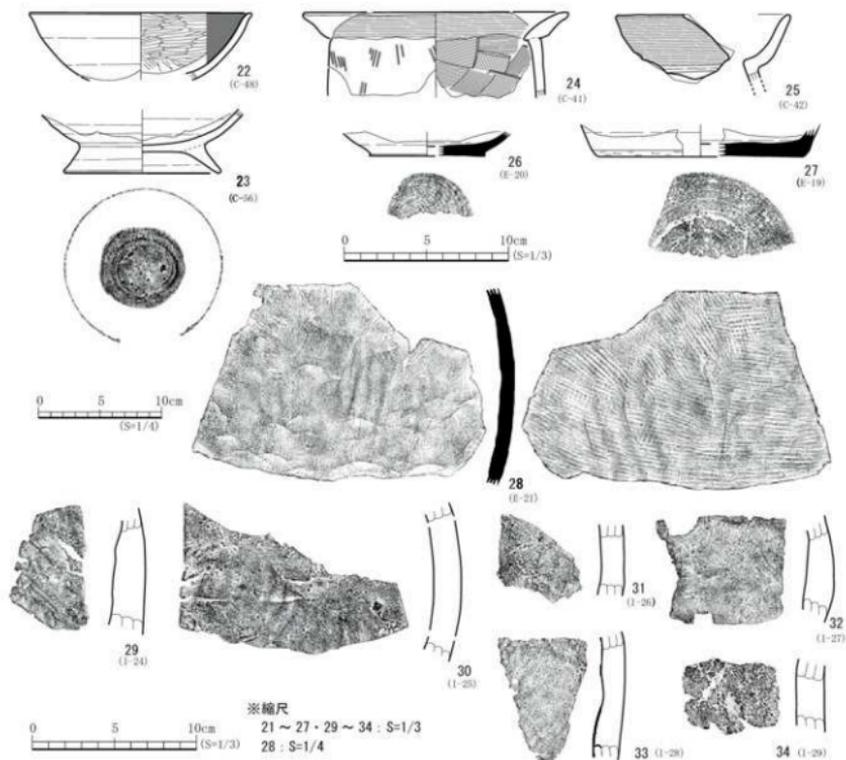
  

| No. | 層          | 種別  | 器種 | 最大長 (cm) | 先周部 (cm) |       | 変気部 (cm) |                                 | 胎土                              |                    | 色調                 |    | 備考  | No. |
|-----|------------|-----|----|----------|----------|-------|----------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------|--------------------|----|-----|-----|
|     |            |     |    |          | 外径       | 内径    | 外径       | 内径                              | 表面                              | 内部                 | 外面                 | 内面 |     |     |
| 21  | 基本層<br>Ⅱa層 | 土製品 | 須口 | (9.5)    | (2.5)    | (2.9) | (8.2)    | 黄 (18.5%)<br>赤 (18.5%)<br>最少量含む | 黄 (18.5%)<br>赤 (18.5%)<br>最少量含む | 10186/4<br>(にぶい黄層) | 10187/2<br>(にぶい黄層) |    | 0-3 |     |

第113図 基本層出土遺物(2) Ⅱa層出土遺物②-1



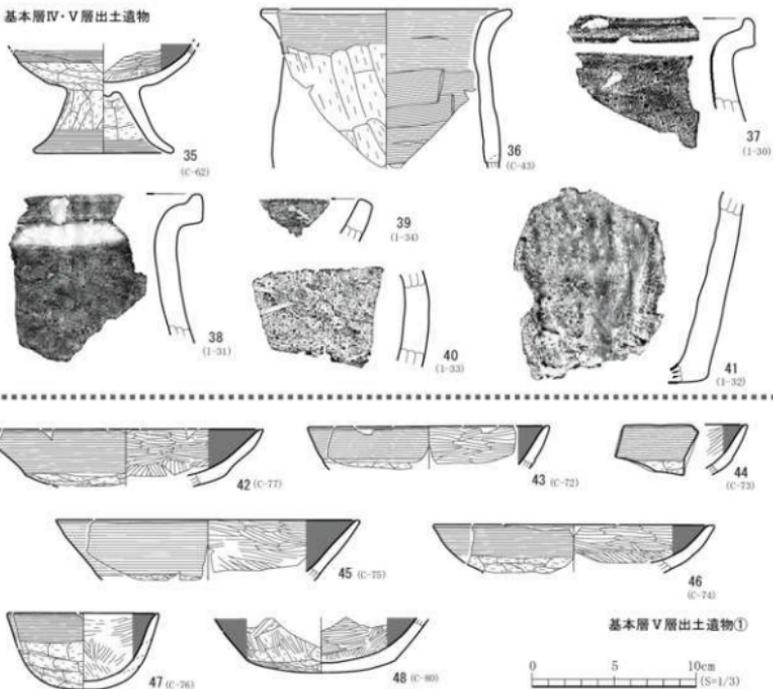
第114図 基本層出土遺物(3) 一Ⅲ層出土遺物(写真図版)一



| No. | 層      | 種別   | 器種   | 残存     | 特徴【表法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法重→その他の特徴の順に記載】  | 登録   |
|-----|--------|------|------|--------|---|------|
| 22  | 基本層IV層 | 土師器  | 杯    | 口縁部～胴部 | 外面：ロクロナデ、内面：ヘウミガキ・黒色地埋。色調：外面・にぶい・褐色(T.5106/4)、内面・黒色(O.2/0)。法量：口径(13.4)cm・残存高4.1cm・器厚0.4cm                               | C-48 |
| 23  | 基本層IV層 | 土師器  | 高台付杯 | 胴部～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整→高台取り付け。内面：ロクロナデ。色調：内外面・にぶい・褐色(T.5105/4)。法量：底径8.4cm・残存高3.9cm・器厚0.4～0.5cm、赤土器                         | C-56 |
| 24  | 基本層IV層 | 土師器  | 甕    | 口縁部～胴部 | 外面：白練部ロクロナデ・胴部ハケタ(磨鏡)。内面：白練部ロクロナデ・胴部ヘラナデ。色調：外面・にぶい・褐色(T.5105/4)、内面・黒色(O.2/0)。法量：口径(16.2)cm・残存高5.3cm・器厚0.5～1.0cm         | C-41 |
| 25  | 基本層IV層 | 土師器  | 甕    | 口縁部～胴部 | 外面：ヨコナデ、内面：磨鏡のため不明。色調：内外面・にぶい・褐色(T.5106/4)。法量：残存高4.2cm・器厚0.5～1.0cm  | C-42 |
| 26  | 基本層IV層 | 煎色器  | 杯    | 胴部～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整/ヘラ記号「×」。内面：ロクロナデ。色調：外面・黄灰色(O.5/1)、内面・灰色(S16/1)。法量：底径7.0cm・残存高1.5cm・器厚0.4～0.6cm                      | E-20 |
| 27  | 基本層IV層 | 煎色器  | 盤    | 胴部～底部  | 外面：ロクロナデ・胴部下縁回転ヘラ削り・底部回転ヘラ削り→回転ヘラ削り再調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・灰黄褐色(O.1035/2)、内面・黄灰色(O.515/1)。法量：底径(12.4)cm・残存高2.0cm・器厚0.5～0.7cm | E-19 |
| 28  | 基本層IV層 | 煎色器  | 甕    | 胴部     | 外面：平行タタキ、内面：同心円当て。色調：外面・灰白色(O.517/1)、内面・黄灰色(O.516/1)。法量：器厚0.8～0.9cm   | E-21 |
| 29  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ・オサエ。色調：外面・黄灰色(O.514/1)、内面・褐灰色(O.1004/1)。法量：器厚1.2～2.1cm、産地：白石窯   | I-24 |
| 30  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ・オサエ。色調：外面・褐色(T.5104/3)、内面・灰褐色(T.5104/2)。法量：1.6～1.7cm、産地：白石窯   | I-25 |
| 31  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ。色調：外面・灰褐色(O.1042/2)、内面・灰赤色(O.5104/3)。法量：器厚1.3～1.5cm、産地：白石窯  | I-26 |
| 32  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ・オサエ。色調：外面・灰褐色(O.1044/2)、内面・にぶい・赤褐色(O.5105/4)。法量：器厚1.4～1.7cm、産地：白石窯  | I-27 |
| 33  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ・オサエ。色調：外面・褐灰色(T.5104/1)、内面・灰褐色(T.5104/2)。法量：器厚1.3～1.6cm、産地：白石窯  | I-28 |
| 34  | 基本層IV層 | 中世陶器 | 甕    | 胴部     | 外面：ナデ、内面：ナデ。色調：外面・灰褐色(T.5104/2)、内面・灰褐色(T.5105/2)。法量：器厚1.6～1.8cm、産地：白石窯  | I-29 |

第115図 基本層出土遺物(4) —IV層出土遺物—

基本層IV・V層出土遺物



基本層V層出土遺物①

| No. | 層        | 種別   | 器種 | 残存     | 特徴【注目(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その後の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|----------|------|----|--------|--|------|
| 35  | 基本層IV・V層 | 土師器  | 高坏 | 胴部～胴部  | 外面：坏部ヨコナデ・ヘラ割り/胴部ヘラ割り・ヨコナデ。内面：坏部ヘラミガキ・黒色処理/胴部ヘラ割り・ナデ。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/4)、内面・黒色(N2/0)。法量：胴径8.5cm・残存高6.7cm・器厚0.4～0.8cm | C-62 |
| 36  | 基本層IV・V層 | 土師器  | 甕  | 口縁部～胴部 | 外面：口縁部ヨコナデ・胴部ヘラ割り(磨鉢)。内面：口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/4)、内面・にぶい黄褐色(10165/3)。法量：口径15.2cm・残存高9.7cm・器厚0.7～1.1cm      | C-43 |
| 37  | 基本層IV・V層 | 中世陶器 | 甕  | 口縁部～胴部 | 外面：ナデ。内面：ナデ。色調：外面・にぶい赤褐色(2.5194/3)、内面・灰褐色(5194/2)。法量：器厚0.5～1.9cm。産地：白石窯  | I-30 |
| 38  | 基本層IV・V層 | 中世陶器 | 甕  | 口縁部～胴部 | 外面：ナデ。内面：ナデ。色調：外面・にぶい赤褐色(2.5195/3)、内面・灰赤色(2.5194/2)。法量：器厚0.7～1.5cm。産地：白石窯  | I-31 |
| 39  | 基本層IV・V層 | 中世陶器 | 鉢  | 口縁部    | 外面：ナデ。内面：ナデ。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/3)、内面・にぶい赤褐色(2.5194/3)。法量：器厚0.9～1.2cm。産地：白石窯  | I-34 |
| 40  | 基本層IV・V層 | 中世陶器 | 甕  | 胴部     | 外面：ナデ。内面：ナデ・オオサシ。色調：外面・灰赤色(2.5194/2)、内面・にぶい赤褐色(5194/3)。法量：器厚1.4～1.5cm。産地：白石窯   | I-33 |
| 41  | 基本層IV・V層 | 中世陶器 | 甕  | 胴部～底部  | 外面：ナデナリ。内面：ナデ・オオサシ。色調：外面・黒褐色(10165/3)、内面・褐色(7.5194/3)。法量：器厚0.8～1.8cm。産地：不明   | I-32 |
| 42  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～胴部 | 外面：ヨコナデ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/4)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径18.6cm・残存高3.5cm・器厚0.4～0.7cm                          | C-77 |
| 43  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～胴部 | 外面：ヨコナデ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・灰黄褐色(10166/2)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径14.6cm・残存高2.6cm・器厚0.4～0.6cm                            | C-72 |
| 44  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～胴部 | 外面：有段・段上ヨコナデ・段下ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。有段坏。色調：外面・にぶい褐色(T.5317/4)、内面・黒色(N2/0)。法量：残存高3.1cm・器厚0.3～0.6cm                        | C-73 |
| 45  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～胴部 | 外面：ヨコナデ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/4)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径18.4cm・残存高3.7cm・器厚0.4～0.7cm                          | C-75 |
| 46  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～胴部 | 外面：ヨコナデ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10166/3)、内面・黒褐色(10165/1)。法量：口径17.0cm・残存高2.9cm・器厚0.4～0.7cm                      | C-74 |
| 47  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 口縁部～底部 | 外面：ヨコナデ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理・黄褐色。色調：外面・にぶい褐色(T.5316/4)、内面・黒色(N2/0)。法量：口径9.2cm・器厚4.7cm・器厚0.3～0.5cm                        | C-76 |
| 48  | 基本層V層    | 土師器  | 坏  | 胴部     | 外面：ヘラ割り→ヘラミガキ・黒色処理。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：内外面・黒色(N2/0)。法量：残存高3.3cm・器厚0.6～0.9cm   | C-80 |

第116図 基本層出土遺物(5) -IV・V層出土遺物、V層出土遺物①-

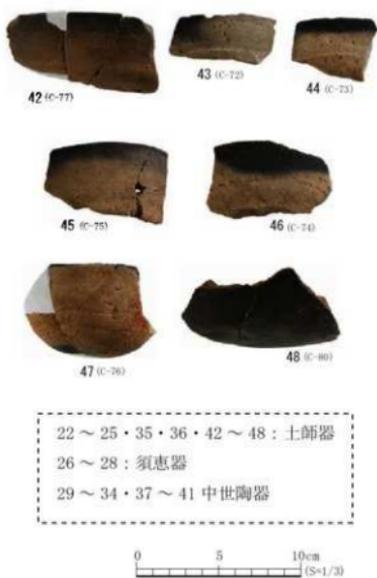
基本層IV層出土遺物



基本層IV・V層出土遺物



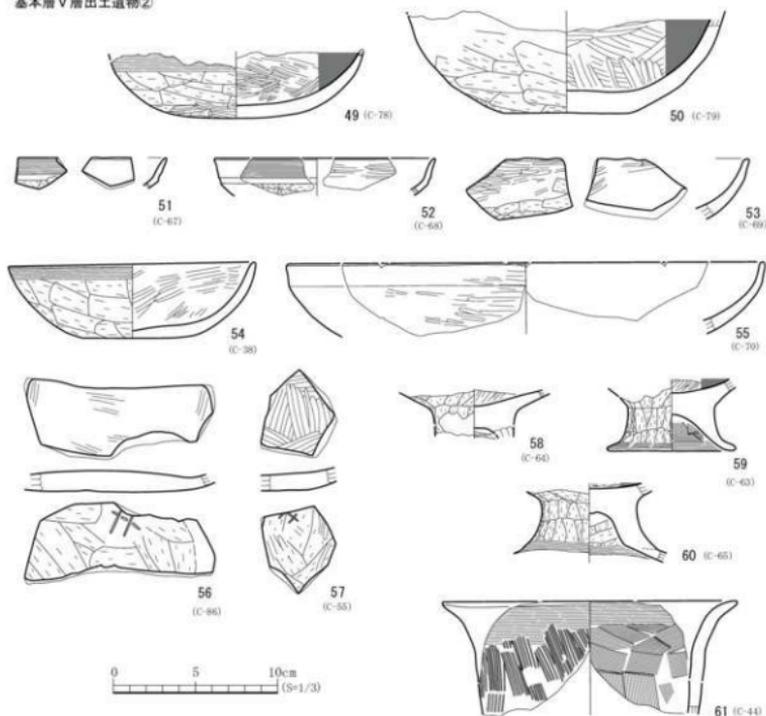
基本層V層出土遺物①



22 ~ 25・35・36・42 ~ 48 : 土師器  
 26 ~ 28 : 須恵器  
 29 ~ 34・37 ~ 41 中世陶器

第117図 基本層出土遺物(6) -IV層出土遺物、IV・V層出土遺物、V層出土遺物①(写真図版) -

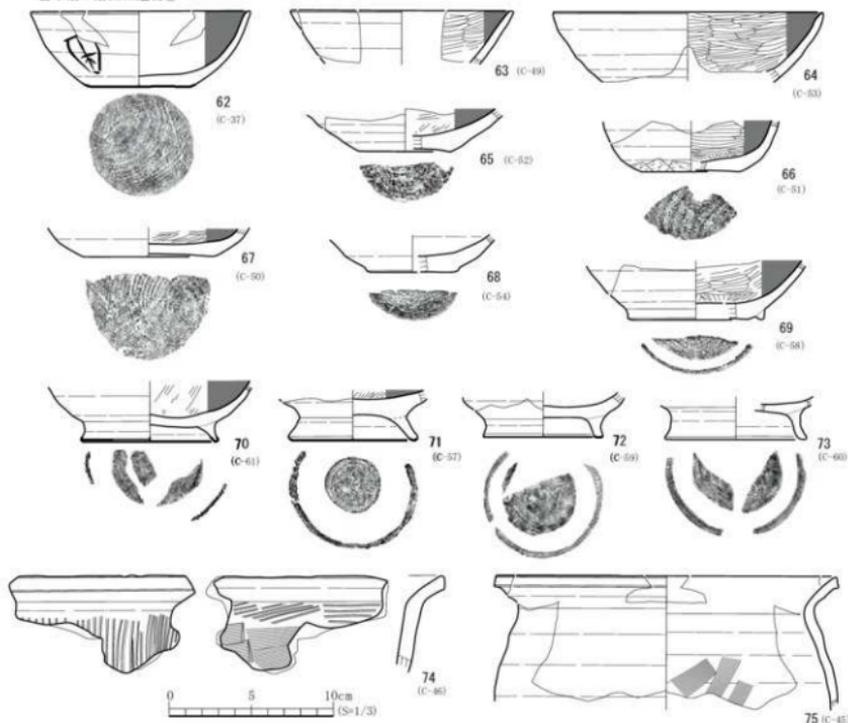
基本層V層出土遺物②



| No. | 層          | 種類  | 部種 | 残存         | 特徴【表(外・内面)→色調(外・内面)→記号→その他の特徴の順に記載】  | 登録   |
|-----|------------|-----|----|------------|--|------|
| 49  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：口縁部ヨコナダ・胴部～底部ヘラ割り→ヘラミガキ。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面→にぶい褐色(T.5106/4)、内面→黒色(S2/0)。法量：口径(15.2)cm・残存高4.0cm・器厚0.4～0.9cm      | C-78 |
| 50  | 基本層<br>Vb層 | 土器類 | 杯  | ～底部        | 外面：ヘラ割り。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面→にぶい黄褐色(T.01006/3)、内面→黒色(S2/0)。法量：底径7.6cm・残存高6.3cm・器厚0.7～1.3cm                          | C-79 |
| 51  | 基本層<br>V層  | 土器類 | 杯  | 口縁部        | 外面：ヨコナダ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ?・磨滅。色調：内外面→褐色(S106/3)。法量：器厚0.3～0.4cm。関東系土器類?   | C-67 |
| 52  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 口縁部        | 外面：ヨコナダ・ヘラ割り。内面：ヘラミガキ。色調：内外面→褐色(S106/3)。法量：口径(12.4)cm・残存高2.3cm・器厚0.3～0.4cm。関東系土器類                                  | C-68 |
| 53  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ヘラミガキ・ヘラ割り?。内面：ヘラミガキ。色調：外面→にぶい赤褐色(T.01007/3)、内面→にぶい褐色(T.5105/4)。法量：残存高3.7cm・器厚0.5～0.8cm。非内黒                     | C-69 |
| 54  | 基本層<br>Vb層 | 土器類 | 杯  | 口縁部<br>～底部 | 外面：口縁部ヨコナダ・胴部～底部ヘラ割り。内面：ヘラミガキ。色調：内外面→にぶい褐色(T.5106/4)。法量：口径15.0cm・器高4.7cm・器厚0.4cm。非内黒。非コナダ。平底                       | C-38 |
| 55  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ヘラミガキ。内面：磨滅。色調：内外面→にぶい黄褐色(T.01007/3)。法量：口径(29.0)cm・残存高4.4cm・器厚0.1～0.8cm   | C-70 |
| 56  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 底部         | 外面：ヘラ割り。内面：ヘラミガキ?・磨滅。色調：内外面→灰褐色(T.01006/2)。法量：器厚0.6～1.2cm。底部外面に磨滅!#  | C-86 |
| 57  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 杯  | 底部         | 外面：ヘラ割り→ヘラミガキ。内面：ヘラミガキ。色調：外面→灰褐色(T.5004/2)。内面→褐色(T.5104/1)。法量：器厚0.8～0.8cm。底部外面に磨滅!#                                | C-55 |
| 58  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 高杯 | 杯部<br>～胴部  | 外面：ヘラ割り。内面：杯部ヘラミガキ?・胴部ヘラ割り。色調：外面→にぶい赤褐色(S005/4)。内面→にぶい褐色(T.5106/4)。法量：残存高3.0cm・器厚0.4～1.0cm。非内黒                     | C-64 |
| 59  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 高杯 | 脚部         | 外面：ヘラ割り→ヨコナダ。内面：杯部ヘラミガキ・黒色処理/脚部ヘラナダ・ヨコナダ。色調：外面→灰褐色(T.5105/2)。内面→黒色(S2/0)。法量：脚径7.8cm・残存高4.4cm・器厚0.5～1.3cm           | C-63 |
| 60  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 高杯 | 脚部         | 外面：ヘラ割り→ヨコナダ。内面：杯部ヘラミガキ・黒色処理/脚部ヘラ割り。ヨコナダ。色調：外面→にぶい褐色(T.5106/4)。内面→黒色(S2/0)。法量：残存高4.9cm・器厚0.6～1.4cm                 | C-65 |
| 61  | 基本層<br>Va層 | 土器類 | 壺  | ～胴部        | 外面：口縁部ヨコナダ・胴部ヘラミガキ。内面：口縁部ヨコナダ・胴部ヘラナダ。色調：外面→にぶい褐色(T.5105/3)。内面→にぶい黄褐色(T.01006/3)。法量：口径(17.8)cm・残存高7.0cm・器厚0.5～0.8cm | C-44 |

第118図 基本層出土遺物(7) - V層出土遺物② -

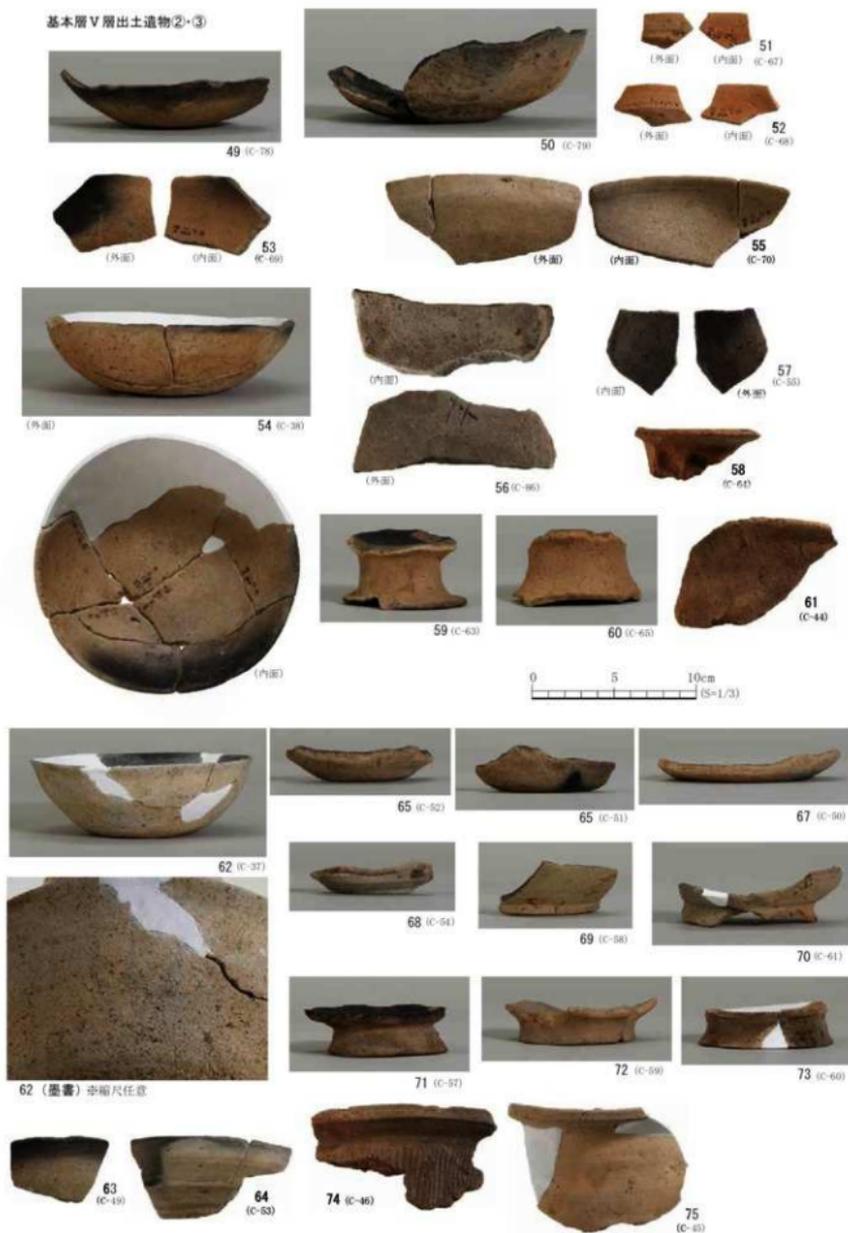
基本層V層出土土遺物③



| No. | 層          | 種別  | 器種   | 残存         | 特徴【技法(外面・内面)→色調(外面・内面)→広さ→その他の特徴の順に記載】   | 登録   |
|-----|------------|-----|------|------------|--|------|
| 62  | 基本層<br>Vb層 | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～底部 | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ(刷減)・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10187/3)、内面・灰色(55/0)。流量：口径13.3cm・器高4.7cm・底径6.2cm・器厚0.3～0.6cm。残存90%。蓋書「木+」 | C-37 |
| 63  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10186/3)、内面・黒色(52/0)。流量：口径13.4cm・残存高3.3cm・器厚0.4～0.6cm                                    | C-49 |
| 64  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10187/3)、内面・黒色(52/0)。流量：口径16.2cm・残存高4.3cm・器厚0.4～0.8cm                                    | C-53 |
| 65  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 底部         | 外面：ロクロナデ・底部刷減(回転糸切り無調整)。内面：ヘラミガキ・黒色処理・刷減。色調：外面・にぶい黄褐色(10186/3)、内面・黒色(52/0)。流量：底径15.6cm・残存高2.6cm・器厚0.6～1.3cm                  | C-52 |
| 66  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・胴部下縁手持ちへラ削り・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10186/3)、内面・黒色(52/0)。流量：底径16.0cm・残存高3.1cm・器厚0.4～0.9cm             | C-51 |
| 67  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 底部         | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10187/3)、内面・黒色(52/0)。流量：底径7.8cm・残存高1.8cm・器厚0.5～0.9cm                          | C-50 |
| 68  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 杯    | 底部         | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・灰黄褐色(10186/2)、内面・灰黄褐色(10185/2)。流量：底径15.4cm・残存高2.3cm・器厚0.4～0.9cm。赤絵土器                      | C-54 |
| 69  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 高台付杯 | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(10187/3)、内面・黒色(52/0)。流量：底径18.2cm・残存高3.6cm・器厚0.4～0.9cm                         | C-58 |
| 70  | 基本層<br>Vb層 | 土師器 | 高台付杯 | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底部刷減のため切り難し技法不明。内面：ヘラミガキ・黒色処理・刷減。色調：外面・にぶい黄褐色(7,5186/4)、内面・灰灰色(10184/1)。流量：底径8.2cm・残存高3.7cm・器厚0.3～0.7cm             | C-61 |
| 71  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 高台付杯 | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ヘラミガキ・黒色処理。色調：外面・にぶい黄褐色(7,5186/3)、内面・黒色(52/0)。流量：底径7.4cm・残存高3.1cm・器厚0.6～1.0cm。内面：掻付書                  | C-57 |
| 72  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 高台付杯 | 胴部<br>～底部  | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：内外面・にぶい黄褐色(7,5186/3)。流量：底径7.2cm・残存高2.4cm・器厚0.6～0.7cm。赤絵土器                                    | C-59 |
| 73  | 基本層<br>Vb層 | 土師器 | 高台付杯 | 底部         | 外面：ロクロナデ・底部回転糸切り無調整。内面：ロクロナデ。色調：外面・褐色(7,5184/3)、内面・にぶい褐色(7,5185/3)。流量：底径6.6cm・残存高2.6cm・器厚0.4～0.5cm。赤絵土器                      | C-60 |
| 74  | 基本層<br>V層  | 土師器 | 壺    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ・ハケメ。内面：ロクロナデ・ハケメ・ヘラナデ。色調：内外面・灰褐色(7,5184/2)。流量：残存高6.9cm・器厚0.7～0.9cm  | C-46 |
| 75  | 基本層<br>Va層 | 土師器 | 壺    | 口縁部<br>～胴部 | 外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ・ナデ。色調：内外面・にぶい褐色(7,5187/4)。流量：口径28.6cm・残存高8.2cm・器厚0.4～0.6cm   | C-45 |

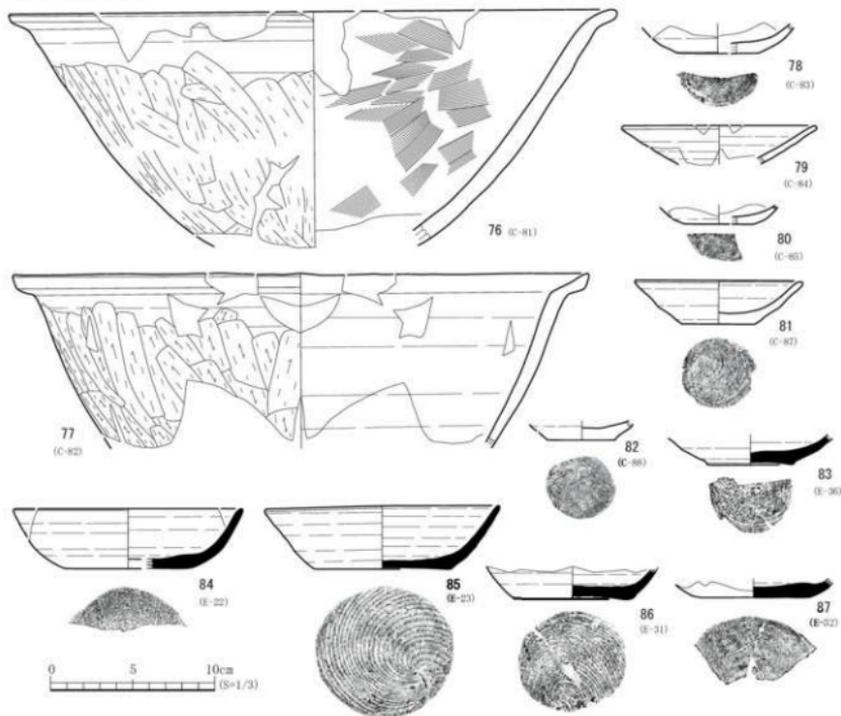
第119図 基本層出土遺物(8) - V層出土遺物③ -

基本層V層出土遺物②・③



第120図 基本層出土遺物(9) - V層出土遺物②・③(写真図版) -

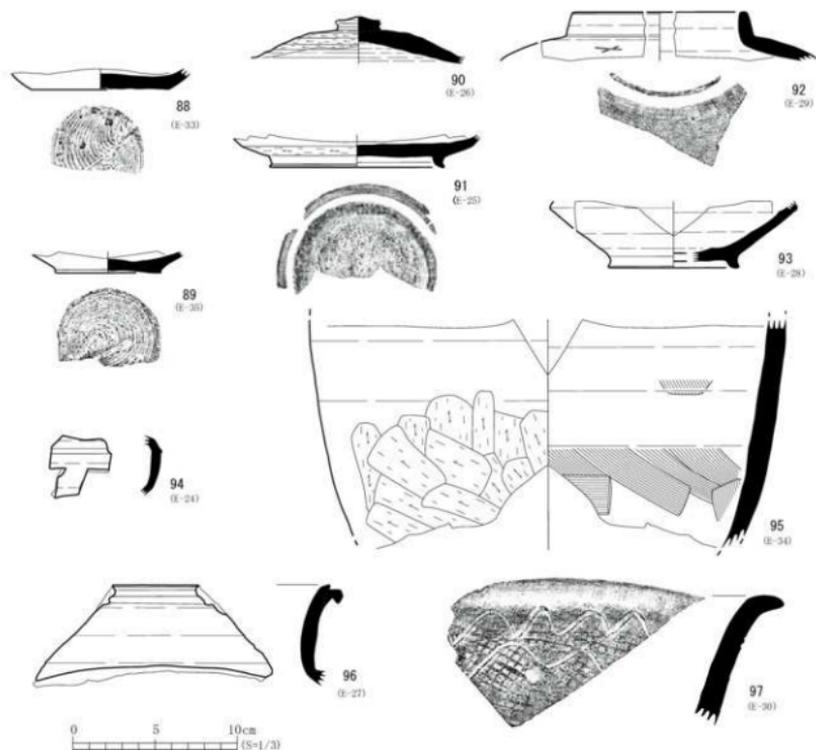
基本層V層出土遺物④



| No. | 層          | 種別   | 器種  | 残存         | 特徴【表法(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記述】   | 登録   |
|-----|------------|------|-----|------------|--|------|
| 76  | 基本層<br>V層  | 土師器  | 楕円? | 口縁部<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ→ヘラ削り、内面: ナデウ・磨滅、色調: 外面・灰褐色(7.5183/3)、内面・にぶい褐色(7.5183/3)、法量: 口径39.8cm・残存高14.3cm・器厚0.7~1.1cm                   | C-81 |
| 77  | 基本層<br>V層  | 土師器  | 楕円? | 口縁部<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ→ヘラ削り、内面: ロクロナデ、色調: 外面・黒褐色(101K3/1)/褐色(7.5184/3)、内面・褐色(7.5184/3)、法量: 口径35.0cm・残存高10.6cm・器厚0.5~0.9cm、割れた後に被せ付け | C-82 |
| 78  | 基本層<br>V層  | かわらけ | 皿   | 底部         | 外面: ロクロナデ・底部回転削り技法不明→回転ヘラ削り再調整、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・明赤褐色(2.5185/6)、法量: 直径15.0cm・残存高1.9cm・器厚0.4~0.6cm                      | C-83 |
| 79  | 基本層<br>Va層 | かわらけ | 皿   | 口縁部<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・褐色(5186/4)、法量: 口径(11.8)cm・残存高2.4cm・器厚0.4cm   | C-84 |
| 80  | 基本層<br>Va層 | かわらけ | 皿   | 外面         | 外面: ロクロナデ・底部磨滅、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・褐色(5186/4)、法量: 直径(4.2)cm・残存高1.2cm・器厚0.2~0.4cm   | C-85 |
| 81  | 基本層<br>Va層 | かわらけ | 皿   | 口縁部<br>～底部 | 外面: ロクロナデ・底部回転削り無調整、内面: ロクロナデ、色調: 外面・にぶい褐色(7.5186/4)、内面・にぶい褐色(7.5186/3)、法量: 口径10.0cm・器高2.7cm・直径4.6cm・器厚0.4~0.7cm       | C-87 |
| 82  | 基本層<br>Va層 | かわらけ | 皿   | 底部         | 外面: ロクロナデ・底部回転削り無調整、内面: ロクロナデ、色調: 外面・にぶい黄褐色(101K3/3)、内面・にぶい褐色(7.5186/4)、法量: 直径1.1cm・残存高1.2cm・器厚0.4~0.8cm               | C-88 |
| 83  | 基本層<br>Va層 | 褐色器  | 杯   | ～底部        | 外面: ロクロナデ・底部回転削り無調整、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・にぶい黄褐色(101K7/3)、法量: 直径5.2cm・残存高2.4cm・器厚0.4~0.6cm                                 | E-36 |
| 84  | 基本層<br>Va層 | 褐色器  | 杯   | 口縁部<br>～底部 | 外面: ロクロナデ・底部回転削りヘラ削りナデウ再調整、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰色(517/3)、内面・灰色(517/1)、法量: 口径(14.0)cm・器高3.7cm・直径7.0cm・器厚0.4~0.9cm          | E-22 |
| 85  | 基本層<br>Va層 | 褐色器  | 杯   | 口縁部<br>～底部 | 外面: ロクロナデ・底部回転削り無調整(ヘラ記号「一」、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・灰白色(2.517/1)、法量: 口径14.4cm・器高3.7~3.9cm・直径8.2cm・器厚0.4~0.9cm、注記不明           | E-23 |
| 86  | 基本層<br>Va層 | 褐色器  | 杯   | ～底部        | 外面: ロクロナデ・底部回転削り無調整、内面: ロクロナデ、色調: 内外面・灰白色位 317/1)、法量: 直径7.0cm・残存高2.0cm・器厚0.4~0.6cm                                     | E-31 |
| 87  | 基本層<br>Va層 | 褐色器  | 杯   | ～底部        | 外面: ロクロナデ・底部削り削り技法不明→ナデウ再調整?/磨滅「人」、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰色(1014/1)、内面・灰色(515/1)、法量: 直径6.6cm・残存高1.2cm・器厚0.5~0.9cm           | E-32 |

第121図 基本層出土遺物(10) - V層出土遺物④ -

基本層V層出土遺物⑤



| No. | 層          | 種別  | 部種    | 残存         | 特徴【目録(外面・内面)一色調(外面・内面)一法量一その他の特徴の順に記載】  | 登録   |
|-----|------------|-----|-------|------------|---|------|
| 88  | 基本層<br>Vh層 | 弦楽器 | 坪     | 胴部<br>～底部  | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整/へラ記号「∩」、内面: ロクロナデ、色調: 外面・<br>にじみ・黄褐色(10Y85/2)、内面: 灰黄色(2.5Y6/2)、法量: 底径10.4cm・残存高1.3cm・器厚0.6~0.9cm | E-33 |
| 89  | 基本層<br>Vh層 | 弦楽器 | 坪     | 胴部<br>～底部  | 外面: ロクロナデ・底部回転糸切り無調整、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰褐色(7.5Y8/2)、内面・灰褐色<br>(7.5Y85/2)、法量: 底径6.4cm・残存高1.3cm・器厚0.3~0.6cm              | E-35 |
| 90  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 蓋     | つまみ<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ一回転へラ削り、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰色(5Y4/1)、内面・灰色(7.5Y4/1)、法<br>量: つまみ径2.8cm・残存高2.9cm・器厚0.4~1.5cm                     | E-26 |
| 91  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 高台付盤? | 胴部<br>～底部  | 外面: ロクロナデ・胴部下端回転へラ削り・底部回転へラ切りワ一回転へラ削り再調整・高台付す、内面: ロ<br>クロナデ、色調: 内外面・灰色(5A/0)、法量: 底径(10.4)cm・残存高2.0cm・器厚0.4~0.6cm      | E-25 |
| 92  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 短頭杓   | 口縁部<br>～胴部 | 外面: ロクロナデ・胴部へラ記号「X」、内面: ロクロナデ、色調: 外面・焼灰色(10Y8/1)、内面・焼灰色<br>(5X/0)、法量: 口径(10.4)cm・残存高3.6cm・器厚0.5~1.0cm                 | E-29 |
| 93  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 巻盤    | 胴部<br>～底部  | 外面: ロクロナデ・底部回転へラ削り、内面: ロクロナデ、色調: 外面・焼灰色(10Y85/1)、内面・灰色<br>(5A/0)、法量: 底径(8.0)cm・残存高4.1cm・器厚0.5~0.8cm                   | E-28 |
| 94  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 巻盤?   | 胴部         | 外面: ロクロナデ、内面: ロクロナデ、色調: 外面・黄灰色(2.5Y6/1)、内面・焼灰色(10Y85/1)、法量: 器厚<br>0.3~0.6cm   | E-24 |
| 95  | 基本層<br>Vh層 | 弦楽器 | 巻盤    | 胴部         | 外面: ロクロナデへラ削り、内面: へラナデ→ロクロナデ、色調: 外面・焼灰色(10Y85/1)、内面・黄灰色<br>(2.5Y6/1)、法量: 器厚0.9~1.3cm・胴部径(24.6~29.0)cm                 | E-34 |
| 96  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 篋     | 口縁部        | 外面: ロクロナデ、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰黄褐色(10Y85/2)、内面・灰黄褐色(10Y85/2)、法量:<br>口径(28.4)cm・残存高2.6cm・器厚0.6~0.9cm                      | E-27 |
| 97  | 基本層<br>Va層 | 弦楽器 | 篋     | 口縁部        | 外面: 格子タタキ→ロクロナデ→波状文、内面: ロクロナデ、色調: 外面・灰褐色(5Y84/2)、内面・にじみ・赤<br>褐色(2.5Y85/3)、法量: 口径(17.0)cm・残存高6.0cm・器厚0.6~1.2cm         | E-30 |

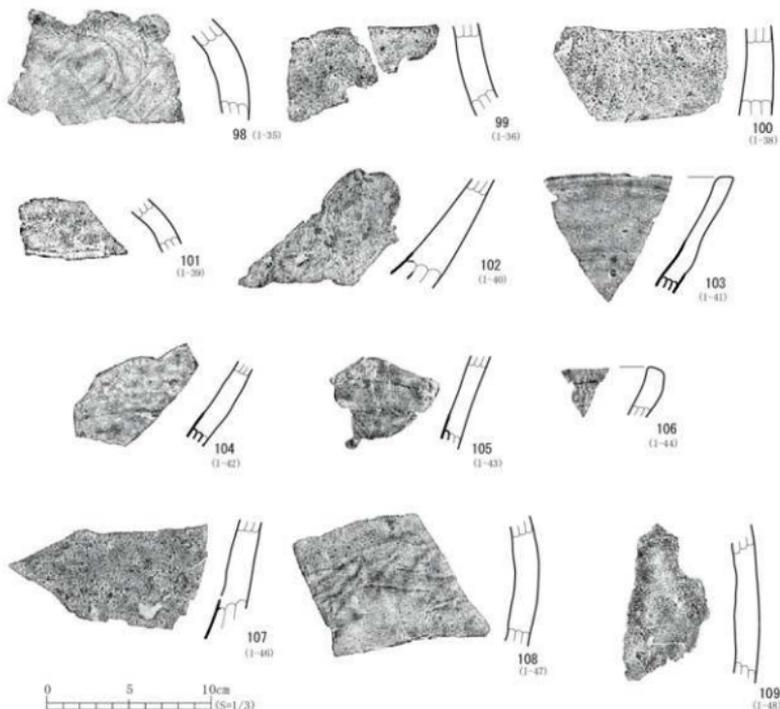
第122図 基本層出土遺物(11) - V層出土遺物⑤ -

基本層V層出土遺物④・⑤



第123図 基本層出土遺物(12) - V層出土遺物④・⑤(写真版) -

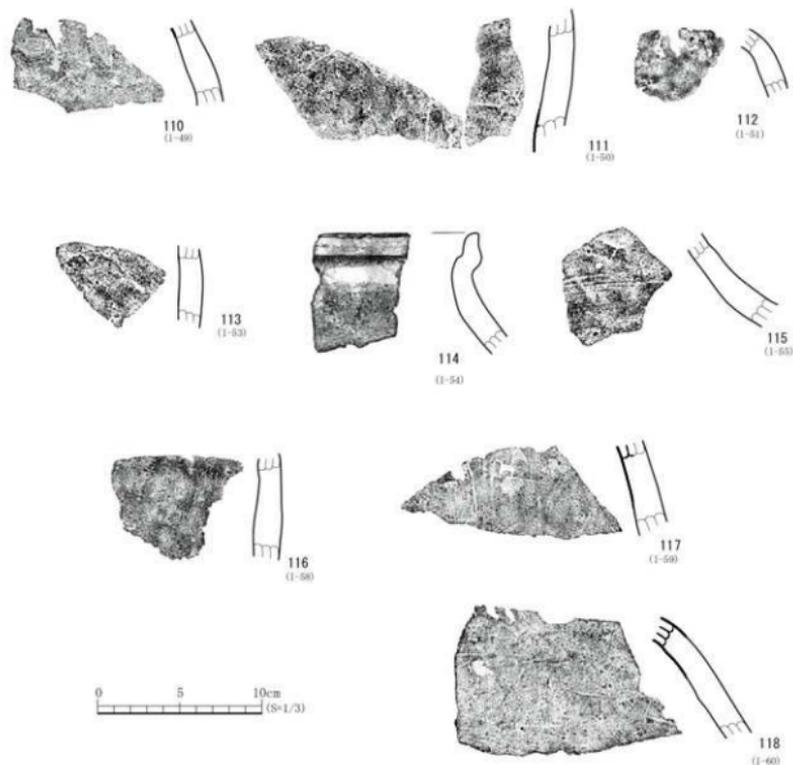
基本層V層出土遺物⑥



| No. | 層                       | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【注1(外面・内面)→色調(外面・内面)→注2→その他の特徴の順に記載】  | 登録   |
|-----|-------------------------|------|----|------------|---|------|
| 98  | 基本層<br>V層               | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ，色調：外面・黄灰色(2.5Y4/1)，内面・褐灰色(10R4/1)，法量：器厚1.5~1.9cm，<br>底地：白石英               | 1-35 |
| 99  | 基本層<br>V層               | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ，色調：外面・褐灰色(10R4/1)，内面・灰褐色(7.5YR4/2)，法量：器厚1.4~1.7cm，<br>底地：白石英              | 1-36 |
| 100 | 基本層<br>V層               | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ・オサエ，色調：内外面・相灰色(7.5YR4/1)，法量：器厚1.5~1.9cm，底地：白石英                            | 1-38 |
| 101 | 基本層<br>V層               | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ，色調：外面・灰褐色(5YR4/2)，内面：にぶい赤褐色(2.5YR4/3)，法量：器厚1.2cm，<br>底地：白石英               | 1-39 |
| 102 | 基本層<br>V層               | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：不明，内面：ナデ・オサエ，色調：外面・灰色(8Y5/1)，内面・褐灰色(10R4/1)，法量：器厚1.3~2.7<br>cm，底地：白石英              | 1-40 |
| 103 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 鉢  | 口縁部<br>→胴部 | 外面：ナデ，内面：ナデ・磨滅(すりぬ)，色調：内外面・赤褐色(10R4/4)，法量：器厚0.8~1.1cm，底地：白<br>石英                      | 1-41 |
| 104 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 鉢  | 胴部         | 外面：ロクロナデ，内面：ロクロナデ・磨滅，色調：外面・赤灰色(2.5YR4/1)，内面・赤褐色(10R4/4)，法<br>量：器厚1.0~1.2cm，底地：白石英     | 1-42 |
| 105 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 鉢  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：不明，色調：外面・にぶい赤褐色(2.5YR5/4)，内面・にぶい赤褐色(2.5YR4/4)，法量：器<br>厚1.0~1.1cm，底地なし，底地：白石英 | 1-43 |
| 106 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 鉢  | 口縁部        | 外面：ナデ，内面：ナデ，色調：外面・暗赤褐色(2.5YR3/2)，内面・灰褐色(5YR4/1)，法量：器厚1.0~1.2<br>cm，底地：白石英             | 1-44 |
| 107 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ・オサエ，色調：外面・褐灰色(7.5YR4/1)，内面・灰褐色(7.5YR4/2)，法量：器厚1.3<br>~1.7cm，底地：白石英        | 1-46 |
| 108 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ・オサエ，色調：内外面・相灰色(7.5YR4/1)，法量：器厚1.3~1.4cm，底地：白石英                            | 1-47 |
| 109 | 基本層<br>V <sub>上</sub> 層 | 中伎陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナデ，内面：ナデ・オサエ，色調：外面・にぶい赤褐色(2.5YR4/3)，内面・灰赤色(2.5YR4/2)，法量：<br>器厚1.4~1.5cm，底地：白石英     | 1-48 |

第124図 基本層出土遺物(13) - V層出土遺物⑥ -

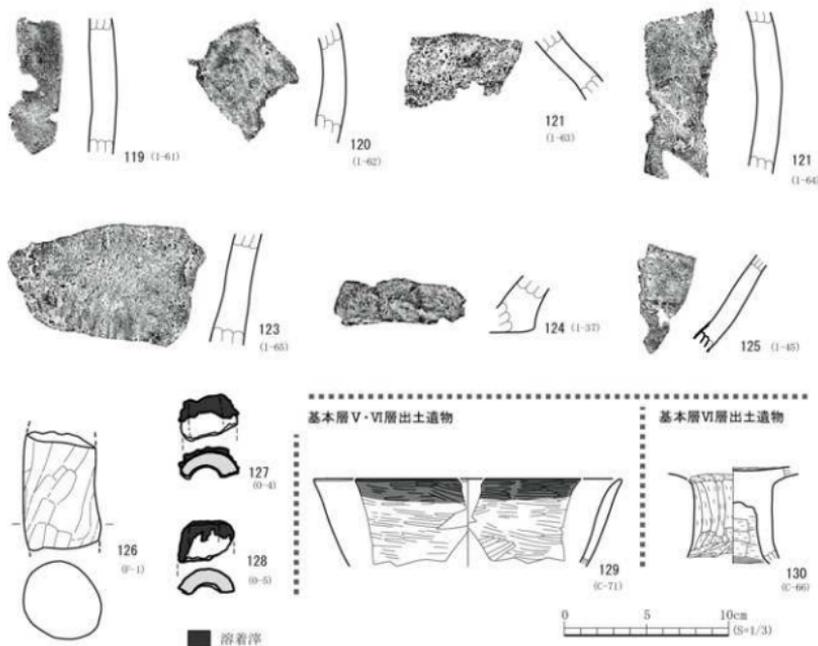
基本層V層出土遺物⑦



| No. | 層                       | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【表裏(外面・内面)一色調(外面・内面)一色調一丈の器の断面に示す】  | 登録   |
|-----|-------------------------|------|----|------------|---|------|
| 110 | 基本層<br>V <sub>a</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・灰赤色(10R4/2)、内面：灰赤色(2.5YR4/2)、法量：器厚1.3~1.6cm、<br>底地：白石英、1-50と同一體 | 1-49 |
| 111 | 基本層<br>V <sub>a</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：内外面・灰赤色(2.5YR4/2)、法量：器厚1.6~2.4cm、底地：白石英<br>1-49と同一體                | 1-50 |
| 112 | 基本層<br>V <sub>a</sub> 層 | 中波陶器 | 志  | 胴部         | 外面：不明、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・暗灰色(0N3/0)、内面：灰褐色(7.5YR4/2)、法量：器厚1.2~<br>1.3cm、底地：白石英       | 1-51 |
| 113 | 基本層<br>V <sub>a</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・にぶい赤褐色(2.5YR4/4)、内面・にぶい赤褐色(2.5YR4/3)、法量：器<br>厚1.3~1.4cm、底地：白石英  | 1-53 |
| 114 | 基本層<br>V <sub>b</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 口縁部<br>~胴部 | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・暗灰色(10YR4/1)、内面：暗灰色(5YR4/1)、法量：器厚0.4~1.5cm、<br>底地：白石英           | 1-54 |
| 115 | 基本層<br>V <sub>b</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：外面・暗灰色(10YR4/1)、内面：暗灰色(7.5YR4/1)、法量：器厚1.3<br>~1.7cm、底地：白石英     | 1-55 |
| 116 | 基本層<br>V <sub>b</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：不明、内面：ナズ、色調：外面・にぶい黄褐色(10YR5/3)、内面・暗赤灰色(10R4/1)、法量：器厚1.3~<br>1.7cm、底地：白石英       | 1-58 |
| 117 | 基本層<br>V <sub>b</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ、色調：外面・暗灰色(5YR4/1)、内面：灰褐色(5YR4/2)、法量：器厚1.6~1.8cm、<br>底地：白石英            | 1-59 |
| 118 | 基本層<br>V <sub>b</sub> 層 | 中波陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ、色調：内外面・灰褐色(7.5YR4/2)、法量：器厚1.4~1.6cm、底地：白石英                        | 1-60 |

第125図 基本層出土遺物(14) - V層出土遺物⑦ -

基本層V層出土遺物⑧



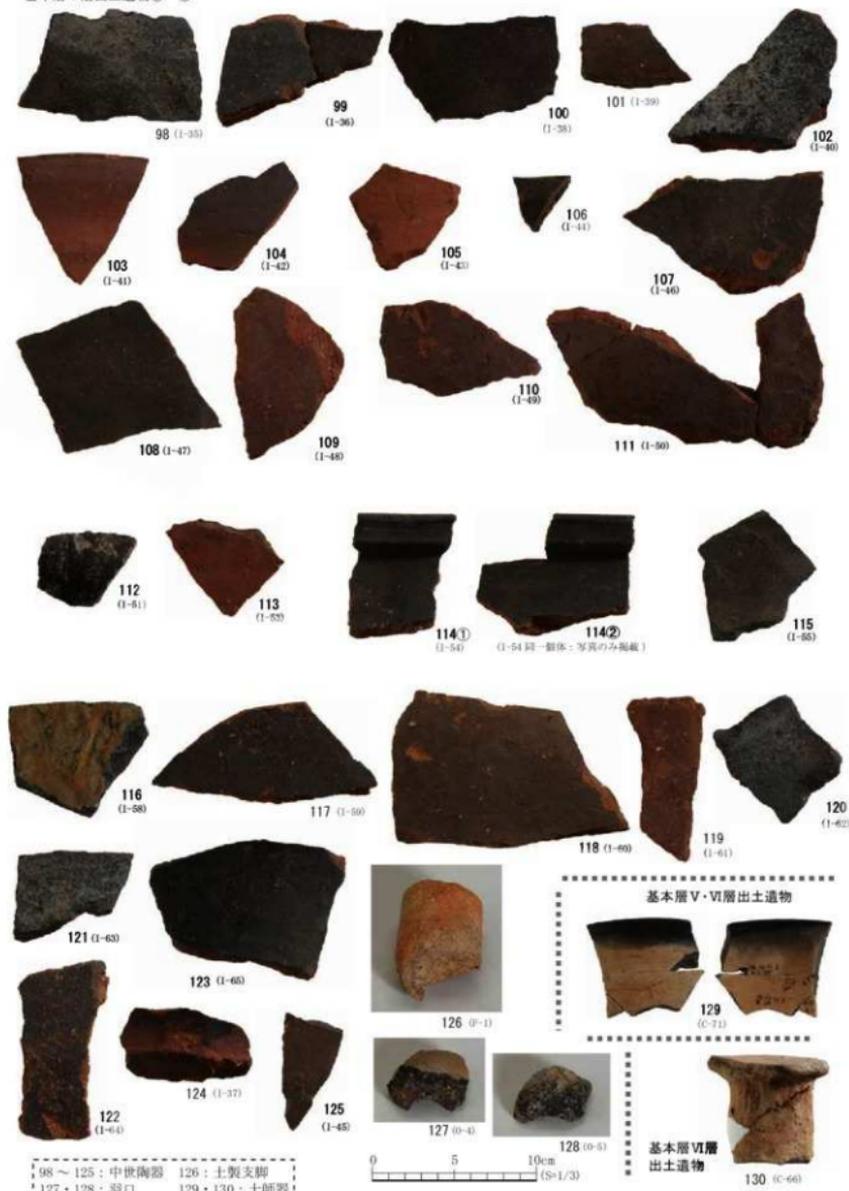
| No. | 層             | 種別   | 器種 | 残存         | 特徴【技法(外面・内面)・色調(外面・内面)・法具一その他の特徴の面に記載】   | 登録   |
|-----|---------------|------|----|------------|--|------|
|     |               |      |    |            |  |      |
| 119 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ(唐銅)、内面：ナズ(唐銅)。色調：内外面・にぶい赤褐色(T.5YR5/3)。法量：器厚1.3~1.5cm。底地：白石英                              | I-61 |
| 120 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・ヘラ削り？、色調：外面・褐色(T.10YR5/1)、内面・灰褐色(T.5YR4/2)。法量：器厚1.4~1.6cm。底地：白石英                   | I-62 |
| 121 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ。色調：外面・褐色(T.5Y5/1)、内面・褐色(T.10YR4/1)。法量：器厚1.3~1.5cm。底地：白石英                           | I-63 |
| 122 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ(唐銅)、内面：ナズ・オサエ。色調：外面・灰褐色(T.5YR5/4)、内面・灰褐色(T.10YR4/1)。法量：器厚1.4~1.5cm。底地：白石英                | I-64 |
| 123 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ・オサエ。色調：外面・黒褐色(T.0YR2/3)、内面・褐色(T.10YR4/1)。法量：器厚1.6~2.0cm。底地：不明                      | I-65 |
| 124 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 甕  | 底部         | 外面：ナズ、内面：ナズ。色調：外面・灰褐色(T.5YR4/2)、内面・にぶい赤褐色(T.5YR5/4)。法量：器厚1.8~2.3cm。底地：白石英                      | I-37 |
| 125 | 基本層<br>Vb層    | 中鉢陶器 | 鉢  | 胴部         | 外面：ナズ、内面：ナズ。色調：外面・灰褐色(T.5YR4/2)、内面・灰褐色(T.5YR4/2)。法量：器厚0.9~1.1cm。底地：不明                          | I-45 |
| 126 | 基本層<br>Vb層    | 土製品  | 支脚 | —          | 外面：ナズ？、色調：外面・にぶい褐色(T.5YR5/4)。法量：幅4.8cm・長さ7.2cm   | F-1  |
| 129 | 基本層<br>Va・Vi層 | 土器類  | 杯  | 口縁部<br>~胴部 | 外面：ヘラミガキ、内面：ヘラミガキ。色調：外面・にぶい褐色(T.5YR7/4)、内面・にぶい褐色(T.5YR5/4)。法量：口径18.6cm・残存高さ4cm・器厚0.4~0.7cm。非内照 | C-71 |
| 130 | 基本層<br>Vb層    | 土器類  | 高杯 | 脚部         | 外面：ヘラ削り、内面：ヘラ削り・ヨコナガ。色調：外面・にぶい黄褐色(T.10YR6/3)、内面・にぶい褐色(T.5YR6/4)。法量：残存高さ9cm・器厚0.7~1.0cm         | C-66 |

| No. | 層          | 種別  | 器種 | 最大径<br>(cm) | 先端部 (cm) |       |       |                  | 色調              |         | 備考 | No. |
|-----|------------|-----|----|-------------|----------|-------|-------|------------------|-----------------|---------|----|-----|
|     |            |     |    |             | 内径       | 内径    | 外径    | 胎土               | 外面              | 内面      |    |     |
| 127 | 基本層<br>Va層 | 土製品 | 羽口 | (3.8)       | (2.5)    | (2.7) | (4.5) | 磯(径1cm)<br>多少量含む | 10YR5/3         | 10YR5/4 |    | 0-4 |
| 128 | 基本層<br>Va層 | 土製品 | 羽口 | (3.4)       | (2.5)    | (2.4) | (4.5) | 磯(径1cm)<br>多少量含む | 10YR7/1<br>(灰白) | 10YR7/1 |    | D-5 |

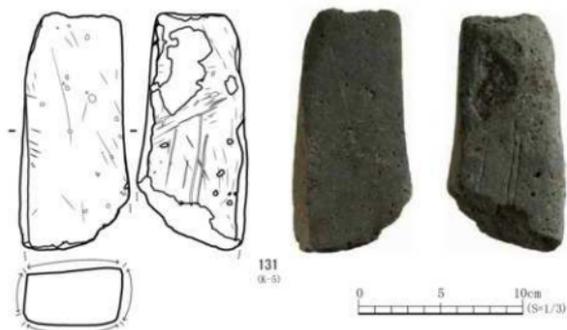
第126図 基本層出土遺物(15) — V層出土遺物⑧、V・VI層出土遺物、VI層出土遺物 —

基本層 V 層出土遺物⑥～⑧



第127図 基本層出土遺物 (16) -V層出土遺物⑥～⑧、V・VI層出土遺物、VI層出土遺物 (写真図版) -

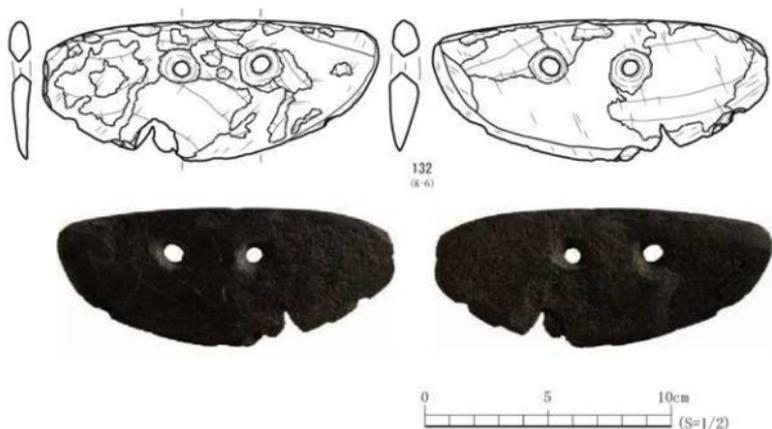
基本層IV層



131  
(K-5)

0 5 10cm  
(S=1/3)

基本層V層



132  
(K-6)

0 5 10cm  
(S=1/2)

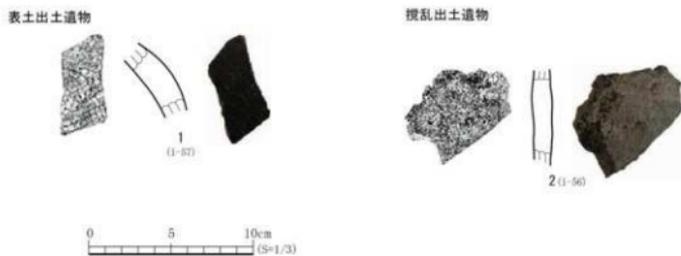
| No. | 層          | 器種  | 石材   | 残存部位  | 法量(mm)・(g) |       |      |       | 備考 | 作経  |
|-----|------------|-----|------|-------|------------|-------|------|-------|----|-----|
|     |            |     |      |       | 長さ         | 幅     | 厚さ   | 重量    |    |     |
| 131 | 基本層<br>IV層 | 砥石  | 砂岩   | 端部欠損  | 14.70      | 10.00 | 4.40 | 655   |    | K-5 |
| 132 | 基本層<br>V層  | 石包丁 | 結晶片岩 | 末端部欠損 | 5.75       | 13.60 | 1.19 | 108.4 |    | K-6 |

第128図 基本層出土遺物(17) -IV・V層出土遺物 石器類-

②その他の出土遺物 -検出面、排土等出土遺物- (第129図)

このほか、遺構検出面・排土・攪乱・トレンチ10から、縄文土器・土師器・須恵器・中世陶器・瓦質土器・鉄滓・石器が出土した。

このうち、図示できたものは、表土出土の中世陶器壺(第129図1)、攪乱出土の中世陶器甕(第129図2)である。



| No. | 層  | 種別   | 器種 | 残存 | 特徴【注記(外面・内面)→色調(外面・内面)→法量→その他の特徴の順に記載】                                     | 登録   |
|-----|----|------|----|----|--|------|
| 1   | 表土 | 中世陶器 | 壺  | 胴部 | 外面:ナズ・押印(格子文)々、内面:ナズ。色調:外面・赭灰色(O3/0)、内面・黄灰色(2.5Y5/1)。法量:器厚1.3~1.7cm。産地:白石窯 | 1-57 |
| 1   | 攪乱 | 中世陶器 | 甕  | 胴部 | 外面:不明、内面:ナズ。色調:外面・灰黄色(2.5Y6/2)、内面・赭灰色(7.5Y6/1)。法量:器厚1.0~1.2cm。産地:白石窯       | 1-56 |

第129図 その他の出土遺物 -表土・攪乱出土遺物-

## 第IV章 自然科学分析

### 1. 日向遺跡における火山灰分析

株式会社古環境研究所

#### 1. はじめに

東北地方仙台平野とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壌の中には、蔵王、栗駒、鳴子、肘折、十和田など東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、御岳、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる（町田・新井，1992，2003など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

山元町内の日向遺跡の発掘調査の際にもテフラの可能性のある堆積物が検出されたことから、発掘担当者により採取された試料を対象に、火山ガラス比分析と火山ガラスの屈折率測定さらに主成分組成分析を実施して、その起源を明らかにすることになった。分析の対象となった試料は、日向遺跡V b層である。

#### 2. 火山ガラス比分析

##### (1) 分析試料と分析方法

日向遺跡V b層について、火山ガラスの形態別含有率を求める火山ガラス比分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 15gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩を用いて1/4～1/8mmと1/8～1/16mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で1/4～1/8mm粒径の250粒子を観察し、火山ガラスの形態別含有率、軽鉱物および重鉱物の含有率を求める。

##### (2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図1に、その内訳を表1に示す。III b層には、火山ガラスが6.8%含まれている。そのほかでは、軽鉱物が多く（54.8%）、重鉱物は少ない（6.0%）。火山ガラスは、含有率が高い順に繊維束状軽石型（2.4%）、スポンジ状軽石型および厚い中間型（各2.0%）、そして無色透明のバブル型（0.4%）である。

表1 火山ガラス比分析結果

| 地点・試料     | bw(cf) | bw(pb) | bw(br) | md | pm(sp) | pm(fb) | 軽鉱物 | 重鉱物 | その他 | 合計  |
|-----------|--------|--------|--------|----|--------|--------|-----|-----|-----|-----|
| 日向遺跡・V b層 | 1      | 0      | 0      | 5  | 5      | 6      | 137 | 15  | 81  | 250 |

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, cf:無色透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状。

数字は粒子数。

### 3. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

V b層に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により屈折率（n）の測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。屈折率測定の対象は、篩別により得られた1/8-1/16mm 粒径の火山ガラスである。

#### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。V b層に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.503-1.506（30 粒子）である。

表2 屈折率測定結果

| 試料(地点・層位)                           | 火山ガラスの屈折率(n)              | 測定粒子数 | 文献          |
|-------------------------------------|---------------------------|-------|-------------|
| 日向遺跡・V b層                           | 1.503-1.506               | 30    | 本報告         |
| 宮城県域の後期旧石器時代以降の代表的指標テフラ             |                           |       |             |
| 白頭山苔小牧(B-Tm, 10世紀)                  | 1.511-1.522(1.515-1.520)  |       | 町田・新井(2003) |
| 十和田a(To-a, 915AD)                   | 1.503-1.507 <sup>*1</sup> |       | 町田・新井(2003) |
| 榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)              | 1.501-1.504               |       | 町田・新井(2003) |
| 沼沢湖(Nm-N, 5ka*2)                    | 1.500-1.505               |       | 町田・新井(2003) |
| 十和田中環(To-Cu, 6ka)                   | 1.508-1.512               |       | 町田・新井(2003) |
| (安家火山灰, 岩手県岩泉町)                     | 1.507-1.513               |       | 早田ほか(1988)  |
| (吾妻火山灰, 福島県東吾妻)                     | 1.507-1.512               |       | 早田ほか(1988)  |
| 鬼界アカホヤ(K-Ah, 7.3ka)                 | 1.508-1.516               |       | 町田・新井(2003) |
| 肘折尾花沢(Hj-O, 11-12ka <sup>*2</sup> ) | 1.499-1.504               |       | 町田・新井(2003) |
| 十和田八戸(To-H, 15ka)                   | 1.505-1.509               |       | 町田・新井(2003) |
| 浅間草津(As-K, 15-16.5ka)               | 1.501-1.503               |       | 町田・新井(2003) |
| 浅間板鼻黄色(As-YP, 15-16.5ka)            | 1.501-1.505               |       | 町田・新井(2003) |
| 鳴子湯沼上原(Nr-KU)                       | 1.492-1.500               |       | 町田・新井(2003) |
| 始良Tn(AT, 28-30 ka)                  | 1.499-1.501               |       | 町田・新井(2003) |
| 十和田大不動(To-Of, ≥32ka)                | 1.505-1.511               |       | 町田・新井(2003) |

\*1: 仙台周辺での屈折率。(): 中央値およびmodal range。ka: 1,000年前。\*2: 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代。

### 4. 火山ガラスの主成分組成分析 (EPMA 分析)

#### (1) 分析試料と分析方法

指標テフラとの同定精度をさらに向上させるため、V b層に含まれる火山ガラスを対象に、電子プローブマイクロアナライザ (EPMA) により、1/4-1/8mm 粒径の火山ガラスの主成分組成を明らかにした。分析に使用した分析機器は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWS 型 EPMA である。加速電圧 15kV、照射電流 0.01 μA、ビーム径 10 μm の条件で行った。また、補正には Oxide ZAF 法を用いた。

#### (2) 分析結果

分析結果を表3に、また指標テフラとの比較のために表4を作成した。なお、分析結果は無水に換算して表示している。

## 5. 考察

火山ガラス比分析のほか、火山ガラスの屈折率測定と主成分組成分析が実施されたV b層に含まれる火山ガラスは、屈折率特性と主成分組成上の傾向を合わせると、これまで知られているテフラの特徴とはほとんど一致しない。火山ガラスの含有率もさほど高くはないことから、試料の純度の問題のほか、テフラの二次堆積物などに由来する可能性も考えられる。

なお、福島県浜通地方から仙台平野周辺にかけては、古墳時代以降、榛名二ツ岳渋川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989)、榛名二ツ岳伊香保テフラ (Hr-FP, 6世紀中葉, 新井, 1962, 町田ほか, 1984, 坂口, 1986, 早田, 1989)、十和田aテフラ (To-a, 915年, 大池ほか, 1966, 町田ほか, 1981)、浅間粕川テフラ (As-Kk, 1128年, 早田, 2004 ほか) などが降灰していることがすでに知られている。詳細な土層観察から実施されることを期待したい。

表3 日向道跡テフラ試料に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

| 地点・試料     | SiO <sub>2</sub> | TiO   | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | FeO*  | MnO  | MgO  | CaO  | Na <sub>2</sub> O | K <sub>2</sub> O | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> | SUM  |        |
|-----------|------------------|-------|--------------------------------|-------|------|------|------|-------------------|------------------|-------------------------------|------|--------|
| 日向道跡・V b層 | 1                | 78.57 | 0.12                           | 12.06 | 0.87 | 0.02 | 0.13 | 0.76              | 4.08             | 3.38                          | 0.02 | 100.00 |
|           | 2                | 78.39 | 0.13                           | 12.04 | 0.92 | 0.09 | 0.14 | 0.74              | 4.09             | 3.46                          | 0.02 | 100.00 |
|           | 3                | 78.22 | 0.12                           | 11.97 | 1.89 | 0.04 | 0.09 | 1.68              | 3.69             | 2.17                          | 0.11 | 100.00 |
|           | 4                | 78.21 | 0.14                           | 11.99 | 0.79 | 0.03 | 0.18 | 0.83              | 4.21             | 3.59                          | 0.02 | 100.00 |
|           | 5                | 78.52 | 0.15                           | 11.99 | 0.81 | 0.10 | 0.11 | 0.71              | 4.14             | 3.44                          | 0.03 | 100.00 |
|           | 6                | 78.71 | 0.10                           | 11.87 | 1.88 | 0.01 | 0.09 | 1.48              | 3.46             | 2.26                          | 0.15 | 100.00 |
|           | 7                | 77.88 | 0.25                           | 11.99 | 1.06 | 0.00 | 0.21 | 1.28              | 3.76             | 3.56                          | 0.00 | 100.00 |
|           | 8                | 78.29 | 0.16                           | 11.82 | 1.85 | 0.03 | 0.07 | 1.64              | 3.88             | 2.17                          | 0.00 | 100.00 |
|           | 9                | 78.30 | 0.14                           | 12.42 | 1.81 | 0.07 | 0.13 | 1.67              | 4.08             | 1.37                          | 0.01 | 100.00 |
|           | 10               | 78.48 | 0.18                           | 12.17 | 2.05 | 0.00 | 0.12 | 1.67              | 3.95             | 1.38                          | 0.00 | 100.00 |
| 平均        |                  | 78.36 | 0.15                           | 12.04 | 1.40 | 0.04 | 0.13 | 1.24              | 3.93             | 2.66                          | 0.04 | 100.00 |

無水に換算。

表4 日向道跡テフラ試料に含まれる火山ガラスの主成分化学組成

| 地点・試料       | SiO <sub>2</sub> | TiO  | Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> | FeO* | MnO  | MgO  | CaO  | Na <sub>2</sub> O | K <sub>2</sub> O | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> | 文献  |
|-------------|------------------|------|--------------------------------|------|------|------|------|-------------------|------------------|-------------------------------|-----|
| 日向道跡・V b層   | 78.36            | 0.15 | 12.04                          | 1.40 | 0.04 | 0.13 | 1.24 | 3.93              | 2.66             | 0.04                          | 本報告 |
| 指標テフラ       |                  |      |                                |      |      |      |      |                   |                  |                               |     |
| B-Tm        | 76.12            | 0.23 | 10.30                          | 4.14 | 0.01 | 0.07 | 0.25 | 4.93              | 3.93             |                               | 1)  |
| To-a        | 77.87            | 0.37 | 12.81                          | 1.75 | 0.10 | 0.42 | 2.00 | 3.29              | 1.34             |                               | 2)  |
| Nm-N        | 78.10            | 0.24 | 12.10                          | 1.14 | 0.09 | 0.19 | 1.34 | 3.35              | 3.45             |                               | 3)  |
| To-Cu       | 75.06            | 0.44 | 13.28                          | 2.46 | 0.08 | 0.63 | 2.63 | 4.04              | 1.29             |                               | 2)  |
| K-Ah        | 75.24            | 0.53 | 12.85                          | 2.42 | 0.08 | 0.47 | 2.02 | 3.32              | 3.00             |                               | 2)  |
| Hj-O        | 77.79            | 0.16 | 12.76                          | 1.05 | 記載なし | 0.44 | 1.09 | 3.81              | 3.10             |                               | 3)  |
| To-H (pH)上部 | 78.30            | 0.29 | 12.67                          | 1.52 | 0.06 | 0.29 | 1.73 | 3.84              | 1.30             |                               | 3)  |
| To-H (pH)下部 | 76.38            | 0.40 | 13.43                          | 1.90 | 0.11 | 0.44 | 2.22 | 3.88              | 1.24             |                               | 3)  |
| As-YP       | 78.15            | 0.27 | 11.96                          | 1.33 | 0.04 | 0.26 | 1.30 | 3.72              | 2.89             |                               | 2)  |
| Nr-KU       | 77.96            | 0.22 | 12.28                          | 1.22 | 記載なし | 1.01 | 1.59 | 4.23              | 1.47             |                               | 3)  |
| AT          | 78.25            | 0.13 | 12.14                          | 1.26 | 0.04 | 0.11 | 1.09 | 3.41              | 3.56             | 0.02                          | 2)  |
| To-Of (pH)  | 77.62            | 0.36 | 12.45                          | 1.66 | 0.06 | 0.33 | 1.87 | 3.97              | 1.25             |                               | 3)  |

無水に換算。1)奥村(1988)を再計算。2)澤井(2010)、八木(未公表)。3)青木・新井(2000)。

## 6. まとめ

山元町日向道跡においてV b層から採取され送付された試料を対象に、火山ガラス比分析、火山ガラスの屈折率測定、さらに火山ガラスのEPMAによる主成分組成分析を実施した。その結果、火山ガラスは検出されたものの、その起源を特定するにはいたらなかった。

文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.
- 町田 洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.
- 町田 洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広（1981）日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562-569.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀研究，5，p.29-35.
- 奥村晃史（1988）第四紀示標テフラの主成分組成カタログ．昭和61-62年度科学研究費補助金総合研究（A）61302084研究成果報告書（研究代表者 井関弘太郎），p.159-165.
- 坂口 一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.
- 澤井祐紀（2010）福島県富岡町仏浜周辺の海岸低地における掘削調査．活断層・古地震研究報告，no.10，p.23-29.
- 早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.
- 早田 勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴～とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，VII，p.256-267.
- 早田 勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史～とくに平安時代の噴火について～．かみつけの里博物館編「1108-浅間火山-中世への胎動」，p.45-56.

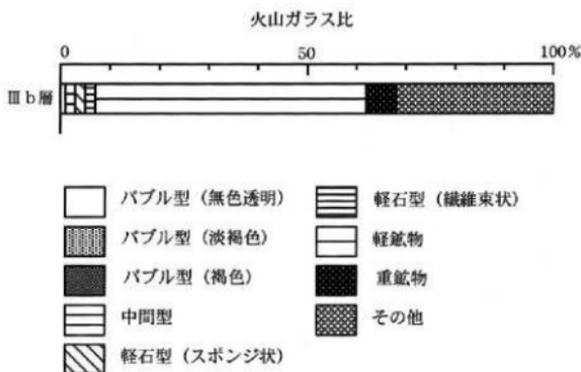


図1 日向遺跡火山灰試料の火山ガラス比ダイヤグラム

## 2. 日向遺跡から出土した漆塗椀材の樹種

古代の森研究会

日向遺跡は山元町山寺に位置する古代から中近世にかけての遺跡である。当時の用材利用を調査する目的で、中世の井戸及び土坑から出土した漆塗の椀3点の樹種同定を行った。漆塗椀はいずれも形式から中世のものと考えられている。製品からはステンレス剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を切り取り、ガムクロラールを用いてプレパラートを作成して生物顕微鏡で観察・同定した。樹種同定の結果、椀材3点はすべてブナ属と同定された。以下に同定された樹種の木材解剖学的記載を示す。

ブナ属(*Fagus*): 中程度の道管が年輪内にほぼ均一に分布する散孔材だが晩材部で小さい道管がみられて急に道管数が少なくなる。幅の広い

放射組織があり、広放射組織の部分で年輪界が外側にやや引きずられる傾向がある。道管の穿孔板は単独と階段があり、放射組織は平伏細胞からなるが上下端に方形細胞がある。放射組織は単列と3列くらいと数十細胞幅の広放射組織がある。

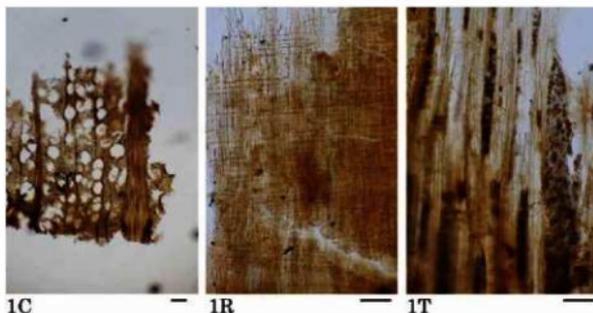
日向遺跡では中世と考えられる漆塗椀の用材としてブナ属を利用していた。東北部の太平洋側では沿岸部の丘陵にイヌブナが、山岳地域にブナが分布している。宮城県内では室町時代以降になるとそれまで挽き物の主流であったケヤキ利用からブナ属利用に劇的な変化を遂げ、山林の所有と管理、流通などの大きな社会変化が反映していると考えられている(伊東ほか・2012)。山元町においてもこうした傾向を色濃く反映していると考えられる。

## 参考文献

伊東隆夫・山田昌久, 2012. 木の考古学 出土木製品用材データベース, 海青社, 449p.

表1 日向遺跡出土漆塗椀の樹種

| 番号 | 遺構   | 層位     | 樹種  |
|----|------|--------|-----|
| 1  | SK17 | 底面     | ブナ属 |
| 2  | SE4  | 井戸掘方埋土 | ブナ属 |
| 3  | SK17 | 1層     | ブナ属 |



図版1 日向遺跡出土椀材の顕微鏡写真

1 ブナ属(SX805) (C: 横断面, R: 放射断面, T: 接線断面)

スケール=0.1mm

## 第V章 総括

今回の調査で検出した遺物・遺構について、ここでは、その特徴や時期を検討し、本遺跡における各時代の特徴をまとめる。

### 1. 出土遺物の特徴と時期

出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、かわらけ、中世陶器、漆器、製鉄関連遺物、土製品、石器などである。出土した土器類の総数は8,608点(約117,180g)、漆器3点(190g)、製鉄関連遺物315点(11,445g)、土製品1点(180g)、石器類の総数は9点(1,320g)である。このうち、土器類の内訳は、縄文土器が22点(約440g)、弥生土器が6点(約45g)、土師器が7,711点(約79,545g)、須恵器が774点(約28,605g)、かわらけが5点(125g)、中世陶器が90点(約8,420g)である。

これらの出土遺物のうち、本報告では、第III章2(2)で示した抽出基準に基づき、土器類186点、漆器3点、土製品1点、製鉄関連遺物5点、石器類3点を図示した。また、それぞれの遺構から出土した遺物の点数・重量等については、第13-1・2表にまとめた。

以下、それぞれの遺物について検討を行う。

#### (1) 縄文土器・弥生土器

縄文土器22点・弥生土器6点出土した。すべてが小破片のため、図示できたものはない。

##### 1) 縄文土器

出土した縄文土器は、わずかに地文が確認できるものの、器面の磨減が激しく文様等は不明であり、その時期は不明である。

##### 2) 弥生土器

出土した弥生土器(第130図)は、二条一對の平行沈線文を施す壺の胴部破片と考えられるもので、その特徴から、弥生時代中期後半の十三塚式(伊東1957)のものと思われる。



第130図

日向遺跡出土弥生土器

1: 基本層Ⅲc層

2: 基本層Ⅴa層

3: SB16・P61 瓶方埋土

4: SK18 堆積土





**(2) 土師器・須恵器** (第131～137図)

今回の調査区では、土師器は7,711点(うちロクロ土師器4,154点)、須恵器は774点(約28,605g)出土し、このうち、土師器については83点、須恵器については33点図示した。出土した土師器・須恵器のほとんどは堅穴住居跡及び遺物包含層(基本層Ⅲ～Ⅵ層)から出土し、その他SK18土坑などからも出土した。以下、土師器・須恵器について、その特徴等をもとに分類し、編年の位置づけについて検討する。

**1) 土師器・須恵器の特徴****①非ロクロ土師器** (第131・134・135図)

非ロクロ成形の土師器はS18堅穴住居跡、基本層Ⅲ～Ⅵ層から比較的多く出土した。基本層の中では、Va・Vb・Ⅵa層からの出土が多い。出土した器種には坏・高坏・甕があり、それぞれの器種について、形態的特徴などから以下のとおり分類した。

**【坏】** (第134図38・39、第135図1～17)

- 坏A類**：丸底で胴部が屈曲し、口縁部が直立気味に立ち上がる坏(第134図39)。外面は口縁部にヨコナデ・胴部屈曲部下にヘラ削り、内面は口縁部にヨコナデ・胴部にヘラミガキを施す。
- 坏B類**：丸底で胴部下半に段もしくは稜を形成する有段丸底の坏(第134図38、第135図1～6)。外面は口縁部にヨコナデ、段ないし稜下の胴部～底部にヘラ削り、内面はヘラミガキ・黒色処理を施す。このうち、第134図38については、外面胴部～底部ヘラ削り後ヘラミガキを施している。器高の高い**B1類**(第134図38)と浅い**B2類**(第135図1～6)に分けられる。
- 坏C類**：無段丸底の坏(第135図7・8)。外面は口縁部にヨコナデ、胴部～底部にヘラ削り、内面はヘラミガキ・黒色処理を施す。
- 坏D類**：平底風の坏(第135図9～11)。外面は口縁部にヨコナデ・ヘラミガキ、胴部～底部にヘラ削りを施し、内面はヘラミガキを施す。内黒処理を施すもの：**D1類**(第135図9)と内外面の口縁部付近のみ黒色処理が及んでいるもの：**D2類**(第135図10・11)がある。
- 坏E類**：外上方に直立気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する深身で椀形の器形を呈するもの(第135図12)。内外面ともに丁寧なヘラミガキを施す。内外面の口縁部付近のみ黒色処理が及んでいる。坏A～D類と比較すると胎土が非常に良好で、丁寧なつくりである。
- 坏F類**：口縁部と胴部の境に段もしくは稜を形成し、非内黒処理のもの(第135図13～15)。胎土や色調が坏A～E類と明らかに異なる。外面の口縁部にヨコナデ、段下の胴部～底部にヘラ削り・内面にヘラミガキを施し、胎土色調が橙色を呈するもの：**F1類**(第135図13・14)と、盤状の器形で外面にヘラミガキを施し、胎土色調がにぶい黄橙色を呈するもの：**F2類**(第135図15)がある。

**【高坏】** (第135図18～22)

- 高坏A類**：内面ヘラミガキ・非内黒処理の坏部に、中空の脚部がつくもの(第135図18・19)。外面は坏部及び脚部にヘラ削りを施す。破片資料のため全体の器形は不明である。

**高坏 B 類**：内面ヘラミガキ・内黒処理を施した有段丸底の坏部に、中空で短い脚部がつくもの（第135図20～22）。坏部外面は、口縁部にヨコナデ、段ないし稜下の胴部～底部にヘラ削りを施す。脚部外面は脚上～下部にヘラ削り、裾部ヨコナデを施す。

【壘】（第134図32・40、第135図23～26）

**壘 A 類**：頸部が外反し口縁部に至るもの（第134図32・40、第135図25・26）。長胴で、外面は口縁～頸部にヨコナデ、胴部にヘラ削りまたはハケメ、内面は口縁～頸部にヨコナデ、胴部にヘラナデ・ナデを施す。

**壘 B 類**：頸部が屈曲し口縁部に至るもの（第135図24）。長胴で、外面は口縁～頸部にヨコナデ、胴部にハケメ、内面は口縁～頸部にヨコナデ、胴部にヘラナデを施す。

**壘 C 類**：頸部が屈曲し口縁部に至り、口縁部が受口状になるもの（第135図23）。口縁～頸部にヨコナデを施す。頸部以下の形態は不明である。



第131図 日向遺跡出土非ロクロ土師器分類図

②ロクロ土師器（第132・134・136図）

ロクロ成形の土師器はSI1～7 堅穴住居跡、基本層Ⅲ～V層を中心に出土した。出土した器種には坏・高台付坏・甕・埴がある。それぞれの器種について、形態的特徴等から以下のとおり分類した。なお、底部の切り離し技法については、すべての器種に共通する項目であることから、第14表のとおり分類した。

第14表 底部切り離し技法による分類表

|     |                       |
|-----|-----------------------|
| a 類 | 回転糸切り無調整のもの           |
| b 類 | 回転糸切り→手持ちヘラ削り再調整のもの   |
| c 類 | 切り離し不明→手持ちヘラ削り再調整のもの  |
| d 類 | 回転糸切り一周縁部手持ちヘラ削りのもの   |
| e 類 | 回転ヘラ削り→一周縁部ヘラ削り再調整のもの |
| f 類 | 切り離し技法・調整不明のもの        |

**【坏】** (第134図1~12・18~20・28~30・33・41・42、第136図1~9・13・14)

**坏A類**：ロクロ成形で、内黒処理を施したもの (第134図1~7・9・10・18~20・28~30・33・41・42、第136図1~9)。これらは、その形態から**I類**：口縁部が底部から外上方に直線的に立ち上がるもの (第134図28・29)、**II類**：底部から内湾気味に立ち上がり口縁部に至るものに分けられる。II類については、口縁部が外上方に直線的に立ち上がるもの：**II1類** (第134図3・9・18・30、第136図3・4) と口縁部付近が外反するもの：**II2類** (第134図1・2・4・5・19・41、第136図1・2) に細分される。底部の切り離し技法には、a類・b類・c類・d類があり、そのほとんどがa類である。

**坏B類**：ロクロ成形で、内黒処理を施さないもの (第134図8・11・12、第136図13・14)。いわゆる赤焼土器である (註1)。口縁部の形態は坏A類のII2類のみが認められ、底部切り離し技法はa類のみが確認された。

**【高台付坏】** (第136図10~12・15~17)

**高台付坏A類**：ロクロ成形で、内黒処理を施したもの (第136図10~12)。第136図10のように、短い高台が付くものもある。底部の切り離し技法は、不明なもの (f類) を除くと、すべてa類である。

**高台付坏B類**：ロクロ成形で、内黒処理を施さないもの (第136図15~17)。底部の切り離し技法は、すべてa類である。

**【甕】** (第134図13・14・22~27・36・37・43、第136図18・19)

**甕A類**：屈曲する口縁部をもち、口径に対して器高が低い鉢形のもの (第134図22・36)。第134図22は、胴部下端部にへら削りを施し、底部切り離し技法はa類である。

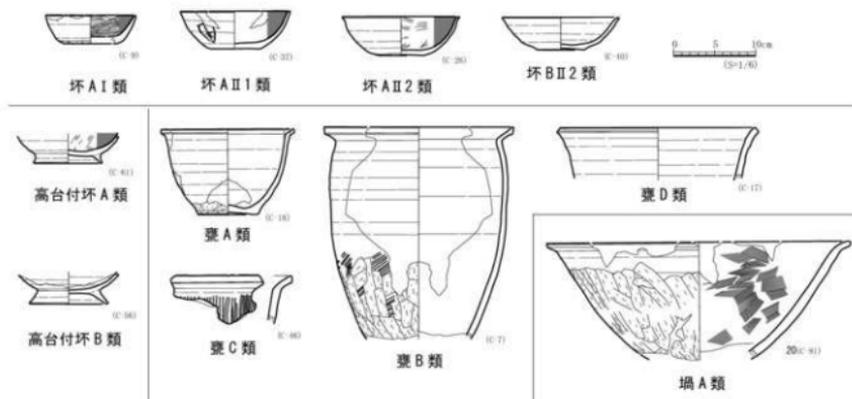
**甕B類**：屈曲する口縁部をもち、胴部最大径が中位にあり、長胴形を呈するもの (第134図13・14・23・24・27・37・43、第136図18)。胴部下半または胴部上半にへら削りを施す。叩き目が残るものも確認されている (第134図27)。

**甕C類**：屈曲する口縁部をもち、胴部最大径が頸部付近にあり、長胴形を呈するもの (第134図25、第136図19)。原則としてロクロ成形だが、内外面の胴部にハケメを施すものがある (第136図19)。

**甕D類**：口縁部が屈曲せず、外反しながら立ち上がるもの (第134図26)。

**【埴】** (第136図20・21)

**埴A類**：ロクロ成形で、口縁部が屈曲し、口径に対し器高が低い土鍋形を呈すると考えられるものである (註2)。底部形態は不明である。ロクロ成形後、外面の胴部にへら削り、内面にナデを施すもの (第136図20)、ロクロ成形後、外面の胴部にへら削りを施すもの (第136図21) がある。



第 132 図 日向遺跡出土土器分類図

③須恵器 (第 133・134・137 図)

須恵器は SI2・3・5・6 堅穴住居跡、SK9・18 土坑、P476、基本層 III～VI 層から出土した。器種には坏・甕・高台付坏・蓋・壺類・鉢・甕がある。それぞれの器種について、形態的特徴などから以下のとおり分類した。また、底部の切り離し技法については、土器の分類をもとに分類した (第 14 表)。

【坏】 (第 134 図 21・34・35、第 137 図 1～9)

平底で、底部から口縁部までわずかに内湾しながら立ち上がるもの。口径に対し、器高が比較的低い皿状の器形を呈する。全体の器形を復元できるものが少ないことから、底部の切り離し技法から以下のとおり分類した。

坏 A 類：回転糸切り無調整 (a 類) のもの (第 134 図 21・34・35、第 137 図 1～4・6～8)。

坏 B 類：底部切り離し技法・調整が不明 (f 類) のもの (第 137 図 5・9)。このうち、第 137 図 9 については、底部切り離し技法が回転ヘラ切りの可能性がある。

【甕】 (第 137 図 10・11・24)

甕 A 類：高台の付かないもの (第 137 図 11)。胴部下端に回転ヘラ削りを施し、底部切り離し技法は e 類である。

甕 B 類：高台の付くもの (第 137 図 10・24)。第 133 図 10 は胴部下端に回転ヘラ削りを施し、底部切り離し技法は e 類である。

【高台付坏】 (第 134 図 31)

高台付坏 A 類：坏に高台が付くもの (第 134 図 31)。胴部下端に回転ヘラ削りを施し、底部切り離し技法は e 類である。

【蓋】 (第 137 図 12・13)

蓋 A 類：扁平な宝珠つまみがつくもの (第 137 図 12・13)。天井部に回転ヘラ削りを施す。

## 【壺類】(第134図15、第137図14~16・25)

壺A類：頸部が短く口縁部が直立する器形のもの(第137図14)。口縁~肩部のみのため、全体の器形は不明であるが、器形の特徴から短頸壺とみられる。

壺B類：高台が付き、胴部中位で屈曲するもの(第137図15)。胴部上半・口縁部が欠損しているため、器種は不明である。

壺C類：胴部上半に隆帯がつくもの(第134図15、第137図16・25)。器形の特徴から、ハソウの可能性が考えられる。

## 【鉢】(第137図17)

鉢A類：胴部が内湾して外上方に立ち上がり、頸部に屈曲して口縁部に至るもので、口唇部が上方にわずかにつまみ出した器形のもの(第137図17)。

## 【甕】(第134図16・17・44・45、第137図18~23)

甕A類：頸部から外反して立ち上がり口縁部に至り、口縁部が強く外反するもの(第137図18)。外面には格子タタキの後、1本描きの波状文が施される。

甕B類：頸部から外反して立ち上がり口縁部に至り、口縁部付近に粘土貼り付けによる凸帯を付すもの(第137図19)。

甕C類：頸部から外反して立ち上がり口縁部に至り、口唇端部を上下方につまみ出すもの(第134図16)。頸部には比較的丁寧な6本描きの波状文が施される。第134図45についてもその形態・胎土・波状文の単位が類似しており同一個体の可能性が高い。

甕D類：胴部資料のみのもの(第134図17・44、第137図20~23)。破片の大きさから中~大型の甕の胴部破片であると考えられる。ほとんどが、外面に平行タタキ・内面に当て具痕を残すもので、中には同心円当て具痕→格子タタキ(第134図44)、ロクロ成形で外面にヘラ削り・内面にヘラナデを施すもの(第137図20)がある。



第133図 日向遺跡出土須恵器分類図

## 2) 土師器・須恵器の所属時期

### ① 竪穴住居跡・土坑出土土器の年代

遺物がある程度まとまって出土した SI1~3・5・6・8 竪穴住居跡、SK18 土坑出土遺物は、その特徴から大きく、SI8 竪穴住居跡出土遺物、SI5 竪穴住居跡出土遺物、SI1~3・6 竪穴住居跡・SK18 土坑出土遺物の3時期に分けることができる。以下、それぞれのまとまりごとに、土器の年代について検討する(註3)。

#### 【SI8 竪穴住居跡出土遺物】(第134図)

非ロクロ土師器坏A類・坏B1類・甕A類で構成される。坏A類は丸底で胴部に屈曲があり、直立気味に立ち上がる口縁部をもつもので、口縁部は外反する。坏B1類は、内黒処理を施した比較的器高の高い有段丸底坏で、内面の屈曲は弱く、口縁部と胴部の境にわずかな稜が形成される。口縁部は外傾して立ち上がる。これらの特徴を有する土器は、住社式(氏家1957)の特徴を有するもので、角田市住社遺跡(斎藤1997)・多賀城市山王遺跡SD2050B 河川跡第6・7層土器(村田2001)などで出土しており、6世紀後半のものと考えられる。

#### 【SI5 竪穴住居跡出土遺物】(第134図)

ロクロ土師器・非ロクロ土師器・須恵器が出土した。その内訳はロクロ土師器坏AⅠ類・坏AⅡ類、非ロクロ土師器甕A類、須恵器高台付坏A類である。坏AⅠ類は、底径/口径比が0.6前後、器高/口径比0.3前後の比較的器高が低い皿形で、口径に対し底径が大きく、胴部下端に手持ちへら削りを施し、底部は手持ちへら削り再調整を施す。坏AⅡ類は比較的器高の低い皿状の器形とみられる。甕は非ロクロ成形のものである。須恵器高台付坏は、高台が比較的高く、底部の調整は回転へら削り再調整を施している。甕A類は非ロクロ成形で胴部にへら削り・口縁部にヨコナデを施す長胴のものであるが、非ロクロ成形の甕はこの1点のみで、その他はロクロ成形の甕破片が出土している。このような特徴と類似する土器は、亶理町宮前遺跡20号住居跡(丹羽1983)などで出土しており、8世紀末~9世紀初頭に位置付けられている。このことから、SI5 竪穴住居跡の遺物の年代はこれに近い年代のものと考えられる。

#### 【SI1~3・6 竪穴住居跡・SK18 土坑出土遺物】(第134図)

ロクロ土師器・須恵器が出土した。その内訳はロクロ土師器坏AⅡ1・AⅡ2・BⅡ2類、甕A・B・D類、須恵器坏A類である。なお、これらの遺構からは須恵器壺C・甕C・D類も出土しているが、他の遺物より古い時期の特徴を有しており、かつ堆積土中からの出土で遺構に伴わない土器であることから土器組成からは除外した。

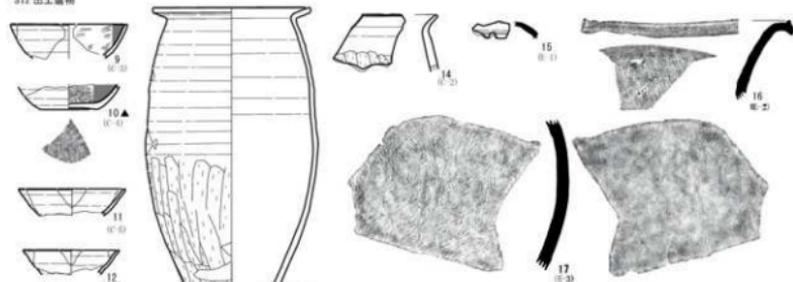
土師器坏AⅡ1・2類は、底部から内湾して立ち上がる椀形のもので、口縁部は外傾して立ち上がるものと外反するものがあり、坏底部切り離し技法は回転系切り無調整が主体である。法量は口径11.4~15.8cm、器高4.7~5.7cm、底径5.3~7.0cmで、底径/口径比0.34~0.48、器高/口径比0.32~0.43である。非内黒坏B類は坏A類と比較すると出土数が少ない傾向にある。須恵器坏については、回転系切り無調整のもののみが出土した。土師器の出土数と比較するとその割合は少ない。このような特徴と類似する土器は、山元町石垣遺跡SK28土坑出土土器(山田ほか2014)・的場遺跡の竪穴住居跡・土坑群(山田ほか2014)、亶理町宮前遺跡第54号住居跡(丹羽1983)などで出土しており、概ね9世紀後半頃に位置付けられる。

なお、SI2・SK18から出土した須恵器甕C類(第137図16・45)については、器形・製作技法・胎土の

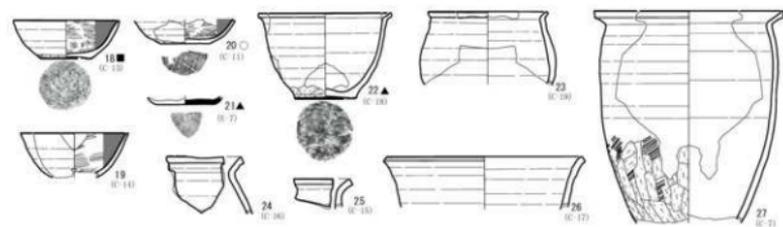


S11 出土遺物 【母坑上：3・4・6～8、1層2・5・19、4層（9・17層遺）：1】

## S12 出土遺物

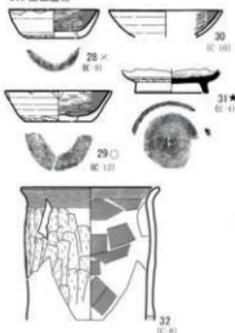


【母坑上：9・12・17、1層：15・16、2層：11・10・14、3層（床面直上層）：13】



S13 出土遺物 【母坑上：25、1層：19、3層（床面直上層）：18・21、4層（9・17天井崩落土）：20・22・24・26・27、床直方埋土：23】

## S15 出土遺物

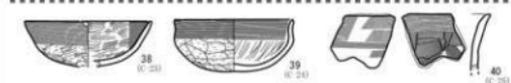


【9・17層遺物：28・32、SK1/1層：31、SK2/1・2層：29、母坑上：30】

- 【断面図中層上図記】
- ▲ a 類 (回転糸切調整帯)
  - b 類 (回転糸切→手持ちへウ割り)
  - c 類 (切離不明→手持ちへウ割り)
  - d 類 (回転糸切→両端部持ちちへウ割り)
  - ★ e 類 (回転へウ切→回転へウ割り)
  - × f 類 (不明)
- ※赤ロクアノ上層部：32・38～40  
※1 内は用上層位



S16 出土遺物 【床面：34・36・37、SK1・1層：33・35】



S18 出土遺物 出土層位【床面：38・39、母坑上：40】

SK18 出土遺物  
【すべて母坑上】

面から同一個体のものと思われ、口縁部の形態や波状文の特徴から8世紀前半頃のものと考えられる。

## ②基本層出土土器の年代

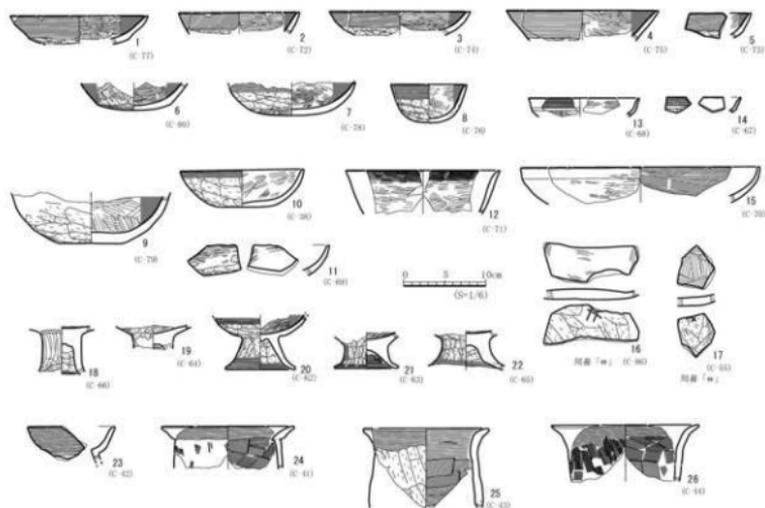
土師器・須恵器は基本層Ⅲ～Ⅵ層において出土し、その大半は、基本層Ⅴ層を中心に出土した。基本層Ⅴb層以下には非クロコ土師器のみが含まれるが、それより上層のⅢ～Ⅵa層については、非クロコ土師器・クロコ土師器・須恵器が混在しており、層位的な出土はしていない。このことから、基本層出土遺物については、非クロコ土師器・クロコ土師器・須恵器に分け、それぞれの特徴からその年代を検討することとする。

### 【非クロコ土師器】(第135図)

非クロコ土師器は坏B2・C・D1・D2・E・F1・F2類、高坏A～C類、甕A～C類が出土した。破片資料が多く、器形を復元できるものはほとんどない。前述のとおり、基本層出土遺物は、各時代のものが混在し、層位的な出土はしていないため、器種構成の面から詳細な年代的位置づけを行うことは難しい。そこで、ここでは比較的年代を検討しやすい坏B2・C・D1・D2類について、その年代の上限・下限を検討し、基本層出土の非クロコ土師器のおおよその年代幅について想定することとした。

器高の低い皿形化が進んだ有段丸底坏(坏B2類)は7世紀中葉以降にみられるもので、胴部下半に明瞭な段を形成しないもの、内面に屈曲を持たないもの、口縁部が内湾気味に立ち上がるものなどがあり、無段丸底坏(坏C類)には、小型のものが含まれることから7世紀中葉～8世紀前半頃のものと考えられる。平底風の坏(坏D1・2類)は、8世紀前半以降に主体となる器種である。このような特徴と類似する土器は、亙理町堤の内遺跡(鈴木2002)・富南開遺跡(古川ほか1991)・堀の内遺跡(亙理町教育委員会1997)・宮前遺跡(丹羽1983)・山元町日向北遺跡(山田・丹野2014)などで出土しており、特に日向遺跡に近接する日向北遺跡とその様相が類似している。以上の検討から、坏B2・C・D1・D2類の年代については、7世紀中葉～8世紀前半のものと想定され、この他の器種の多くは概ね同様の年代幅におさまるものと考えられる。ただし、6世紀後半代(S18 堅穴住居跡)の遺構・遺物も確認されていることから、これに近い時期の遺物も存在する可能性はある。

なお、基本層からは、器形や製作技法の諸点から在地で一般的につくられた土器と判断されたもの(外面の胴部にヘラ削り・口縁部にヨコナデ、内面にヘラミガキを施すもの:坏B2・C・D1・D2類)のほか、坏E類、坏F1・2類のように、胎土・色調・器形の面で、在地の土器とは異なる特徴を有するものもわずかではあるが出土している。坏E類(第137図12)は深身の碗形を呈する器形で、胎土は基本的に坏B～D類と類似し在地の土で生産されたものと判断されるが、胎土が非常に密で丁寧なつくりのものである。坏F1類(第137図13・14)は外面の口縁部にヨコナデ、段下の胴部～底部にヘラ削り・内面にヘラミガキを施し、胎土は密で色調は橙色を呈する。坏F2類(第137図15)は、盤状の器形で外面にヘラミガキを施し、胎土の色調がにがい黄橙色を呈する。このうちF1・2類は胎土が明らかに在地のものとは異なり、非在地系の土器であると判断される。特にF1類は、胎土の色調が橙色を呈し、器形の特徴から、関東地方に出自が求められている関東系土師器と考えられ、これと類似するものは、周辺地域では蔵王町窪田遺跡(鈴木2011)・十郎田遺跡(鈴木2011)などで出土しており、7世紀後半頃のものと思われる。



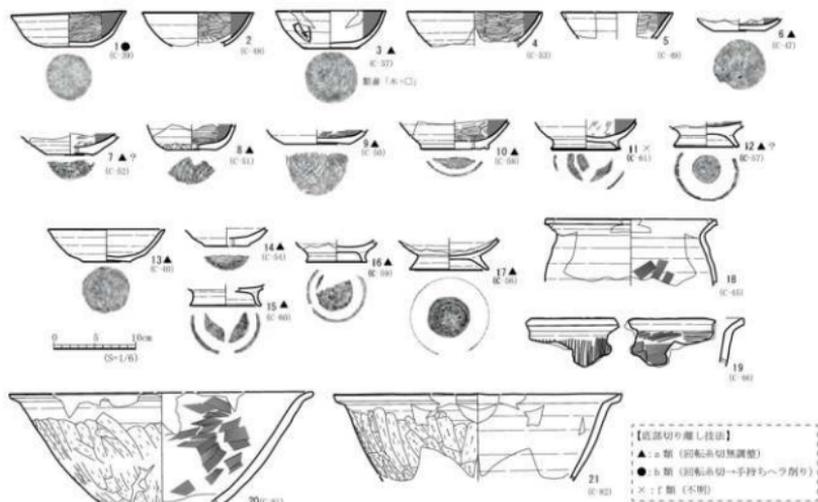
基本層IV期：23・24 基本層IV・V期：20・25 基本層V期：1～11・13～17・19・21・22・26 基本層V・VI期：12 基本層VI期：18

### 第135図 日向遺跡 基本層出土土師器（1）-非ロクロ土師器-

#### 【ロクロ土師器】（第136図）

ロクロ土師器環AⅡ1・AⅡ2・BⅡ2類、高台付坏A・B類、甕B・C類、塶A類が出土した。このうち、坏A類・B類は、器形・製作技法・法量の面で、SI1～3・6 竪穴住居跡・SK18 土坑から出土した坏類と類似しており、概ね同様の9世紀後半と考えられ、高台付坏・甕についても同様の年代幅におさまるものと想定される。

塶は、北陸地方を中心に8世紀後半に広く普及した煮炊具で、9世紀前半から11世紀中葉にかけて、青森県・山形県・岩手県の東北地方北部にその分布が確認されており、北陸地方との関連性が指摘されている（松本1991、佐藤・村田1996）。宮城県内での土師器塶は仙台市南小泉遺跡（結城・佐藤1984）・中田畑中遺跡（佐藤1985）などが確認されているが、出土事例は極めて少なく、形態的特徴から年代を推定することは難しい。日向遺跡出土の塶は、いずれもロクロ成形で、屈曲する口縁部をもち、外面にヘラ削り・内面にナデを施したものである。こうした特徴は、今回の調査で出土したロクロ成形の土師器甕と口縁端部の形態や製作技法の面で類似している。このことから、現段階ではこれらと同じ年代幅におさまるものと捉えておきたい。なお、塶の胎土についても、他のロクロ土師器の胎土とほぼ同じ特徴を有しており、本遺跡の塶は、地元の粘土を使用し、在地の技法を用いて製作されたものと判断できるが、その一方で、在地の一般的な土師器の器形と比較すると明らかに異質といえる。日向遺跡出土の土師器塶が直接的に北陸地方の影響を受けて製作されたものかは現段階では不明であるが、少なくとも、塶の製作にあたり、何らかの外的要因があった可能性が推測される。



基本層器類：1・6・13 基本層内層：2・17 基本層V層：3～5・7～12・14～16・18～21

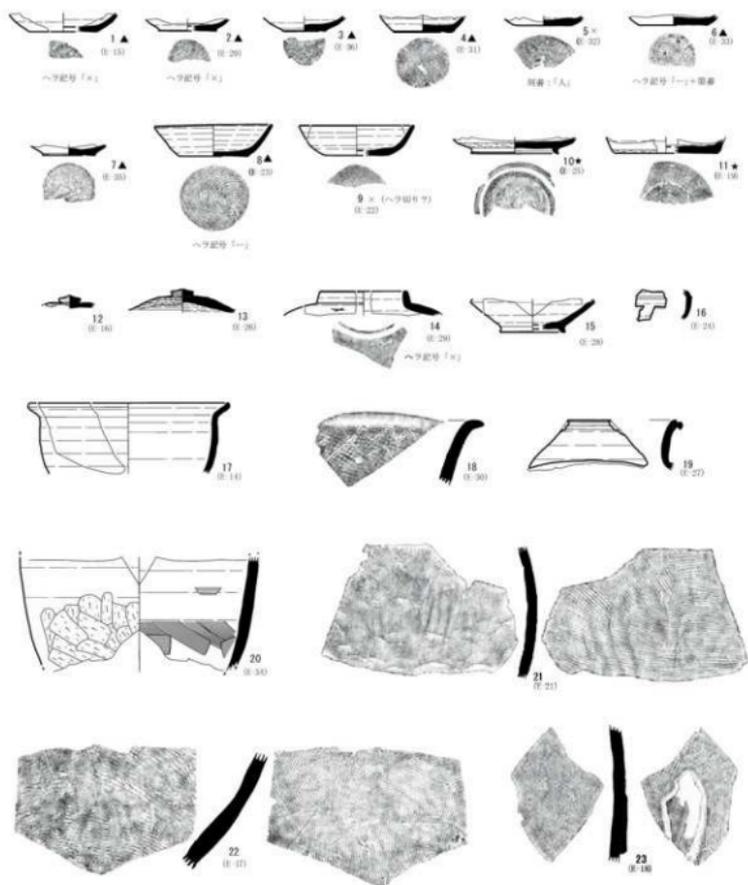
第136図 日向遺跡 基本層出土土師器(2) -ロクロ土師器-

#### 【須恵器】(第137図)

須恵器は、坏A・B類、盤A・B類、蓋A類、壺A～C類、鉢A類、甕A・B・D類が出土した。破片資料が多く、器形を復元できるものはほとんどない。

坏は、底部切り離し技法が回転糸切り無調整のもの(坏A)が大半を占め、底径は5.2～8.4cmとばらつきがある。このうち、器形が復元できる第137図8・9についてみると、第137図8の坏は回転糸切り無調整のもの(坏A類)で、口径14.4cm・器高3.9cm・底径8.2cm(底径/口径比0.57・器高/口径比0.27)、第137図9の坏はへら切りものと考えられるもの(坏B類)で、口径14.0cm・器高3.7cm・底部7.5cm(径底径/口径比0.53・器高/口径比0.26)を測り、いずれも器高の低い皿状の坏で口縁部が直線的に外傾して立ち上がる器形である。このような特徴を有する須恵器坏は、山元町北名生東窯跡(鍛冶1971・岩見1991)で出土しており、その年代は8世紀第4四半期頃のものとしてされている(東北古代土器研究会2008)。一方、同調査区内で確認されたSI5 堅穴住居跡では8世紀末から9世紀初頭頃の土師器坏・須恵器高台付坏が出土している。この点を踏まえると、第137図8・9は、SI5と近い年代の可能性が考えられる。この他の須恵器坏(第137図1～7)については、底部資料のため年代的位づけは難しいが、9世紀後半頃の土師器坏と須恵器坏が伴件しているSI3・6 堅穴住居跡出土の須恵器坏の底径が6～7cm前後であることから、底部径が7cm以下のもの(第137図2～5・7)については9世紀後半代、底径が8cm前後のもの(第137図1・6)はSI5に近い年代の可能性が考えられる。

その他の器種については、破片資料のため年代的位づけは難しい。これまで検討してきた日向遺跡出土土師器の年代は、概ねI期：6世紀後半、II期：7世紀中葉～8世紀前半、III期：8世紀後半～9世紀初



基本層Ⅲ層：1・12・17・22・23      基本層Ⅳ層：2・11・21      基本層Ⅴ層：3～10・13～16・18～20

- 【底部切り履し技跡】
- ▲：a層（回転糸切無調整）
  - ：b層（回転糸切→手持ちへろ割り）
  - ：c層（切籠不明→手持ちへろ割り）
  - ：d層（回転糸切→回線部手持ちへろ割り）
  - ★：e層（回転へろ切→回転へろ割り）
  - ×：f層（不明）

SK9 土坑



P476



第137図 日向遺跡 SK9土坑、P494、基本層Ⅲ～Ⅴ層出土 須恵器

頭、IV期：9世紀後半の4時期にわけることができ、時期不明の器種は、これらのいずれかの時期のものである可能性が考えられる。このうち、盤と蓋については、個別の形態・技法等の特徴と県内の須恵器窯の生産器種（村田1992、東北古代土器研究会2008）の消長から、盤は8世紀前半代頃、蓋は8世紀後半～9世紀初頭頃のものと思われる。

### 3) ヘラ記号・墨書・刻書のある土器

今回の日向遺跡の調査で出土した土師器・須恵器の中には、ヘラ記号・墨書・刻書のあるものが確認された（第15表）。

ヘラ記号のある土器は5点あり、須恵器杯の底部外面、須恵器壺の肩部外面で確認された。その内訳は「一」が2点（第137図6・8）、「×」が3点（第137図1・2・14）で、すべて焼成前に描かれたものである。

墨書のある土器は3点あり、須恵器杯の底部外面（第134

図35、第137図6）、土師器杯胴部外面（第136図3）で確認された。そのうち判読が可能なものは、土師器杯「木に□」である（第136図3）。

刻書のある土器は3点あり、非クロロ土師器杯の底部外面（第135図16・17）、須恵器杯の底部外面（第137図5）で確認された。すべて焼成前に描かれたものである。須恵器杯の刻書は「人」、非クロロ土師器杯の刻書は「++」である（註4）。

### (3) 陶器（第138・139図）

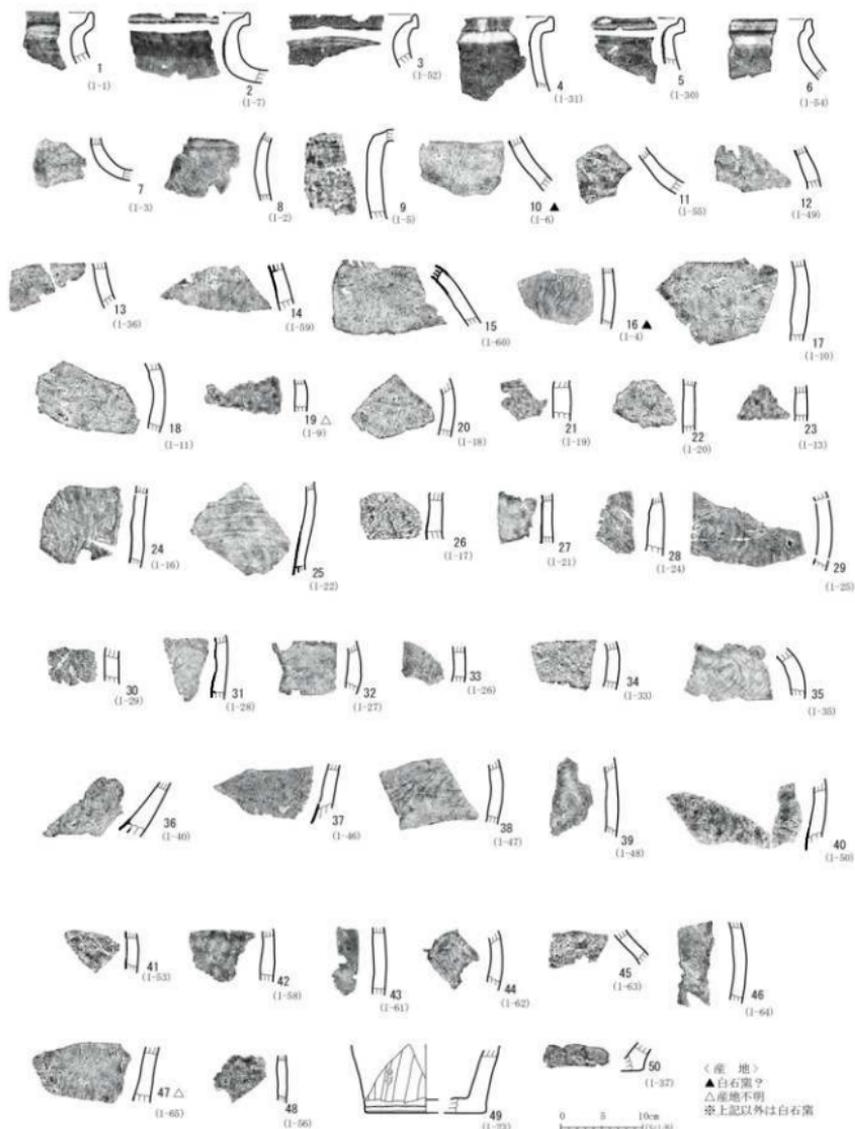
90点出土し、このうち65点図示した。出土した中世陶器は、甕の口縁部（第138図1～6）・頸部～胴部（第138図7～48）・底部（第138図49・50）、鉢の口縁部（第139図1～5）と胴部（第139図6～9）、壺の胴部（第139図10～15）である。これらの産地については、胎土や焼成の特徴から、在地の宮城県白石市に所在する「白石窯」産と推定されるものが61点、産地不明のものが4点（第138図19・47、第139図7・15）である（註5）。

白石窯産のものには、甕・鉢・壺がある。このうち、甕の口縁部資料は6点（第138図1～6）出土しており、口縁部の形態が「受け口」状になる特徴が認められる。鉢はすべて筋目がないものである。壺には小型のもの（第139図10）が含まれる。白石窯については、大きく4つの支群（東北支群・市ノ沢支群・黒森支群・一本杉支群）からなっており、このうち、本格的な発掘調査が実施されたのは一本杉窯跡群（菊地・早川1996）のみである。その他の支群は、表採資料によりその概要が把握されている程度であり、白石窯全体の操業期間や器種の形態の変遷は不明な点が多い。このことから、本遺跡から出土した「白石窯」産の中世陶器の所属時期については、白石市一本杉窯跡の調査成果をもとに、概ね13世紀後半～14世紀前半頃と想定しておきたい。

第15表 日向遺跡出土 墨書・刻書・ヘラ記号のある土器一覧

| No | 種別              | 出土遺構      | 内容                     | 記載部位 |
|----|-----------------|-----------|------------------------|------|
| 1  | クロロ土師器杯 (C-37)  | 基本層V層     | 墨書「木に□」                | 胴部外面 |
| 2  | 須恵器杯 (E-35)     | S16 堅穴住居跡 | 墨書（内容不明）               | 底部外面 |
| 3  | 須恵器杯 (E-33)     | 基本層V層     | ヘラ記号「一」<br>墨書（内容不明 鳥?） | 底部外面 |
| 4  | 非クロロ土師器杯 (C-55) | 基本層V層     | 刻書「++」                 | 底部外面 |
| 5  | 非クロロ土師器杯 (C-86) | 基本層V層     | 刻書「++」                 | 底部外面 |
| 6  | 須恵器杯 (E-33)     | 基本層V層     | 刻書「人」                  | 底部外面 |
| 7  | 須恵器杯 (E-15)     | 基本層III層   | ヘラ記号「×」                | 底部外面 |
| 8  | 須恵器杯 (E-20)     | 基本層IV層    | ヘラ記号「×」                | 底部外面 |
| 9  | 須恵器杯 (E-23)     | 基本層III層   | ヘラ記号「一」                | 底部外面 |
| 10 | 須恵器壺 (E-29)     | 基本層V層     | ヘラ記号「×」                | 肩部外面 |

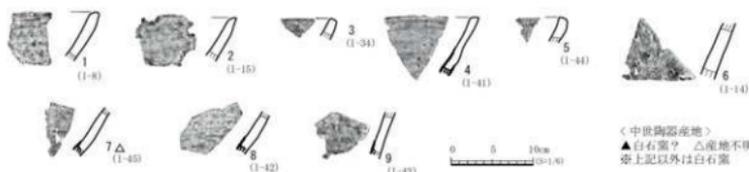
## 中世陶器 甕



1・7・8・16:SE3 2・9・10:SE4 17・18:SK17 19:P094 48:覆孔  
 3・20～27・49:基本層Ⅲ層 28～33:基本層Ⅳ層 4・5・34:基本層Ⅳ・Ⅴ層 6・11～15・35～47・50:基本層Ⅴ層

第138図 日向遺跡出土 中世の遺物(1)-中世陶器・甕-

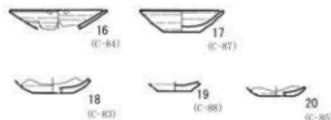
## 中世陶器 鉢



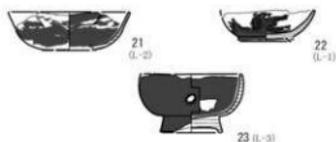
## 中世陶器 壺



## かわらけ



## 漆器



【中世陶器鉢 1: SE1, 2・6: 基本層Ⅲ層, 3: 基本層Ⅳ・Ⅴ層, 4~5・7~9: 基本層Ⅴ層】

【中世陶器壺 10: SK17, 15: 基本層Ⅳ・Ⅴ層, 11~13: 基本層Ⅴ層, 14: 表土】

【かわらけ 16~20: 基本層Ⅴ層】

【漆器 21: SE1, 22・23: SK17】

第139図 日向遺跡出土 中世の遺物(2)-中世陶器鉢・壺、かわらけ、漆器-

## (4) かわらけ (第139図)

5点出土し、すべて図示した。出土したかわらけは、いずれもロクロ成形による皿である。全体の器形を復元できたものは1点のみであるが、それぞれの法量の推定値をみると、出土したかわらけは、概ね口径は10cm~12cm前後、底径4~5cm、器高3cm以下のものとみられ、厚さは5mm前後の比較的薄手のつくりである。底部の調整については、回転糸切り後無調整のもの(第139図17・19)と、回転ヘラ削りによる再調整のもの(第139図18)が認められ、土器外面の色調は、明赤褐色・橙色を呈するもの(第139図16・18・20)とにぶい褐色・黄褐色を呈するもの(第139図17・19)がある。

このような特徴を有するかわらけ皿は、近隣では亶理町富南遺跡(古川ほか1991)で出土している。富南遺跡ではロクロ成形のかわらけ皿が出土しており、底部の切り離しはすべて回転糸切り無調整で、一部底部に板状の痕跡が認められるものがあり、13世紀後半~14世紀前半の年代のものと推定されている。宮城県におけるロクロ成形のかわらけは、13世紀中葉~14世紀前半頃から主体となり、薄手化が始まるとされている(佐藤2003)。

今回出土したかわらけは、すべて破片資料で、かつ出土数も少ないため、詳細な年代的位置づけを行うことは難しいが、その特徴からおおむね中世に属するものと考えられる。日向遺跡から出土したかわらけ皿は、すべてがロクロ成形で回転糸切底を主体とし比較的薄手の作りであること、周辺で出土している中世陶器の年代などから、中世のなかでも13世紀後半前後以降のものとして捉えておきたい。

## (5) 漆器 (第139図)

3点出土し、すべて図示した。出土した器種は椀である。

第139図21は、ごく浅い高台のつく内外面黒色系漆の椀で、法量は口径14.8cm、器高4.7cm、底径6.7cmを測る。樹種はブナ属である。第139図22は、低い高台のつく外面黒色系漆・内面赤色系漆の椀で、外面に赤色系漆による漆絵(草花?)が描かれている。法量は口径11.6cm、器高6.8cm、底径3.8cmを測る。樹種はブナ属である。第139図23は、厚さ2cmほどの厚く高い高台のつく椀で、法量は口径12.8cm、器高7.2cm、底部径7.5cmを測る。胴部に穿孔がある。樹種はブナ属である。器面の磨滅がひどく、ほとんどの漆は残存していないが、内外面ともに赤色系の漆片が付着している。

福島県域で出土している中世の漆器椀・皿では、漆器の漆絵は13世紀～14世紀前半以降に確認されている(菅野2009)。また、今回出土した漆器は、白石窯産の陶器とともに出土していることから、少なくとも13世紀後半から14世紀前半以降のものと考えられる。

漆器の用材の面で見ると、出土した漆器の材質には、すべてブナ属材が使用されている。宮城県内の古代から中世における挽物の用材は、ケヤキから次第にブナ属へ移行し、10世紀前後を境にして挽物へのブナ属材の導入が開始されると指摘されている(三村ほか2006)。中世のブナ属の漆器は、仙台市中野高柳遺跡(村田ほか2006)や中田南遺跡(太田1994)などに類例があり、前者では15世紀以降、後者では中世後半のものとしてされている。このことから、本遺跡で出土した漆器は中世でも後半段階のものである可能性がある。このうち、高台が高く厚いつくりの椀は仙台市中田南遺跡(太田1994)などに類例があり、15世紀後半から16世紀頃のものとしてされている。また、福島県域では、厚みのある高い高台がつく漆器椀は16世紀代に登場し、材質はケヤキからブナに転換する傾向が指摘されている(菅野2009)。このことから、第139図23の高い高台のつく椀は、16世紀代のものである可能性が考えられる。

## (6) 石器

石器は、砥石4点、石包丁1点、不定形石器1点、剥片3点が出土し、このうち、砥石1点(第128図131)、石包丁1点(第128図132)、不定形石器1点(第109図6)について図示した。それぞれの石材は、砥石が泥岩・砂岩・凝灰岩、石包丁が結晶片岩、不定形石器が粘板岩、剥片が頁岩・玉髄・黒曜石である。

## (7) その他の遺物

その他の遺物には、土製品、製鉄関連遺物などがある。

土製品には、土製支脚(第126図126)があり、基本層V層から出土した。その形状から、周辺で確認されている竪穴住居のカマドで使用された支脚とみられ、住居と同様の年代のものと考えられる。

製鉄関連遺物には、輪の羽口・鉄滓がある。このうち、輪の羽口は、SI2 竪穴住居跡から1点、SI3 竪穴住居跡から1点、基本層III層から1点(第113図21)、基本層IV層から2点(第126図127・128)出土した。このうち、SI2・3 竪穴住居跡で出土した羽口は、カマド燃焼部に据えられた状態で出土し、カマドの支脚として転用されていた。このことから、これらの羽口は概ね古代のものと考えられ、今回の調査区周辺に古代の製鉄関連遺構が存在する可能性が考えられる。

## 2. 検出した遺構の特徴と時期

今回の調査では、竪穴住居跡 8 軒、掘立柱建物跡 42 棟、井戸跡 4 基、土坑 18 基、焼成遺構 3 基、ピット 323 個、遺物包含層を検出した。ここでは、これらの遺構の堆積土の特徴・出土遺物・遺構の重複関係等からその時期について検討する。

### (1) 出土遺物・遺構の重複関係等からみた各遺構の時期

今回の調査で検出した遺構の堆積土のうち、自然堆積のものほとんどは、黒褐色・暗褐色シルトを主体とするものである。検出した遺構は出土遺物の特徴から、大きく古墳時代・平安時代・中世に分けられるが、その堆積土に大きな差異は認められなかった。そこで、今回の調査で検出した遺構について、出土遺物や重複関係、遺構の特徴から、各遺構の時期を検討する。

なお、各遺構から出土した遺物は第 13-1・2 表、主要遺構の重複関係と所属時期は第 140 図にまとめた。

#### 1) S11～8 竪穴住居跡

竪穴住居跡は 8 軒確認され、その堆積土・床面・床面施設等から遺物が出土している。竪穴住居の構造・出土遺物から、概ね S11～7 竪穴住居跡は古代、S18 竪穴住居跡は古墳時代のものと思われる。今回確認した竪穴住居跡は、いずれも平面形が隅丸方形を呈し、S11～5・7 にはカマドが付設され、S16 は残存状況が悪くカマド本体は確認されなかったが、焼面の位置からカマドが付設されていたと考えられる。

S11 竪穴住居跡では、堆積土・カマド煙道堆積土・床面施設 (P1) から、9 世紀後半頃の特徴を有する土師器が出土している。S12 竪穴住居跡では、堆積土・床面・カマド燃焼部から 9 世紀後半頃の特徴を有する土師器が出土している。なお、S11 と S12 は重複関係にあり、S11 は S12 より新しい遺構であることが確認されており、9 世紀後半頃の中でも、近い時期に同位置で住居がつけられたと考えられる。

S13 竪穴住居跡では、堆積土・床面・カマド燃焼部・床面施設 (P3・4・SK1・2)・住居床面掘方埋土から 9 世紀後半頃の特徴を有する土師器 (内黒処理・赤焼土器)・須恵器が出土している。S14 竪穴住居跡では、堆積土・床面・床面施設 (P1) から土師器・須恵器が出土している。小破片のため、図示できたものは少ないが、ロクロ成形の土師器坏 (内黒処理・赤焼土器)、回転糸切り後ナゲによる再調整を施す須恵器坏片などが出土しており、S13 と近い時期の遺物が出土している。S15 竪穴住居跡では、堆積土・カマド燃焼部・カマド煙出 Pit・床面施設 (SK1～3) から 8 世紀末～9 世紀初頭頃の特徴を有する土師器・須恵器が出土している。なお、S13・4、S13・5 はそれぞれ重複関係にあり、S15 は S13・4 より古い遺構であることが確認されており、出土遺物の年代からみても矛盾はない。S13・4 は位置的に重複関係にあるが、確認調査のトレンチ掘削時に堆積土を除去してしまったため、その新旧関係は不明である。

S16 竪穴住居跡では、堆積土・床面・床面施設 (P1・SK1) から 9 世紀後半頃の特徴を有する土師器・須恵器が出土している。

S17 竪穴住居跡では、検出面・堆積土・カマド燃焼部から土師器・須恵器が出土している。小破片のため、図示できたものはないが、ロクロ成形の土師器坏 (内黒処理) が出土しており、また重複する SK18 土坑から 9 世紀後半頃の遺物が出土していることから、その年代は概ね 9 世紀後半頃と考えられる。

S18 竪穴住居跡では、堆積土・床面から 6 世紀後半頃の特徴を有する土師器が出土している。

以上のとおり、出土遺物の特徴から、S18 竪穴住居跡は 6 世紀後半頃、S15 は 8 世紀末～9 世紀初頭頃、S11～3・6 は 9 世紀後半頃、S14・7 は平安時代のもと考えられる。

## 2) SB1~42 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は42棟確認され、これらを構成する柱穴からは、主に弥生土器片・土師器片・須恵器片・製鉄関連遺物（鉄滓）・石器が出土している。しかし、これらのほとんどは掘方埋土や柱の抜・切取穴の埋め戻し土に混入したと判断される小破片が多く、遺物のみで建物の年代を特定することは難しい。

そこで、遺構の特徴でみてみると、これらの建物の柱穴は、掘方が円・楕円形を主体とし、長軸20~40cm前後の比較的小規模の掘方になるものが多く、掘方埋土は黒褐色・暗褐色・淡い褐色のシルトないし砂質シルト土を主体とするものである。日向遺跡周辺での調査事例では、このような特徴を有する柱穴跡は、中世~近世の掘立柱建物跡を構成する柱穴となる場合が多い。また、今回の調査区内においては、柱穴より新しい細畝跡や擾乱・表土から近世・近代の遺物が確認されているが、遺構や遺構確認面では中世以前の遺物のみが出土している。このことから、今回確認された建物の多くは、中世に属すると考えられる。

この他に、遺構の重複関係から年代の推定が可能な建物としては、SB39とSB40がある。SB39は、9世紀後半頃と考えられるSI7 竪穴住居跡と重複し、これより古い建物跡であることが確認されている。建物を構成する柱穴の掘方は円形・楕円形・隅丸方形を呈し、他の建物跡より掘方の規模が大きく、柱穴からはロクロ成形の土師器片が出土している。このことから、SB39はおおむね平安時代の中でも9世紀後半以前の建物跡とみられる。SB40は、中世と考えられるSE3 井戸跡・SB42 掘立柱建物跡と重複し、これより古い。建物を構成する柱穴の掘方は円形・楕円形・隅丸方形・隅丸長方形を呈し、SB39と同様に掘方の規模は他の建物跡より大きい。遺構の重複関係から少なくとも中世以前の建物跡と考えられ、SB39と掘方の規模や柱間寸法・主軸方向が類似していること、柱穴からロクロ成形の土師器片が出土していることなどから、SB40は平安時代の建物である可能性が高いと推定される。

以上のとおり、SB39・40 掘立柱建物跡は平安時代、SB1~38・41・42 掘立柱建物跡は中世を主体とする建物である可能性が高いと想定される。

## 3) SE1~4 井戸跡

井戸跡は4基確認した。これらの井戸跡の年代について、出土遺物と遺構の重複関係から検討すると、SE1 井戸跡では、堆積土1層の埋戻し土から近世以降の瓦質土器、近現代の遺物が出土しており、井戸が完全に埋め戻された年代は近現代であると推定される。SE2 井戸跡では、堆積土下層に位置する10層から平安時代の須恵器片が出土しており、平安時代以降につくられた井戸跡であると考えられる。SE3 井戸跡は、平安時代と想定されるSB40 掘立柱建物跡と重複し、これより新しい。遺物は、井戸の埋戻し土から中世陶器が出土している。このことからSE3 井戸跡は平安時代以降につくられ、中世の段階で埋め戻されたと推定される。SE4 井戸跡では、井戸の掘方埋土から中世の漆器椀、堆積土中層に位置する自然堆積層から中世陶器が出土しており、井戸の構築・使用時期は概ね中世であると考えられる。また、SE4は堆積土上層が埋戻し土で、その上面が近世以降に堆積したと考えられる基本層IV層に覆われていることから、中世の段階で埋め戻されたと想定される。以上をまとめると、出土遺物の年代・重複関係から、SE1は近現代以降に埋め戻された井戸、SE3は平安時代以降につくられ中世以降に埋め戻された井戸、SE2は古代以降につくられた井戸、SE4は中世以降につくられ、中世の段階で埋め戻された井戸であると推定される。

次に井戸跡と他の遺構との位置関係からみてみると、井戸跡は中世の掘立柱建物跡の密集範囲から外れた位置に配置されており（第7図）、これらの井戸は、中世の建物群との関連性が想定される。そこで問題となるのが、近現代の遺物が出土しているSE1 井戸跡である。SE1については、堆積土最上層が近現代に埋め

戻されたと判断されるが、井戸の構造・規模の面でいえばSE3と類似している。また、他の井戸が調査区南斜面に位置するのにに対し、SE1は丘陵頂部に位置しており、他の井戸と比較して土が堆積しにくい環境にあったと考えられる。この点を踏まえれば、SE1は中世の段階でつくられ、井戸廃絶時は埋戻しが行われず、その後、井戸部分が窪地となり、近現代になって周辺の土地利用の段階で埋戻されたと解釈することが可能である。

以上のことから、今回の調査で確認した井戸跡については、いずれも中世のものと想定しておきたい。

#### 4) SK1～18 土坑

土坑は18基検出され、縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片・中世陶器片・漆器・製鉄関連遺物が出土している。

このうち、出土遺物・遺構の重複関係から時代がある程度推定できる土坑としては、SK5・7～9・11～13・15～18が挙げられる。SK5土坑は、中世以降と考えられるSB42とP558と重複し、これより古い。遺物はロクロ成形の土師器器片・甕片、須恵器甕片が出土している。このことから、SK5土坑は平安時代以降、中世以前のものとみられる。SK7土坑は、9世紀後半のSI3 堅穴住居跡・中世以降と考えられるSB33 掘立柱建物跡と重複し、SI3より新しく、SB33より古い。堆積土は人為堆積で、遺物はロクロ成形の土師器内黒坏・赤焼土器などの土師器片が一定量(56点915g)出土し、その他、須恵器蓋・甕片や鉄滓なども少量出土している。このことから、SK7土坑は9世紀後半以降のものとみられるが、出土遺物の特徴から9世紀後半に近い時期のもと考えられる。SK8土坑は、9世紀後半のSI3 堅穴住居跡の床面(掘方埋土)を掘り込んでつくられており、遺物はロクロ成形の土師器甕片・須恵器甕片が出土している。このことから、9世紀後半以降のものとみられる。なお、SK8はその位置関係からSI3 堅穴住居跡の床面施設の一部である可能性がある。SK9土坑は9世紀後半のSI4 堅穴住居跡と重複し、これより新しい。遺物はロクロ成形の赤焼土器・土師器甕片、須恵器片、鉄滓が出土している。このことから、SK9は9世紀後半以降のものとみられる。SK11土坑は、9世紀後半のSI1・2 堅穴住居跡と重複し、SI1より古く、SI2より新しい。堆積土は人為堆積で、遺物はロクロ成形の土師器甕片、須恵器甕片が出土した。このことから、SK11は、9世紀後半のものとみられる。なお、SK11はその位置関係からSI1 堅穴住居跡の床面施設の一部である可能性がある。SK12土坑は、9世紀後半のSI1 堅穴住居跡・中世以降と考えられるSB35 掘立柱建物跡などと重複し、SI1より新しく、SB35より古い。堆積土は人為堆積で、遺物はロクロ成形の土師器内黒坏・甕片が出土している。このことから、SK12は、9世紀後半以降のものとみられる。SK13土坑は、9世紀後半のSI1 堅穴住居跡・SK15土坑などと重複し、SI1より新しく、SK15より古い。堆積土は人為堆積で、遺物はロクロ成形の土師器甕片が出土している。このことから、SK13は、9世紀後半以降のもので、SK15より古い遺構であるとみられる。SK15土坑は、SK13土坑・中世以降と考えられるP470などと重複し、SK13より新しく、P470より古い。遺物はロクロ成形の土師器内黒坏・甕片が出土している。このことから、SK15は、9世紀後半以降のものとみられる。SK17土坑は、堆積土から中世陶器・漆器が一定量出土しており、その年代から16世紀頃のものとみられる。このSK17土坑と重複するSK16土坑は、遺物が出土していないが、中世のSK17より古い遺構であることから、16世紀以前のものとみられる。SK18土坑は、平安時代のSI7 堅穴住居跡と重複し、これより新しい。堆積土はロクロ成形の土師器内黒坏・甕片、須恵器甕片などが出土しており、その特徴から9世紀後半の遺構であると考えられる。

この他に遺物が少量出土している土坑にはSK1・4・6・14がある。これらの遺物は、いずれも堆積土出土

で、かつ小破片のものがほとんどであり、遺構に伴うものではなく、周辺から流入したものと判断される。SK1・4・6・14 土坑ではロクロ土師器片が出土しており、少なくとも平安時代以降のものとみられる。また、SK2・3・10 土坑については、出土遺物がなく、遺構の重複関係もないため、その所属時期は不明である。

### 5) 焼成遺構・ピット・遺物包含層

SX1～3 焼成遺構では、遺物が出土していないため、詳細な所属時期は不明である。そこで遺構の重複関係からみてみると、SX1は9世紀後半のSK12・13土坑より新しく、SX2は9世紀後半のSI2堅穴住居跡より新しいことから、いずれも9世紀後半以降の遺構であると考えられる。SX3は時期不明である。

ピットの多くは、掘方の形状・規模が中世以降と考えられる掘立柱建物跡の柱穴と類似し、分布範囲が掘立柱建物跡と共通していることから、掘立柱建物跡の柱穴と同様の年代である可能性が高いと推定される。

遺物包含層は、出土遺物から基本層Ⅲ層は近世、基本層Ⅳ層は中世以降、基本層Ⅴ層は古代～中世、基本層Ⅵ層は古墳時代～古代にかけての堆積層と考えられる（詳細については第三章1、第四章3(7)①を参照のこと）。

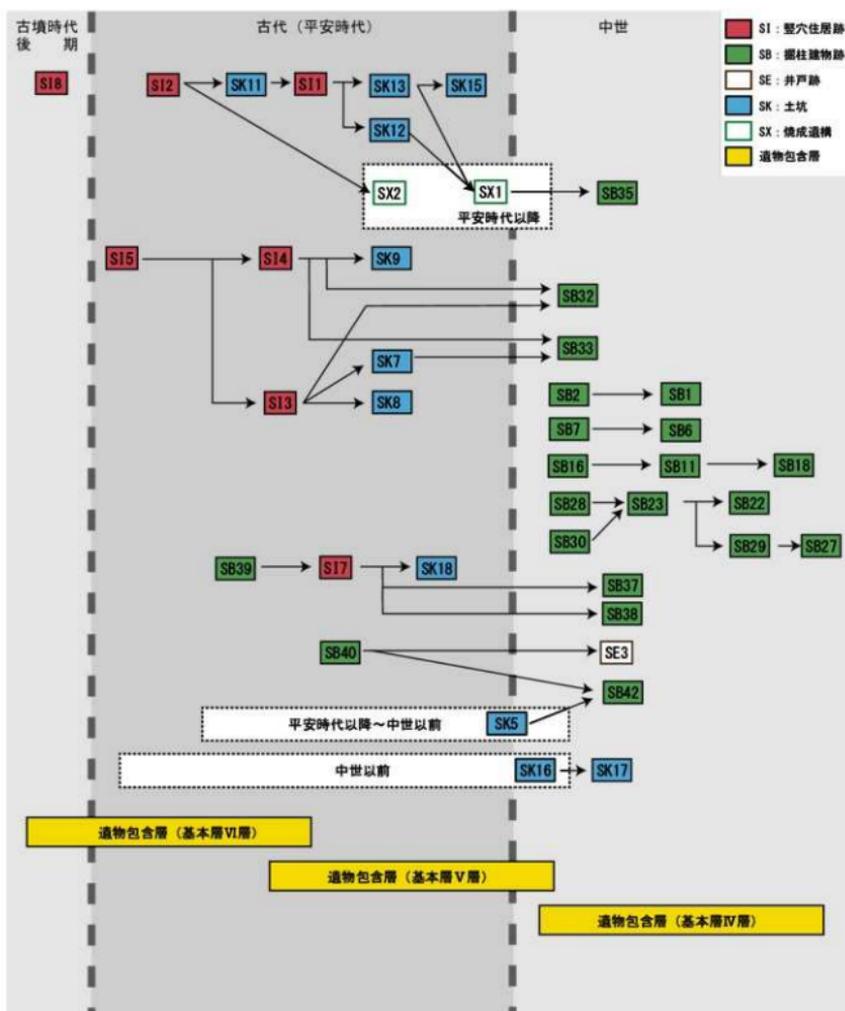
## (2) まとめ

以上の検討より、検出した遺構のおおよその時期は次のとおりである。

第16表 日向遺跡検出遺構の所属時期

| 時代・時期                        | 遺構名  |       |
|------------------------------|--|-------|
| 古墳時代後期（6世紀後半）                | SI8 堅穴住居跡  | 基本層Ⅵ層 |
| 古墳時代終末期（飛鳥時代）                |  |       |
| 奈良時代末～平安時代初期<br>（8世紀末～9世紀初頭） | SI5 堅穴住居跡  | 基本層Ⅴ層 |
| 平安時代前半<br>（9世紀後半前後）          | SI1～4・6・7 堅穴住居跡、SB39・40 掘立柱建物跡<br>SK7～9・11～13・15・18 土坑 |       |
| 平安時代以降                       | SK1・4・6・14 土坑 SX1・2 焼成遺構                               |       |
| 平安時代以降 中世以前                  | SK5 土坑   |       |
| 中世以前                         | SK16 土坑  | 基本層Ⅳ層 |
| 中世                           | SB1～38・41・42 掘立柱建物跡、SE1～4 井戸跡、<br>SK17 土坑、ピット          |       |
| 時期不明（近世以前）                   | SK2・3・10 土坑、SX3 焼成遺構                                   |       |
| 近世以降                         |  | 基本層Ⅲ層 |

※（ ）表記の遺構名は推定の時代



第140図 日向遺跡 主要遺構の重複関係と所属時期 (※Pitを除く)

### 3. 各時代の遺構の特徴と変遷

日向遺跡は、阿武隈山地から東に延びる標高16～20mの丘陵南緩斜面に立地する(第2図)。遺跡の南側には西から東に流れる谷原川があり、遺跡東側の付近で南東から流れる山寺川と合流する。遺跡が所在する丘陵東側には古墳時代終末期・平安時代・中近世の遺構が確認された日向北遺跡(山田・丹野2014)、丘陵西側の山上院には鎌倉時代後期の正保元年(1312年)の板碑が1基確認されている(石黒2005)。また、遺跡南側の谷原川南岸の平坦面には縄文時代～中世の谷原遺跡が所在する。

今回の調査箇所では、主に古墳時代～中世の遺構が確認された。ここでは、これまでの検討をもとに、各時代の遺構の特徴とその変遷等について検討したい。なお、それぞれの遺構の詳細は本報告第III章、出土遺物・遺構の年代については本報告第IV章1・2を参照されたい。

#### (1) 縄文～弥生時代の遺構

今回の調査区において、遺構内・遺物包含層等からわずかであるが縄文土器・弥生土器・石器が出土した。

縄文土器については、器面が磨滅しているため、その所属時期は不明である。弥生土器については、弥生時代中期後半の十三塚式の土器片と石包丁が1点出土した。

日向遺跡の周辺では、日向遺跡の北側に位置する中筋遺跡で縄文晩期を中心とする遺物包含層、弥生時代中期中葉の水田跡と遺物包含層が検出され、南側に位置する谷原遺跡で縄文時代後期の掘立柱建物跡で構成される環状集落・弥生時代中期頃の遺物が出土しており、周辺の遺跡で縄文時代や弥生時代の遺構や遺物が確認されている。今回の日向遺跡の調査区内においては、縄文・弥生時代の遺構は確認されなかったが、わずかながら遺物が出土していることから、日向遺跡が所在する丘陵上にも縄文・弥生時代の遺構が存在する可能性がある。

#### (2) 古墳時代の遺構(第141図)

今回の調査区で確認した古墳時代の遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡1軒(S18)のみで、古墳時代後期集落の様相については不明である。

この他、調査区南斜面の遺物包含層(基本層Ⅲ～Ⅵ層)では、7世紀中葉～8世紀前半終末期前後の遺物が一定量出土している。この時期の遺構については、日向遺跡と同丘陵上東側の南斜面に位置する日向北遺跡(山田・丹野2014)で竪穴住居跡が確認されており、今回の調査区周辺にも、これらの遺物を供給した遺構が存在する可能性がある。

#### (3) 古代の遺構(第142図)

今回の調査において確認した古代の遺構は、竪穴住居跡7軒(S11～7)、掘立柱建物跡2棟(SB39・40)、土坑8基(SK7～9・11～13・15・18)である。これらは、遺構の重複関係や出土遺物から、S15は8世紀末～9世紀初頭、それ以外は9世紀後半代のものと考えられる。

#### 【竪穴住居跡】

竪穴住居跡(S11～7)はいずれも標高17.0～17.8m前後の丘陵南緩斜面に位置する。その平面形は3～4m前後の隅丸方形を呈し、カマドを住居北壁に付設するもの(S13～5・7)、北壁に付設すると考えられるもの

(SI6)、東壁に付設するもの(SI2)、西壁に付設するもの(SI1)がある。住居の床構造は、掘方埋土を床とするもの(SI3・5・6)、地山(基本層)を床とするもの(SI1・2・4・7)がある。住居壁際に周溝が確認されたものは5棟(SI1~5)、主柱穴の他に壁柱穴が認められたものは2棟(SI1・5)ある。この他、SI2 堅穴住居跡とSI3 堅穴住居跡では、カマド支脚として、溶着滓が付着した輪の羽口を転用して使用しており、同一集団によってつくられた堅穴住居跡である可能性が考えられる。

出土遺物の年代からSI5が8世紀末~9世紀初頭と考えられ、住居の中で最も古い。SI1~4・6・7は9世紀後半代のもと考えられ、周溝・壁柱穴の有無や床面の構造等若干の相違点が認められるものの、その規模等の特徴が類似していることから、近い時期に機能した住居であると考えられる。また、各住居の重複関係から「SI2→SI1」、「SI5→SI3」、「SI5→SI4」の新旧関係が認められた。

#### 【掘立柱建物跡】

掘立柱建物跡は2棟(SB39・40)確認され、住居跡と同様、標高17.0~17.8m前後の丘陵南緩斜面に位置する。建物の規模は、SB39が3間×1間の東西棟、SB40が2間×2間の身舎の南側に庇が付く南北棟建物で、このうち、SB39はその重複関係からSI7より古い時期のものであることが確認されている。

建物跡の性格については、不明点が多いが、周辺に堅穴住居跡が存在することから、これらと関連のある施設として使用されたものと推察され、堅穴住居跡と近い時期の建物であると考えられる。

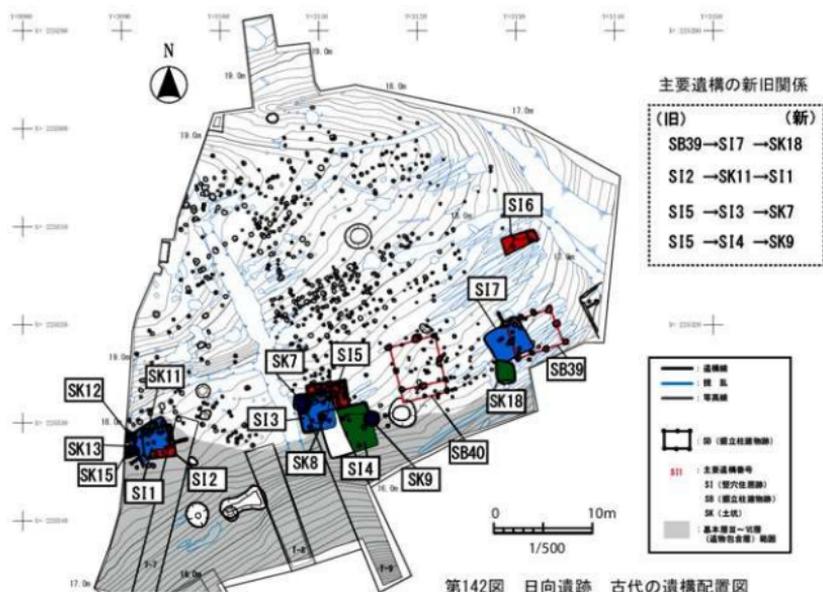
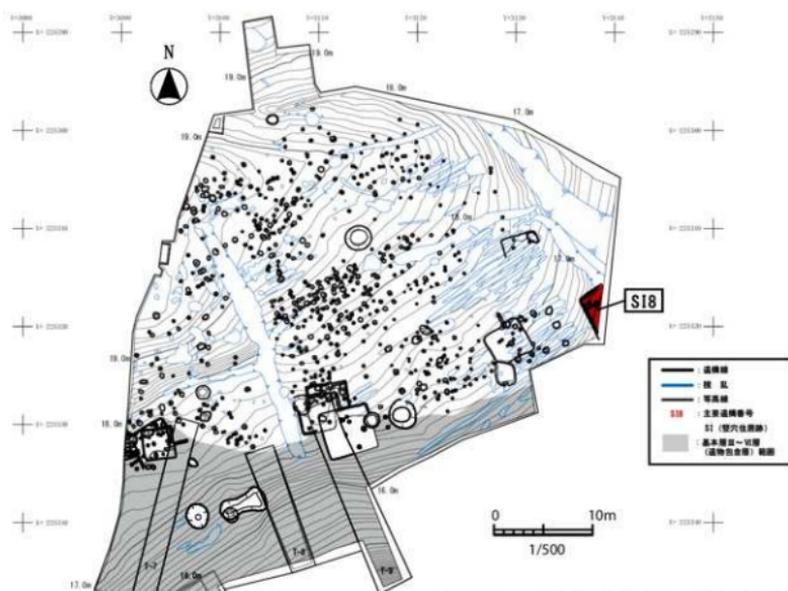
#### 【土坑】

その他の遺構として、土坑8基(SK7~9・11~13・15・18)がある。SK18は出土遺物の特徴から9世紀後半頃のもののみとみられ、重複関係よりSI7 堅穴住居跡より新しい遺構であることが確認されている。この他の土坑については、遺構の重複関係からSI3→SK7、SI4→SK9、SI1→SK13→SK15、SI1→SK12、SI2→SK11→SI1の新旧関係が確認されており、出土遺物の特徴から、いずれも堅穴住居跡や掘立柱建物跡と近い年代(9世紀後半代)に機能していたものとみられる。なお、SK7・SK18土坑では底面付近で焼け面が確認され、土坑の形状・規模等が類似することから、同様の性格を有していたと考えられる。

#### 【日向遺跡における平安時代集落の様相】

今回確認した堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑は、概ね近い時期に機能していた遺構であると判断され、この中で、SI5 堅穴住居跡が最も古い遺構であることが確認され、SI3~5 堅穴住居跡の重複関係から、近い時期の間に3時期の遺構の変遷が想定された。しかし、遺構の重複関係や出土遺物の年代のみで、これらの遺構の共存関係を明らかにすることは困難である。少なくとも、堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑の立地がセットとなり、集落を構成していたと考えられる。

この他、調査区の南側斜面では、堅穴住居などと同時期の遺物を含む遺物包含層が確認されており、一定量の遺物が出土している。この出土遺物の中で、製鉄関連遺物である輪の羽口が3点、鉄滓が47点(4,845g)出土している点が注目される。日向遺跡では、遺物包含層だけでなく、堅穴住居跡や掘立柱建物跡、土坑等の堆積土からも少量ではあるが鉄滓が出土しており、特にSI2・3 堅穴住居跡では輪の羽口をカマド支脚として使用されていた。このことから、日向遺跡の平安時代の集落には、製鉄に関連する集団が居住していた可能性が考えられる。今回の調査区の北西部分にあたる丘陵内には、現地踏査の結果、沢状の地形が多く残されていることが確認されており、こうした地形を利用した製鉄関連遺構が存在する可能性がある。



#### (4) 中世の遺構 (第143～145図)

今回の調査において確認した中世と考えられる遺構は、掘立柱建物跡40棟 (SB1～38・41)、井戸跡4基 (SE1～4)、土坑1基 (SK17)、ピット多数である。

#### 1) 掘立柱建物跡

##### ①掘立柱建物跡の特徴

掘立柱建物跡は、調査区のほぼ全域に分布しているが、調査区北西の標高19.0～19.5mの平坦面 (SB1～10周辺・第47図) : A群、調査区中央北側の標高18.5～19.0mの平坦面 (SB11～21周辺・第60図) : B群、調査区中央やや南側の標高17.7～18.5mの緩斜面 (SB22～31周辺・第72図) : C群の3箇所の範囲に建物が多く分布している (第143図)。

検出した中世の40棟の建物跡のうち、その身舎の規模の内訳は、5間×1間が1棟 (SB23)、4間×1間が3棟 (SB5・24・29)、3間×2間が6棟 (SB6・8・21・28・32・42)、3間×1間が14棟 (SB4・7・9・16・17・20・25・27・30・34・36～38・41)、2間×2間が3棟 (SB11・18・26)、2間×1間が7棟 (SB12～14・19・22・31・33)、1間×1間が1棟 (SB15)で、建物が調査区外に伸びているため規模不明なのが5棟 (SB1～3・10・35)である。このうち、庇・孫庇の付く建物は1棟 (SB23)、庇の付く建物は6棟 (SB2・9・12・24・26・30)、張出の付く建物は4棟 (SB8・27～29)ある。建物の面積については、庇・張出も含めた面積でみると、庇・孫庇の付く建物は約56㎡、庇の付く建物は約17～30㎡、張出のある建物は約27・40・45㎡、その他は約9～38㎡で15～25㎡前後のものが多い (第17表)。

柱穴掘方の規模は、長軸20～40前後の円形・楕円形を呈するものが主体で、身舎の桁行の柱間寸法は、0.8～3.7mでばらつきがあるが、2.0～2.5m前後のものが多い (第8・9表)。

建物の方向は、大きく分けると、建物の東辺・西辺が真北に対して①西に傾くもの (N-14～37° -W)、②ほぼ真北もの (N-3～6° -E)、③東に傾くものがあり (N-13～42° -E)がある。これらの建物は、西に傾く建物が多く傾向にあり、①～③は、建物それぞれの方向がある程度同じ方向に揃う規則性が認められた (第144図)。このことから、日向遺跡における中世の建物跡はある程度方向を揃えて建てられた可能性が高いと考えられる。

##### ②掘立柱建物跡の変遷と時期

前述のとおり、掘立柱建物跡は、特に建物が密集しているA～C群の範囲内では、建物がある一定の範囲に幾度となく建て替えられている状態で確認された。こうした建物跡の密集範囲内での遺構の重複関係 (第145図)をみると、最も重複の多いC群の中で、「SB28・30→SB23→SB29→SB27」の4時期の変遷が確認された。さらに、建物どうしの重なりや位置関係から、同時存在が不可能なものを検討すると、A群では7～9時期、B群では7～9時期、C群では8時期の建物の建て替えが想定される。これに、建物として認定できなかった柱穴の存在を考慮すると、A～C群の建物密集地では、9時期以上の建物の変遷があった可能性が高いと考えられる。検出した建物の身舎面積は、平均的なもので20㎡前後が多いが、この中で身舎の面積が30㎡を超える大型の建物は集落内での中心的な建物 (主屋)であったと想定される (註6)。建物の方向は建物の西辺もしくは東辺が西に傾くものが多い傾向が認められ、これらの建物はある程度方向を揃えて建てられた可能性が想定されたが、この建物の方向の違いによる時期変遷をたどるまでには至らなかった。

第17表 日向遺跡 中世の掘立柱建物跡一覽

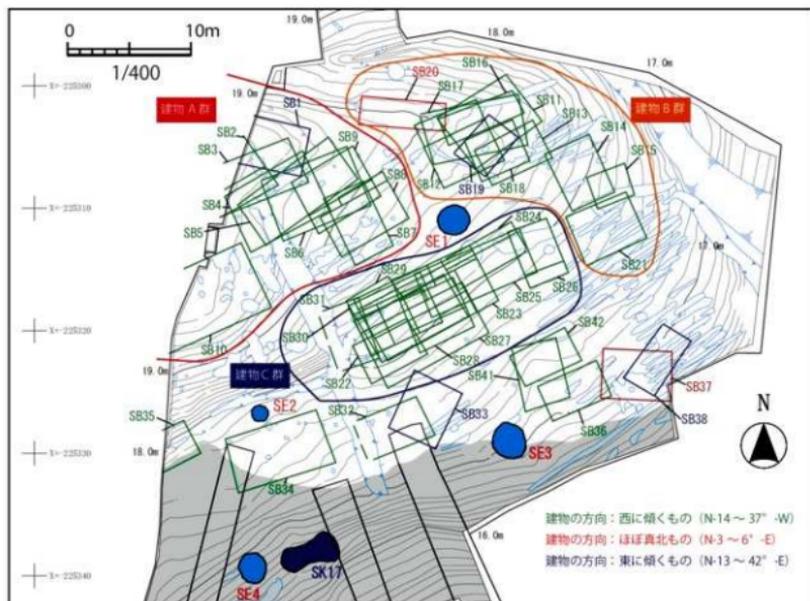
| 遺跡No. | 建物間数  |           | 棟方向 | 平面規模(m)             |                     | ※( )表記は庇・突出を含めた面積 | 身舎面積(m <sup>2</sup> ) | 庇・突出の有無 | 建物傾斜<br>角度/<br>真北基準 | 備考   |
|-------|-------|-----------|-----|---------------------|---------------------|-------------------|-----------------------|---------|---------------------|--|
|       | 桁行    | 梁行        |     | 桁行<br>総長            | 梁行<br>総長            |                   |                       |         |                     |  |
| SB1   | 1以上   | 1         | 東西? | 3.3以上               | (4.0)               | 13.2              | $\frac{13}{2}$        |         | 東13°                | SB2より新。建物調査区外に延びる                          |
| SB2   | 1以上   | 一十(1)     | —   | 2.5以上               | [1.7以上]             | 4.3               | $\frac{4}{2}$         | ( — )   | 庇 西32°              | SB1より古。身舎南側に庇付く。建物調査区外に延びる                 |
| SB3   | 3以上   | 1         | 東西  | 6.9以上               | 3.9                 | 26.9              | $\frac{27}{2}$        |         | 西26°                | 建物調査区外に延びる                                 |
| SB4   | 3     | 1         | 東西  | 7.4                 | 5.2                 | 38.5              |                       |         | 西27°                | 建物調査区外に延びる                                 |
| SB5   | 4     | 1         | 東西  | 9.3                 | 4.1                 | 38.1              |                       |         | 西35°                |  |
| SB6   | 3     | 2         | 東西  | 7.5                 | 5.0                 | 37.5              |                       |         | 西22°                | SB7より新                                     |
| SB7   | 3     | 1         | 南北  | 5.8                 | 3.5                 | 20.3              |                       |         | 西25°                | SB6より古                                     |
| SB8   | 3     | (1)+2     | 東西  | 6.4                 | $\frac{3.6}{[4.4]}$ | 23.0              | ( 26.4 )              |         | 突出 西31°             | 身舎北側に東西2間×南北1間の突出し付く                       |
| SB9   | 3     | 1+(1)     | 東西  | 5.8                 | $\frac{3.1}{[4.6]}$ | 18.0              | ( 26.7 )              |         | 庇 西29°              | 身舎南側に庇付く                                   |
| SB10  | 2以上   | 2         | 東西  | 6.8以上               | (5.8)               | 39.4              | $\frac{39}{2}$        |         | 西26°                | 建物調査区外に延びる                                 |
| SB11  | 2     | 2         | 東西  | 6.8                 | 4.8                 | 32.6              |                       |         | 西37°                | SB18より古。SB16より新                            |
| SB12  | 2     | (1)+1     | 東西  | 5.4                 | $\frac{3.5}{[5.3]}$ | 18.9              | ( 29.7 )              |         | 庇 西24°              | 身舎北側に庇付く                                   |
| SB13  | 2     | 1         | 東西  | 5.4                 | 3.5                 | 18.9              |                       |         | 西28°                |  |
| SB14  | 2     | 1         | 南北  | 5.2                 | (4.0)               | 20.8              |                       |         | 西26°                |  |
| SB15  | 1     | 1         | —   | 3.3                 | 2.7                 | 8.9               |                       |         | 西19°                |  |
| SB16  | 3     | 1         | 東西  | 6.9                 | 2.3                 | 15.9              |                       |         | 西21°                | SB11より古                                    |
| SB17  | 3     | 1         | 東西  | 7.9                 | 4.2                 | 33.2              |                       |         | 西16°                |  |
| SB18  | 2     | 2         | 東西  | 4.2                 | (3.5)               | 14.7              |                       |         | 西23°                | SB11より新                                    |
| SB19  | 2     | 1         | 南北  | 4.2                 | 3.0                 | 12.6              |                       |         | 東42°                |  |
| SB20  | 3     | 1         | 東西  | 6.7                 | 2.2                 | 14.7              |                       |         | 東6°                 |  |
| SB21  | 2?    | 3         | 東西  | (5.3)               | 4.3                 | 22.8              |                       |         | 西24°                |  |
| SB22  | 2     | 1         | 東西  | 5.0                 | 3.3                 | 16.5              |                       |         | 西29°                | SB23より新                                    |
| SB23  | 5     | (1)+(1)+1 | 東西  | 10.1                | $\frac{4.0}{[5.6]}$ | 40.4              | ( 56.6 )              |         | 庇<br>棟北 西28°        | SB22・29より古。SB28・30より新<br>身舎北側に庇・突出付く       |
| SB24  | 4     | (1)+1     | 東西  | (6.4)               | $\frac{1.7}{[2.7]}$ | 10.9              | ( 17.3 )              |         | 庇 西30°              | 身舎北側に庇付く                                   |
| SB25  | 3     | 1         | 東西  | 9.2                 | 3.8                 | 35.0              |                       |         | 西24°                |  |
| SB26  | 2+(1) | 2         | 南北  | $\frac{3.9}{[5.0]}$ | 3.3                 | 12.9              | ( 16.5 )              |         | 庇 西22°              | P383より古。身舎南側に庇付く                           |
| SB27  | 3     | (1)+1     | 東西  | 9.3                 | $\frac{4.0}{[5.2]}$ | 37.2              | ( 45.2 )              |         | 突出 西28°             | SB28・30より新<br>身舎北側に東西2間×南北1間の突出し付く         |
| SB28  | (1)+2 | 3         | 南北  | $\frac{4.7}{[6.4]}$ | 4.8                 | 22.6              | ( 27.7 )              |         | 突出 西23°             | SB23より古<br>身舎北側に東西1間×南北1間の突出し付く            |
| SB29  | 4     | (1)+1     | 東西  | 8.0                 | $\frac{3.9}{[5.9]}$ | 31.2              | ( 39.6 )              |         | 突出 西29°             | SB27より古。SB23・30より新<br>身舎北側に東西2間×南北1間の突出し付く |
| SB30  | 3     | (1)+1     | 東西  | 6.5                 | $\frac{3.6}{[4.5]}$ | 23.4              | ( 29.3 )              |         | 庇 西25°              | SB23・27・29より古<br>身舎北側に庇付く                  |
| SB31  | 2     | 1?        | 南北? | 5.2                 | —                   | —                 |                       |         | 西19°                |  |
| SB32  | 3?    | 2         | 東西  | (5.5)               | 3.4                 | 18.7              |                       |         | 西23°                |  |
| SB33  | 2     | 1         | 南北  | 5.0                 | 4.4                 | 22.0              |                       |         | 東27°                |  |
| SB34  | 3     | 1         | 東西  | 7.7                 | 4.5                 | 34.7              |                       |         | 西21°                |  |
| SB35  | 1以上   | 2         | —   | 3.0以上               | 3.0                 | 9.0               | $\frac{9}{2}$         |         | 西26°                | 建物調査区外に延びる                                 |
| SB36  | 3     | 1         | 東西  | 5.2                 | 3.1                 | 16.1              |                       |         | 西25°                |  |
| SB37  | 3     | 1         | 東西  | 5.5                 | 3.9                 | 21.5              |                       |         | 東3°                 |  |
| SB38  | 3     | 1         | 南北  | 5.5                 | (2.7)               | 14.9              |                       |         | 東35°                |  |
| SB41  | 3     | 1         | 南北  | 5.0                 | 3.6                 | 18.0              |                       |         | 西14°                |  |
| SB42  | 3     | 2         | 東西  | 5.1                 | 3.0                 | 15.3              |                       |         | 西28°                | SB40より新                                    |

※建物間数の欄で「2+(1)」とあるのは「身舎2間、南側または東側に庇（または突出し）1間」、「(1)+2」とあるのは「身舎2間、北側または西側に庇（または突出し）1間」であることを示す。

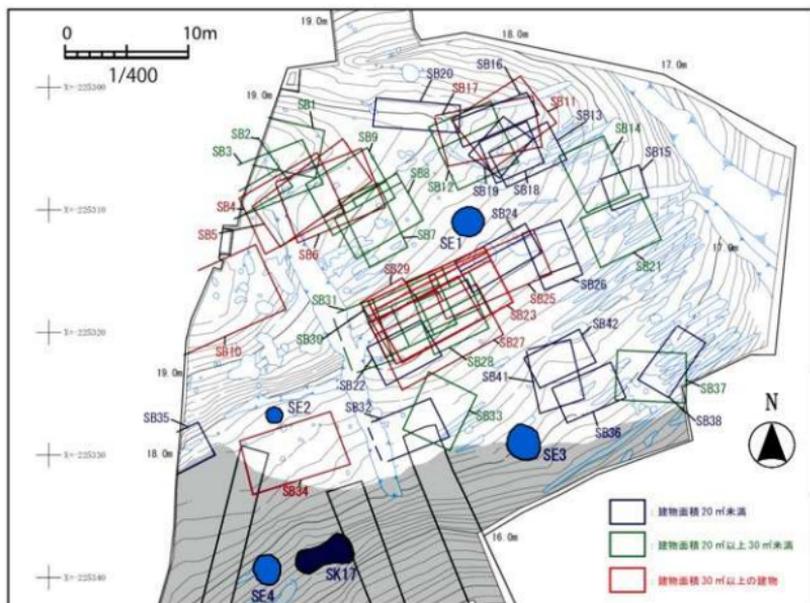
※平面規模の( )内の数値は推定値を示す。

※平面規模の桁行・梁行総長の数値は原則として「身舎部分の総長」を示した。このうち、庇・突出しが付く建物については、その下段の( )内に庇・突出しを含めた総長を表記した。

※ゴシック体表記：身舎に庇・突出しが付く建物を示す。



第143図 日向遺跡 中世の掘立柱建物跡のまとまりと方向



第144図 日向遺跡 中世の掘立柱建物（建物の規模別）

掘立柱建物跡の時期については、直接的に建物を構成する柱穴からその年代を示す遺物は出土していない。そこで周辺の遺構・遺物包含層から出土している遺物をみても、建物の周辺では中世陶器やかかわらけ・漆器などが出土している。かわらけはその特徴から13世紀後半前後以降のものと思われ、漆器には16世紀代の可能性のあるものが含まれている。中世陶器は在地の白石窯産のものが大多数を占め、白石窯の操業年代には、現在のところ13世紀後半～14世紀前半頃と考えられている。これを参考にすると、日向遺跡における中世の掘立柱建物跡は13世紀後半～14世紀前半（鎌倉時代後半～室町時代前半）を主体とし、16世紀代まで存続していた可能性が考えられ、その中で7～9時期以上の建て替えが行われたと想定される。

## ②井戸跡

井戸跡は4基（SE1～4）確認した。確認された井戸跡は長軸1.4～3.1m前後の円形を呈する。SE4井戸跡のみ掘方が認められた。これらの井戸跡はすべて中世に属するものと考えられるが、出土遺物・重複関係のみではそれぞれの井戸の新旧関係については不明である。堆積土の観察から、すべての井戸が廃絶後埋め戻されていると判断され、この中で、SE1井戸跡については近現代まで埋め戻されていなかったと判断される。このことから、SE1～4井戸跡のうち、SE1が中世の中でも最終段階の井戸である可能性が考えられる。

## ③土坑

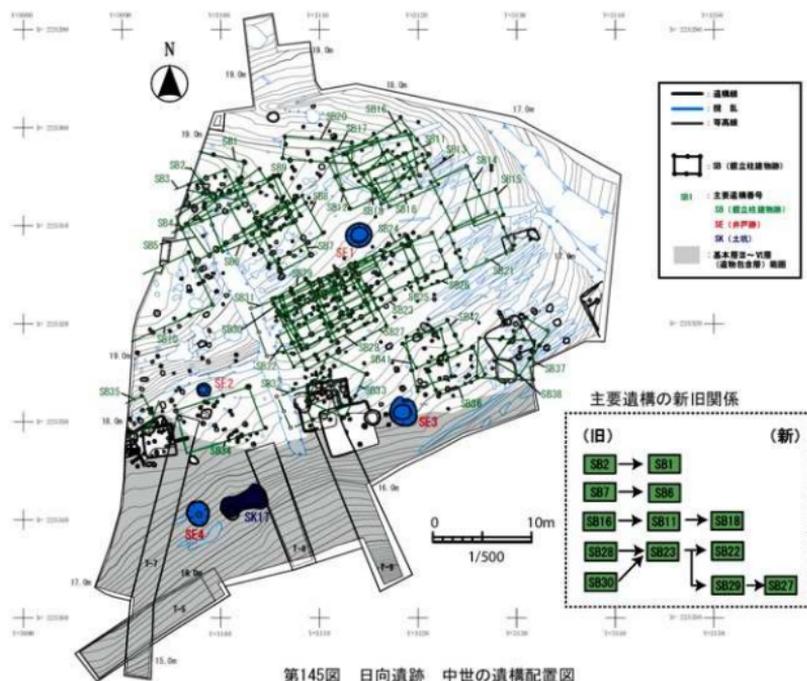
出土遺物から中世と推定できた土坑は1基（SK17）である。SK17は不整形を呈する自然堆積の土坑で、白石窯産の中世陶器や漆器碗などが出土している。その性格については不明であるが、井戸跡と同様、SK17についても周辺の建物跡と関連がある遺構とみられる。

この他に今回の調査区では、時期不明もしくはある程度時期幅が想定される土坑が一定量確認されており、この中に中世の建物跡と関連のある土坑が存在すると考えられる。

### 【日向遺跡における中世集落の様相】

日向遺跡で確認された中世の掘立柱建物跡の分布はA～C群に大きく分けられ、9時期以上の建物の変遷が想定された。また、掘立柱建物跡には、庇・張出がつく建物や規模の異なる建物などの様々な種類が認められることから（第17表）、その用途には、種類や規模に応じた居住施設・付属施設・倉庫など機能があったと推測される。これらの種類・規模の異なる建物は、A～C群の範囲内にそれぞれ認められることから、A～C群の中の建物を中心とするセットとなり、建物群を構成していたと考えられる。そして、これらの建物のセットと井戸・土坑などが組み合わさり屋敷を構成していたと考えられる。加えて、今回の調査区内で確認された井戸4基がそれぞれ埋め戻されている点に着目すると、これらの井戸は、同時存在していなかった可能性が想定され、この前提に立てば、日向遺跡における中世の屋敷地は大きく4時期に分けられ、その中で9時期以上の変遷があった可能性が考えられる。また、屋敷地は、出土遺物の年代から、13世紀後半～14世紀前半を主体とし、16世紀代まで存続していた可能性が想定される。この他、日向遺跡の中世屋敷地の特徴としては、①屋敷地と考えられる範囲内に溝や柱穴列による区画施設が確認されない、②出土遺物の面では、中世陶器は在地産のみで構成され、磁器や搬入品と判断される陶器が皆無、漆器・かわらけは数点のみ出土、などが挙げられる。この特徴について、県内で確認されている領主・武士層と想定されている集落と比較した場合、区画施設の有無・土器組成の面で明らかに劣りする。この点から、日向遺跡の中世集落は、領主・武士層のさらに下の階層の集落であった可能性が考えられる（註7）。

亶理郡内で中世を主体とする集落は、亶理町館南岡遺跡（古川・鈴木・大和 1991）、山元町北経塚遺跡（山田ほか 2010・2013）・谷原遺跡（宮城県考古学会 2012・2104）などで確認されているが、亶理郡内における中世集落の特徴については調査事例が少なく、不明な点が多い。したがって、日向遺跡の中世集落の位置付けについては、今後の周辺の調査を待って再度検討することとした。



#### 4. まとめ

日向遺跡は、宮城県南東部の阿武隈山地から東に延びる標高16~20mの丘陵上に位置する。遺跡の時期は、古墳時代、奈良・平安時代、中世である。今回の調査では、堅穴住居跡8軒、掘立柱建物跡42棟、井戸跡4基、土坑18基、焼成遺構3基、ピット323個、遺物包含層を検出し、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、かわらけ、中世陶器、漆器、製鉄関連遺物、土製品、石器などが出土した。以下、各時代の遺構について要点をまとめる。

- ① 古墳時代の遺構は、堅穴住居跡1軒(S17)で、出土遺物の特徴から6世紀後半頃のものと考えられる。
- ② 奈良・平安時代の遺構には、堅穴住居跡7軒(S11~7)、掘立柱建物跡2棟(SB39・40)、土坑8基(SK7~9・11~13・15・18)がある。これらは、遺構の重複関係や出土遺物から、S15 堅穴住居跡は8世紀末から9世紀初頭、その他の遺構は9世紀後半代のものと考えられる。
- この他、調査区内の遺構や遺物包含層から鉄滓が出土し、S12・3 堅穴住居跡のカマド支脚に輪の羽口が使用されていることから、古代の日向遺跡には製鉄に関連する集団が居住し、周辺に製鉄関連遺構が存在する可能性がある。
- ③ 中世と考えられる遺構は、掘立柱建物跡40棟(SB1~38・41・42)、井戸跡4基(SE1~4)、土坑1基(SK17)、ビット多数であり、これらは屋敷地を構成していたことが推測される。時期は、出土遺物から、概ね13世紀後半~16世紀の屋敷跡であったと考えられる。大きく4時期に分けられ、その中で9時期以上の変遷があった可能性が考えられる。
- ④ この他、今回の調査では、時期を確定できなかった遺構が多数残されているが、これらは古墳時代~近世にかけてのいずれかに属する遺構であると考えられる。また、調査区南側で確認された遺物包含層からは、縄文土器片や弥生時代中期後半の弥生土器片・石包丁、7世紀中葉~8世紀前半の土師器・須恵器が出土した。遺構は検出されていないが、周辺にはこの時期の遺構が分布する可能性がある。

## 註

- 宮城県内において、平安時代のクワロ成形の内黒処理されていない土師器について、「赤塗土器」・「須恵系土器」等の名称で呼ばれる場合がある(桑原 1976・小井川 1984)。本稿では、原則として内黒処理・非内黒処理のものすべてを土師器として分類したが、両者を区別する際に「赤塗土器」の名称を使用することとした。
- 堀については、松本建速氏の分類(松本 1991)を参考にした。
- 土師器・須恵器の形態的特徴・技法、年代については、辻秀人氏(東北学院大学)・村田晃一氏(宮城県教育委員会)・佐藤敏幸氏(東松島市教育委員会)にご教示いただいた。
- 「++」の文字が彫かれた土器は、多賀城市高崎遺跡第11次調査(千葉 1995)で出土している。高崎遺跡での報告では「++」が「普薩」の異体字である点から、「++」一文字で「普」を示している可能性を指摘している。
- 中世陶器の産地・年代や特徴については、佐藤洋氏(仙台市教育委員会)にご教示いただいた。
- A~C群の建物の中で、身舎の面積が30㎡を超える大型の建物は、A群で4棟(SB4~6・10)、B群で2棟(SB11・17)、C群で4棟(SB23・25・27・29)ある。A~C群には、それぞれ主屋と考えられる建物のほかに、比較的規模の小さい建物が混在しており、これらが各群で同時存在できない配置で確認されている。こうした状況は、「主屋がA群、付属施設がB・C群にあった時期」・「主屋がB群、付属施設がA・C群にあった時期」・「主屋がC群、付属施設がA・B群にあった時期」といったように、屋敷の敷地内の中で主要な建物の配置を変えるサイクルがあったことを示している可能性が考えられる。
- 飯村均氏によれば、陸奥南部における鎌倉時代の「掘立柱建物跡を主体とする集落(屋敷地)」自身が既に、一定の階層以上の屋敷地を表現している可能性があると指摘しており、屋敷地規模が400㎡を超え、主屋の規模も20㎡を超える複数建物で構成されている集落は、少なくとも「独立自営的な階層」「上層民」などと考えてもよい屋敷地であると想定している(飯村 2009)。日向遺跡で確認された集落についても、この条件を満たしており、こうした屋敷地に位置付けられる可能性がある。

## 引用・参考文献

- 青山博樹ほか 2000 『宮城県山元町合戦原古墳群の調査調査』『宮城考古学』第2号
- 喜妻俊典 1994 『多賀城跡周辺における須恵器製作技法の変遷』『古代の土器研究 律令的土器様式の西・東6 須恵器の製作技法とその転換』
- 飯村均 2009 『中世奥羽のムラとマチ 考古学が拓く列島史』東京大学出版会
- 石黒伸一郎 2005 『山元町の板碑と蔵王町の中世石塔』『宮城考古学』第7号
- 石本弘典 2000 『唇部に裝飾のある須恵器について』『阿部正光追悼集』
- 伊藤雄雄 1957 『第2章 弥生式文化時代』『宮城県史1 古代史・中世史』宮城県史刊行会
- 伊藤雄典 2006 『仙台平野における歴史時代の海岸線変化』『鹿児島大学教育学部紀要自然科学編』57
- 上井雅孝 1997 『徳島における10・11世紀の土器様相』『北陸古代土器研究』第7号
- 吉見和典、佐藤憲幸 1991 『合戦原遺跡』『合戦原遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第140集
- 氏家典典 1957 『東北土器の型式分類とその編年』『歴史』14
- 太田昭夫 1987 『宮城県における弥生式土器編年研究の現状と課題』『第2回縄文文化検討会シンポジウム 東北地方の弥生式土器の編年について』
- 太田昭夫 1994 『中田南遺跡』仙台市文化財調査報告書第182集
- 岡田茂弘、桑原忠郎 1974 『多賀城跡周辺における古代土器の分布』『研究紀要1』宮城県多賀城跡調査研究所
- 小山正史、竹原秀雄編 1973 『新版標準土色帖』2010年版
- 鎌治一郎 1971 『二合戦原古墳址群』『山元町誌』
- 加藤道男 1989 『宮城県における土器研究の現状』『考古学論叢』
- 菊地逸夫、早川英紀 1996 『一本杉遺跡群』宮城県文化財調査報告書第172集
- 菊地逸夫 2003 『一本杉遺跡』『中世奥羽の土器・陶磁器』高志書院
- 野村和博 2009 『中世南奥の木製容器-器・皿の型式変化を中心に-』『福島考古』第50号
- 窪田忠 1995 『孤塚遺跡』山元町文化財調査報告書
- 桑原忠郎 1976 『須恵系土器について』『東北考古学の諸問題』東北考古学会
- 小井川和夫 1984 『いづゆる赤焼土器について』『東北歴史資料館研究紀要』第10巻
- 斎藤彰祐 1997 『住社遺跡』角田市文化財調査報告書第19集
- 斎藤彰祐ほか 2002 『角田郡山遺跡Xほか』角田市文化財調査報告書第27集
- 佐々久、志岡泰治、氏家典典 1971 『一井戸横穴古墳群発掘調査報告書』『山元町誌』
- 佐藤甲二 1985 『中田畑中遺跡』仙台市文化財調査報告書第78集
- 佐藤敏幸 2007 『宮城県北部・沿岸部』『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15-18年度科学研究費補助金(基礎研究)研究成果報告書
- 佐藤敏幸、村田晃一 1996 『東北の煮炊具』『古代の土器研究 律令的土器様式の西・東 煮炊具』
- 佐藤洋 2003 『徳島のかわらけ(2) 徳島南部2-宮城県-』『中世奥羽の土器・陶磁器』
- 白鳥良一 1980 『多賀城出土土器の変遷』『研究紀要』宮城県多賀城跡調査研究所
- 白鳥良一 1982 『土器』『多賀城跡の考古学』宮城県多賀城跡調査研究所
- 斎藤正隆 1974 『史料 仙台市内古城・館』第四巻
- 志岡泰治 1956 『宮城県山元郡における考古学上の遺跡』『宮城県の地理と歴史』1
- 志岡泰治 1975 『互理の古墳』
- 志岡泰治 2007 『叢報』歴史を振り返ること
- 志原祥夫 2007 『福島県浜通り地方南端』『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15-18年度科学研究費補助金(基礎研究)研究成果報告書
- 鈴木明子 2002 『塚の内遺跡』互理町文化財調査報告書第8集
- 鈴木雅 2011 『窪田遺跡』蔵王町文化財調査報告書第11集
- 鈴木雅 2011 『十部田遺跡1』蔵王町文化財調査報告書第13集
- 鈴木雅 2011 『十部田遺跡2』蔵王町文化財調査報告書第14集
- 関谷司 2004 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第3集
- 千葉孝彦 1995 『高崎遺跡』多賀城市文化財調査報告書第37集
- 千葉正康 1993 『孤塚遺跡』『孤塚遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第157集
- 辻 秀人編 2007 『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成15-18年度科学研究費補助金(基礎研究B)研究成果報告書
- 東北古代土器研究会編 2005 『研究報告1 東北古代土器集成-古墳後期～奈良・集落編-福島』
- 東北古代土器研究会編 2005 『研究報告2 東北古代土器集成-古墳後期～奈良・集落編-宮城』
- 東北古代土器研究会編 2008 『研究報告3 東北古代土器集成-須恵器・窯跡編-徳島』
- 東北中世考古学会編 2001 『東北中世考古学叢書2 雁立と聖穴 中世遺構論の課題』高志書院
- 丹羽 茂 1983 『宮前遺跡』『朽木横穴古墳群・宮前遺跡』宮城県文化財調査報告書第230集
- 初鹿野博之、山口淳、千葉直樹、大坂拓 2012 『西石山原遺跡ほか-常磐自動車道建設関連調査報告書1-』宮城県文化財調査報告書第230集
- 初鹿野博之 2013a 『湯沢遺跡』発掘された日本列島 2013 新発見考古学速報』文化庁
- 初鹿野博之 2013b 『宮城県山元町内手遺跡・上宮前北遺跡』『第39回古代権官衙遺跡検討会資料集』
- 初鹿野博之 2014 『宮城県山元町熊の作遺跡』『第40回古代権官衙遺跡検討会資料集』
- 初鹿野博之 2015 『熊の作遺跡と互理郡有部の遺跡群』『第41回古代権官衙遺跡検討会資料集』
- 引地弘行 2002 『館の内遺跡』『名生館遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第188集
- 福島考古学会中近世部会編 2000 『福島県考古学会中近世部会平成12年度研究会セミナー 東北地方南部における中近世史の諸問題』
- 藤田正剛、加納博 2012 『阿武隈川付近における前埴列の分類とその形成時期に関する再検討』『人間情報学研究』第17巻
- 古川一明、鈴木真一郎、大和幸生 1991 『館南遺跡』『館南遺跡ほか』宮城県文化財調査報告書第144集
- 文化庁文化財部記念物課編 2010 『発掘調査の手引き-集落遺跡発掘編-』
- 文化庁文化財部記念物課編 2010 『発掘調査の手引き-整理・報告書編-』
- 東北建文191 『東北北部の平安時代のなへ』『紀要X』岩手県文化振興事業団蔵文化財センター
- 松本秀明 1977 『仙台付近の海岸平野における地形地相分類と地形発達-粒度分析法を用いて-』『東北地理』29
- 松本秀明 1984 『海岸平野』『互理町文化財調査報告書』57
- 三村昌史ほか 2006 『中野高柳遺跡の古墳域および植利用等分析』『中野高柳遺跡IV』宮城県文化財調査報告書第204集
- 宮城県考古学会編 2010 『平成22年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2011 『平成23年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2012 『平成24年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2013 『平成25年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県考古学会編 2014 『平成26年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』
- 宮城県企画部土地対策課編 1988 『土地分類基本調査 角田』
- 村田晃一 1992 『多賀城周辺における奈良・平安時代の須恵器生産』『東日本における古代・中世史の諸問題』
- 村田晃一 1994 『土器からみた官衙の終末』『古代官衙の終末をめぐる諸問題』

- 村田晃一 1995 「宮城県における 10 世紀前後の土器」『福島考古』第 36 号
- 村田晃一 1995 「宮城県における 6・7 世紀の土器様相」『東国土器研究』第 4 号
- 村田晃一ほか 2001 『山王遺跡八幡地区の調査 2』宮城県文化財調査報告書第 18 集
- 村田晃一・保原恒雄・白崎恵介 2006 『中野高柳遺跡Ⅳ』宮城県文化財調査報告書第 204 集
- 村田晃一 2007 「宮城県中部から南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成 15-18 年度科学研究費補助金（基礎研究 B）研究成果報告書
- 村田晃一 2009 「律令国家形式期の陸奥北辺経営と坂東-在土師器・関東系土師器・関郭集落の検討から-」『古代社会と地域間交流-土師器からみた関東と東北の様相-』
- 茂木好光・岩見和泰 2001 『一本柳遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 185 集
- 柳澤和明 1994 「東北地方の施軸陶器」『古代の土器研究-律令的土器様式の西・東3- 施軸陶器-』
- 山田隆博 2008 『企画展図録 亘理郡の古墳時代』山元町歴史民俗資料館
- 山田隆博・村上裕次・山口淳 2010 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第 4 集
- 山田隆博・藤田祐・佐伯奈弓 2013 『北経塚遺跡』山元町文化財調査報告書第 5 集
- 山田隆博・藤田祐・佐伯奈弓 2014 『的場遺跡』山元町文化財調査報告書第 6 集
- 山田隆博・藤田祐 2014 『石垣遺跡』山元町文化財調査報告書第 7 集
- 山田隆博・丹野修太 2014 『日向北遺跡』山元町文化財調査報告書第 8 集
- 山元町史編纂委員会編 1971 『山元町誌』
- 山元町史編纂委員会編 1986 「中島貝塚」『山元町誌 二巻』
- 結城慎一・佐藤洋 1984 『南小泉遺跡』仙台市文化財調査報告書第 68 集
- 吉野武 2015 「熊の作遺跡出土の木簡と墨書土器」『第 41 回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』
- 西柳嘉章 1995 「漆器」『概説 中世の土器・陶磁器』
- 亘理町教育委員会 1997 『堀の内遺跡』亘理町文化財調査報告書第 7 集



# 報告書抄録

| ふりがな          | ひゅうがいわせき   |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
|---------------|--|--------|-------------------|-------------------|--------------------|---------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 書名            | 日向遺跡   |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 副書名           | 常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に係る発掘調査報告書Ⅳ  |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 巻次            |  |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| シリーズ名         | 山元町文化財調査報告書  |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| シリーズ番号        | 第9集  |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 編著者名          | 山田隆博・藤田祐   |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 編集機関          | 山元町教育委員会   |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 所在地           | 〒989-2203 宮城県亶理郡山元町浅生原字日向12-1 電話 0223-37-5116  |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| 発行年月日         | 平成27（2015）年3月27日   |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地  | コード    |                   | 位置                |                    | 調査期間                      | 調査面積                       | 調査原因                      |
|               |  | 市町村    | 遺跡番号              | 北緯                | 東経                 |                           |                            |                           |
| ひゅうが<br>日向遺跡  | 宮城県<br>亶理郡<br>山元町<br>山元町<br>山元町<br>山元町<br>日向   | 043621 | 14068             | 37度<br>58分<br>12秒 | 140度<br>52分<br>8秒  | 2011.11.01<br>～2012.01.16 | 1,975 m <sup>2</sup>       | 常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に伴う事前調査 |
| 所収遺跡名         | 種別   | 主な時代   | 主な遺構              |                   | 主な遺物               |                           | 特記事項                       |                           |
| 日向遺跡          | 散布地  | 縄文時代   | —                 |                   | 縄文土器               |                           | —                          |                           |
|               | 散布地  | 弥生時代   | —                 |                   | 弥生土器・石包丁           |                           | 弥生中期後半（十三塚式）               |                           |
|               | 集落・散布地   | 古墳時代   | 竪穴住居跡             |                   | 土師器・須恵器            |                           | 竪穴住居跡1軒                    |                           |
|               | 集落   | 平安時代   | 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑   |                   | 土師器、須恵器<br>墨書土器    |                           | 竪穴住居跡7軒、掘立柱建物跡2棟、土坑8基      |                           |
|               | 屋敷跡  | 中世     | 掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、ピット |                   | 中世陶器・かわらけ<br>漆器・砥石 |                           | 掘立柱建物跡40棟、井戸跡4基、土坑1基、ピット多数 |                           |
| 要約            | <p>日向遺跡は、平成19・20年度に実施された分布調査により発見された遺跡で、亶理郡山元町山元町山元町に所在し、山元町役場の北西約1.1kmに位置する。遺跡は、阿武隈山地から東に延びる標高16～20mの丘陵南緩斜面に立地する。遺跡の範囲は、東西90m、南北110mほどの広がりをもつ。</p> <p>調査の結果、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡42棟、井戸跡4基、土坑18基、焼成遺構3基、ピット323個、遺物包含層を検出した。出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、かわらけ、羽巾、鉄滓、土製品、石器などである。古墳時代の遺構は、竪穴住居跡1軒（S17）で、出土遺物の特徴から6世紀後半頃のものと考えられる。</p> <p>奈良・平安時代の遺構には、竪穴住居跡7軒（S11～7）、掘立柱建物跡2棟（SR39・40）、土坑8基（SK7～9・11～13・15・18）がある。これらは、遺構の重なり関係や出土遺物から、S15 竪穴住居跡は8世紀末から9世紀初頭、その他の遺構は9世紀後半代のもと考えられる。その他、調査区内の遺構や遺物包含層から鉄滓が出土し、S12・3 竪穴住居跡のカマド支脚に輪の羽巾が使用されており、古代の日向遺跡には製鉄に関連する集落が居住し、周辺に製鉄関連遺構が存在する可能性がある。</p> <p>中世の遺構には、掘立柱建物跡40棟（SB1～38・41・42）、井戸跡4基（SE1～4）、土坑1基（SK17）、ピット多数であり、これらは屋敷地を構成していたことが推測される。時期は、出土遺物から、概ね13世紀後半～16世紀の屋敷地であったと考えられる。大きく4時期に分けられ、その中で9時期以上の変遷があった可能性が考えられる。</p> <p>この他、今回の調査では、時期を特定できなかった遺構が多数残されているが、これらは古墳時代～近世にかけてのいずれかに属する遺構であると考えられる。また、調査区南側に確認された遺物包含層からは、縄文土器片や弥生時代中期後半の弥生土器片・石包丁、7世紀中葉～8世紀前半の土師器・須恵器が出土した。遺構は検出されていないが、周辺にはこの時期の遺構が分布する可能性がある。</p> |        |                   |                   |                    |                           |                            |                           |

---

山元町文化財調査報告書第9集

## 日向遺跡

—宮城県本郷道（旧境～山元間）建設工事に係る発掘調査報告書第1—

平成27年3月27日発行

発行 山元町教育委員会  
宮城県本郷郡山元町浅生原字日向12-1  
TEL0223-37-5116/FAX0223-37-0119

印刷 株式会社 東北プリント  
宮城県仙台市青葉区立町24-24

---